

平成18年度 保育園サービス第三者評価事業

報告書

平成19年3月

杉並区



# 目 次

はじめに

## 第1部 利用者調査

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象者	1
3 調査方法	1
4 調査期間	1
5 利用者調査票の配布・回収状況	1
6 調査項目の構成	3
7 報告書の見方	3
II 全体の調査結果	4
1 回答者の属性	4
2 総合的な満足度	6
3 毎日の保育サービスについて	8
4 保護者の方の保育園との関わりや交流について	10
5 施設環境について	12
6 要望・意見や不満・トラブルへの対応について	14
7 園運営などについて	16
8 自由意見(保育園に対して日頃感じていること・要望)	18
III 各保育園の利用者調査結果	19

## 第2部 事業評価

I 評価の概要	81
II 各保育園の評価結果報告書	82

### 【巻末】

付属資料1: 杉並区立保育園 利用者調査調査票

付属資料2: 経営層合議シート(事業プロフィール・組織マネジメント・サービス分析)

付属資料3: 職員用シート(組織マネジメント・サービス分析)



# はじめに

保育園サービス第三者評価は、第三者からみた保育園のサービスの評価結果を幅広く利用者や保育園に情報提供することにより、サービス内容を利用者に明らかにするとともに公立保育園におけるサービスの質の向上に向けた取り組みを促し、利用者本位のサービスシステムの構築を目的として行うものである。

## ■ 評価対象：杉並区立の次の 15 保育園を対象としている。

	保育園名	利用者数(人)	備考
1	中瀬保育園	94	産休明け
2	西田保育園	67	
3	荻窪保育園	65	
4	四宮保育園	75	
5	和泉保育園	70	
6	高円寺南保育園	109	延長
7	上井草保育園	107	延長
8	堀ノ内東保育園	96	産休明け・延長
9	西荻北保育園	92	延長
10	上荻保育園	108	延長
11	井草保育園	90	延長
12	善福寺保育園	94	延長
13	永福北保育園	95	産休明け・延長
14	高円寺東保育園	111	産休明け
15	荻窪東保育園	70	産休明け・延長
	合計	1,343	

※備考欄の産休明け→産休明け保育実施園、延長→延長保育実施園

## ■ 評価機関：有限会社 ヒューズボックスニコテクノロジーズ

(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号：機構 03-059)

## ■ 評価の流れ

	内容	時期・期間
1	関係者説明会	平成 18 年 9 月
2	利用者調査票配布(利用者調査)	平成 18 年 10 月
3	経営層自己評価票作成(事業評価)	平成 18 年 10 月
4	職員自己評価票作成(事業評価)	平成 18 年 10 月
5	訪問調査 利用者調査・事業評価結果報告	平成 18 年 11 月～12 月
6	評価結果のフィードバック	平成 19 年 1 月～2 月



# 第1部 利用者調査

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

実際に杉並区立保育園を利用されている保護者の方が、日常の保育サービスに対して感じていること、また意見や要望について把握することを目的とする。

## 2 調査対象者

15 保育園の利用者(保護者)を対象とした。(複数のお子さんを預けている場合は、一番年齢の低いお子さんのことについて回答。)

## 3 調査方法

無記名のアンケート方式で実施した。園より保護者全員にアンケート票を手渡しで配布し、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。

## 4 調査期間

平成 18 年 10 月 10 日～平成 18 年 10 月 31 日

## 5 利用者調査票の配布・回収状況

全世帯に配布し、15 園の回収率は 54.7%～84.2%、平均有効回収率は 66.0%である。

	保 育 園 名	配布数	回収数	回収率
1	中瀬保育園	80	49	61.3%
2	西田保育園	62	39	62.9%
3	荻窪保育園	57	48	84.2%
4	四宮保育園	64	35	54.7%
5	和泉保育園	63	44	69.8%
6	高円寺南保育園	97	59	60.8%
7	上井草保育園	84	60	71.4%
8	堀ノ内東保育園	80	49	61.3%
9	西荻北保育園	82	49	59.8%
10	上荻保育園	99	59	59.6%
11	井草保育園	74	48	64.9%
12	善福寺保育園	82	55	67.1%
13	永福北保育園	79	59	74.7%
14	高円寺東保育園	82	60	73.2%
15	荻窪東保育園	63	45	71.4%
	合 計	1,148	758	66.0%



### (参考：標本誤差)

調査結果の比率から母集団（対象世帯全体）の傾向を推測するには、統計上の誤差（標本誤差）を考慮する必要がある。N(母集団)に 1,148 人、n（回答者数）に 758 人をあてはめて算出すると、以下の表の通りである。知りたい設問の回答率に誤差（±1.2～±2.1）をあてはめて母集団の傾向を推測することになる。

回答率	標本誤差
10%	±1.2
20%	±1.7
30%	±1.9
40%	±2.0
50%	±2.1
60%	±2.0
70%	±1.9
80%	±1.7
90%	±1.2

$$\text{標本誤差 (信頼度 95\%)} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N = 母集団数（対象人口）

n = 比率算出の基数（回答者数）

P = 回答の比率

「標本誤差」とは、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。本調査は標本調査ではないが、全体と回答者数に差が生じているため、参考として誤差を算出した。信頼度 95%の計算式を今回の調査にあてはめて算出したのが、上記の表である。例えば、ある設問の選択肢の回答比率が 70%であった場合「全体からの回収があったとしても、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±1.9%以内（68.1～71.9%）である」とみることができる。

## 6 調査項目の構成

調査票は、回答者の属性のほかに、園の様子について（35問）と、総合的な感想（1問）で構成されている。（調査票は巻末の付属資料1を参照）



今年度は、第三者評価の標準的な調査項目に杉並区独自の項目を加えている。追加した項目は以下の通りである。

問2 登園時子どもを暖かく迎えている	問5 豊かな感性を育む活動・遊びがある	問6 人との関わり方の基礎が育てられている
問8 やる気・達成感を重視した支援がある	問16 園との意見交換ができています	問21 遊具等が安全で利用しやすい
問23 園内は清潔で安全に整備されている	問26 不満等の内容をよく聞いてくれる	問27 要望・意見を気軽に言える
問33 入園前の情報提供は十分だった	問34 入園説明や見学で預ける不安が軽減した	問35 入園時準備品等の必要性を理解できた

## 7 報告書の見方

- ①回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で表示してある。
- ②百分率は小数第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならない場合がある。
- ③作図・表の都合上、設問や回答の選択肢を要約している場合がある。

## II 全体の調査結果

### 1 回答者の属性

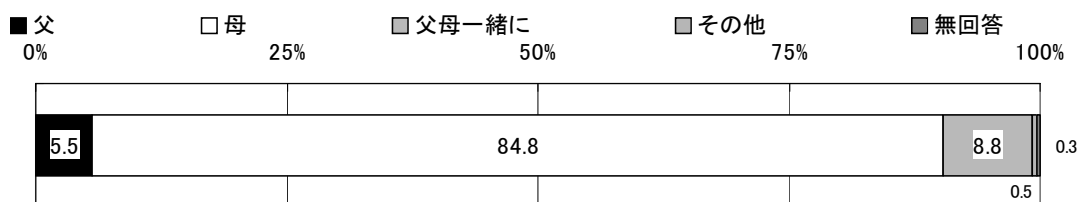
調査票の記入者 758 人の 8 割強は母親である。

回答者の年齢構成をみると、35～39 歳が 4 割弱（37.1%）、30～34 歳が 3 割強（34.0%）となっており、30 代が全体のおよそ 7 割を占めている。40 代が 2 割弱（18.5%）、20 代は約 1 割（9.1%）という結果である。

勤務形態をみると、父親の 76.1%、母親の 70.1%がフルタイム（常勤）である。なお、母親の 15.8%はパート、アルバイト勤務である。

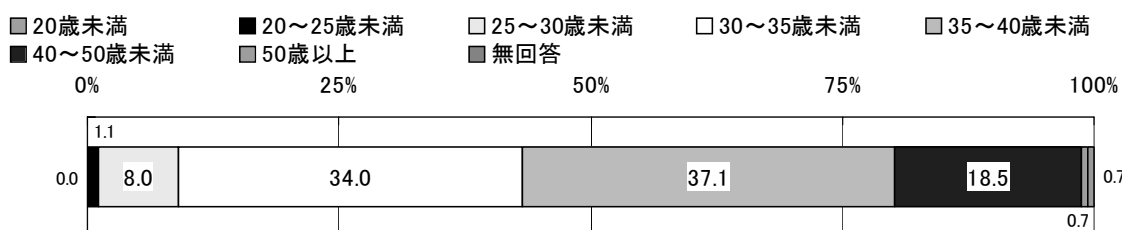
調査票の記入者

	選択肢	回答者数	%
1	父	42	5.5
2	母	643	84.8
3	父母一緒に	67	8.8
4	その他	4	0.5
	無回答	2	0.3
	全体	758	100.0



記入者の年齢

	選択肢	回答者数	%
1	20 歳未満	0	0.0
2	20～25 歳未満	8	1.1
3	25～30 歳未満	61	8.0
4	30～35 歳未満	258	34.0
5	35～40 歳未満	281	37.1
6	40～50 歳未満	140	18.5
7	50 歳以上	5	0.7
	無回答	5	0.7
	全体	758	100.0

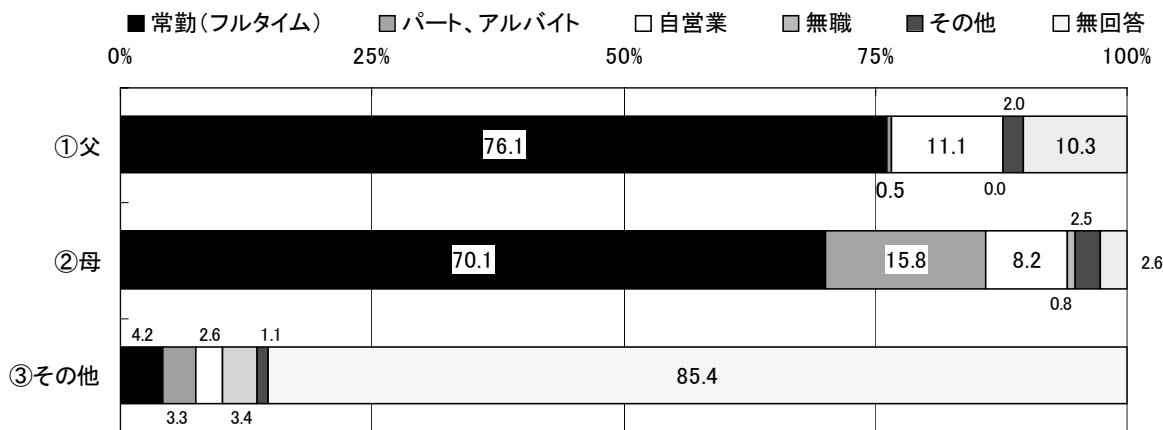


保護者の勤務形態

父親	選択肢	回答者数	%
1	常勤(フルタイム)	577	76.1
2	パート、アルバイト	4	0.5
3	自営業	84	11.1
4	無職	0	0.0
5	その他	15	2.0
	無回答	78	10.3
	全体	758	100.0

母親	選択肢	回答者数	%
1	常勤(フルタイム)	531	70.1
2	パート、アルバイト	120	15.8
3	自営業	62	8.2
4	無職	6	0.8
5	その他	19	2.5
	無回答	20	2.6
	全体	758	100.0

その他	選択肢	回答者数	%
1	常勤(フルタイム)	32	4.2
2	パート、アルバイト	25	3.3
3	自営業	20	2.6
4	無職	26	3.4
5	その他	8	1.1
	無回答	647	85.4
	全体	758	100.0

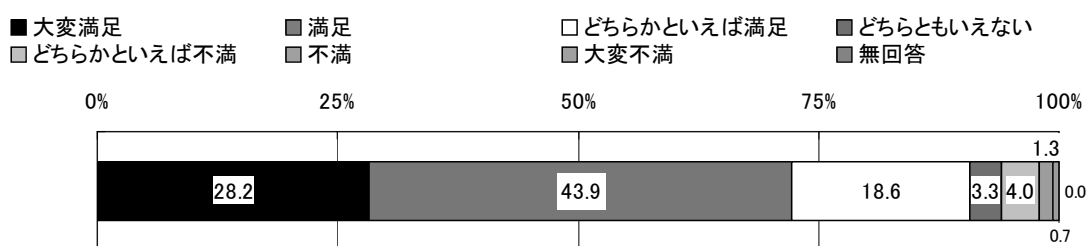


## 2 総合的な満足度

現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか。(1つに○)

「大変満足」が3割弱(28.2%)、「満足」が4割強(43.9%)、「どちらかといえば満足」が2割弱(18.6%)となっており、これらを合計した“園に概ね満足している”と感じる人は、回答者のおよそ9割(90.8%)を占めている。一方、「どちらかといえば不満」、「不満」、「大変不満」をあわせても1割に達せず、特に強い不満を感じる人はごくわずかである。

図 1 総合的な感想(満足度)



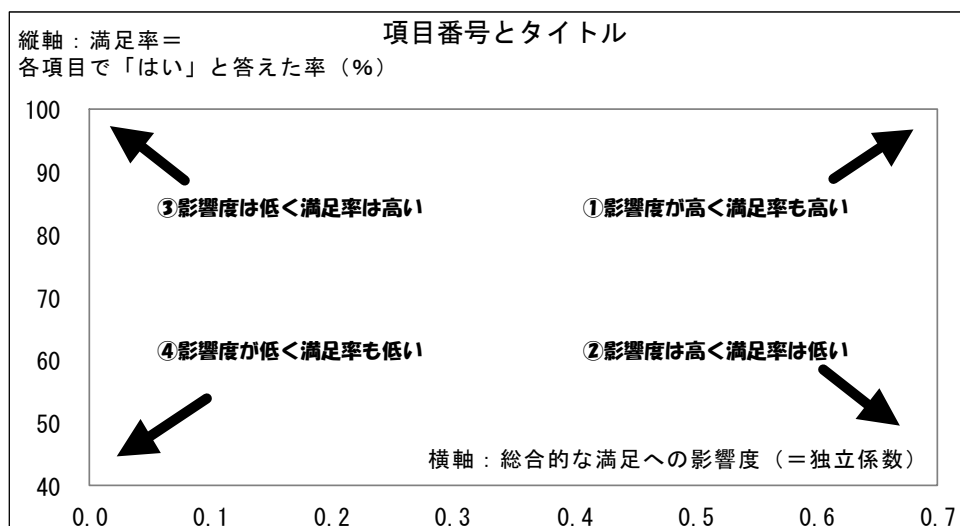
### (満足影響度について)

満足影響度とは、総合的な満足度(1 大満足、2 満足、3 どちらかといえば満足、4 どちらともいえない、5 どちらかといえば不満、6 不満、7 大変不満)と1~35の各項目(1 はい、2 どちらともいえない、3 いいえ)との相対的な関係を表したものである。

各項目が園の総合的な満足度とどのような関係(影響が強いのか弱いのか)にあるのかがわかり、満足度をあげるために取り組むべきことについて、優先順位付けを検討する際の手がかりとなるものである。影響度は、最小0.0~最大1.0の独立係数で表され、0.3以上は影響がある、0.4以上は強い影響がある、0.6以上は非常に強い影響がある、という整理をしている。

毎日の保育サービス、保護者の方と保育園との関わりや交流、施設環境、要望・意見や不満・トラブルへの対応、園運営などの分野ごとに、満足率(各項目に「はい」と答えた率)とあわせて独立係数(影響度)を掲載している。各項目の分布する位置による満足率と影響度の考え方は、以下の通りとなっている。

図 2 満足影響度グラフの見方



(満足率と独立係数一覧)

分野	項目名	満足率	独立係数
■ 毎日の保育サービス	1)登園時子どもの様子の確認がある	80.3	0.287
	2)登園時子どもを暖かく迎えている	91.1	0.404
	3)食事のメニューは充実している	89.5	0.248
	4)散歩で戸外に出る機会が多い	77.6	0.322
	5)豊かな感性を育む活動・遊びがある	82.1	0.401
	6)人との関わり方の基礎が育てられている	87.0	0.491
	7)子どもの長所や個性が認められている	87.8	0.355
	8)やる気・達成感を重視した支援がある	85.2	0.346
	9)職員による対応のばらつきは少ない	55.3	0.402
	10)降園時子どもの様子について話がある	66.2	0.321
	11)降園時子どもの表情は良いことが多い	85.5	0.303
	12)開園時間内の急用への対応が柔軟	73.2	0.262
	13)保育中の病気等への対応が適切	85.0	0.294
	14)事故等に責任を持って対応している	78.6	0.427
■ 保護者の方と保育園との関わりや交流	15)園日より等で保育状況等を知り得る	83.0	0.408
	16)園との意見交換ができています	75.9	0.417
	17)子育てに関する個別相談ができています	72.8	0.390
	18)色々な価値観に理解を示してくれる	65.7	0.427
	19)行事日程は保護者に配慮されている	64.9	0.299
■ 施設環境	20)子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気	81.3	0.397
	21)遊具等が安全で利用しやすい	90.0	0.392
	22)必要な遊具等が十分用意されている	74.5	0.381
	23)園内は清潔で安全に整備されている	85.2	0.399
	24)侵入者等への安全対策がとられている	54.7	0.229
■ 要望・意見や不満・トラブルへの対応	25)不満等への職員の対応が的確	57.3	0.478
	26)不満等の内容をよく聞いてくれる	63.9	0.424
	27)要望・意見を気軽に言える	65.4	0.371
	28)要望・意見をもとに改善が行われている	51.2	0.400
■ 園運営など	29)園運営の理念・方針を知っている	49.7	0.221
	30)園運営の理念・方針に納得している	92.4	0.437
	31)職員の対応は理念・方針と一致している	83.1	0.622
	32)地域住民との交流を図っていると思う	62.7	0.283
	33)入園前の情報提供は十分だった	85.6	0.203
	34)入園説明や見学で預ける不安が軽減した	80.6	0.354
	35)入園時準備品等の必要性を理解できた	85.0	0.239

### 3 毎日の保育サービスについて

登園や降園の様子、日中の活動や遊び、病気やけがへの対応など“毎日の保育サービス”について保護者が感じていることは次の通りである。

9割を超える回答者が「2. 登園の際に職員から暖かく迎えられている」と感じており、日中の活動についても「7. 子どもの長所や個性が認められている」、「6. 人との関わり方の基礎が育てられている」、「8. やる気・達成感を重視した支援がある」、「5. 豊かな感性を育む活動・遊びがある」及び「11. 降園時子どもの表情は良いことが多い」についてはいずれも8割を大きく超える人が肯定的に捉えている。子どもの状況が把握され、一人ひとりの個性や発達、興味・関心の状況が大事にされている保育の様子について保護者が理解し、概ね満足している様子がうかがえる。また「3. 食事のメニューは充実している」ことも肯定的な回答が約9割を占め、栄養バランスのとれた食事内容が認められる結果となっている。一方、「4. 散歩で戸外に出る機会が多い」ことへの認知状況は8割を下回っているが、実際には安全確保の体制を整えた上でできる限り多くの機会を確保している園が多いことから、お散歩への期待の高さの表れと考えることもできるのではないかな。

「13. 保育中の病気等への対応」は8割を大きく超える回答者が適切であると感じている一方、「12. 開園時間内の急用への対応が柔軟」、「14. 事故等に責任を持って対応している」については肯定的な回答が8割を下回っている。子どもの体調による受け入れのルールや与薬管理など、対処方法が保護者に十分周知されていること（項目 13）と、突発的なことへの対応（項目 12.14）による違いが表れているといえるのではないかな。

#### 【満足影響度】

園の総合的な満足度には、項目 6、14、2、9、5（影響の強い順）が強い影響を与えている。保育の具体的な内容やけが等への責任ある対応をはじめ、登園時の暖かい雰囲気や肯定的に捉えている人は、園の総合的な満足度も高いことが推察される「9. 職員の対応のばらつき」については解釈の難しさもあるが、影響の強さを考慮すると、各園でそのばらつきの要因（常勤職員と非常勤職員の違い、保育内容、保護者への対応等）を探るとともに、解消すべきものかどうかの検討なども必要といえるのではないかな。

図 3 保育サービスの満足影響度(満足率平均 80.32%、独立係数平均 0.348)

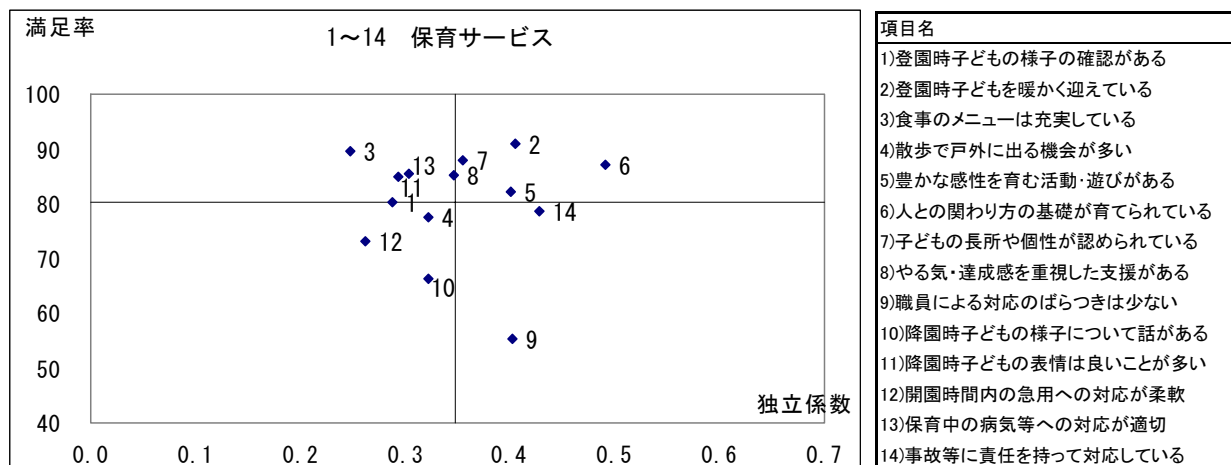
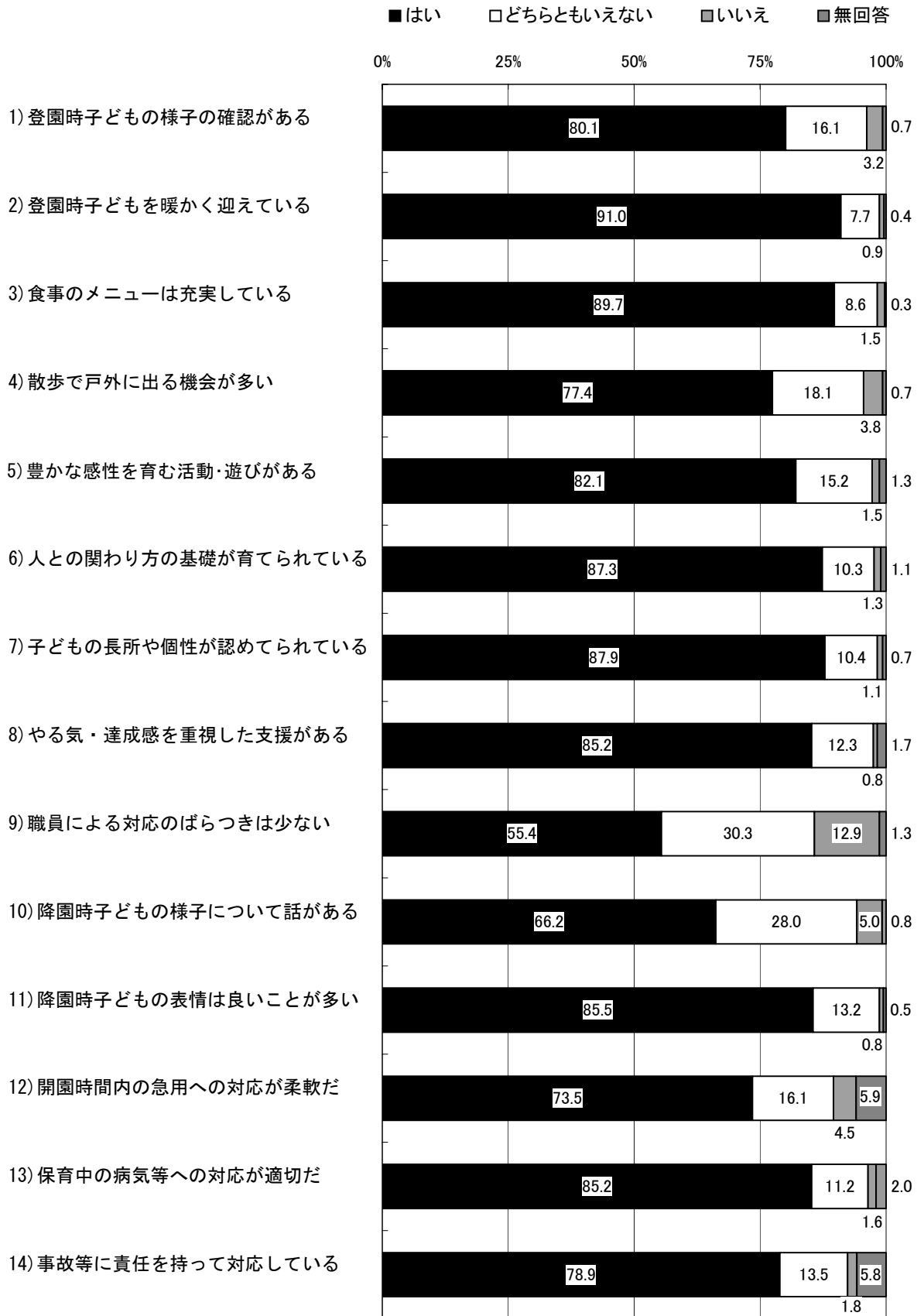


図 4 保育サービス





#### 4 保護者の方の保育園との関わりや交流について

園での子どもの様子を知ることや、園との意見交換や相談の状況、保護者の考えや価値観への園の理解など“保護者と保育園との関わりや交流”について保護者が感じていることは次の通りである。

「15. 園だより等で保育状況等を知ることができる」ことは8割を超える回答者が肯定的に捉えており、園だより、クラスだより、園内外の掲示物などを中心に子どもの様子が伝わっていることが表れている。「16. 園との意見交換ができています」、「17. 子育てに関する個別相談ができています」ことについては、肯定的な回答が7割強にとどまっている。

一方、「18. 色々な価値観に理解を示してくれる」、「19. 行事日程は保護者に配慮されている」ことはそれぞれ6割強を占めるにとどまり、満足率は低い水準となっている。利用者アンケートの自由回答では、保育士の忙しそうなお様子への言及も多くみられ、子育ての悩みや気がかりな点について気軽に相談しやすい雰囲気とは言い切れない状況がうかがえる。日程調整については就労・就業形態が多様な保護者すべてが満足する調整は不可能であり、肯定的な回答率を上げることが困難な項目ともいえる。しかし、保護者に対して日程調整の結果をできるだけ早い時期に周知し、園の調整方針や経緯を明らかにすることなどで、調整結果への理解を得ることは可能であると考えられる。

##### 【満足影響度】

園の総合的な満足度には、項目 18、16、15（影響の強い順）が強い影響を与えており、保護者の価値観を受け入れる園の姿勢や子どもに関する情報や意見交換について日常的にできていると感じる人は、園全体にも満足するという傾向が表れている。なお、「19. 行事日程は保護者に配慮されている」ことへの満足率は低いが、園の総合的な満足度には強い影響を与えてはいないことが表れている。

図 5 保護者と園の交流の満足影響度(満足率平均 72.46%、独立係数平均 0.388)

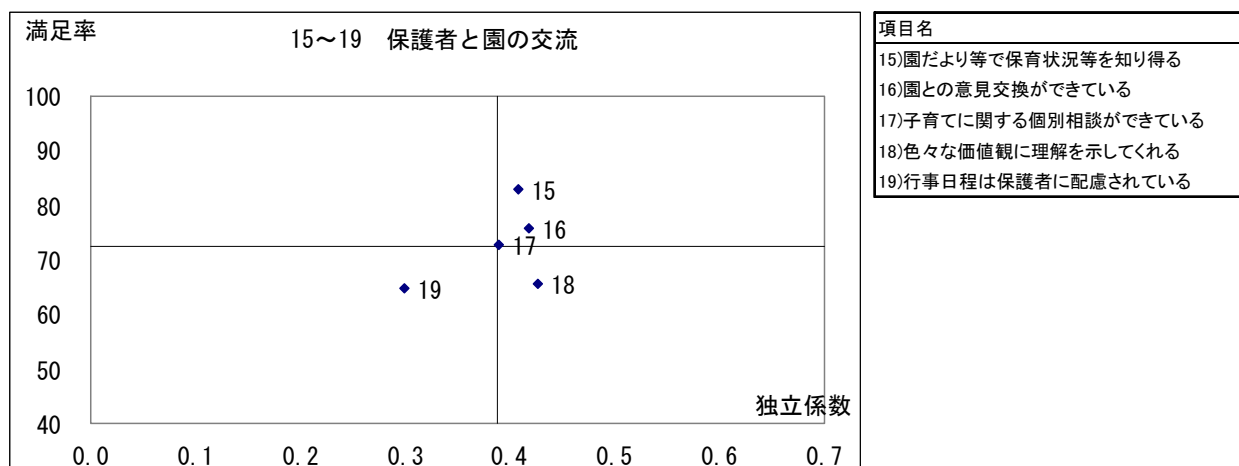
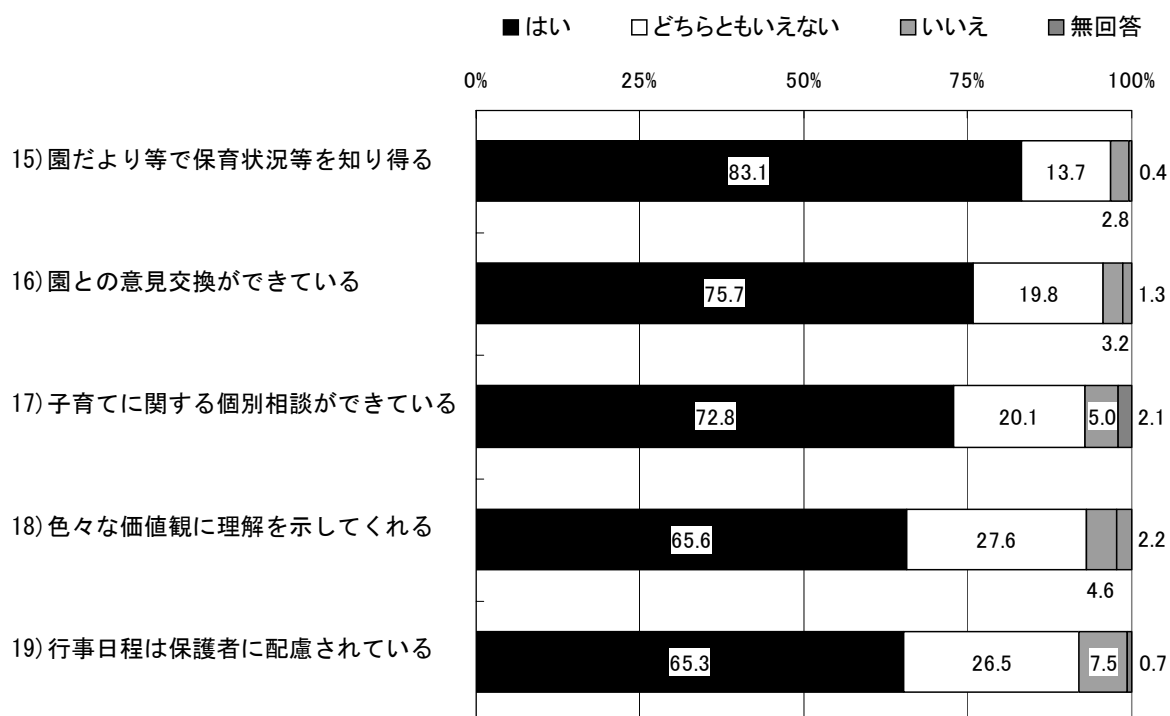


図 6 保護者と園の交流



## 5 施設環境について

園の建物、庭、遊具の状況など子どもが過ごす場所の環境と、外部からの侵入対策などをあわせた“施設環境”について保護者が感じていることは次の通りである。

「21. 遊具等が安全で利用しやすい」ことはおよそ9割、「23. 園内は清潔で安全に整備されている」、「20. 子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」はそれぞれ8割を超える回答者が肯定的に捉えている。全園的に危険な遊具の見直しや撤去作業を進めていること、乳児が使用するおもちゃを毎日消毒していることなど、子どもをめぐる環境が安全で清潔に保たれていることは、保護者にも十分伝わっているといえる。

「22. 必要な遊具等が十分用意されている」ことを認知している回答者は7割強にとどまる一方、否定的な回答（いいえ）はごくわずかである。園にある遊具の使用状況や、子どもの発達や興味・関心を高める遊具の機能などについて保護者に十分伝わると、肯定的に捉える人も増えるのではないかと。

「24. 侵入者等への安全対策がとられている」ことを肯定的に捉える人は5割強にとどまるほか、否定的に感じる人も約1割を占めるなど、満足率は低い水準となっている。

### 【満足影響度】

園の総合的な満足度には、施設環境に関する項目は全般的に強い影響はみられない（独立係数はすべての項目で0.4を下回る）。特に、満足率の低い項目24についてみると、園の安全対策そのものを肯定的に捉えているかどうかは、園全体の満足度にほとんど影響を与えていないといえる。実際、園の門扉は送迎の一時を除き施錠されていることが多く、また全園的に防犯用の監視カメラの設置、外部から侵入しづらい目の細かいフェンスへの取替えが進められている。保護者は、これら基本的な対策については認知した上で、より高い安全対策意識を求めていることがうかがえる。

図 7 施設環境の満足影響度(満足率平均 77.15%、独立係数平均 0.359)

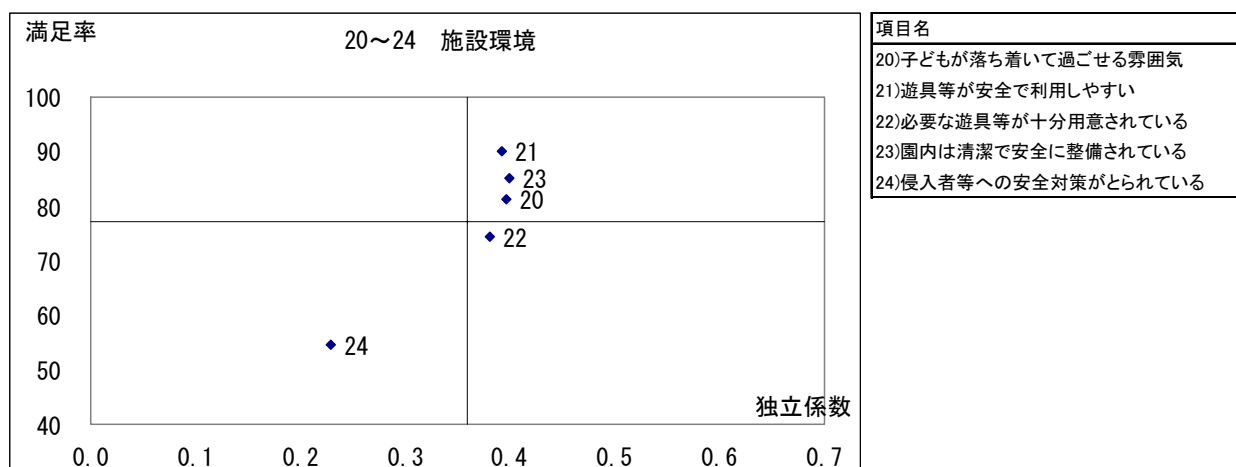
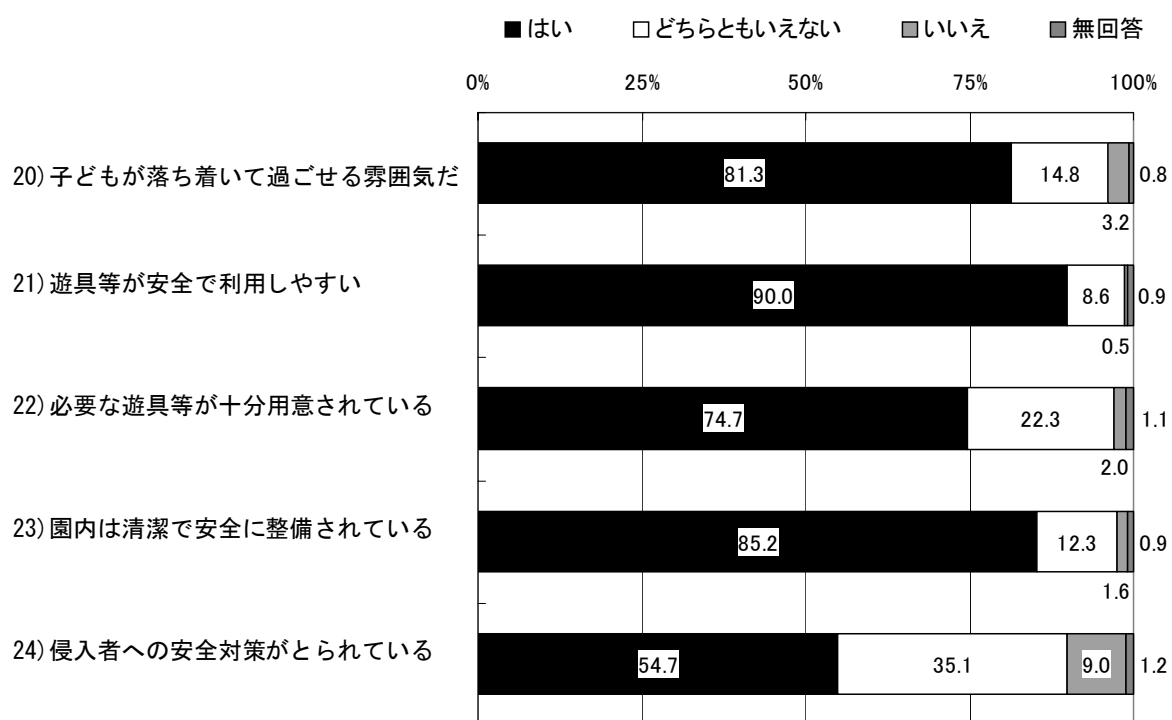


図 8 施設環境



## 6 要望・意見や不満・トラブルへの対応について

要望や不満などを言いやすい雰囲気、意見を聞き入れる園の体制、トラブルが起きた際の対応など“要望・意見や不満・トラブルへの対応”について保護者が感じていることは次の通りである。

要望や不満などが思い当たらない保護者は、無理に自分にあてはめず『園全体の状況を見て』回答している。

「26. 不満等の内容をよく聞いてくれる」、「27. 要望・意見を気軽に言える」ことを肯定的に捉える回答者はいずれもおよそ3分の2にとどまり、「25. 不満等への職員の対応」を的確であると感じる人は6割を下回っている。さらに「28. 要望・意見をもとに改善が行われている」ことは約5割の認知状況にとどまっている。いずれの項目も「どちらともいえない」とする人の割合が他の項目に比べて高く、また、意見や不満の捉え方、保護者の感じ方も一律ではないことなどから、保護者も一概には回答しづらいという状況がうかがえる。

### 【満足影響度】

園の総合的な満足度には、要望・意見・不満などの対応に関するすべての項目が影響を与えており、中でも項目 25. 26. 28 はその影響が強いといえる。影響の強い項目はいずれも園の能動的な姿勢や対応を表すものであり、保護者は要望や意見を園がどのように受け止め、その後の行動に結びつけているかを重視しているといえる。

図 9 不満やトラブルの対応の満足影響度(満足率平均 59.42%、独立係数平均 0.418)

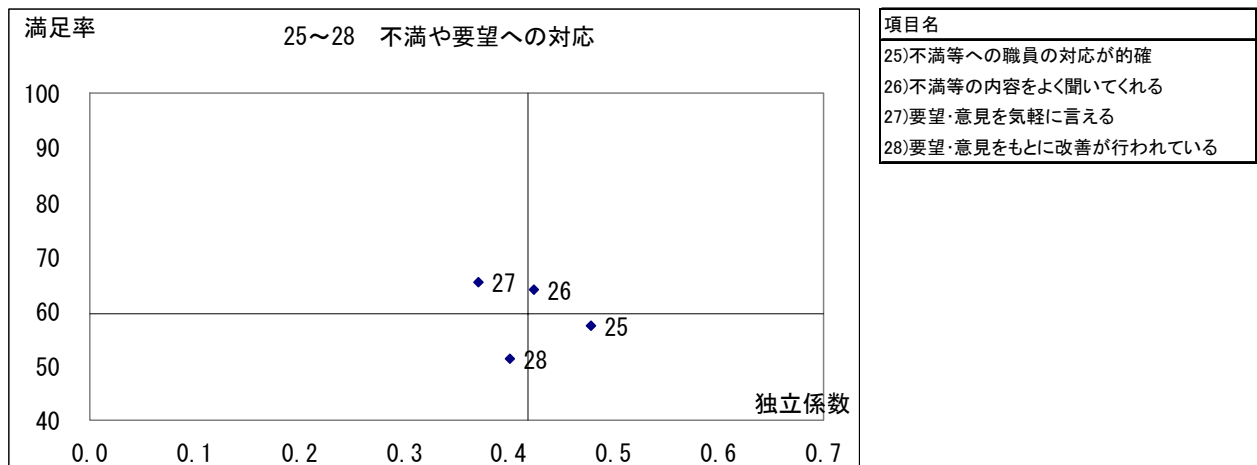
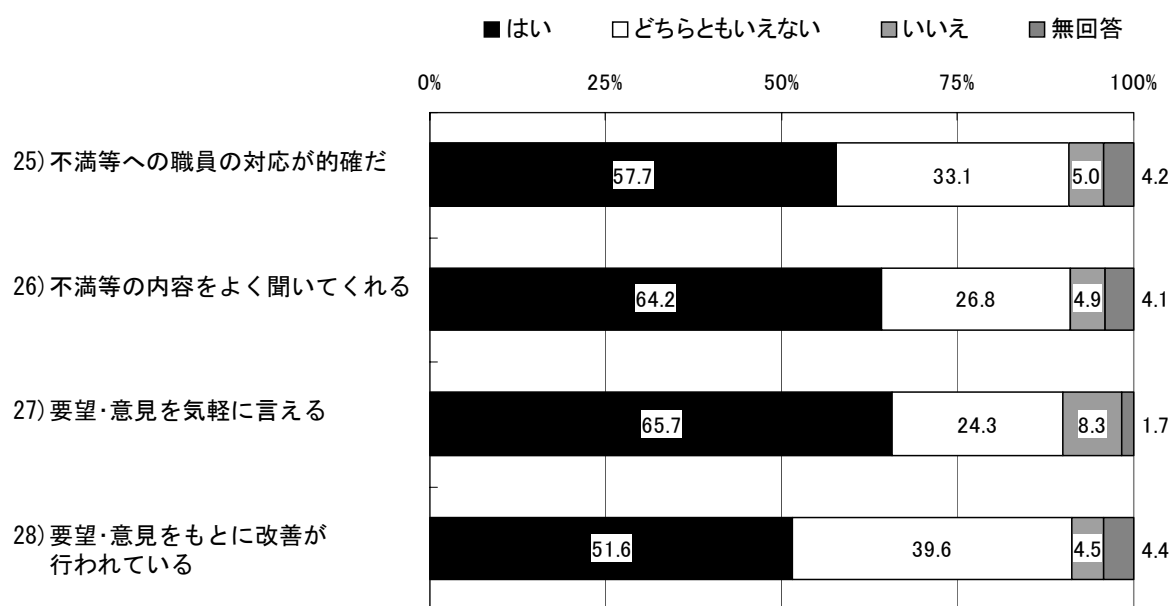


図 10 不満やトラブルの対応



## 7 園運営などについて

園の運営方針の認知状況や、地域交流の様子、入園前の説明など“園運営など”について保護者が感じていることは次の通りである。

「29. 園運営の理念・方針を知っている」人は回答者の5割を下回り、今回のアンケート項目で最も低い肯定率である。一方、理念や方針を知っている378人の9割超が「30. 園運営の理念・方針」に納得しており、8割超が「31. 職員の対応は理念・方針と一致している」ことを認めている。

「32. 地域住民との交流を図っている」と感じる人は回答者の6割強にとどまるが、区立の保育園は、地域の小学校などを中心とするネットワークに参画して、子どもや子育てに関する地域の共通課題の認識を深めるほか、地域の親子の育児や発達相談への対応など、様々な交流に取り組んでいる。子どもにとっては、地域の人とふれあう機会となっているが、保護者にとって興味・関心の高い項目とはなりづらいことが、肯定的な回答を抑える要因のひとつとして考えられる。

「33. 入園前の情報提供は十分だった」、「34. 入園説明や見学で預ける不安が軽減した」、「35. 入園時準備品等の必要性を理解できた」への肯定的な回答はいずれも8割を超えており、説明会における保護者の不安を取り除く効果的な説明や、持ち物などの適切な資料提供が概ね満足されていることが表れている。

### 【満足影響度】

園の総合的な満足度には、項目31、30（影響度の強い順）が強い影響を与えている。特に項目31は、35項目の中で最も独立係数の値が高く、非常に影響の強い項目である。園の理念や方針を知った上で、さらにその内容に納得し、実際の職員の行動にも園の理念や方針を感じることができるとは、園の総合的な満足度も高いことが推察される。項目30及び31に該当する人を増やすことは、園の総合的な満足度の向上に効果的に働くと考えられる。

図 11 園運営などについての満足影響度(満足率平均 77.02%、独立係数平均 0.337)

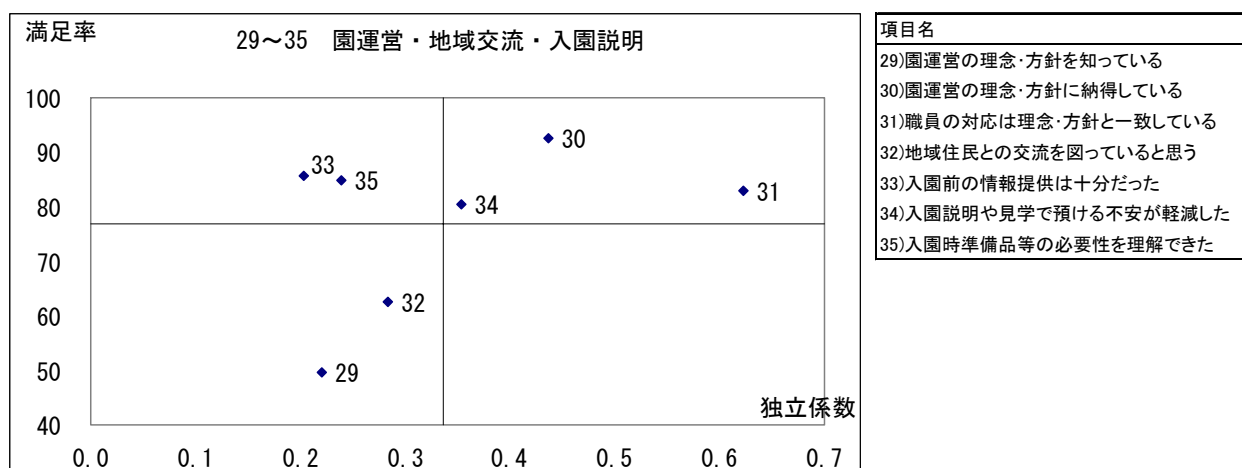
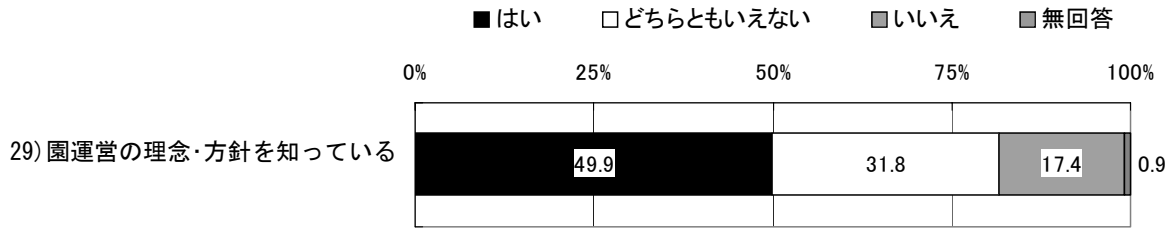


図 12 保育園運営方針



※30, 31 は 29 で「はい（理念・方針を知っている）」と答えた 378 人の回答

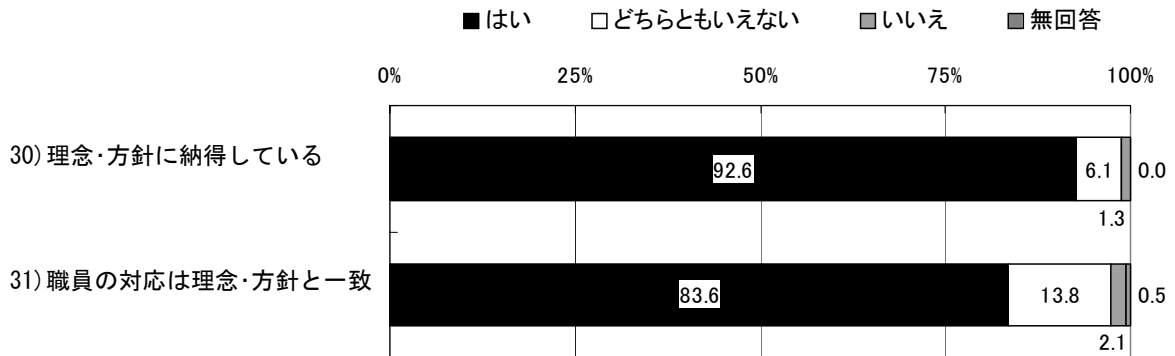


図 13 地域との交流

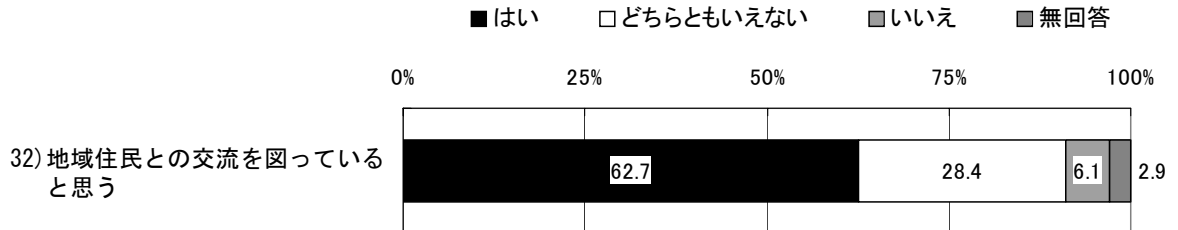
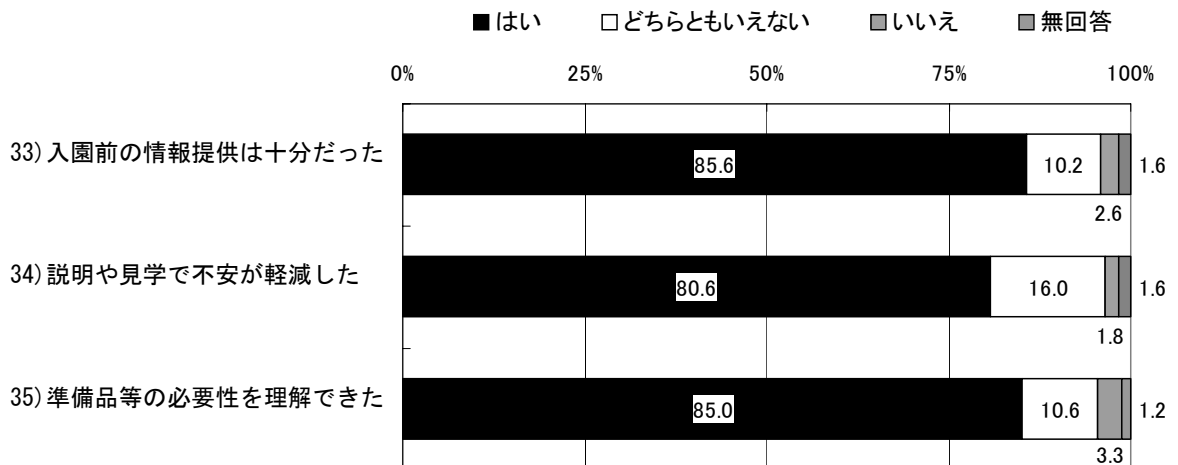


図 14 入園前の対応





## 8 自由意見（保育園に対して日頃感じていること・要望）

調査票の自由記述欄に寄せられた意見を、内容によって分類すると次の通りとなる。

大分類	中分類	件数	内容
1 毎日の保育  (473 件)	1 保育内容	75	遊びや活動・おもちゃや絵本・表現活動
	2 散歩、園外活動	21	頻度や場所
	3 食事・おやつ	24	メニューや量
	4 お昼寝	8	時間や布団
	5 保健・衛生 (病気・けが・健康)	50	園での発熱等への対応・与薬・けがへの対応・健康管理や病気予防
	6 保育士	210	対応・園や保育士への感想
	7 その他 (教育・写真やビデオなど)	85	撮影許可や個人情報等、書き方や英語等の教育 人員体制
2 保護者との連携  (157 件)	1 個別相談	29	相談のしやすさ、相談ごとへの対応
	2 園からのおたより・お知らせ	16	園だより・クラスだより・連絡帳の内容や頻度
	3 保育参観(参加)・保護者会	13	参加しやすさ
	4 登園・降園時の伝達	53	あいさつやその日の出来事の伝達
	5 行事の内容・日程	18	行事や保護者会の内容や参加しやすさ
	6 保護者間交流・父母会	6	保護者間の情報交換や父母会活動
	7 不定時保育	22	遅い登園やお迎え時間の融通・保護者の都合による保育への対応
3 園の環境  (94 件)	1 園舎・保育室	54	建物の老朽化、耐震・保育室の装飾、空調
	2 園庭や遊具	13	園庭の整備・遊具の使いやすさや安全性
	3 安全性・周辺環境	27	門の施錠やフェンス等侵入者対策、交通量 駐輪・駐車
4 不満・要望・トラブルへの対応  (10 件)	1 意見・要望の言いやすさ	2	言いやすい雰囲気・聞く姿勢
	2 不満・トラブル対応	8	不満やトラブルへの対応の的確さ
5 保育園運営方針  (47 件)	1 入園時説明	5	説明の内容・説明(持ち物や準備品)の理解
	2 園の理念や方針、保育目標	42	理念や方針の認知・園長の姿勢
6 保育行政・保育サービス・少子化対策  (77 件)	1 区への意見・要望	53	入園事務・兄弟姉妹の入園、民営化について
	2 延長・一時保育	21	延長保育・一時保育の実施、充実
	3 子どもを生み育てること	3	子育て支援策

### Ⅲ 各保育園の利用者調査結果

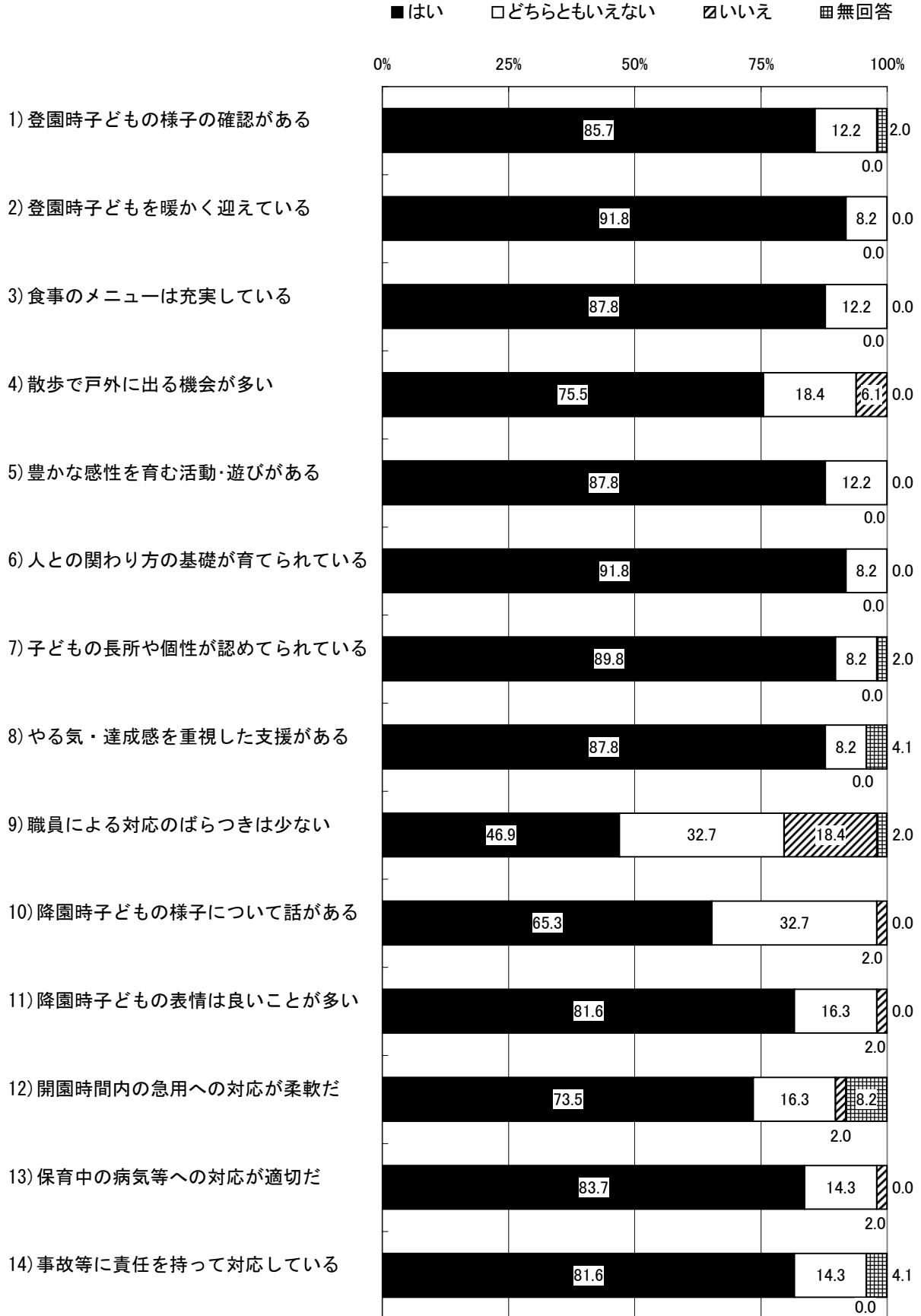
園ごとの利用者調査結果は、それぞれ次の通りである。

	保 育 園 名	ページ
1	中瀬保育園	20
2	西田保育園	24
3	荻窪保育園	28
4	四宮保育園	32
5	和泉保育園	36
6	高円寺南保育園	40
7	上井草保育園	44
8	堀ノ内東保育園	48
9	西荻北保育園	52
10	上荻保育園	56
11	井草保育園	60
12	善福寺保育園	64
13	永福北保育園	68
14	高円寺東保育園	72
15	荻窪東保育園	76

# 中瀬保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

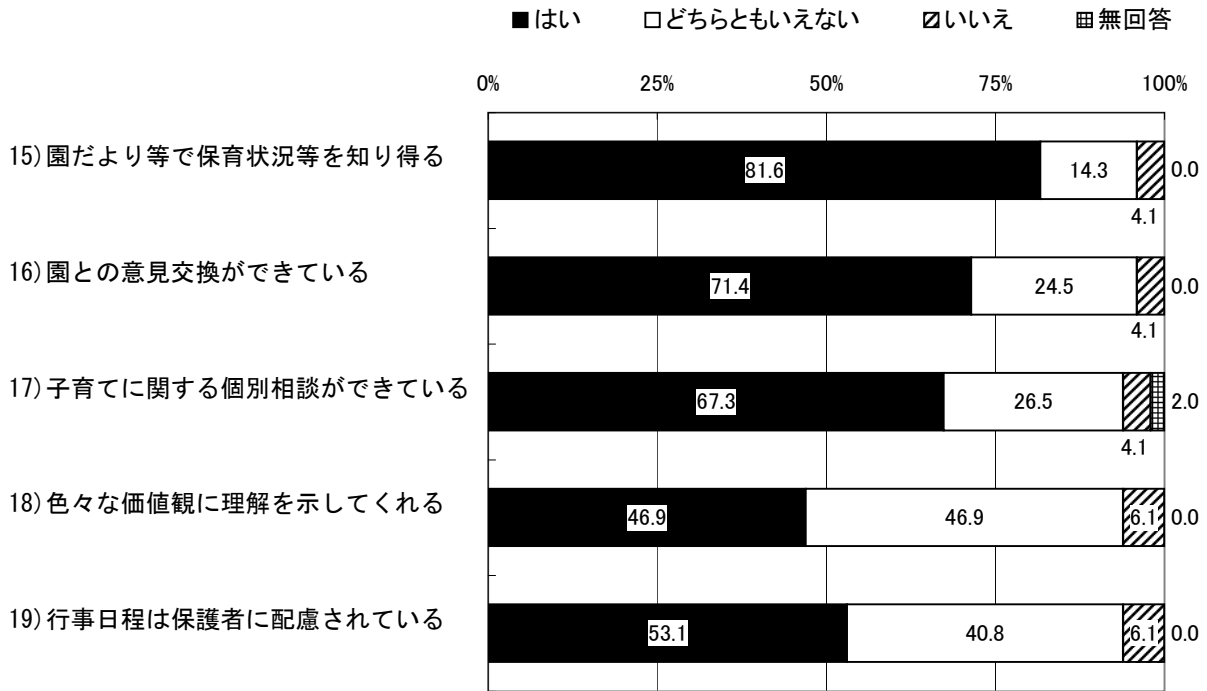
回答者数=49



# 中瀬保育園

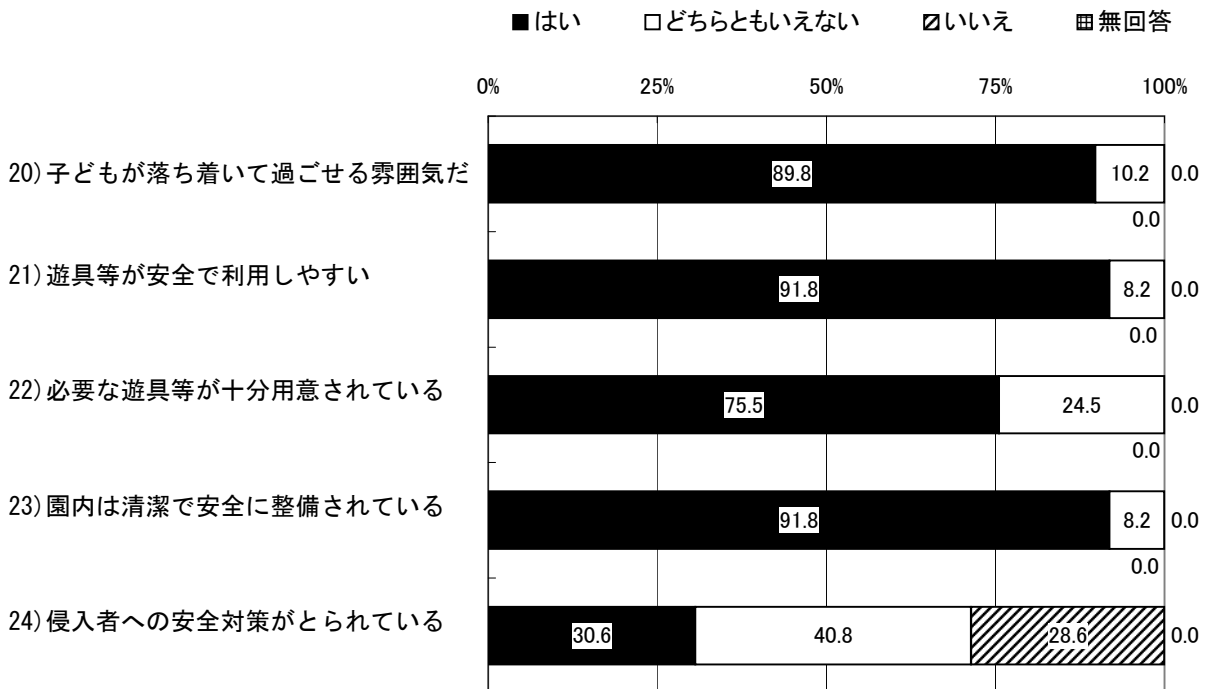
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=49



## 《施設環境についてお聞きします》

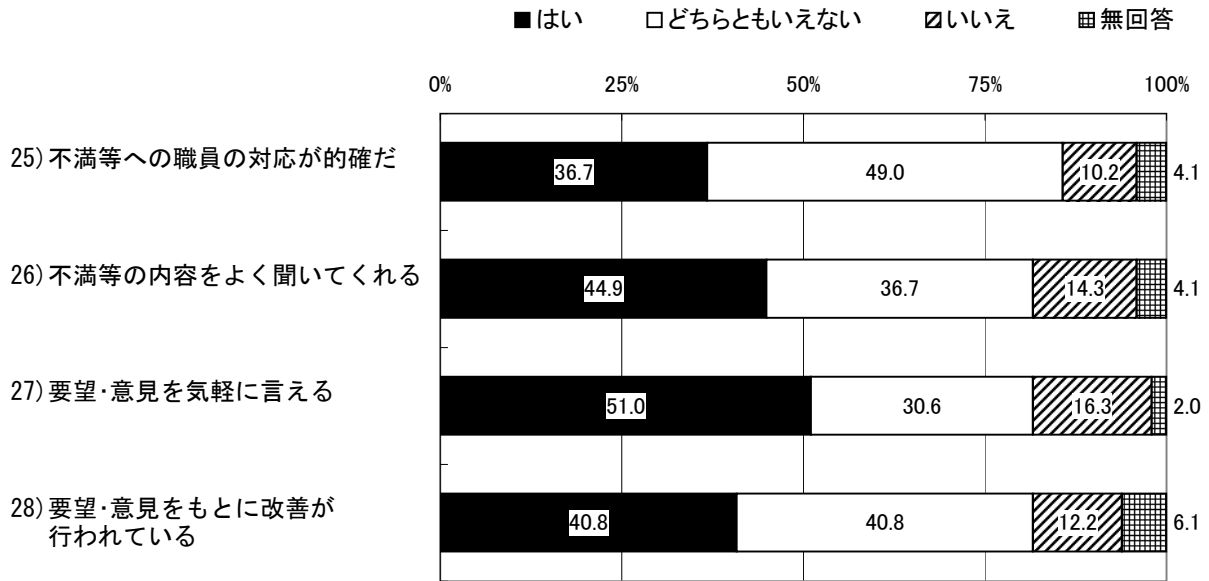
回答者数=49



# 中瀬保育園

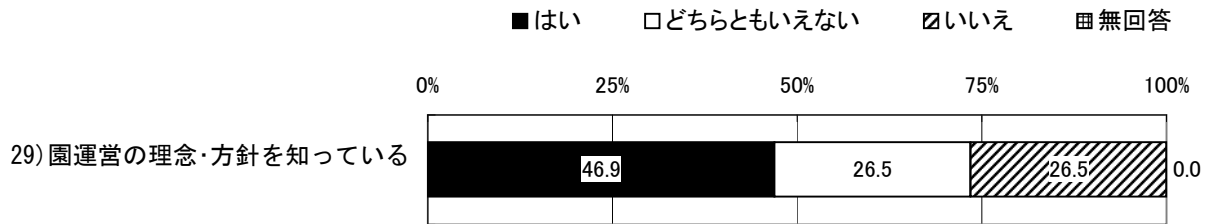
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=49



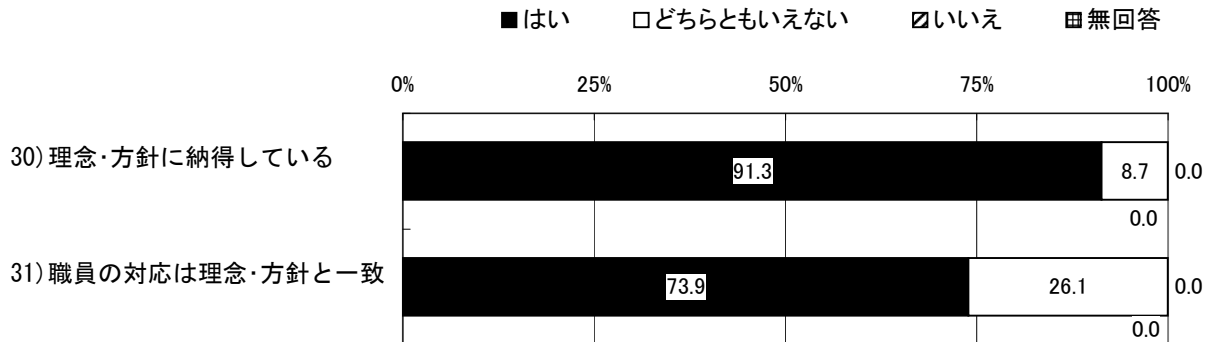
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=49



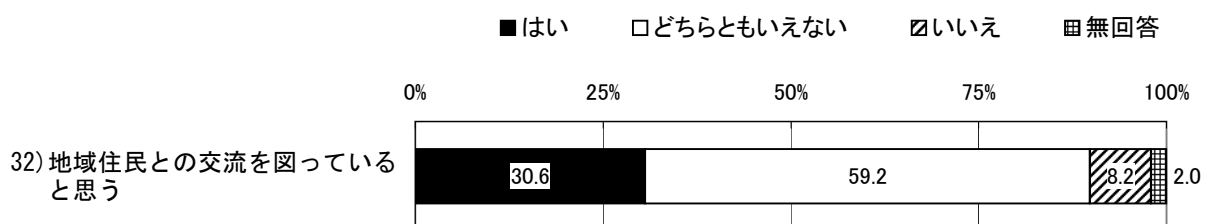
## 問29.で「はい」と回答した方への質問

回答者数=23



## 《地域との交流についてお聞きします》

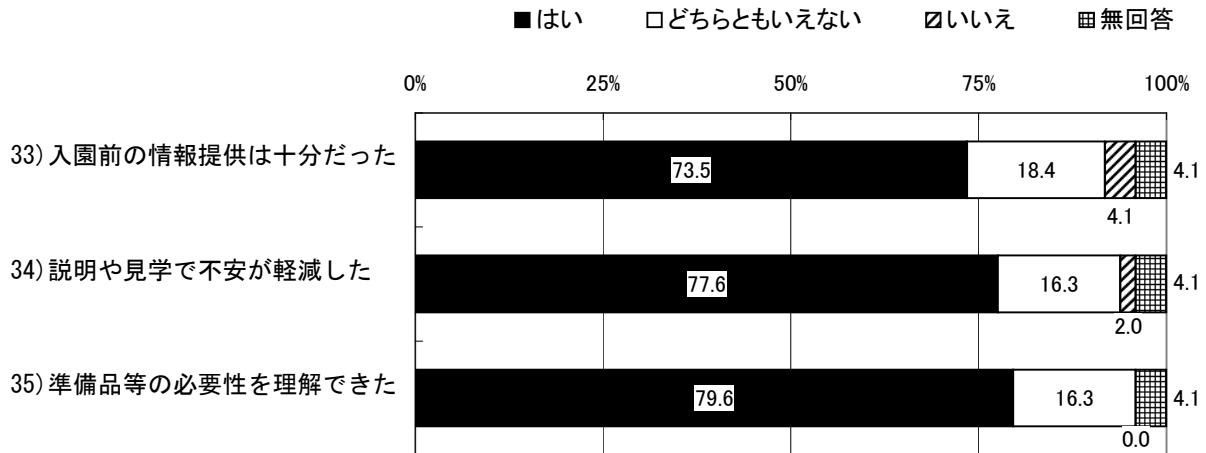
回答者数=49



# 中瀬保育園

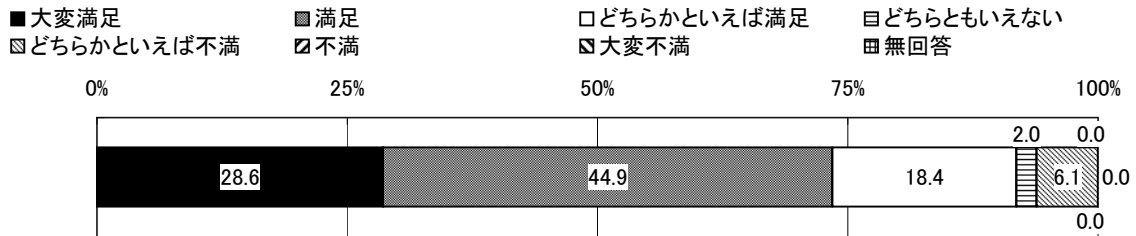
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=49



## 《総合的な感想についてお聞きします》

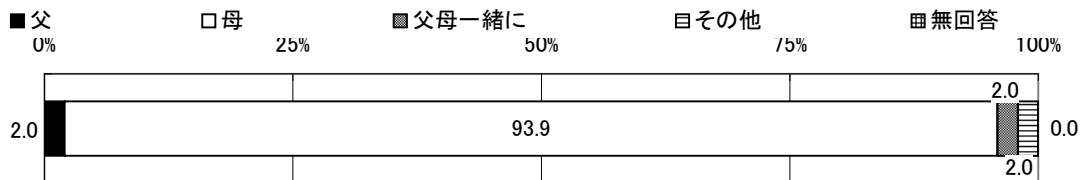
回答者数=49



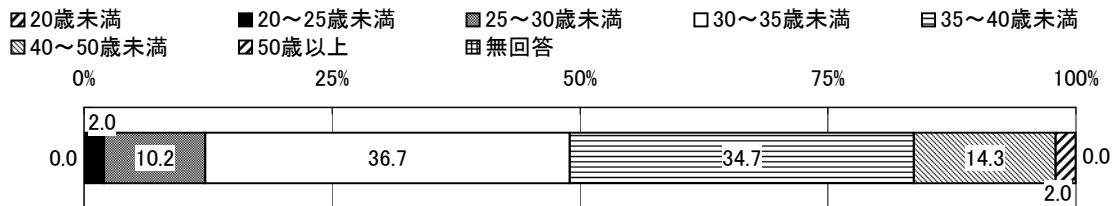
## 《回答者について》

回答者数=49

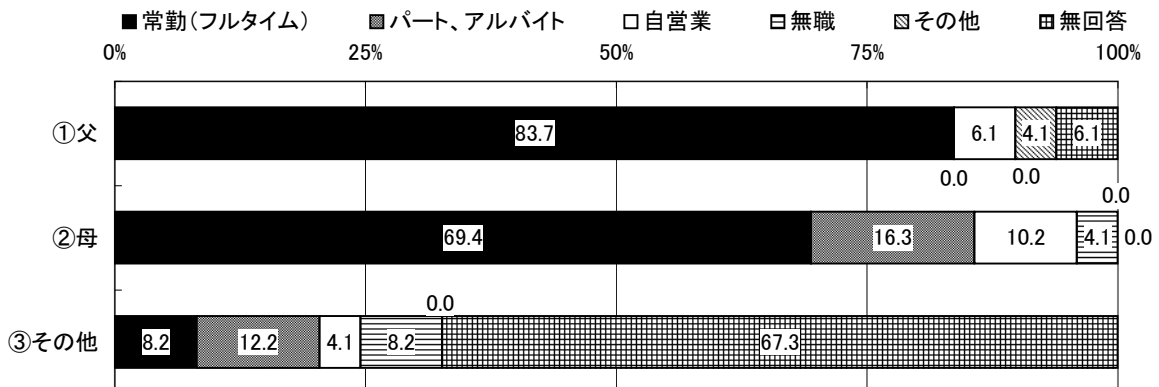
調査票記入者



主な記入者の年齢



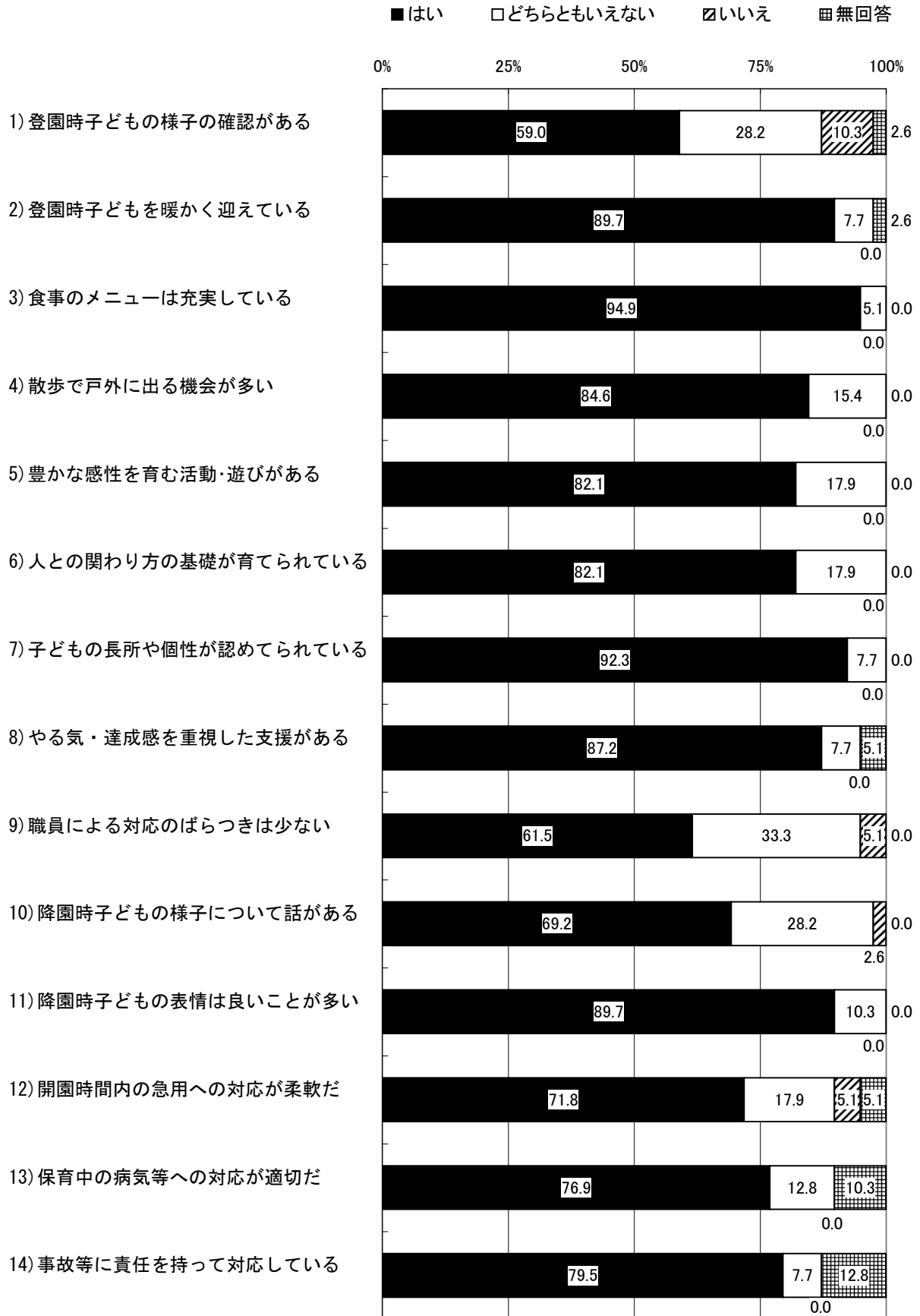
保護者の勤務形態



# 西田保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

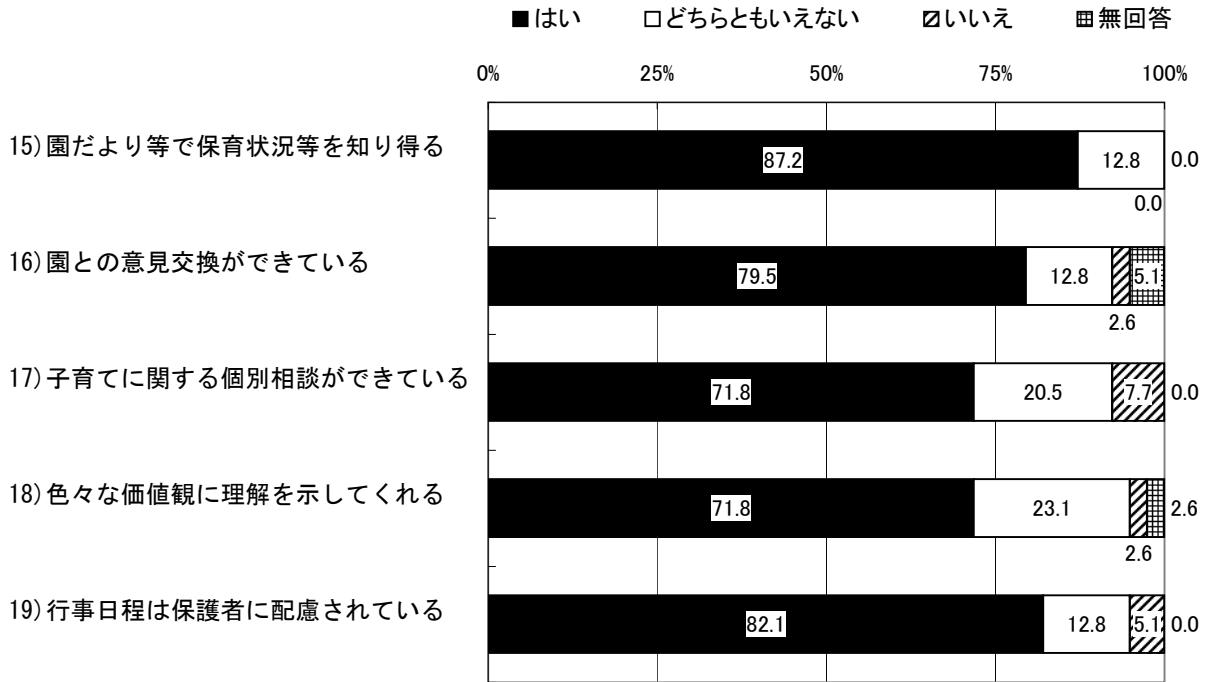
回答者数=39



# 西田保育園

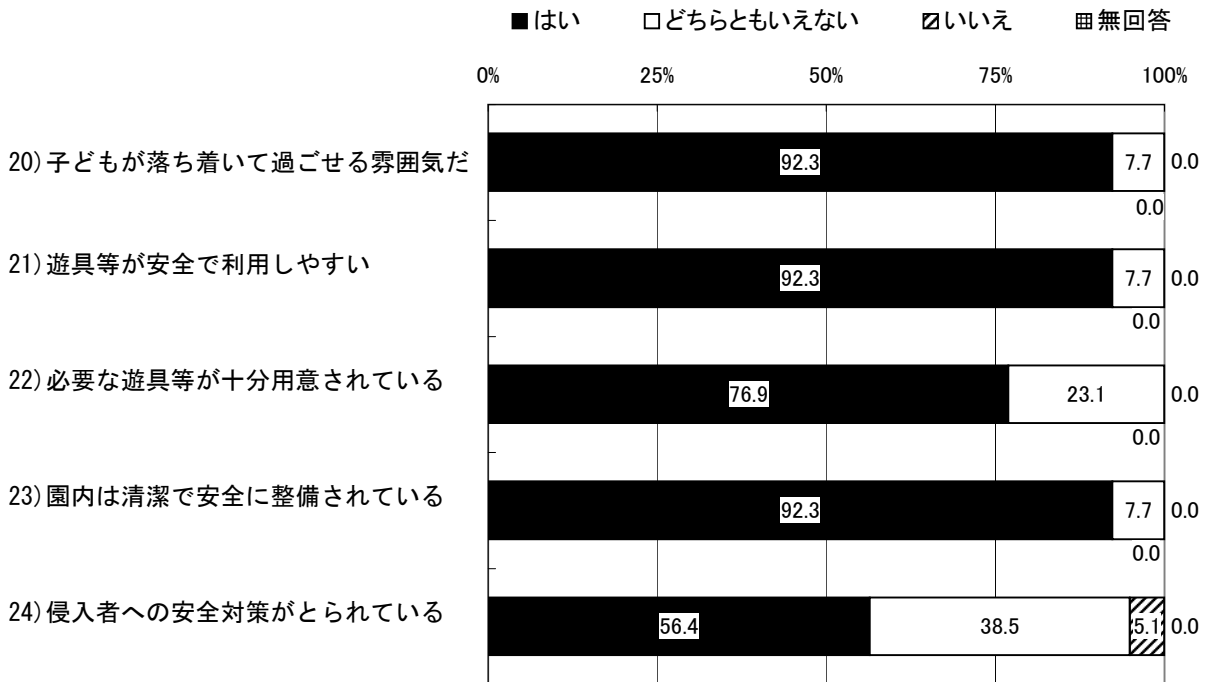
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=39



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=39

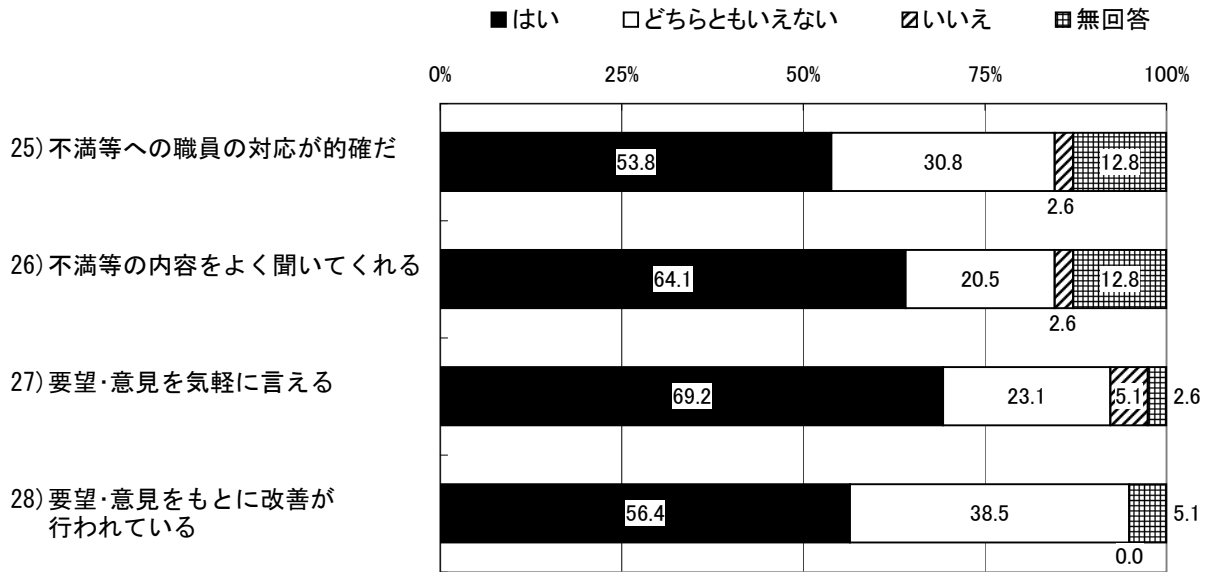




# 西田保育園

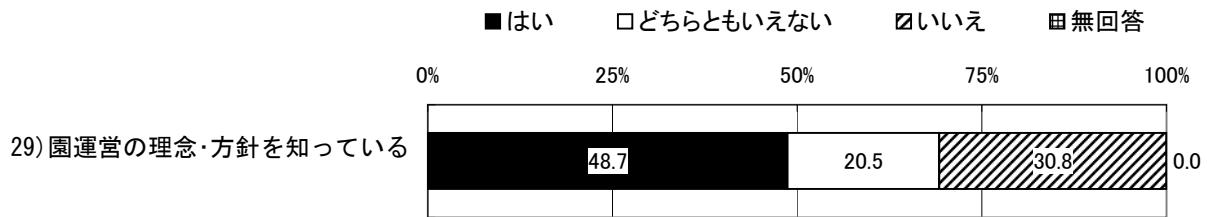
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=39



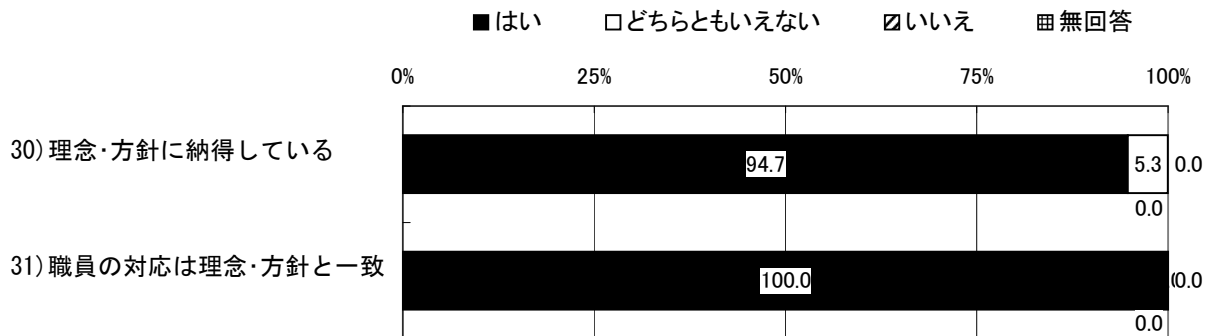
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=39



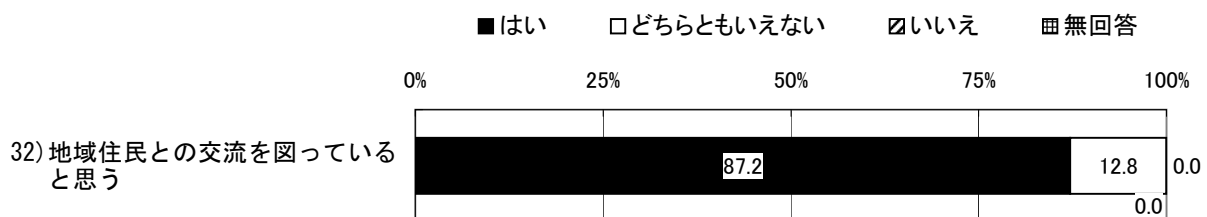
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=19



## 《地域との交流についてお聞きします》

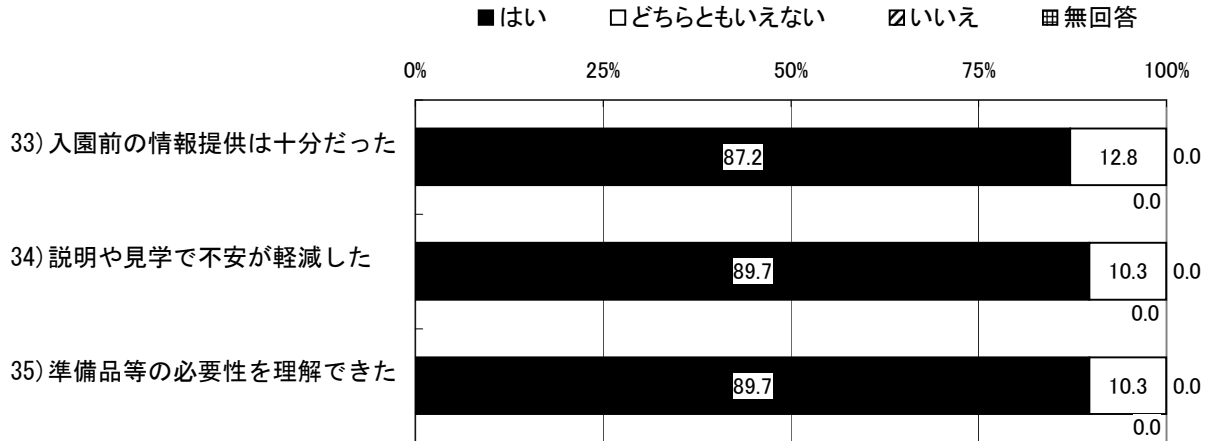
回答者数=39



# 西田保育園

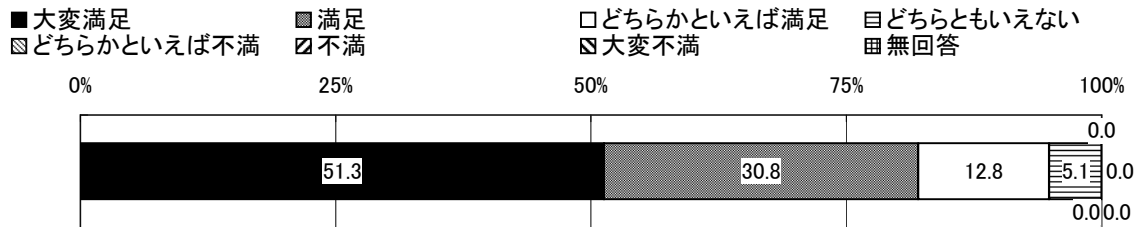
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=39



## 《総合的な感想についてお聞きします》

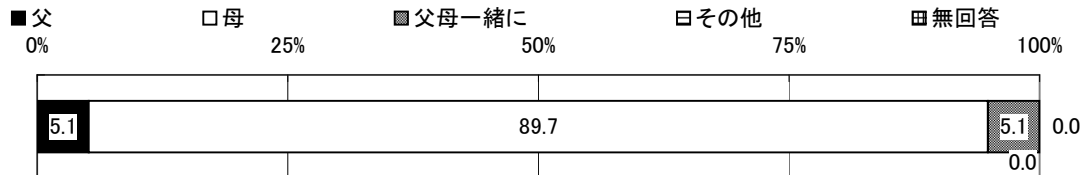
回答者数=39



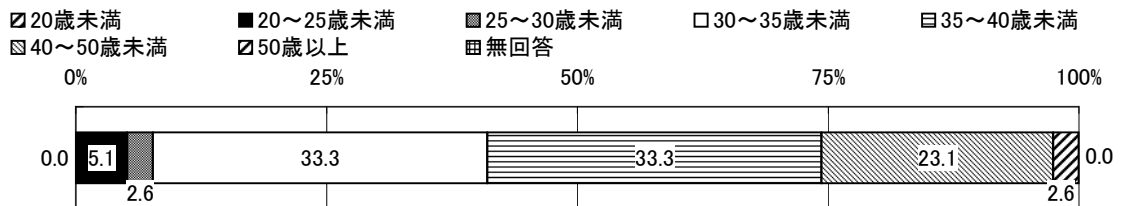
## 《回答者について》

回答者数=39

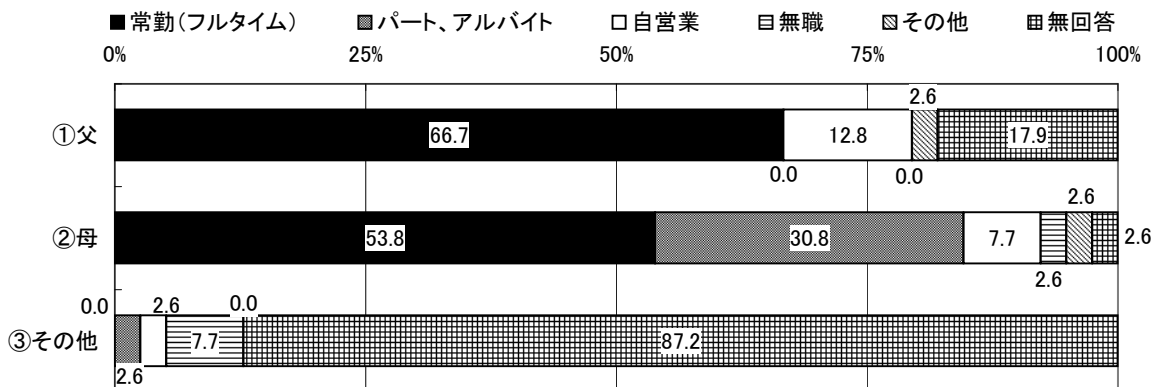
調査票記入者



主な記入者の年齢



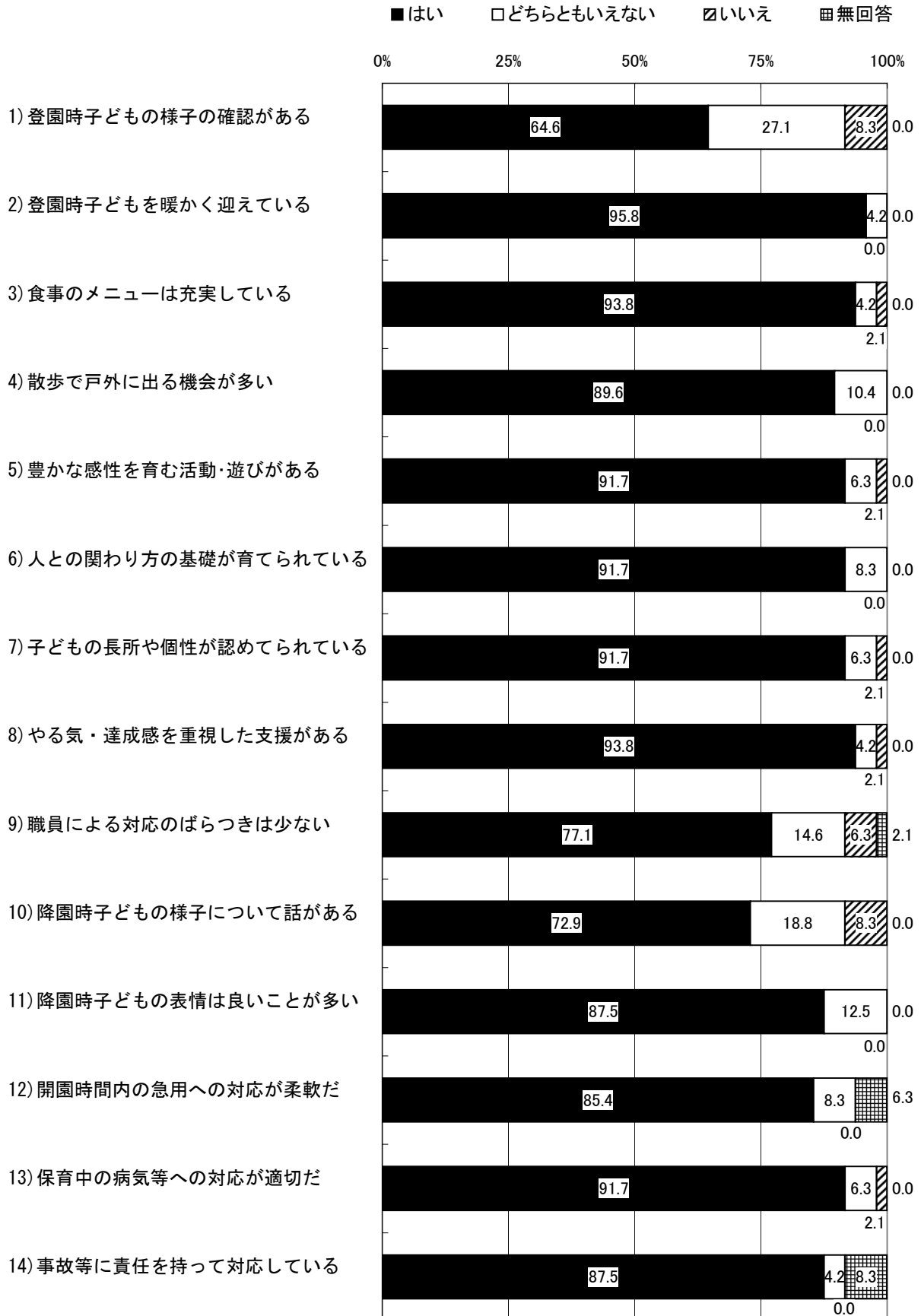
保護者の勤務形態



# 荻窪保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

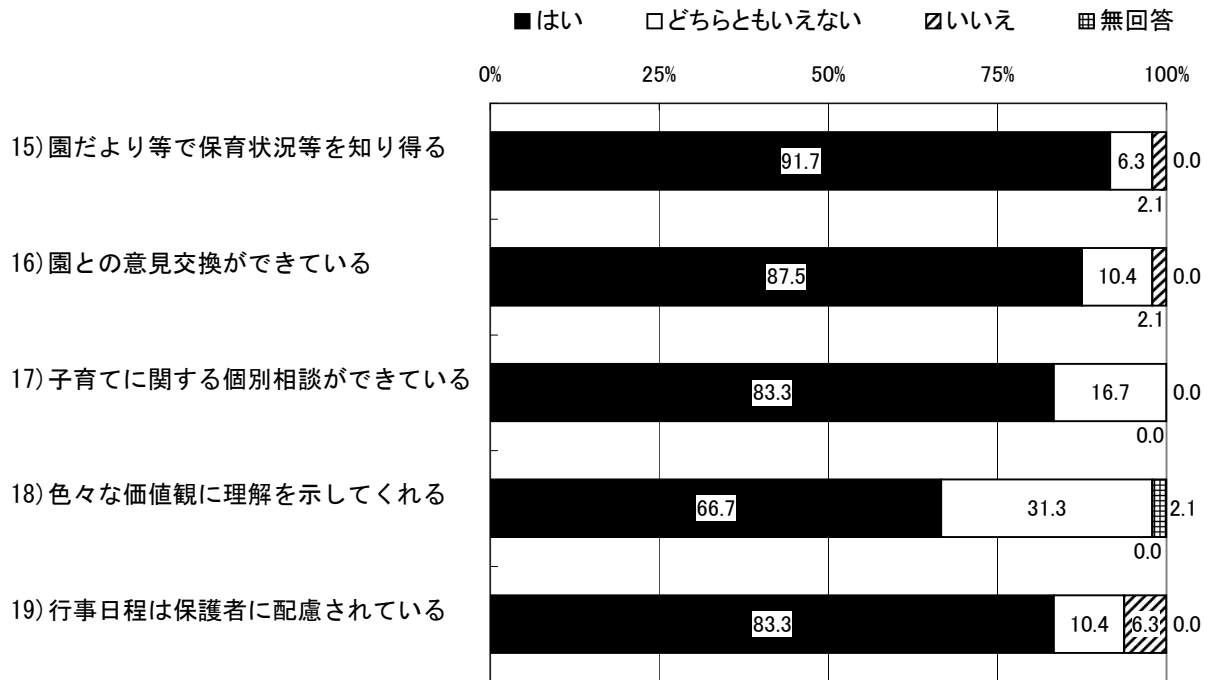
回答者数=48



# 荻窪保育園

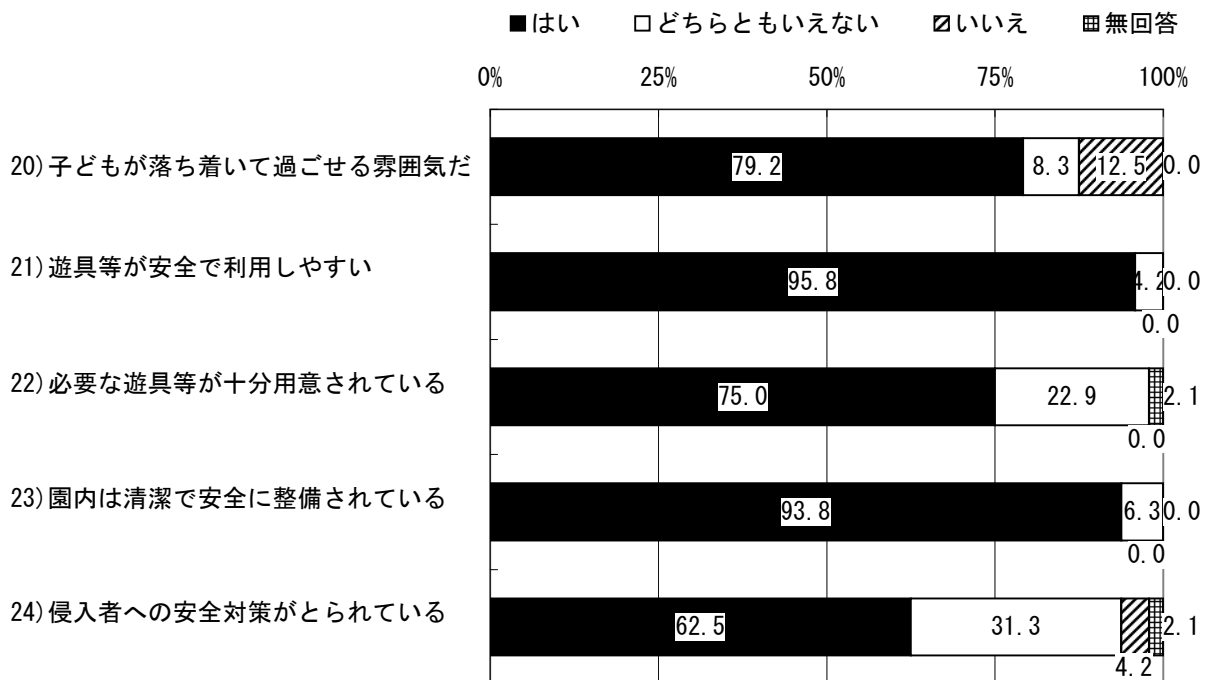
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=48



## 《施設環境についてお聞きします》

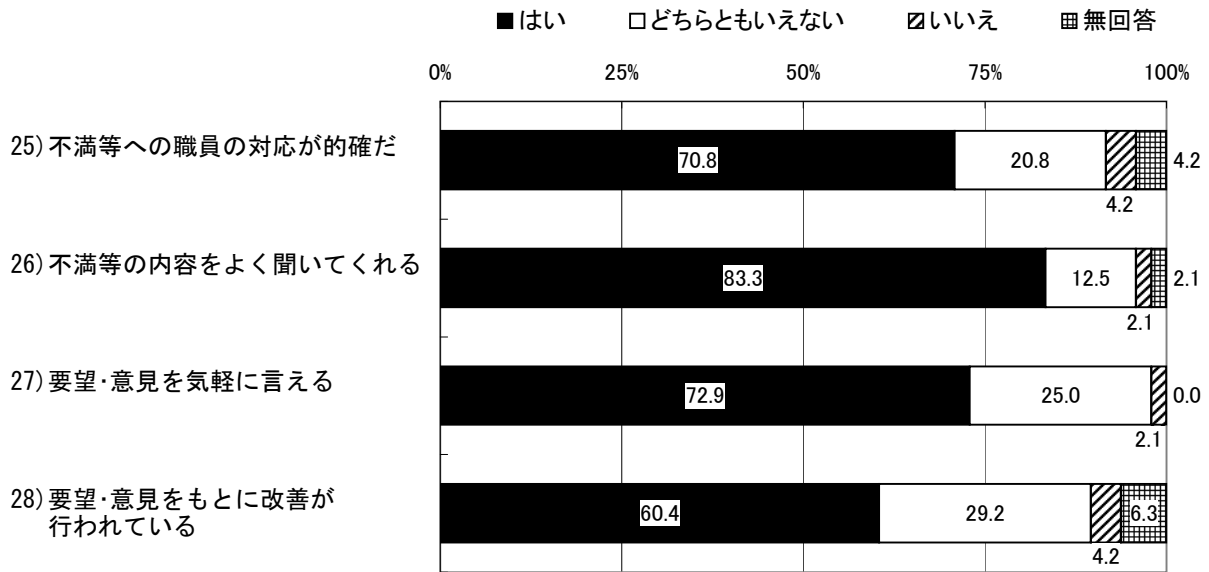
回答者数=48



# 荻窪保育園

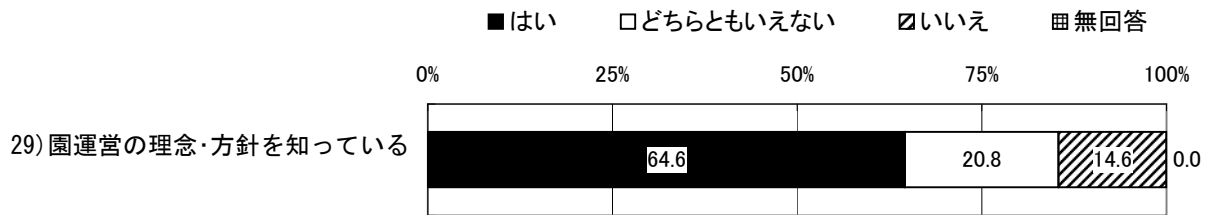
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=48



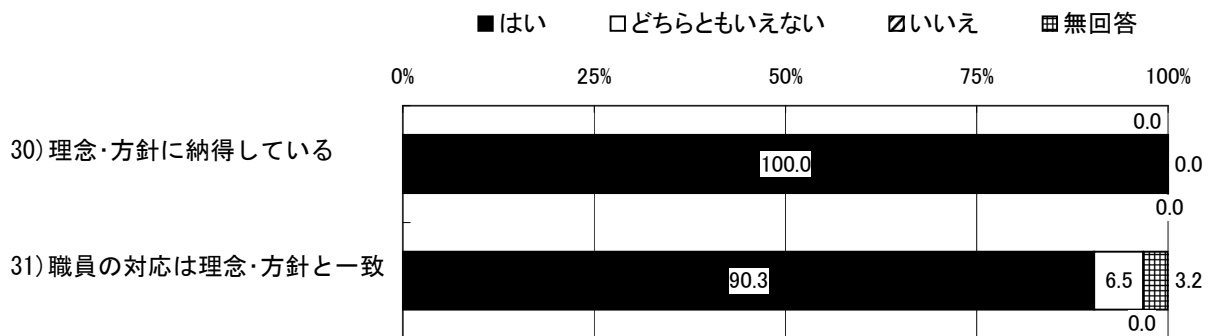
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=48



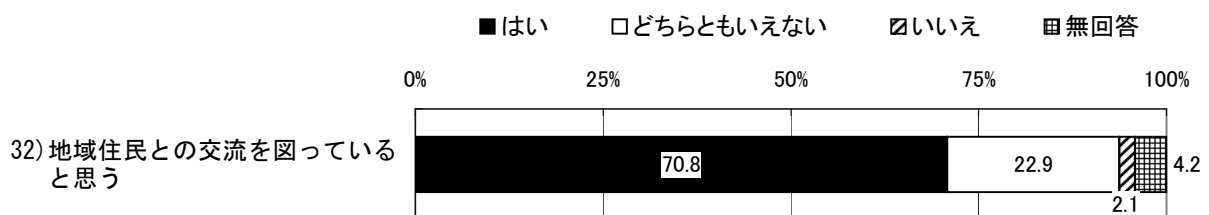
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=31



## 《地域との交流についてお聞きします》

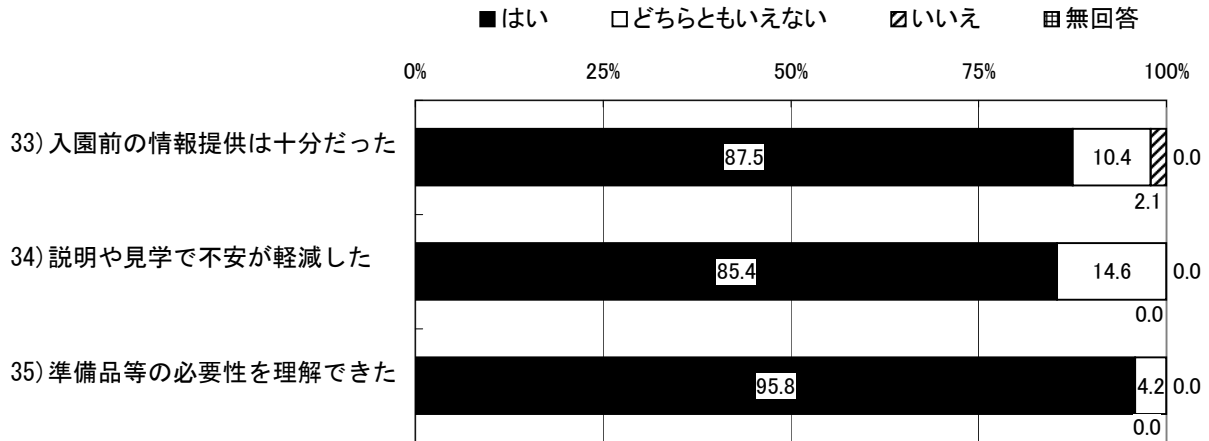
回答者数=48



# 荻窪保育園

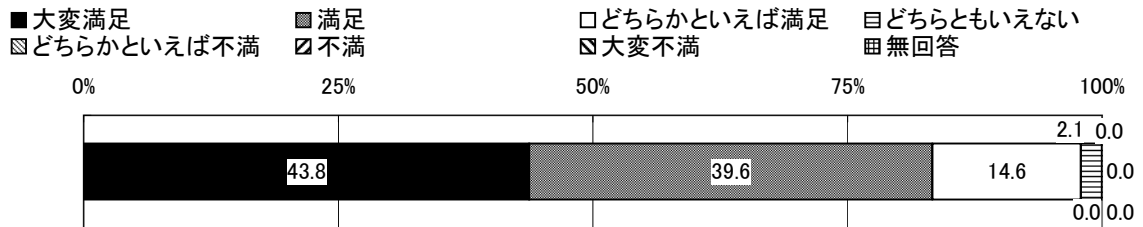
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=48



## 《総合的な感想についてお聞きします》

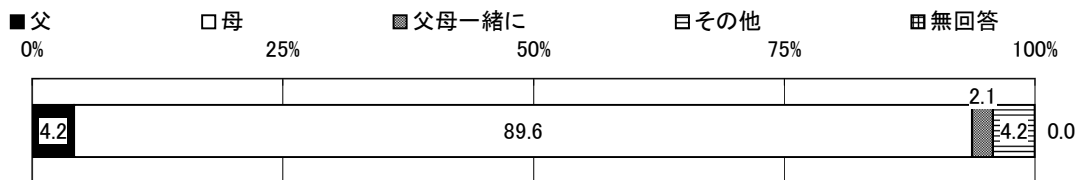
回答者数=48



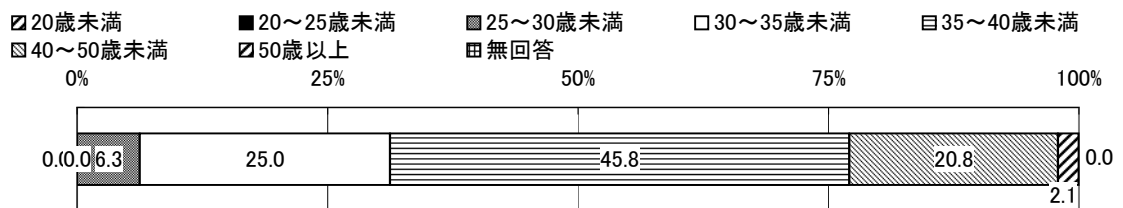
## 《回答者について》

回答者数=48

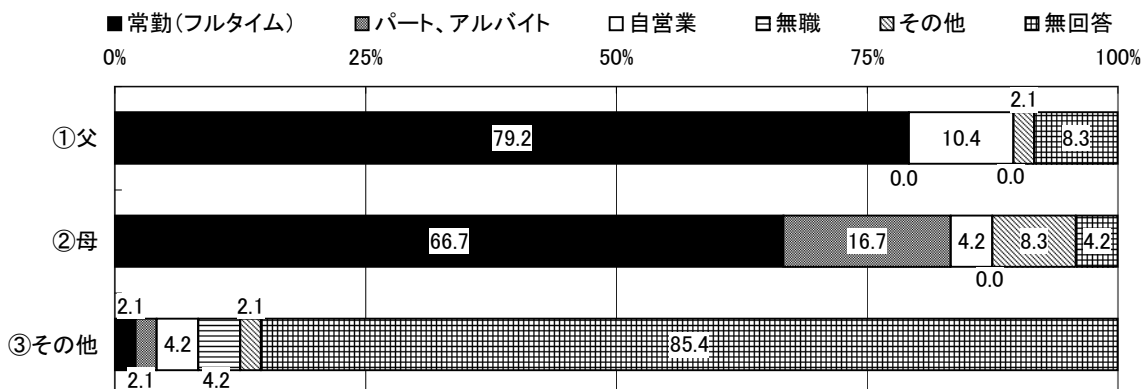
調査票記入者



主な記入者の年齢



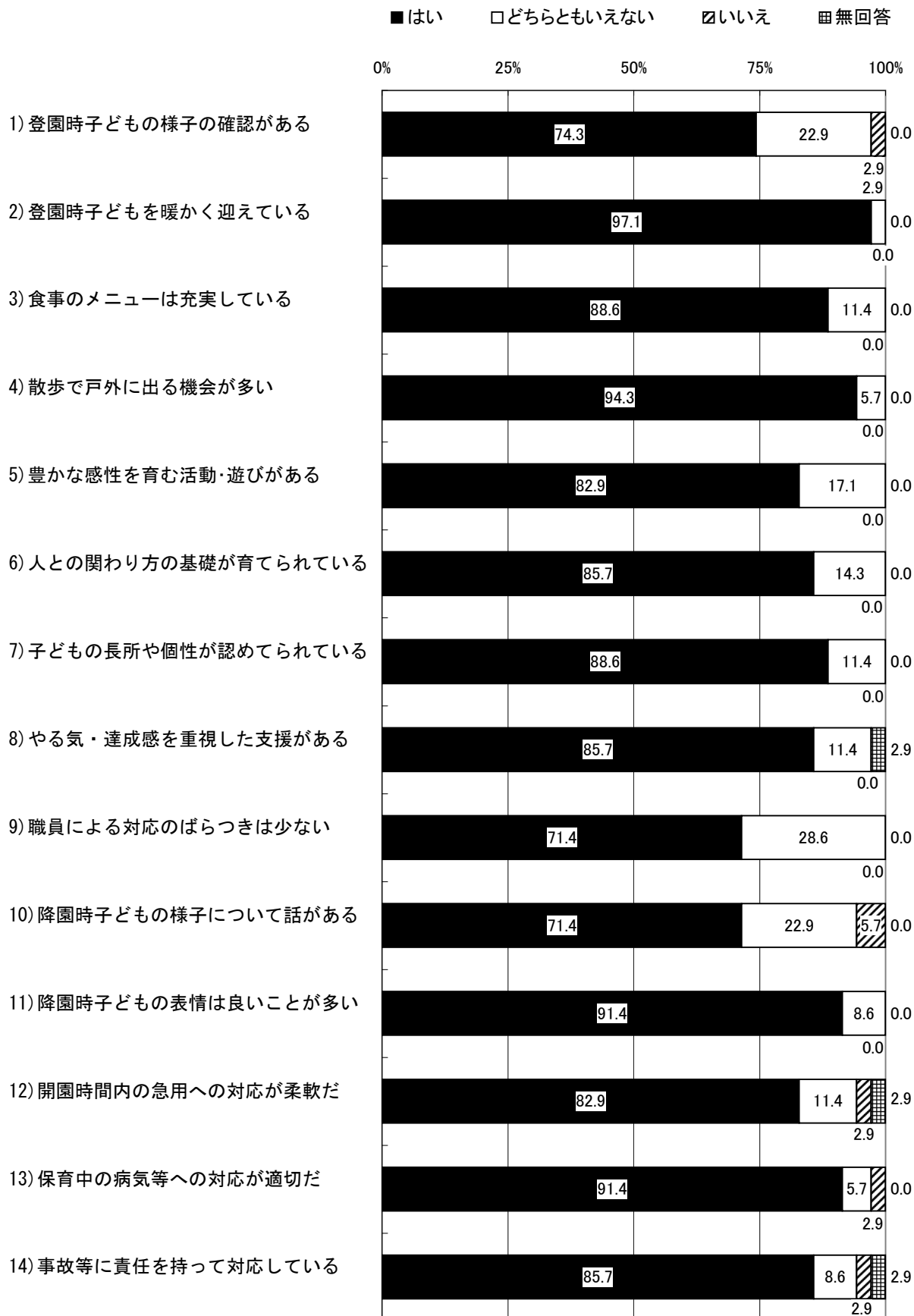
保護者の勤務形態



# 四宮保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

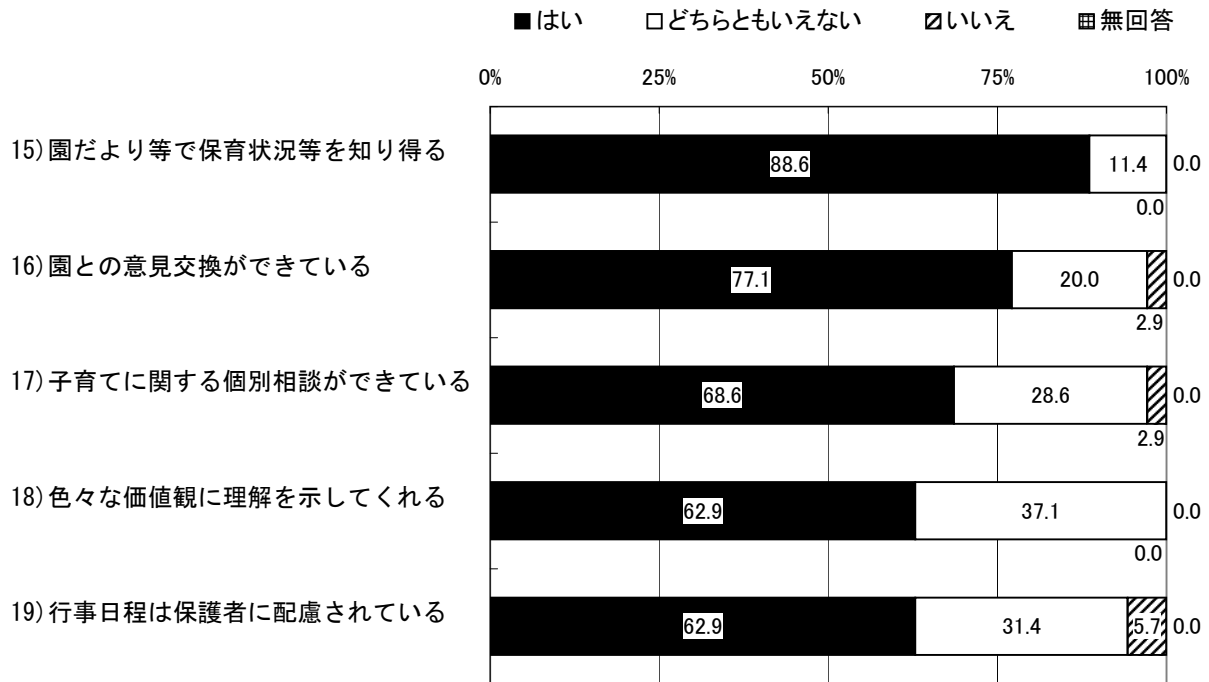
回答者数=35



## 四宮保育園

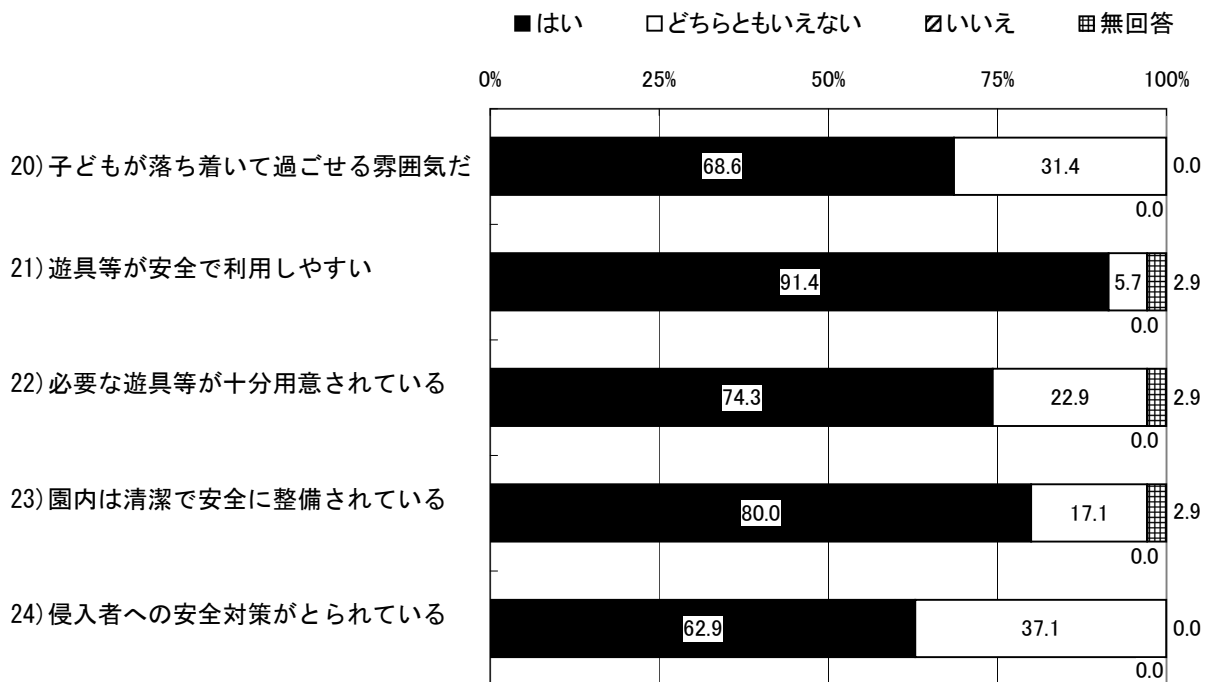
《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=35



《施設環境についてお聞きします》

回答者数=35

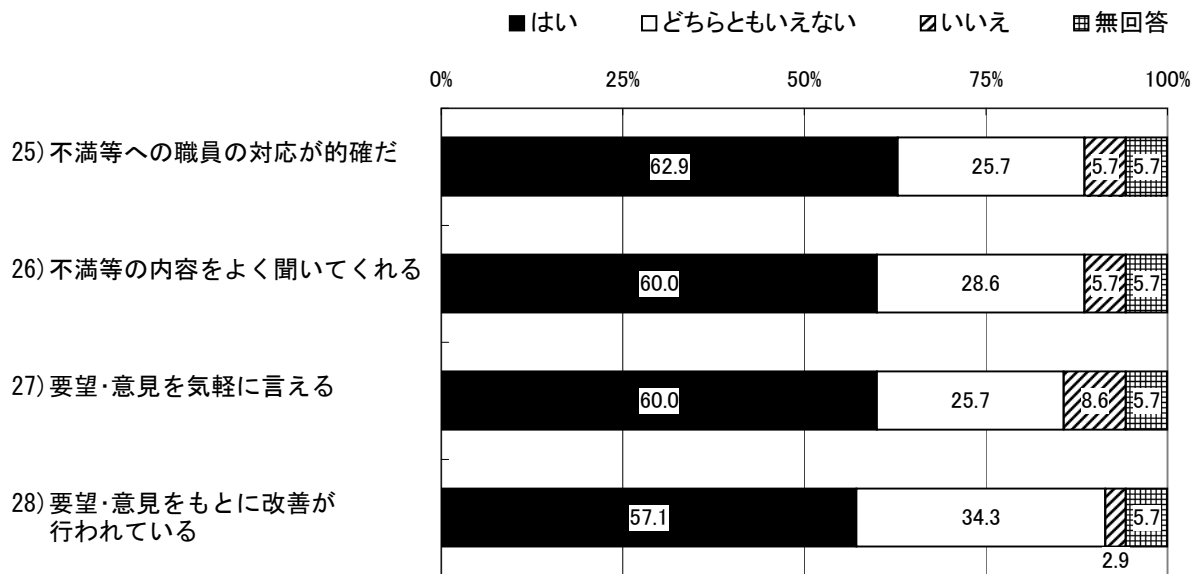




# 四宮保育園

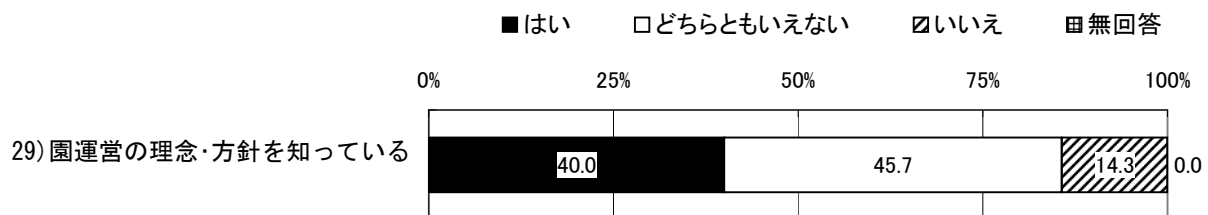
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=35



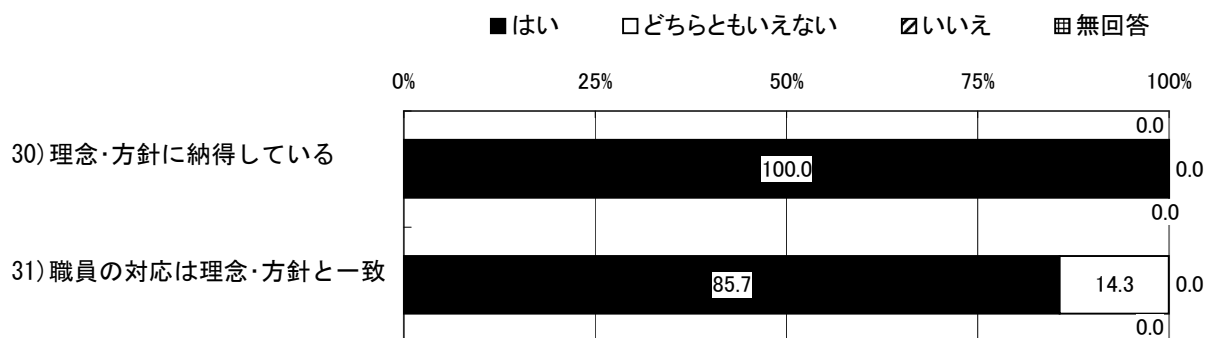
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=35



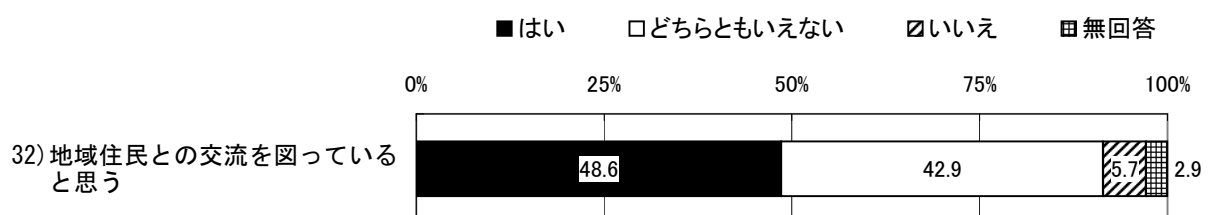
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=14



## 《地域との交流についてお聞きします》

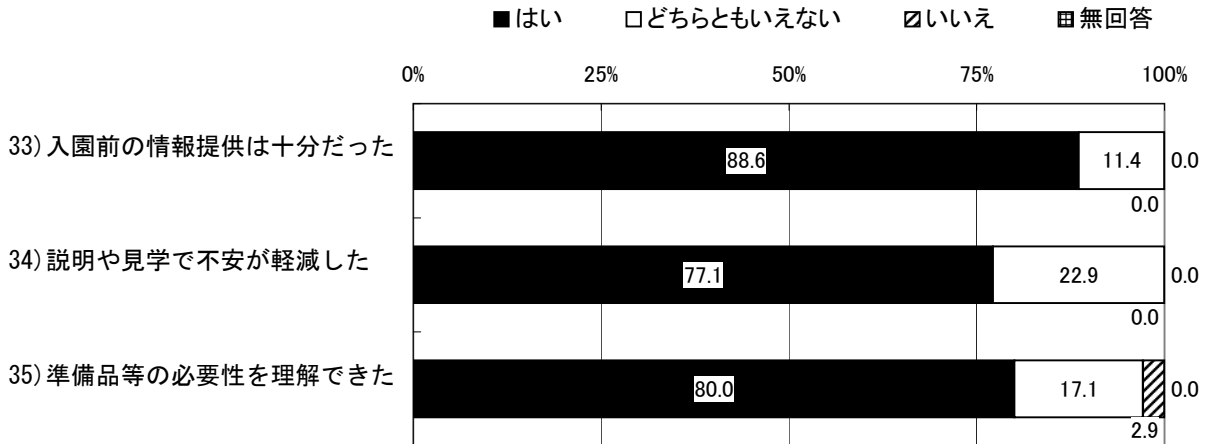
回答者数=35



# 四宮保育園

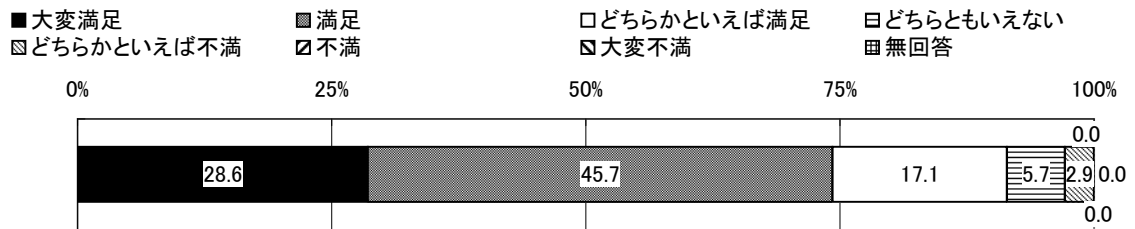
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=35



## 《総合的な感想についてお聞きします》

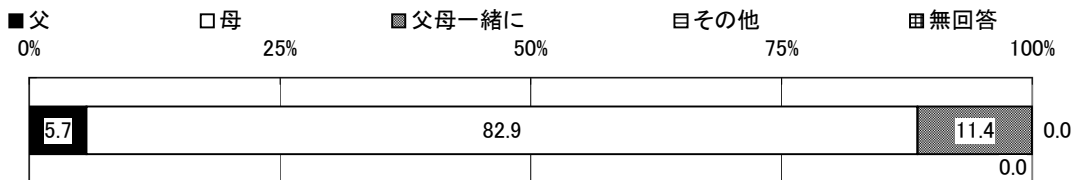
回答者数=35



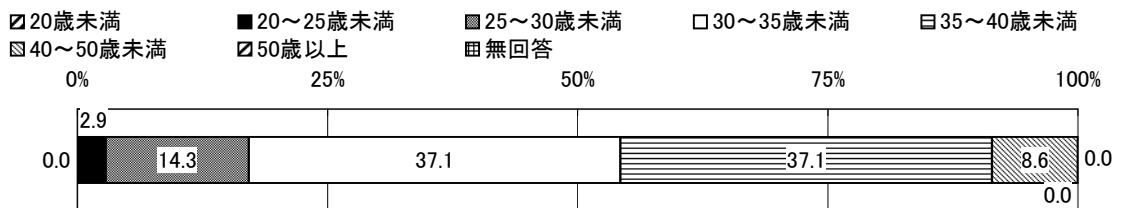
## 《回答者について》

回答者数=35

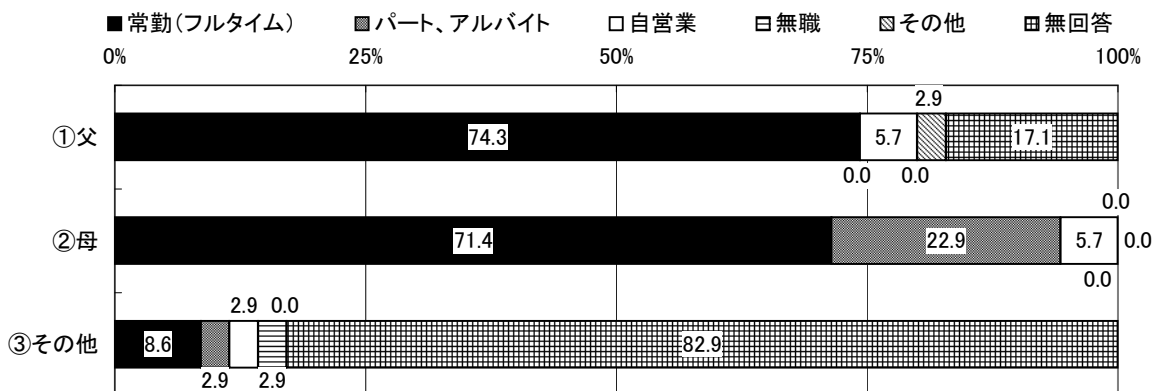
調査票記入者



主な記入者の年齢



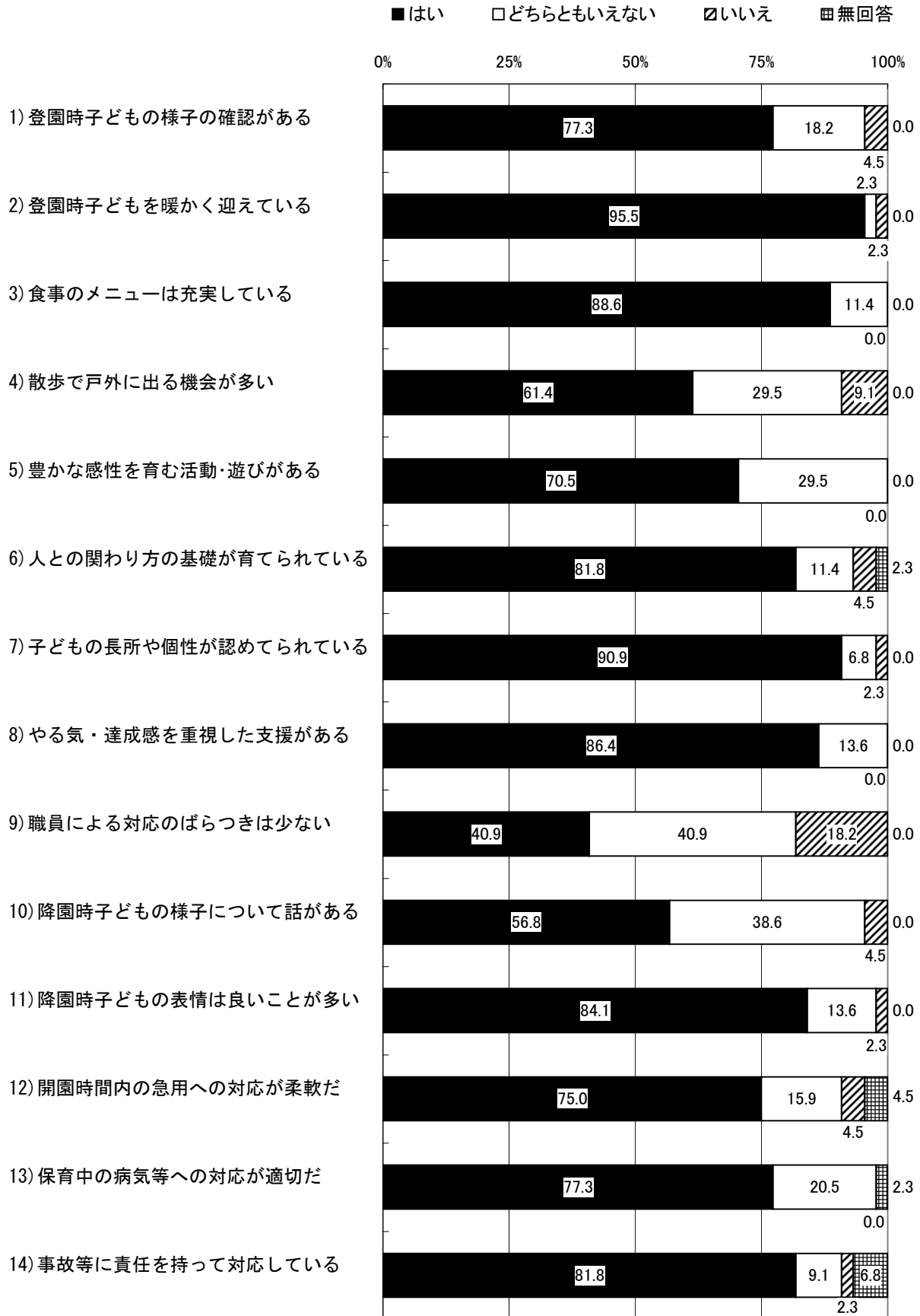
保護者の勤務形態



# 和泉保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

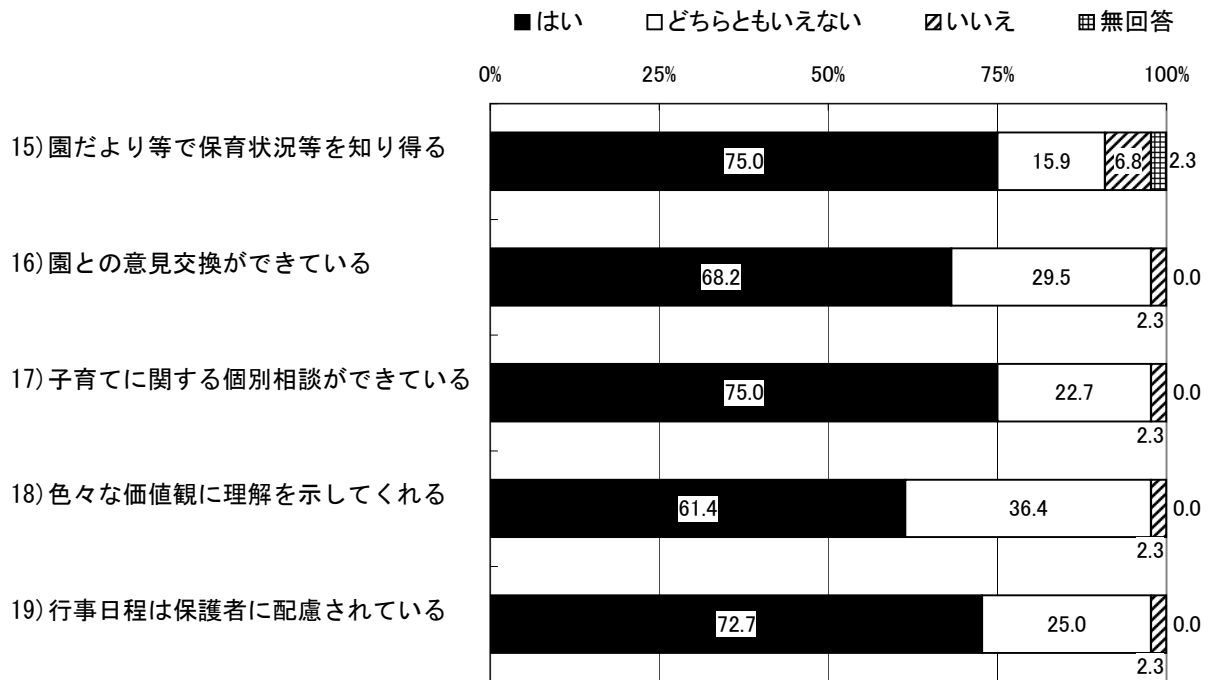
回答者数=44



# 和泉保育園

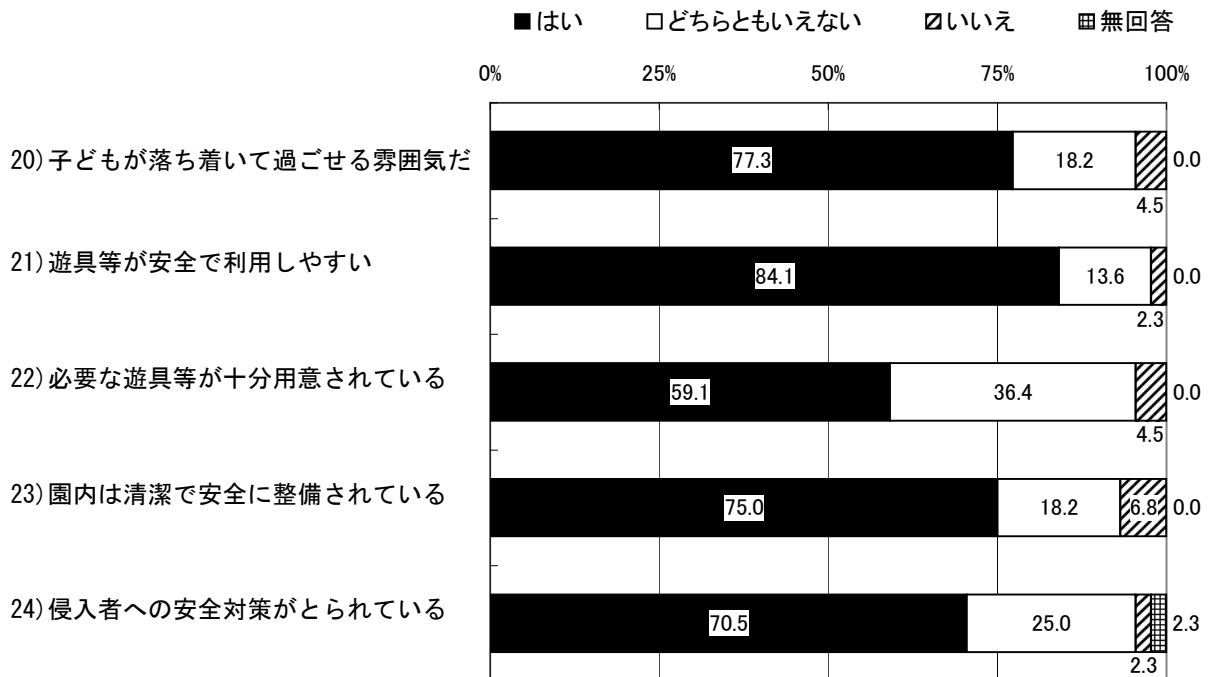
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=44



## 《施設環境についてお聞きします》

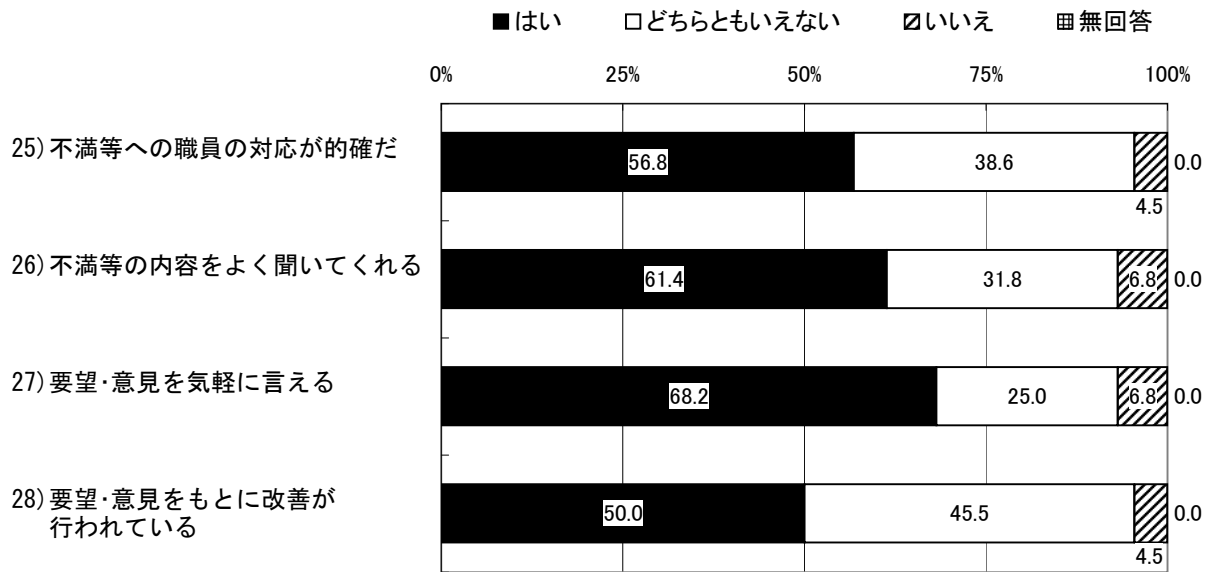
回答者数=44



# 和泉保育園

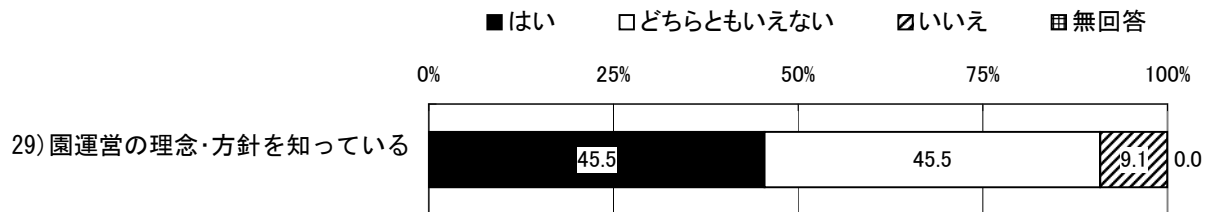
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=44



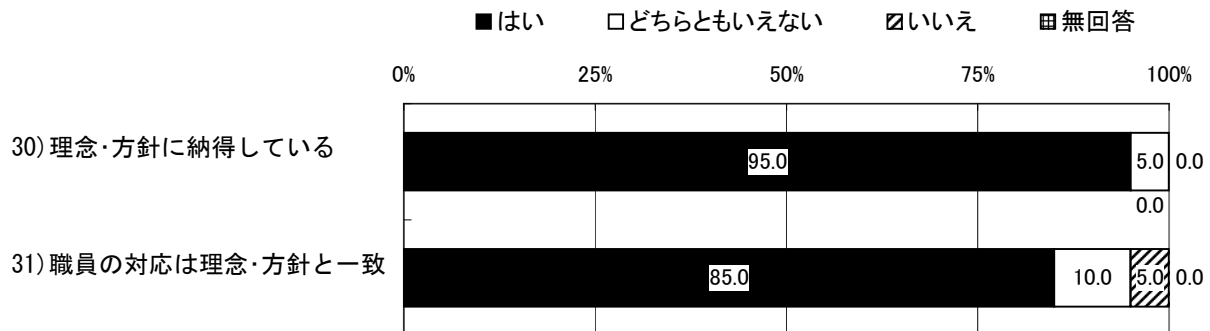
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=44



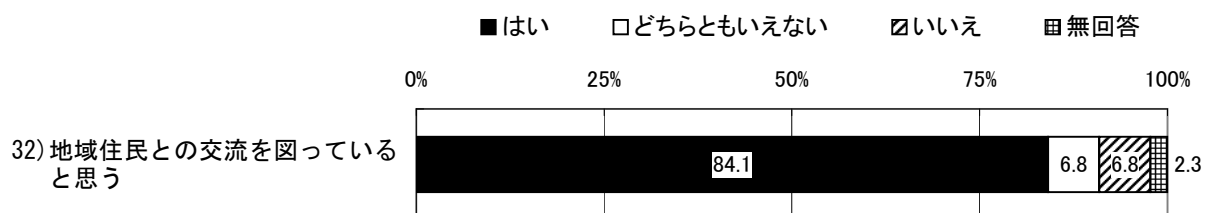
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=20



## 《地域との交流についてお聞きします》

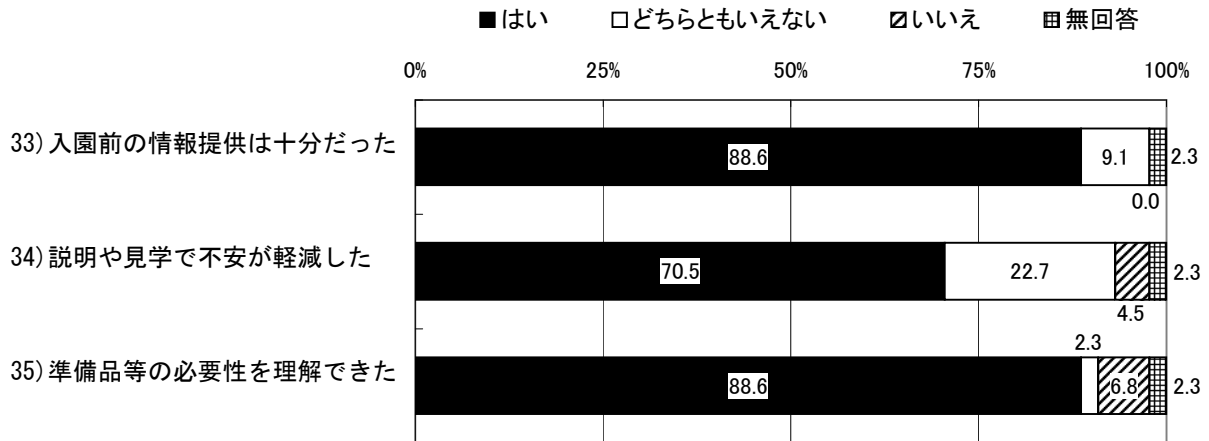
回答者数=44



# 和泉保育園

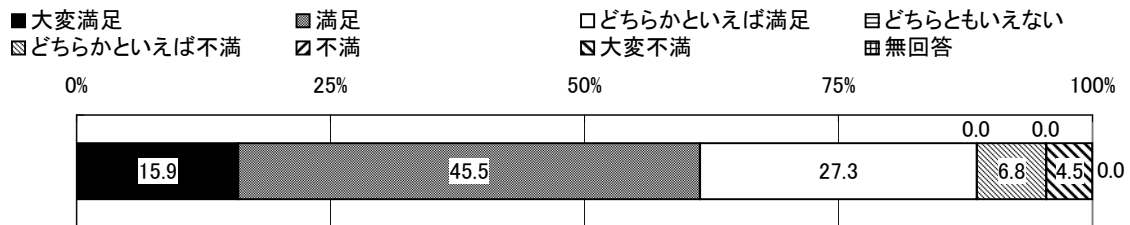
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=44



## 《総合的な感想についてお聞きします》

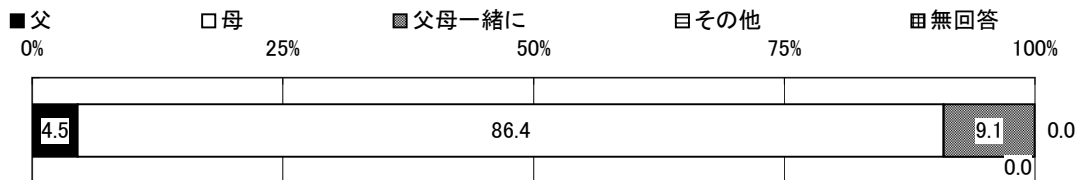
回答者数=44



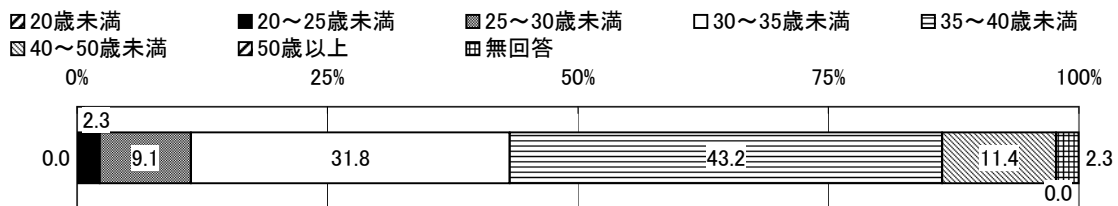
## 《回答者について》

回答者数=44

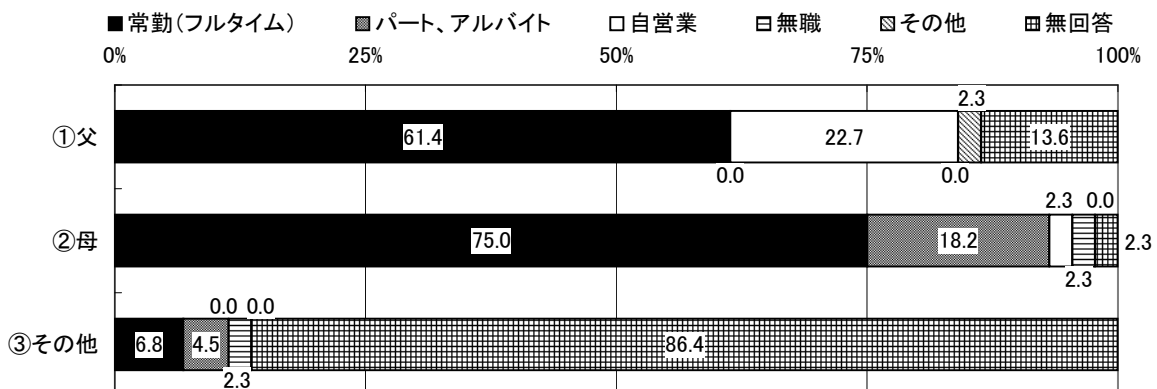
調査票記入者



主な記入者の年齢



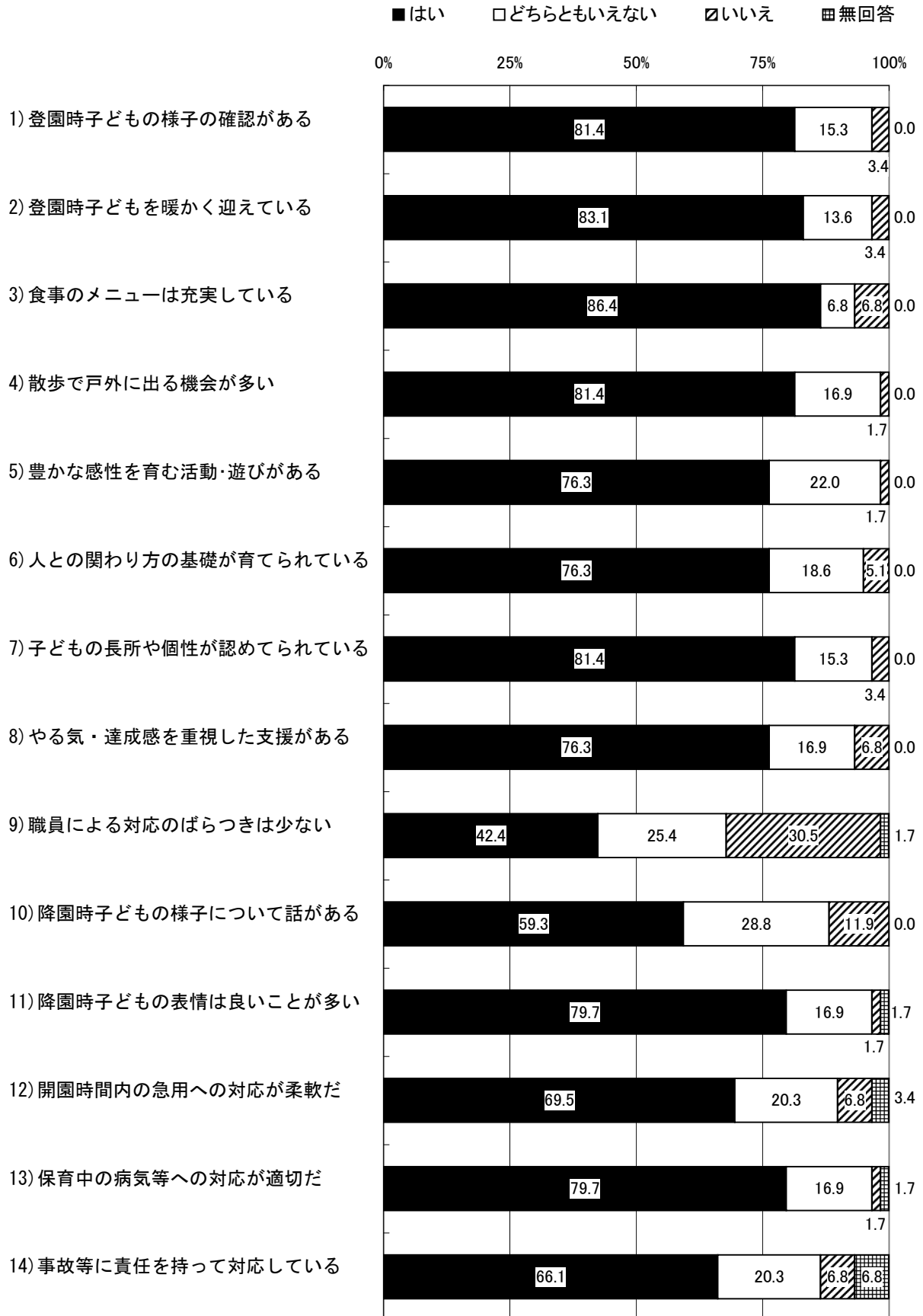
保護者の勤務形態



# 高円寺南保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

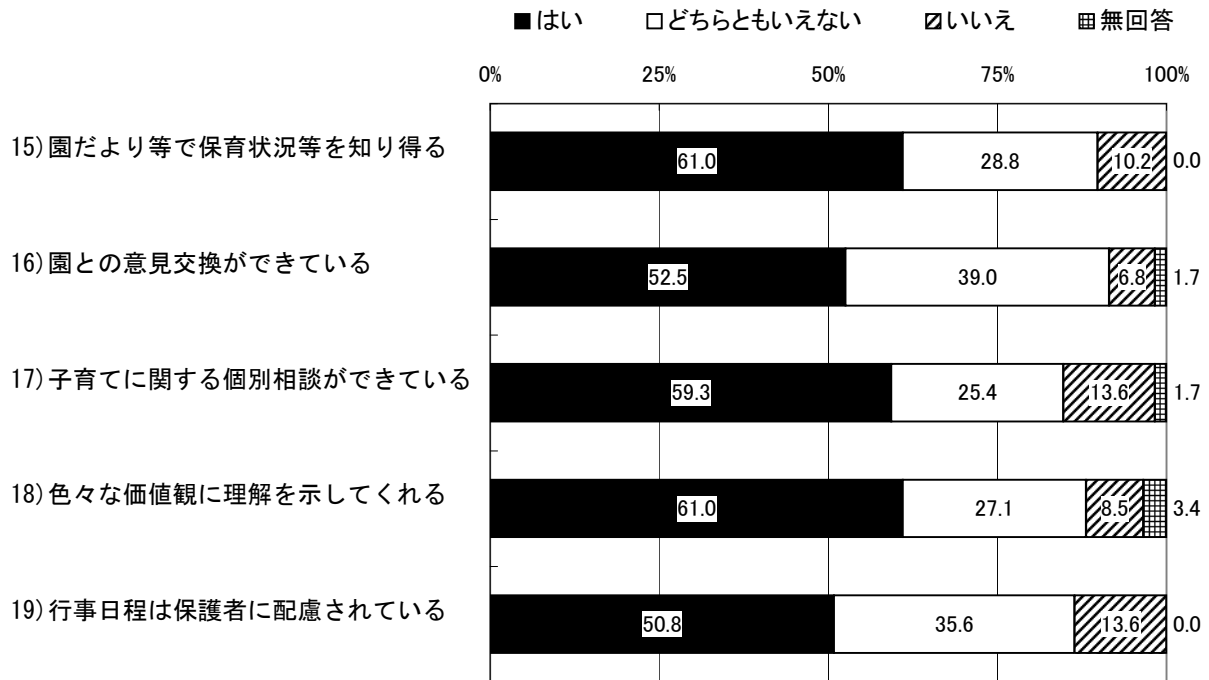
回答者数=59



# 高円寺南保育園

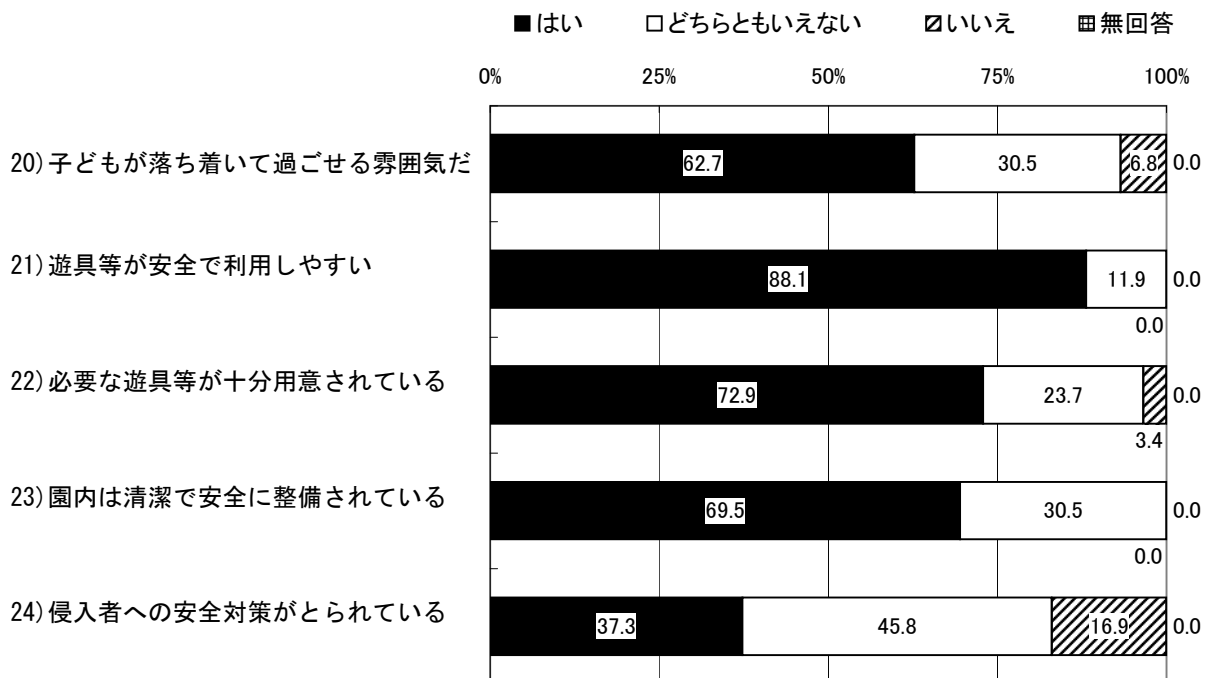
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=59



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=59

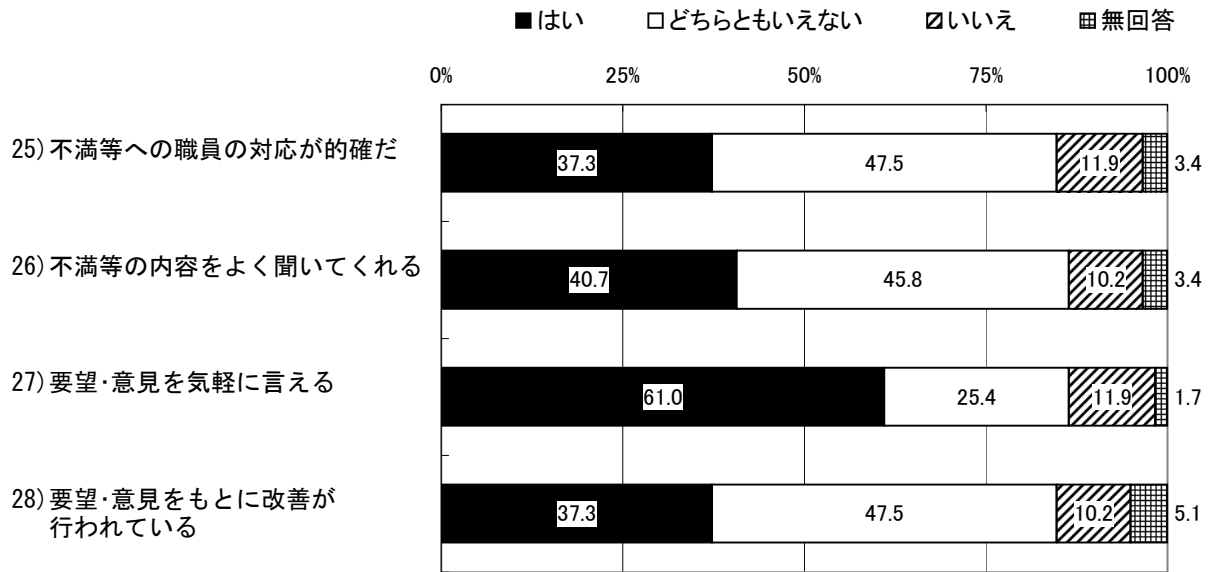




# 高円寺南保育園

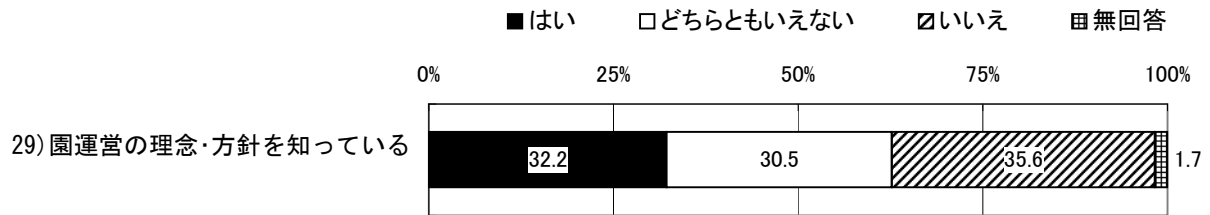
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=59



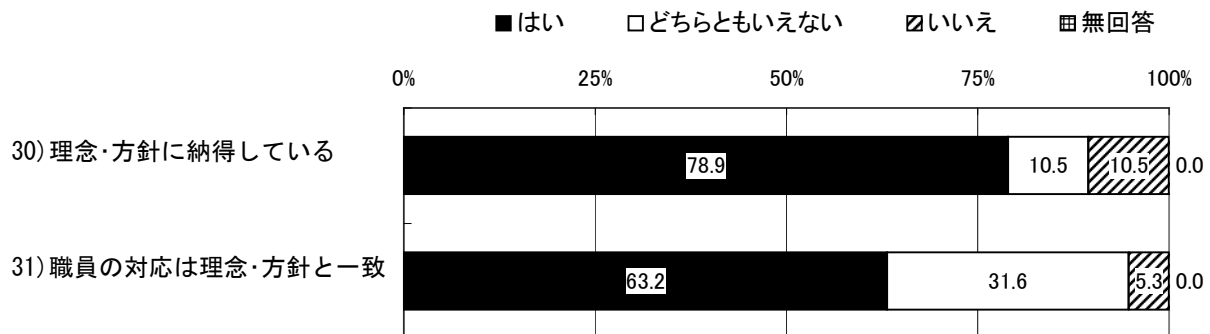
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=59



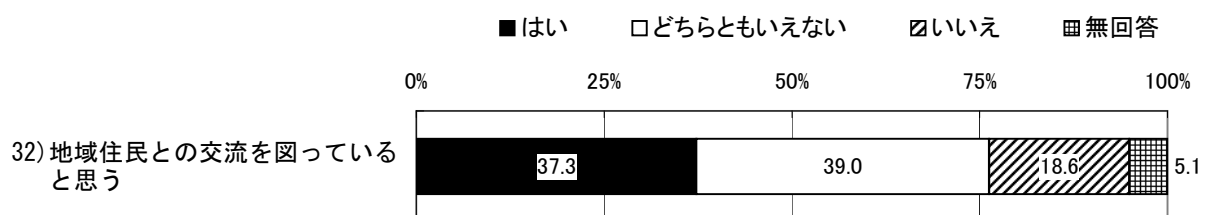
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=19



## 《地域との交流についてお聞きします》

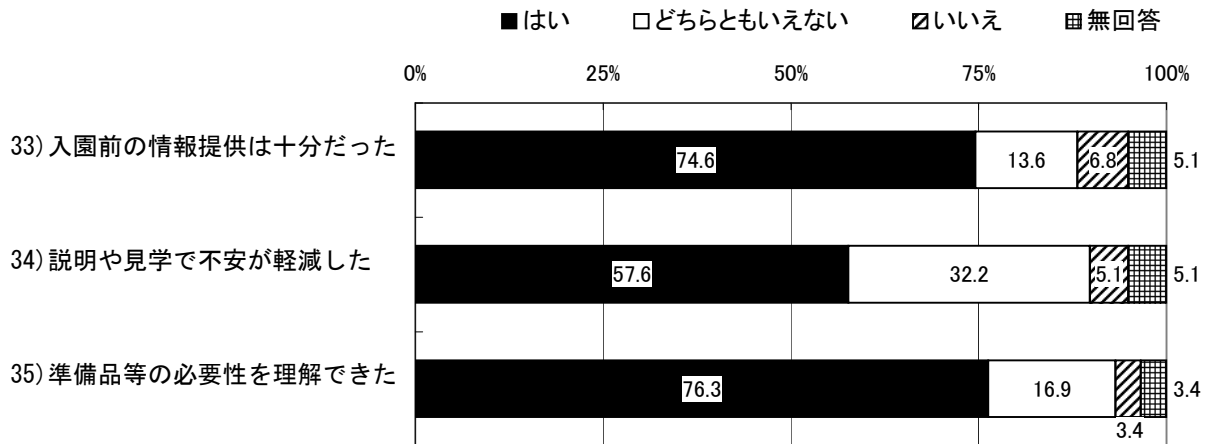
回答者数=59



# 高円寺南保育園

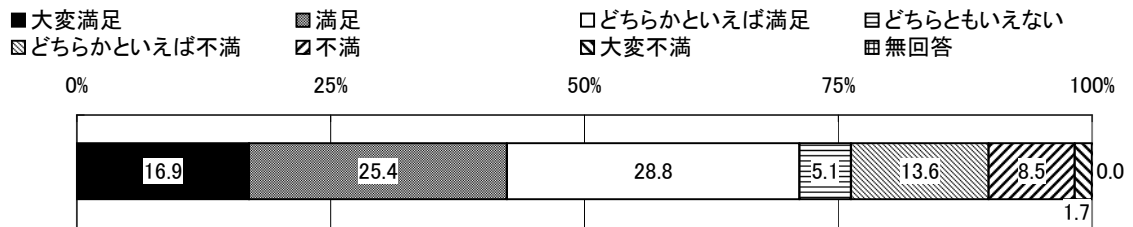
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=59



## 《総合的な感想についてお聞きします》

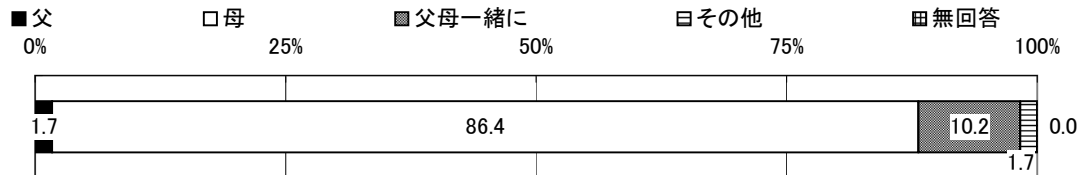
回答者数=59



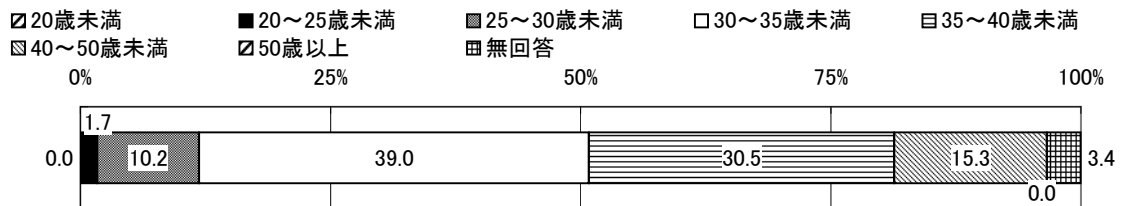
## 《回答者について》

回答者数=59

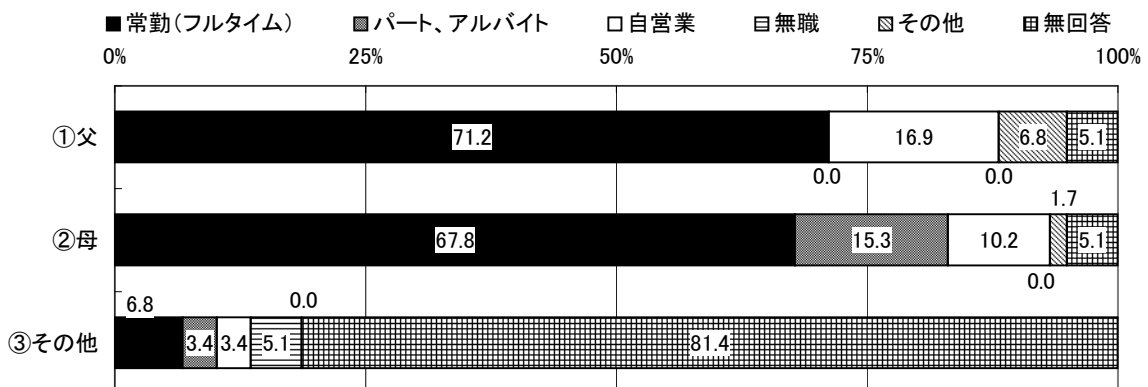
調査票記入者



主な記入者の年齢



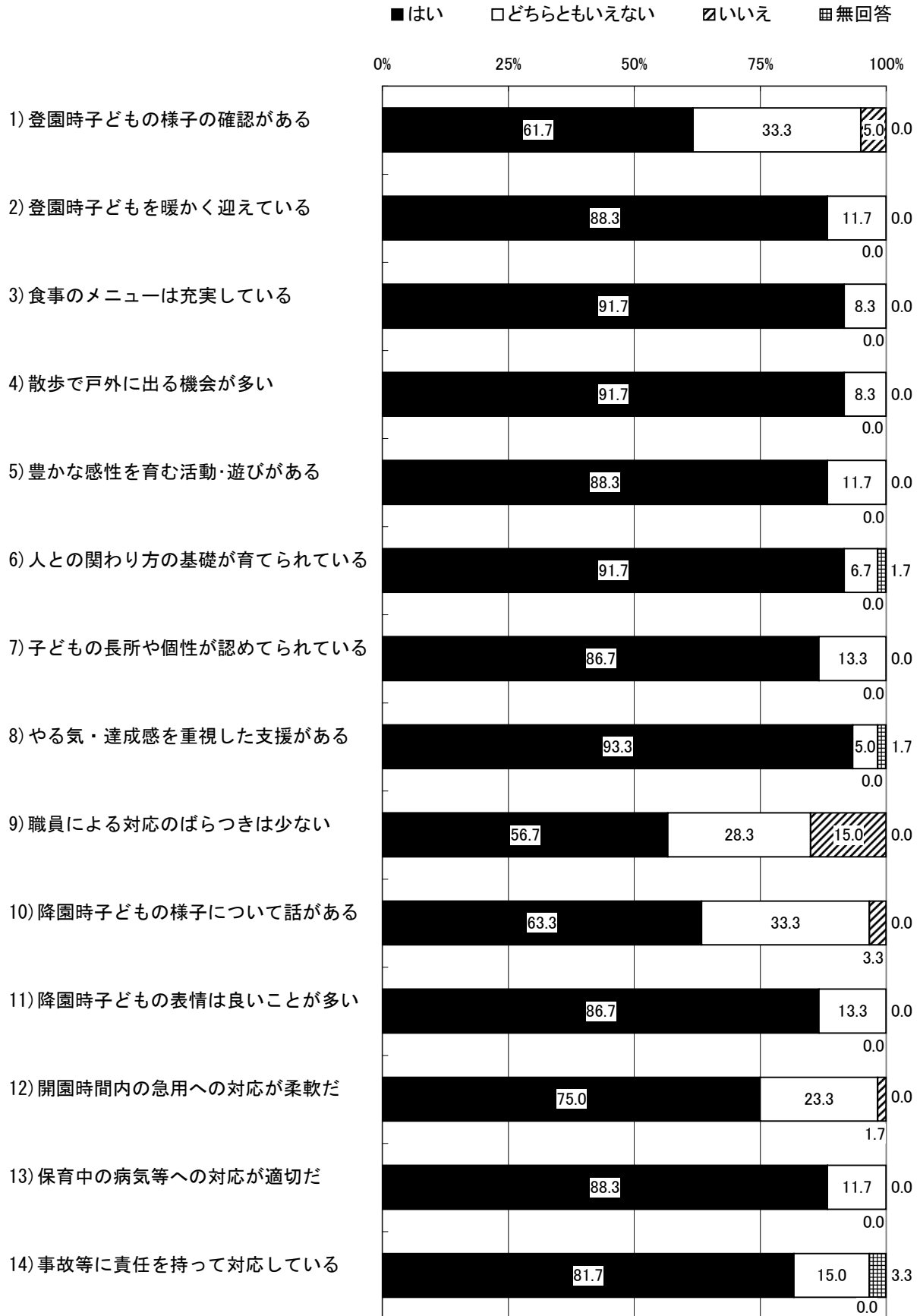
保護者の勤務形態



# 上井草保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

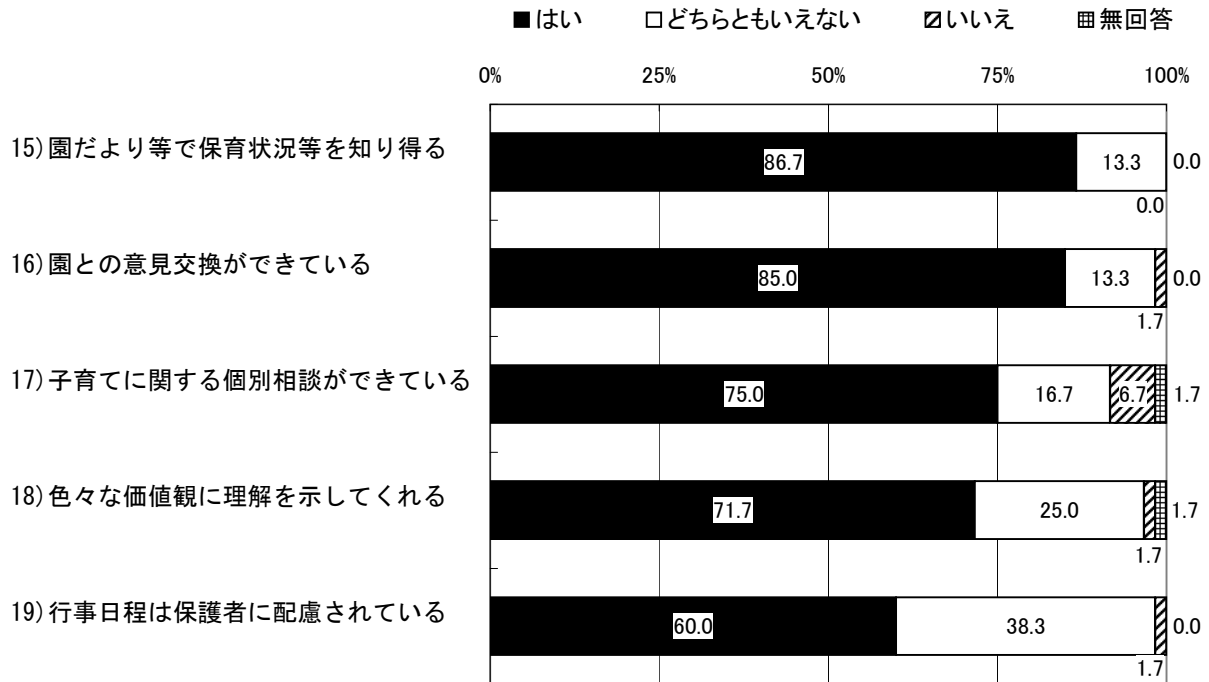
回答者数=60



# 上井草保育園

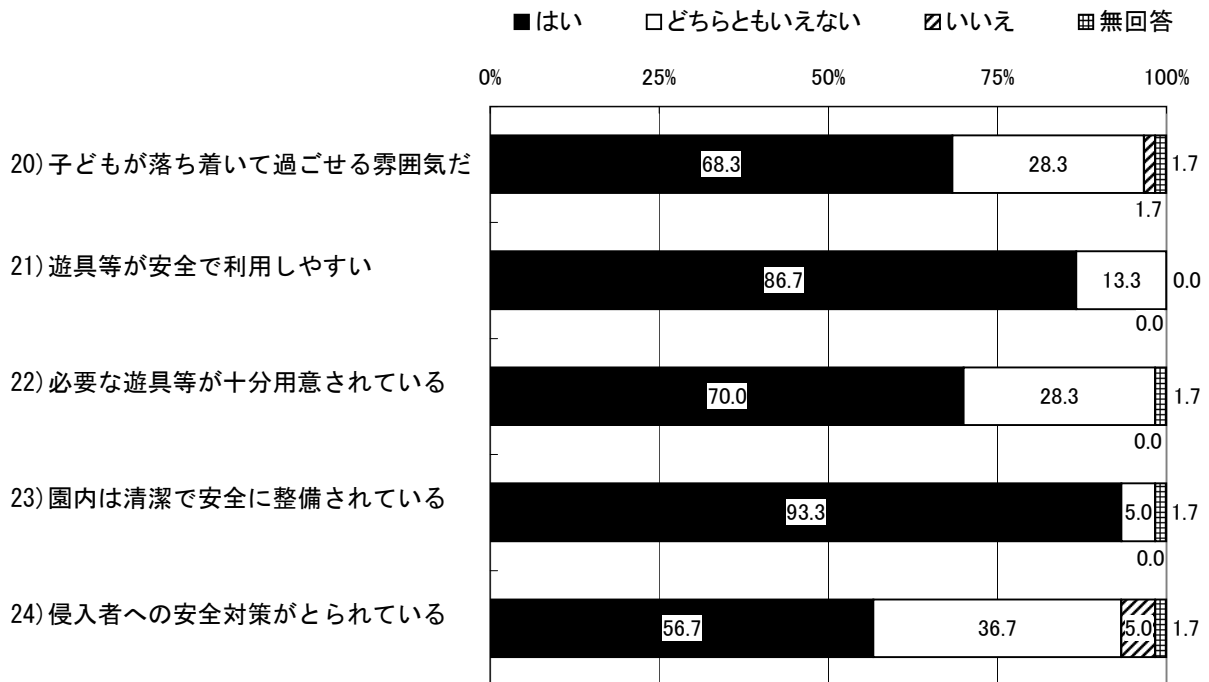
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=60



## 《施設環境についてお聞きします》

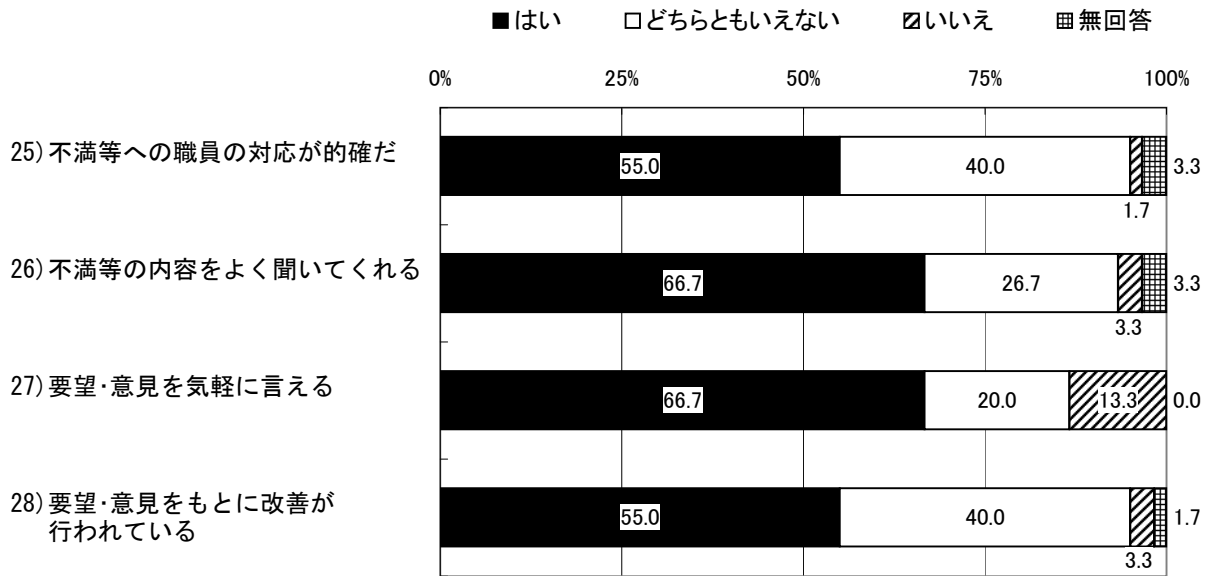
回答者数=60



# 上井草保育園

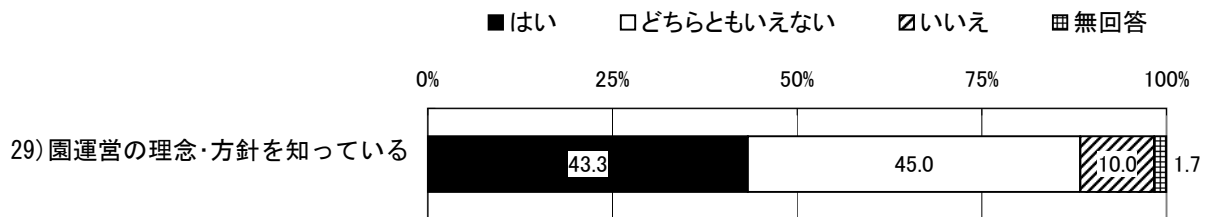
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=60



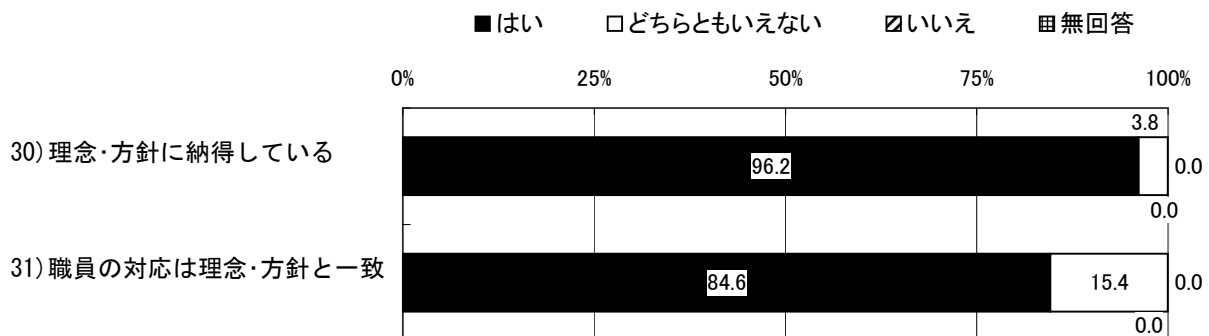
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=60



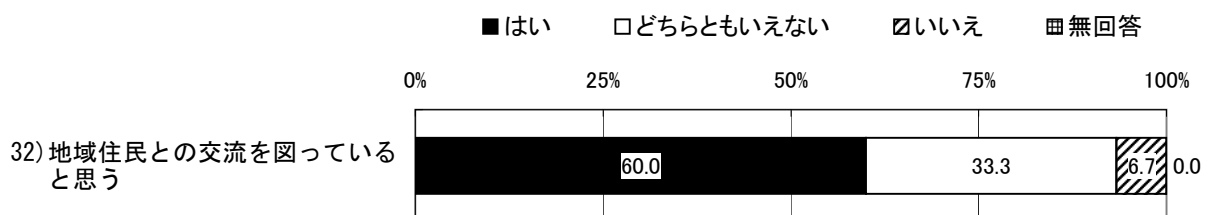
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=26



## 《地域との交流についてお聞きします》

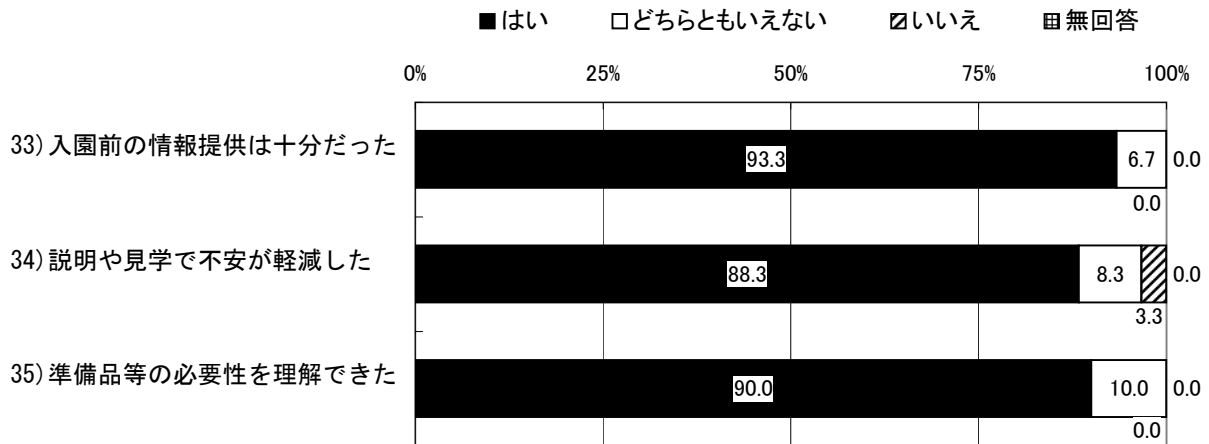
回答者数=60



# 上井草保育園

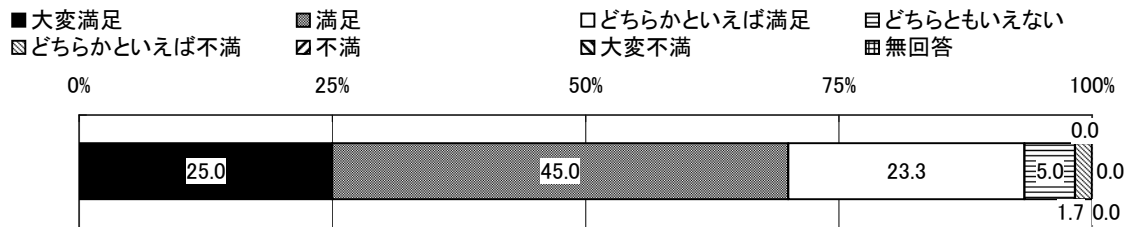
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=60



## 《総合的な感想についてお聞きします》

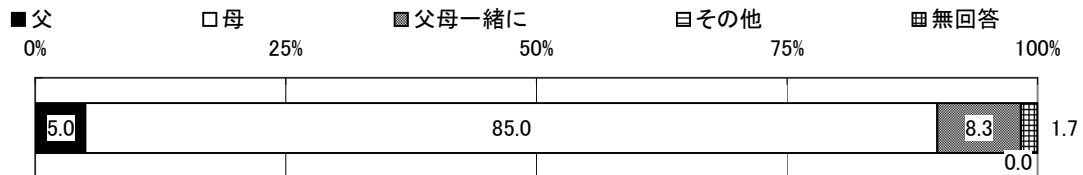
回答者数=60



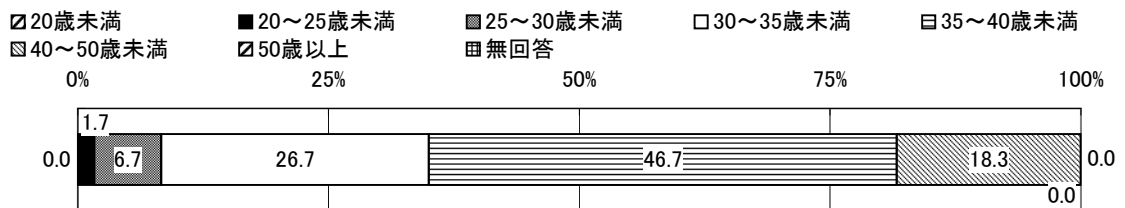
## 《回答者について》

回答者数=60

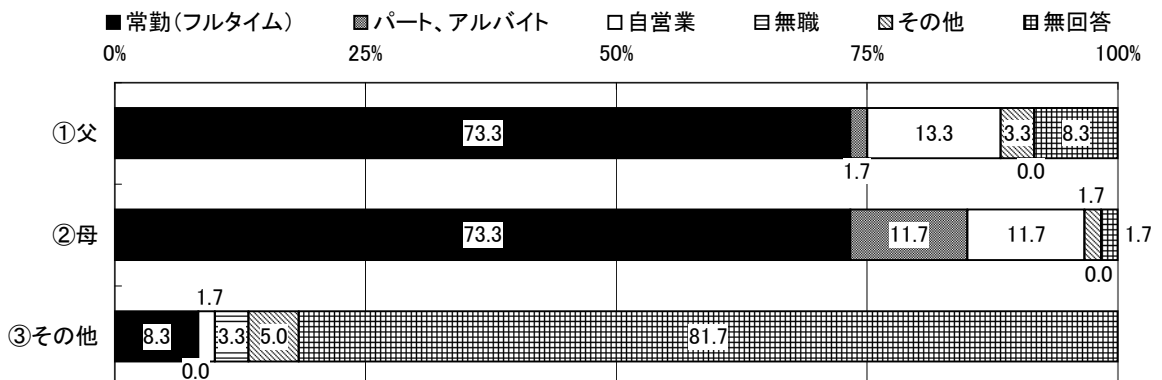
調査票記入者



主な記入者の年齢



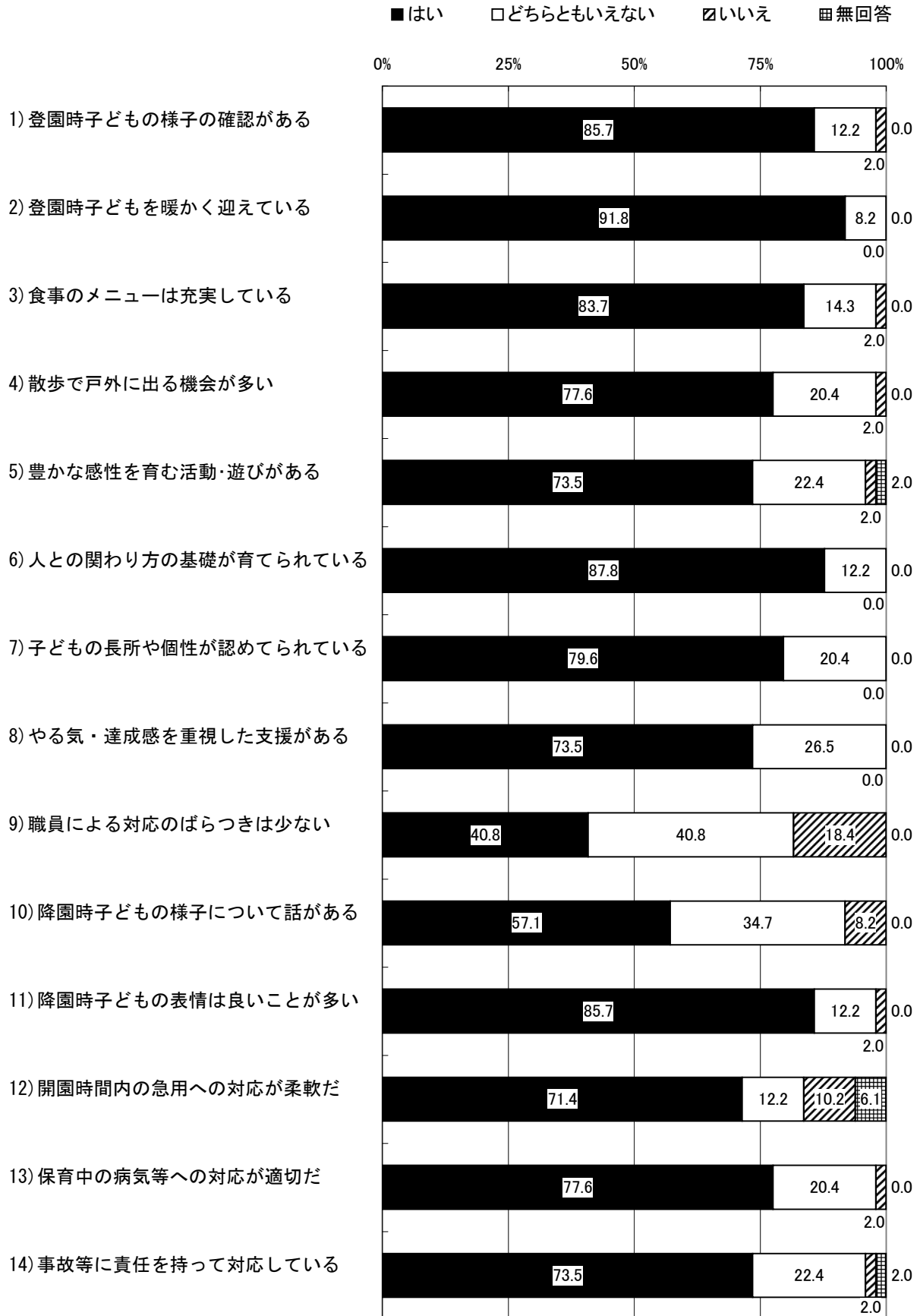
保護者の勤務形態



# 堀ノ内東保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

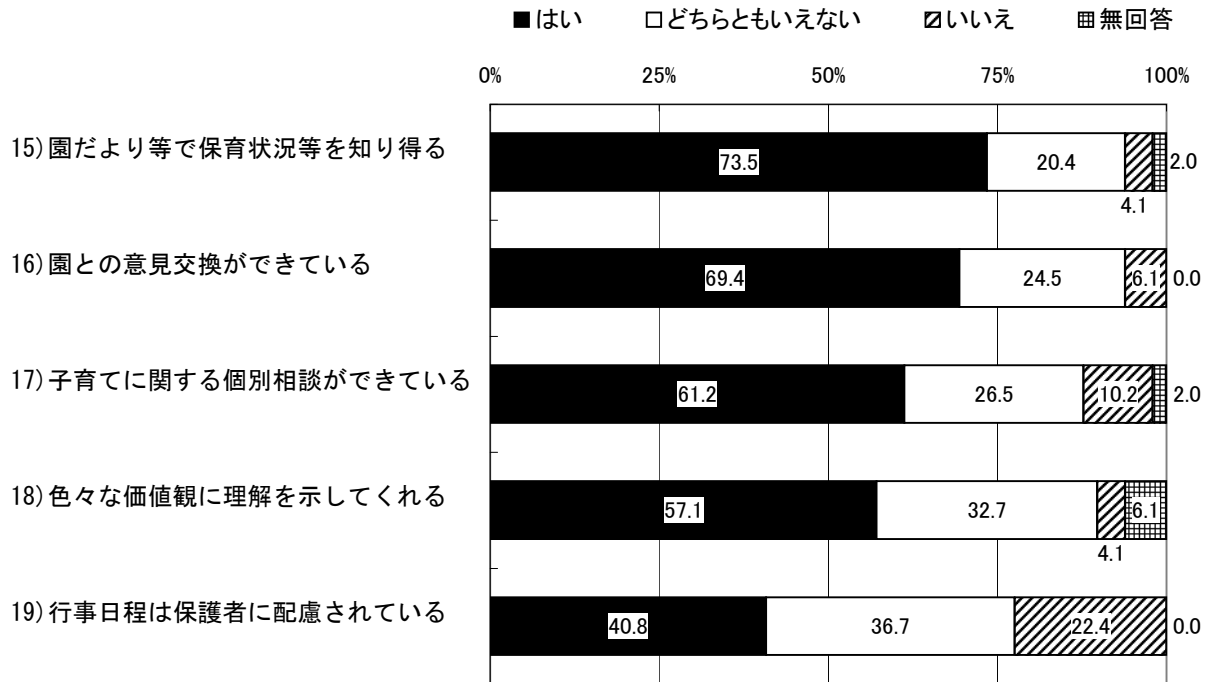
回答者数=49



# 堀ノ内東保育園

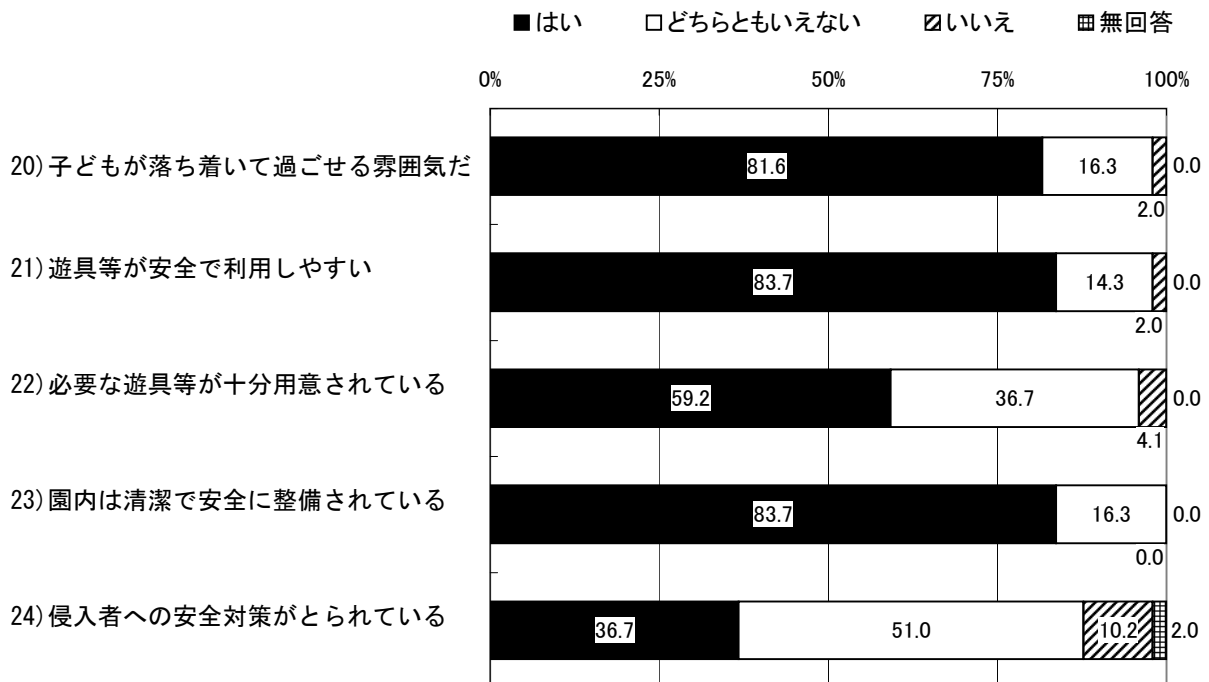
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=49



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=49

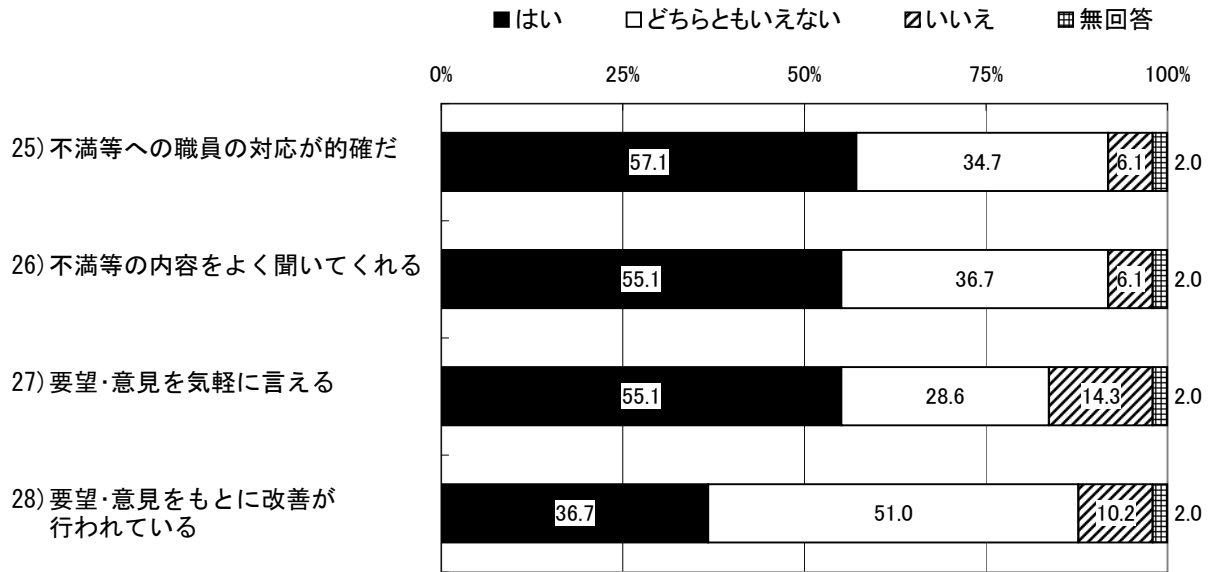




# 堀ノ内東保育園

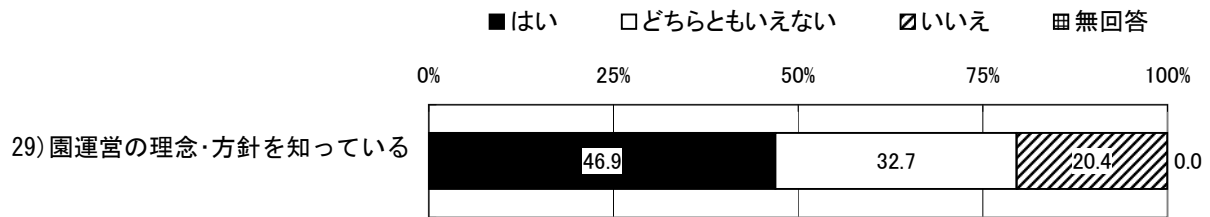
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=49



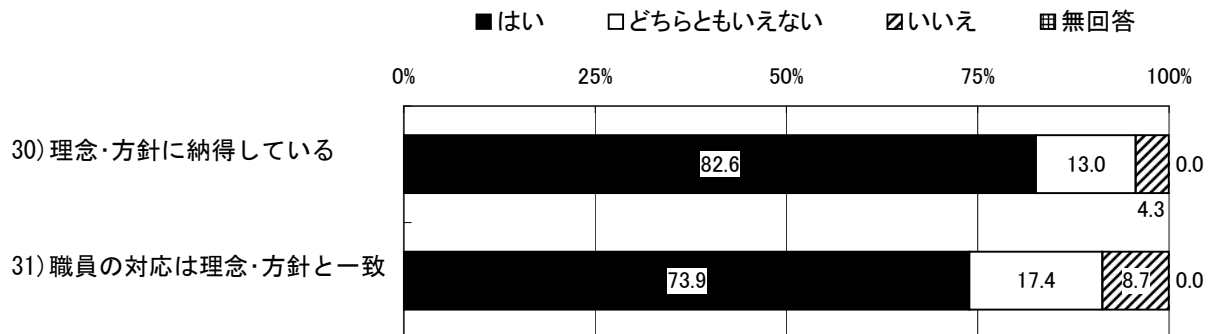
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=49



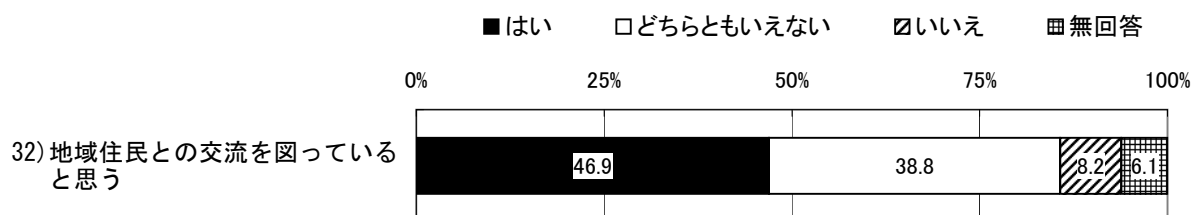
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=23



## 《地域との交流についてお聞きします》

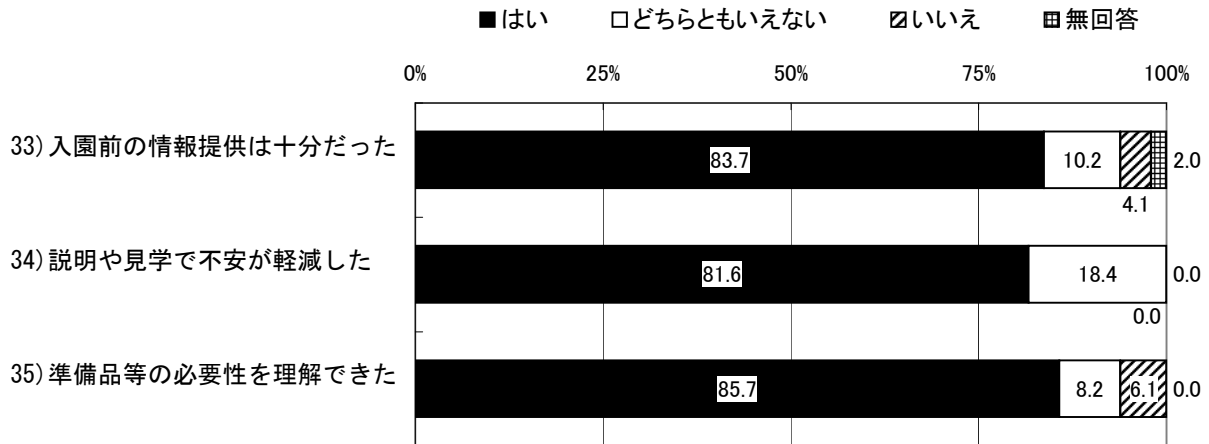
回答者数=49



# 堀ノ内東保育園

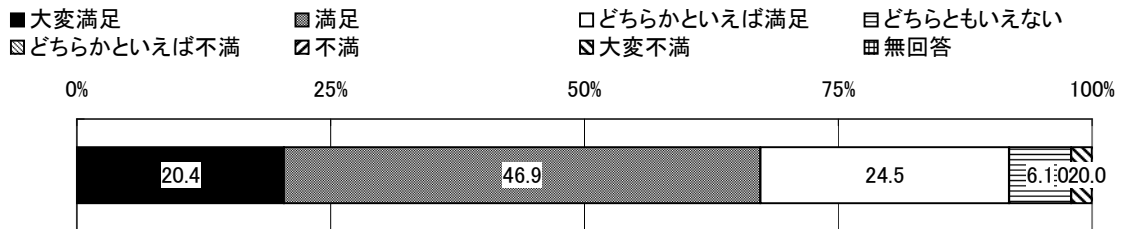
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=49



## 《総合的な感想についてお聞きします》

回答者数=49



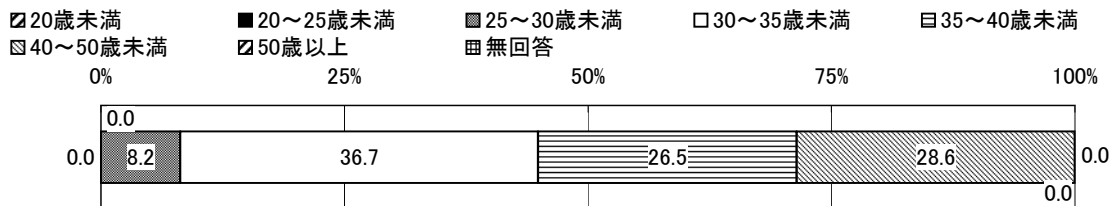
## 《回答者について》

回答者数=49

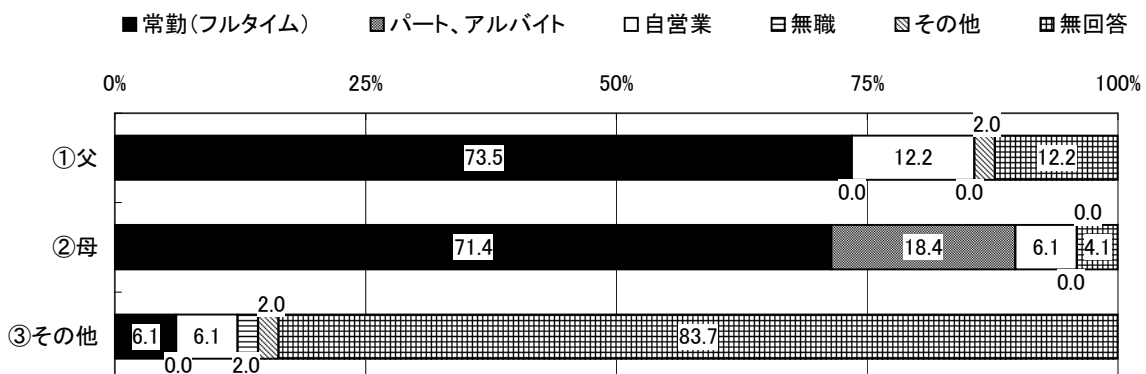
調査票記入者



主な記入者の年齢



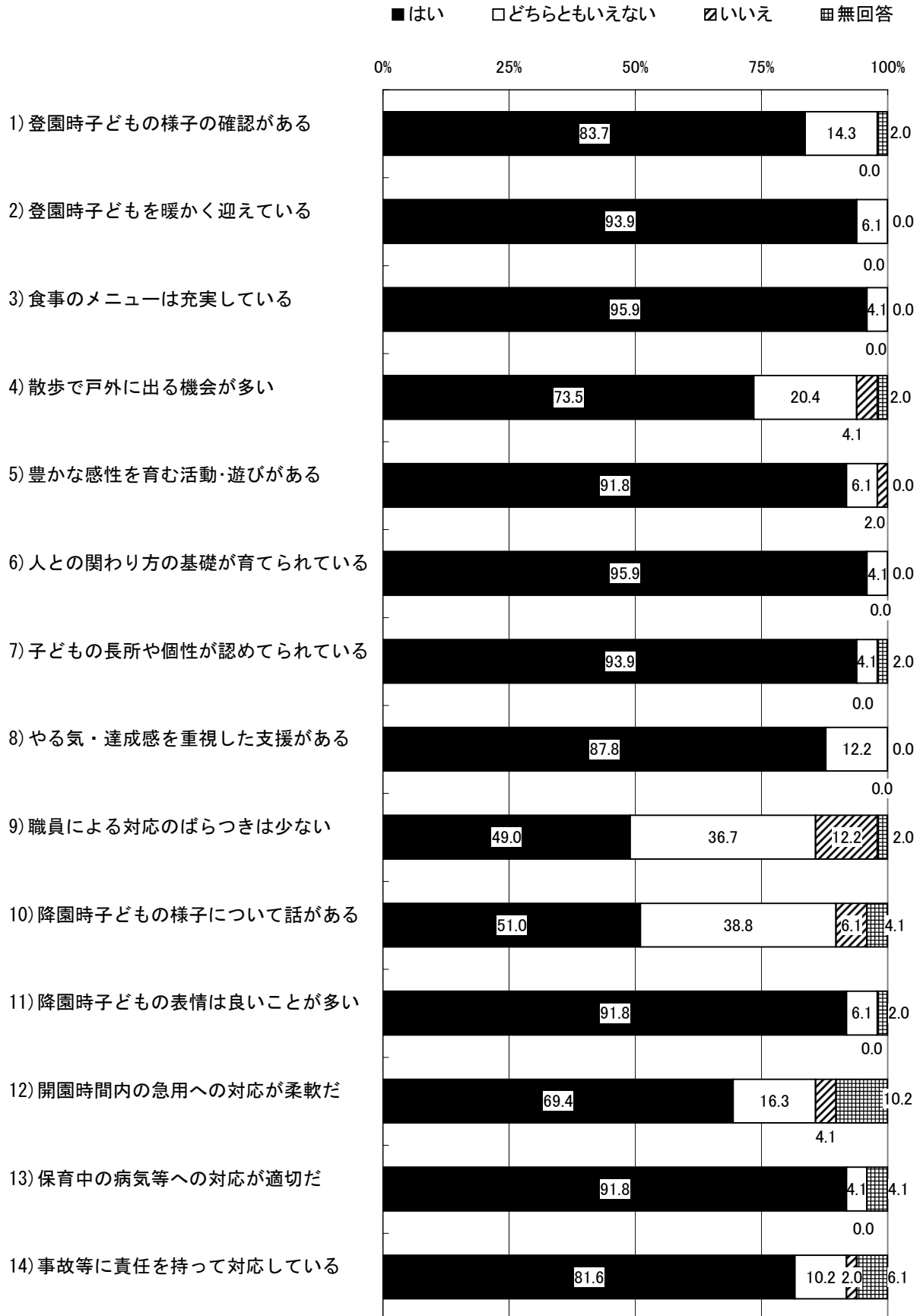
保護者の勤務形態



# 西荻北保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

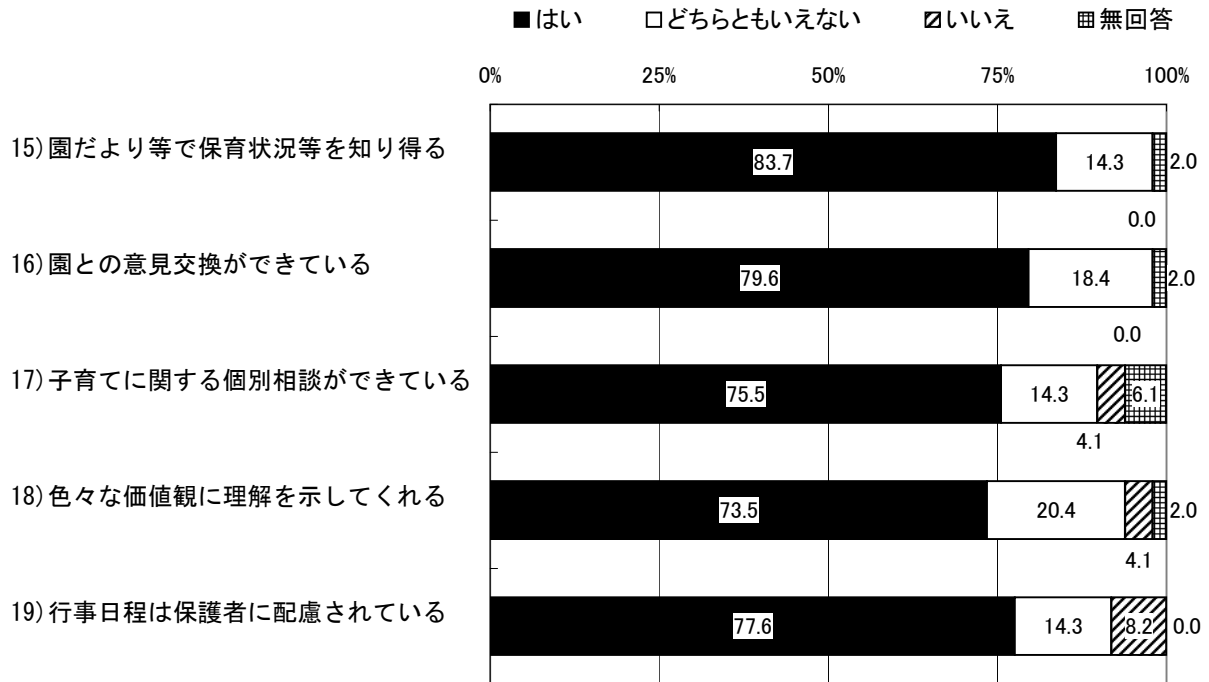
回答者数=49



# 西荻北保育園

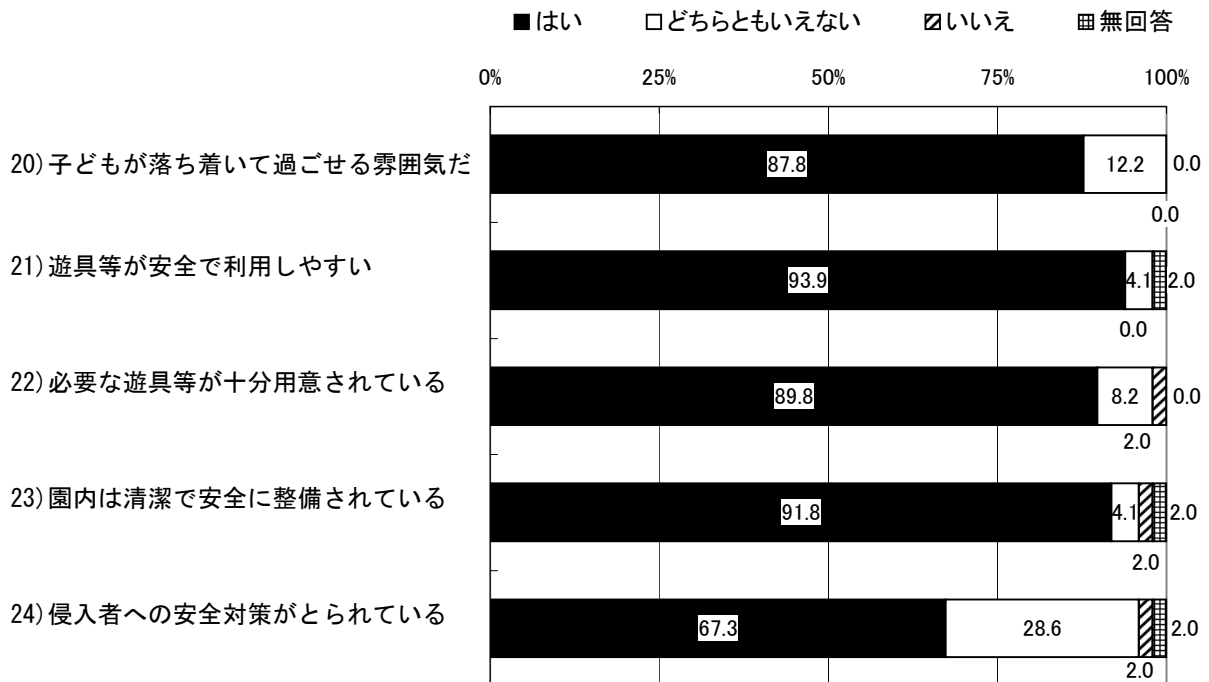
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=49



## 《施設環境についてお聞きします》

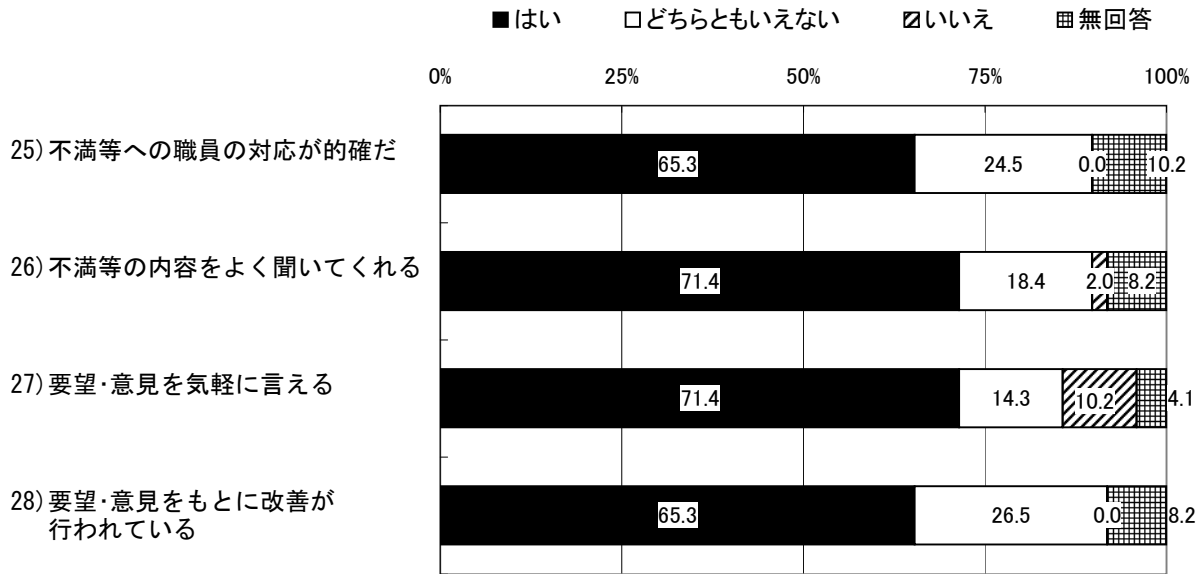
回答者数=49



# 西荻北保育園

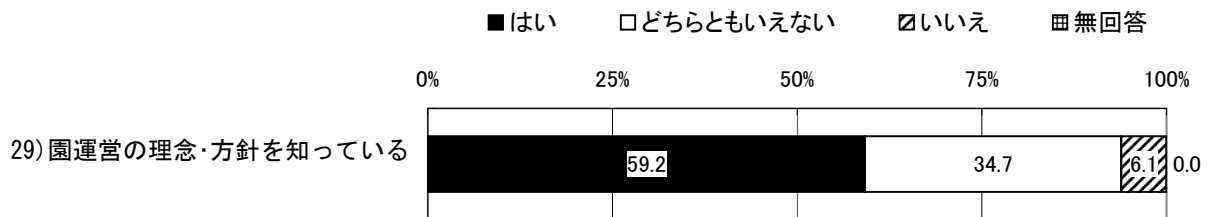
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=49



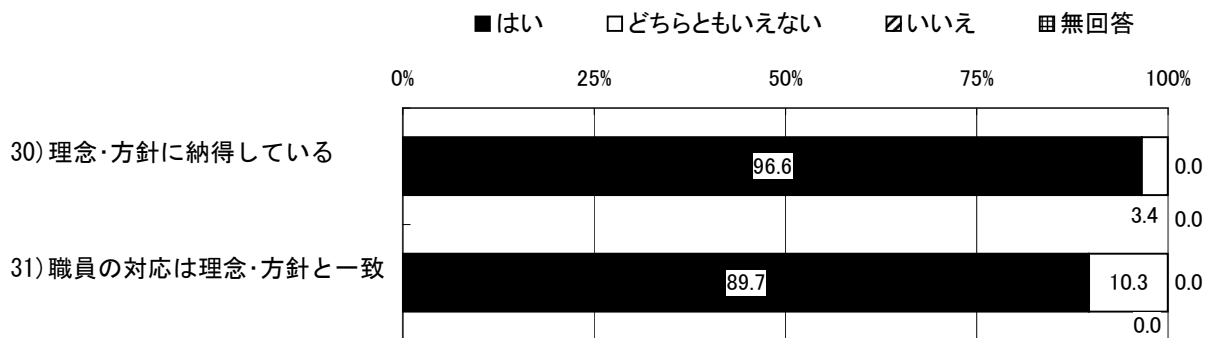
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=49



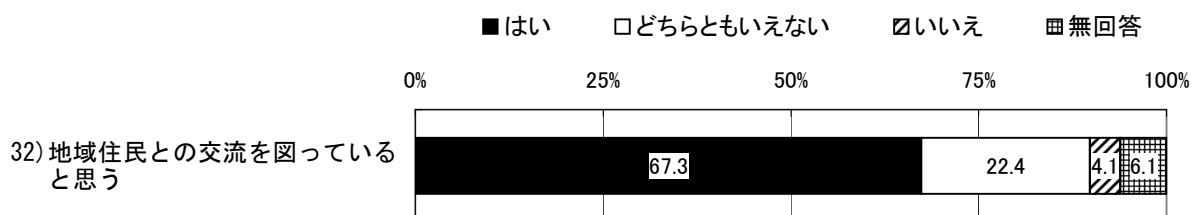
## 問29.で「はい」と回答した方への質問

回答者数=29



## 《地域との交流についてお聞きします》

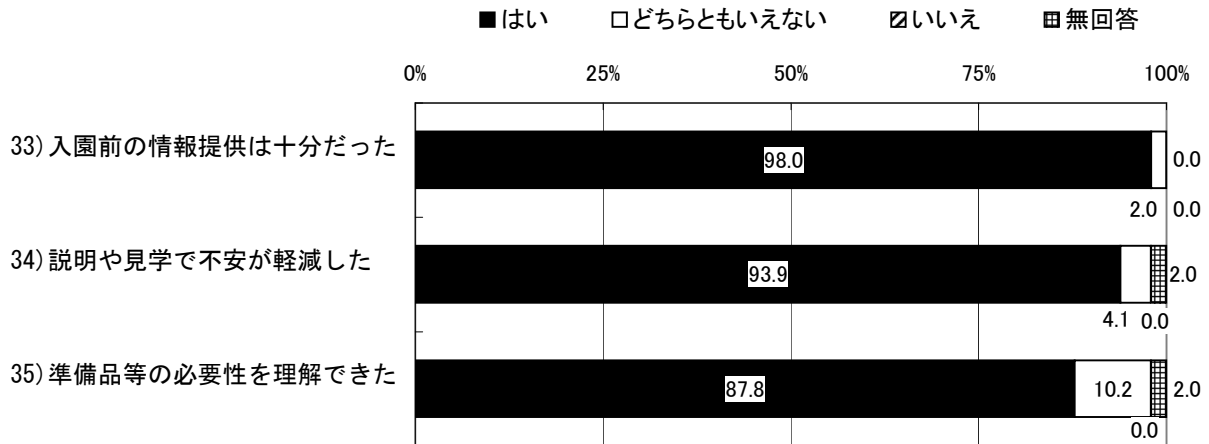
回答者数=49



# 西荻北保育園

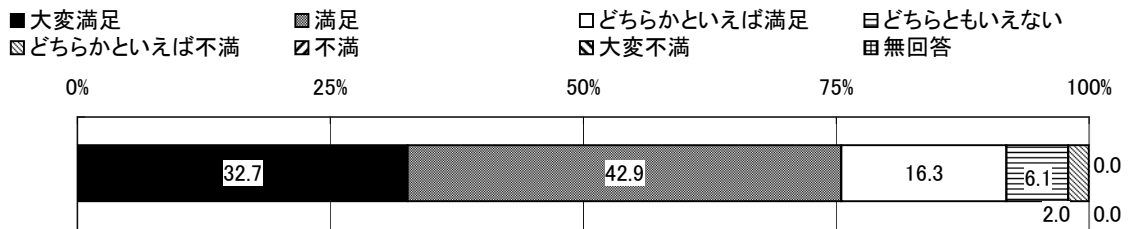
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=49



## 《総合的な感想についてお聞きします》

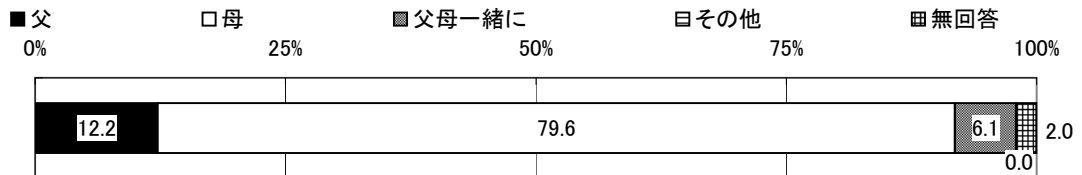
回答者数=49



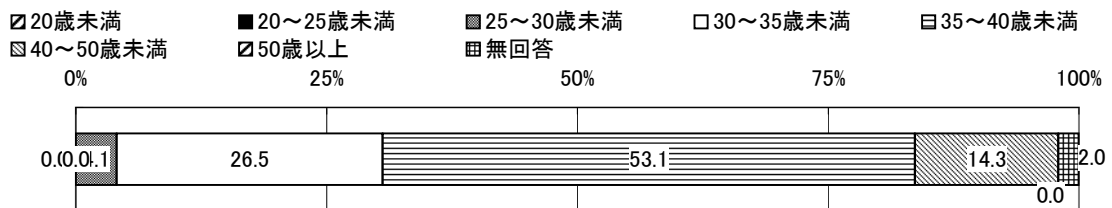
## 《回答者について》

回答者数=49

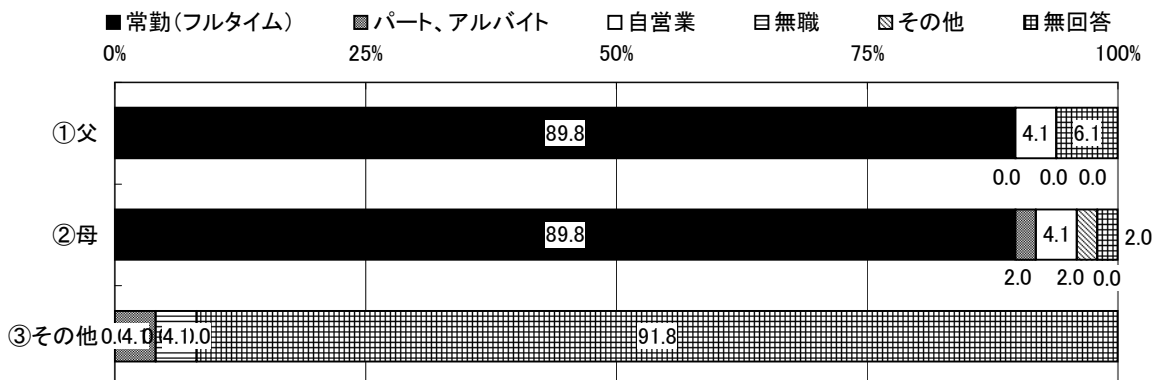
調査票記入者



主な記入者の年齢



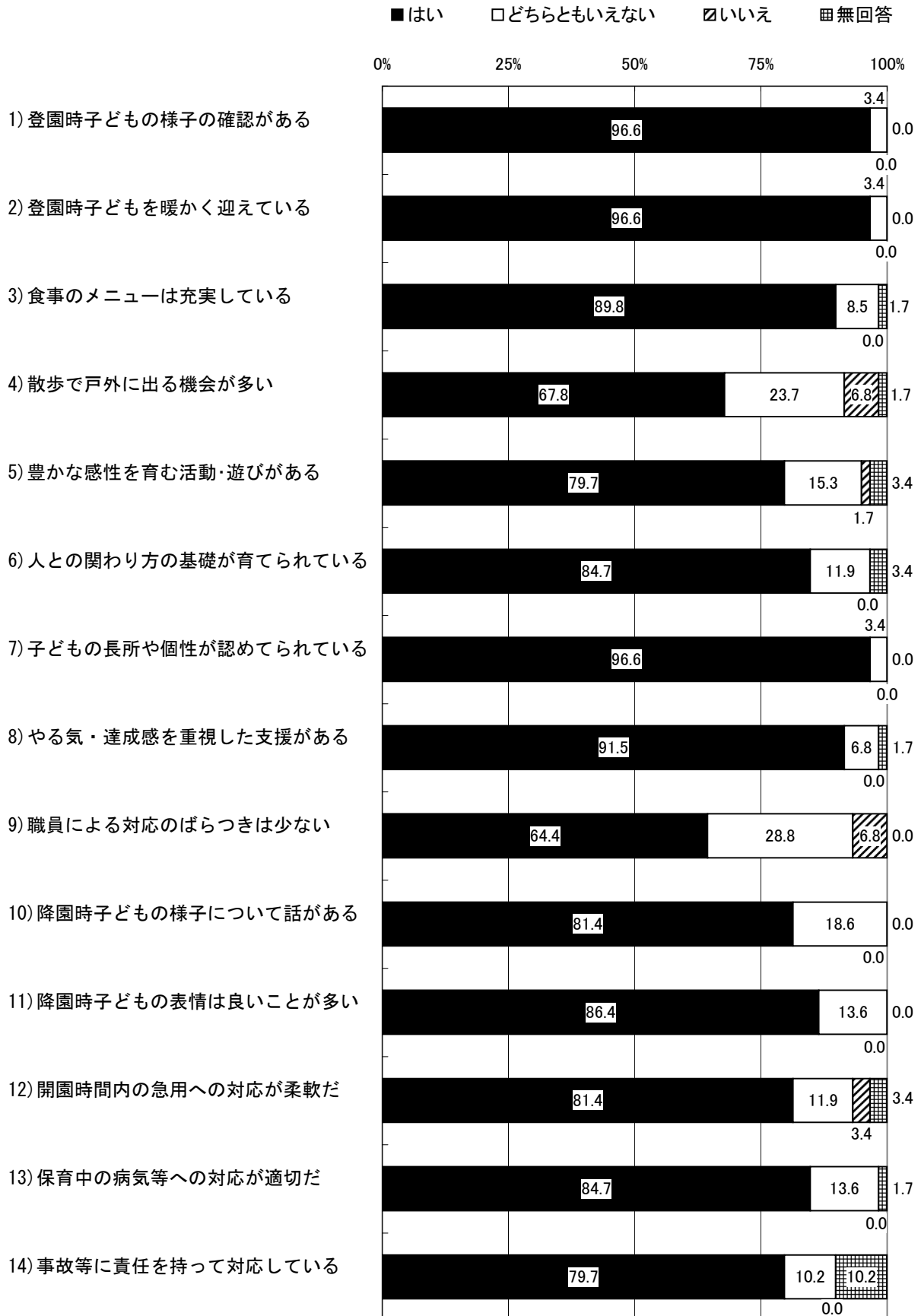
保護者の勤務形態



# 上萩保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

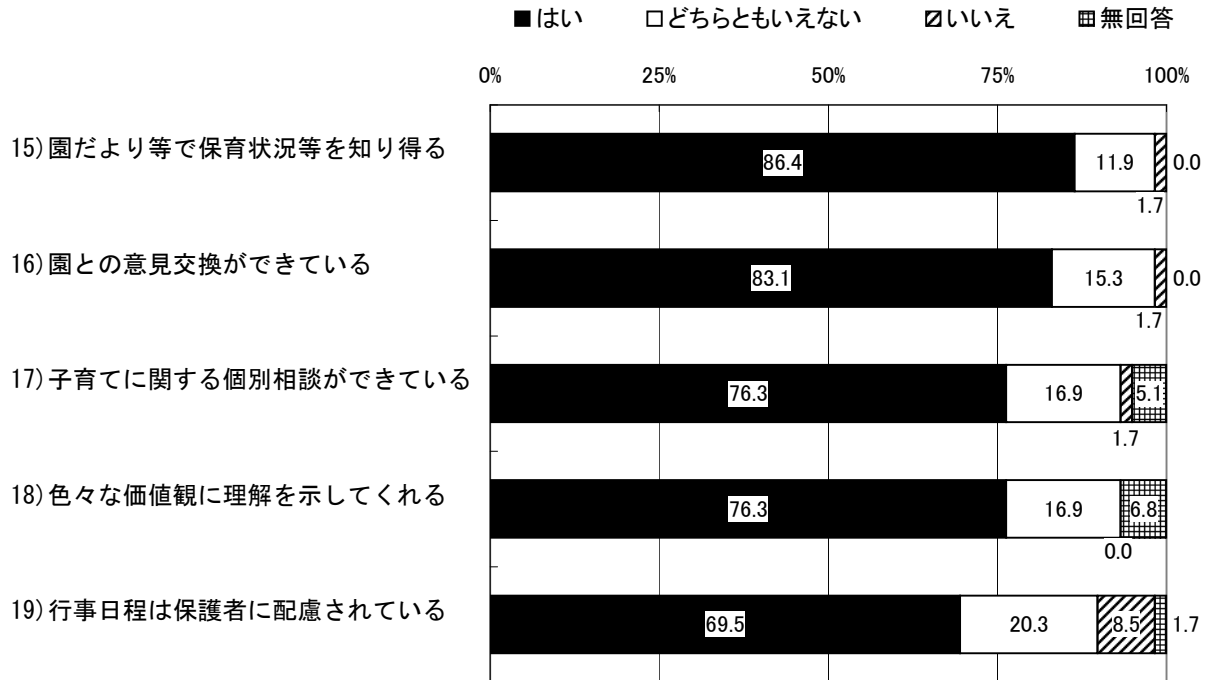
回答者数=59



# 上萩保育園

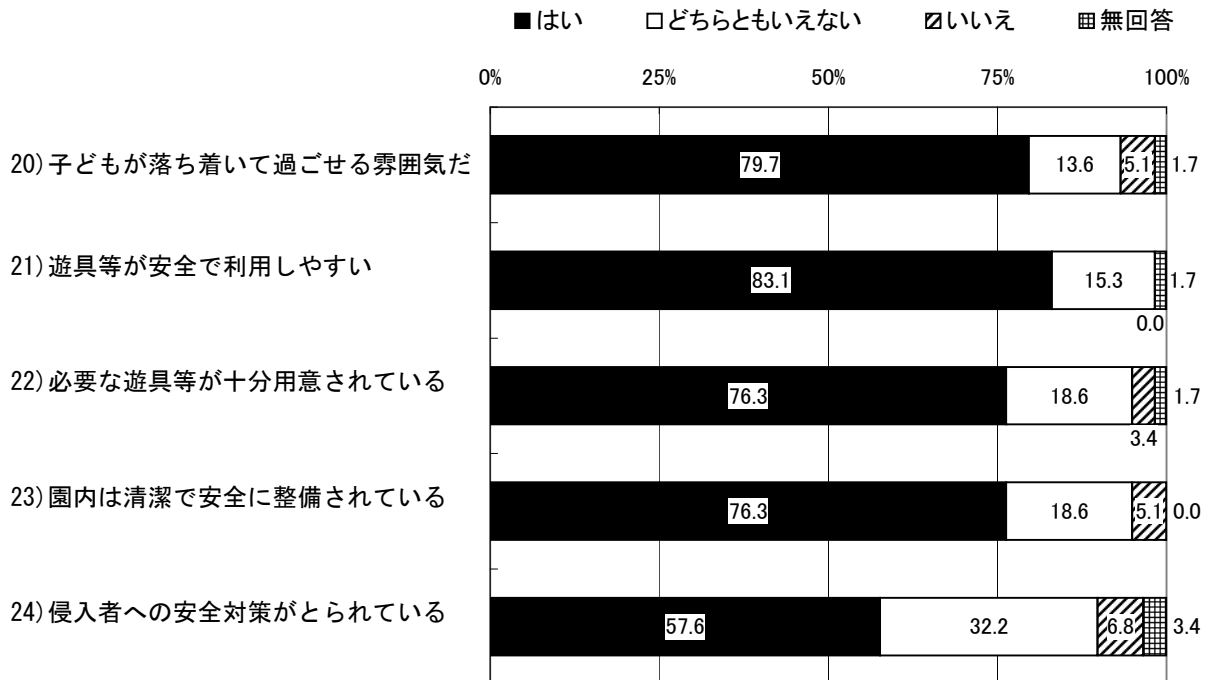
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=59



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=59

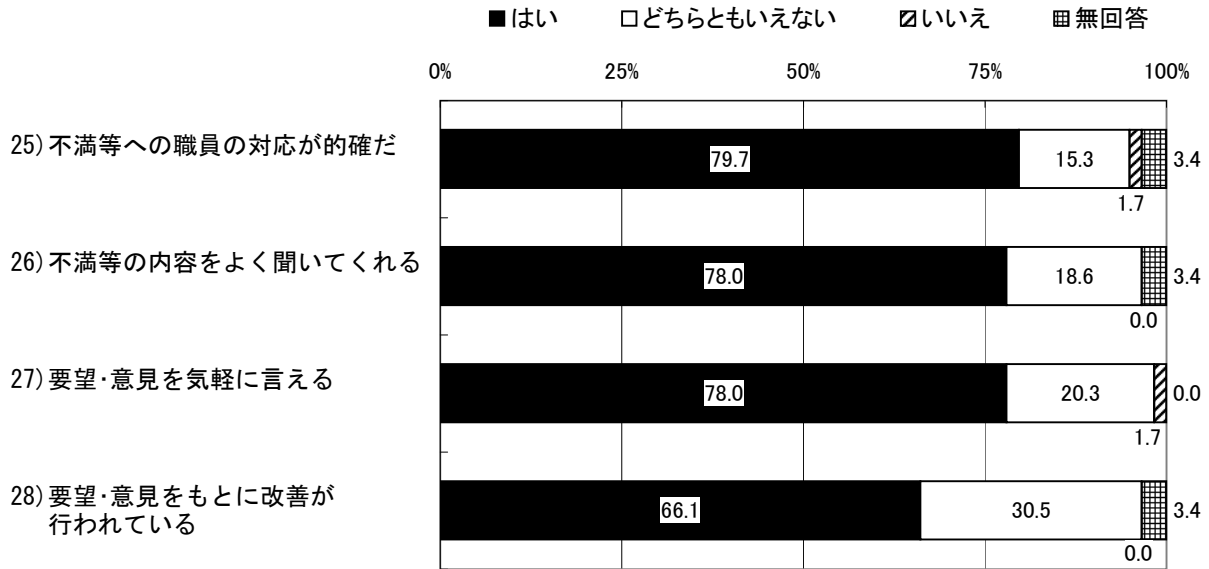




# 上萩保育園

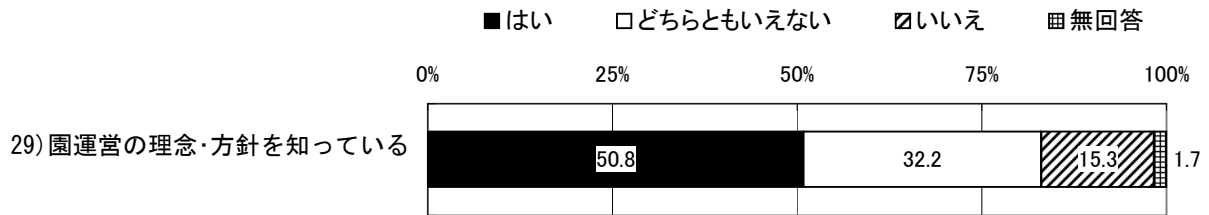
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=59



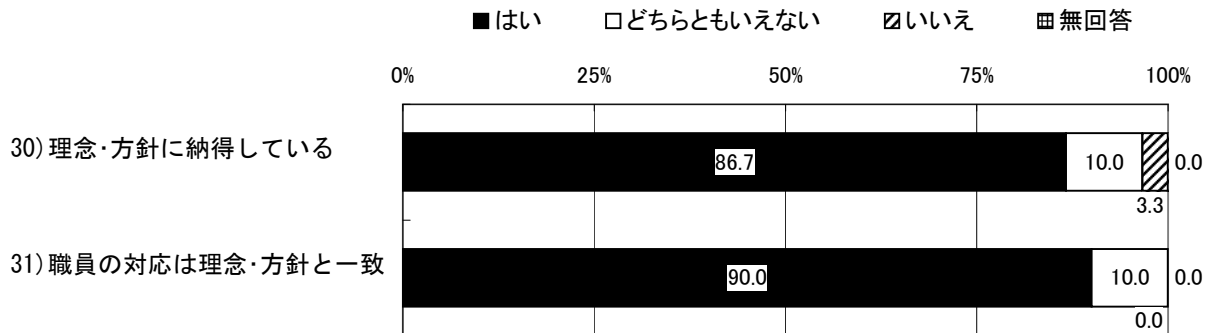
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=59



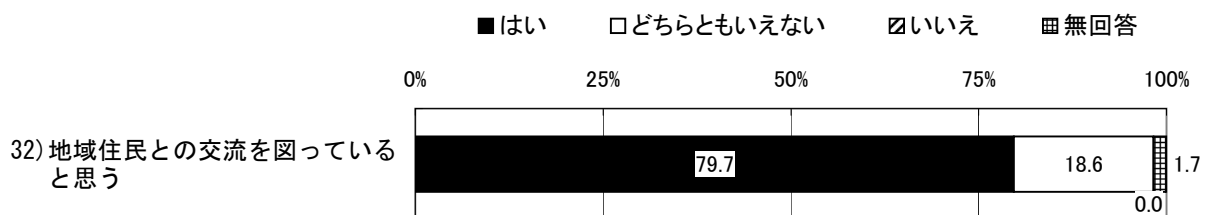
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=30



## 《地域との交流についてお聞きします》

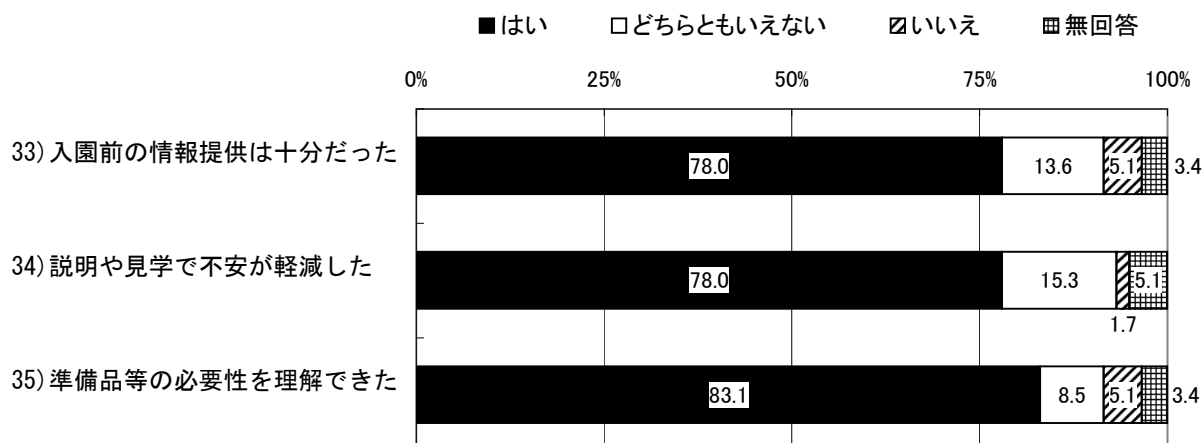
回答者数=59



# 上萩保育園

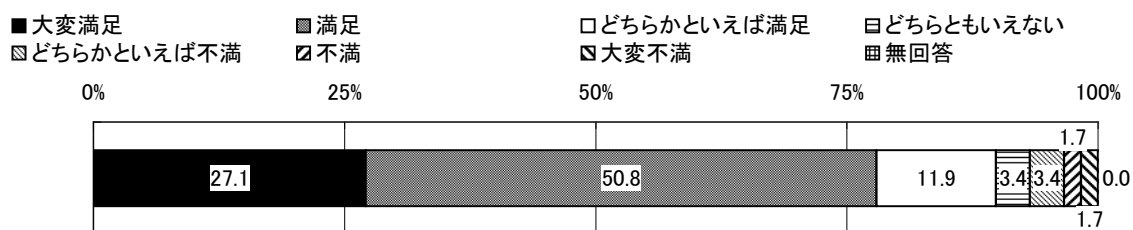
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=59



## 《総合的な感想についてお聞きします》

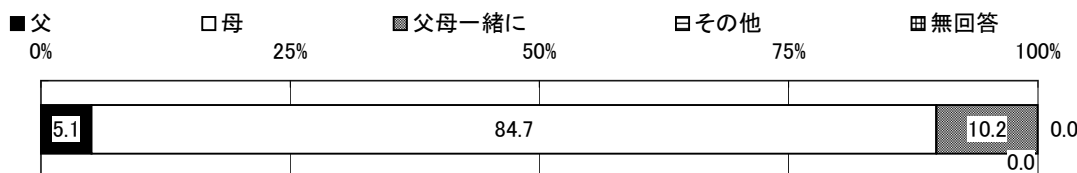
回答者数=59



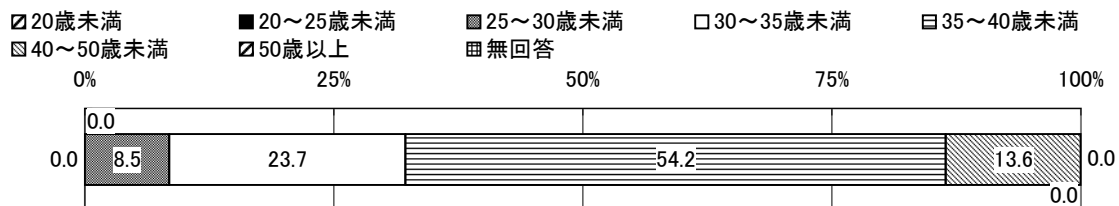
## 《回答者について》

回答者数=59

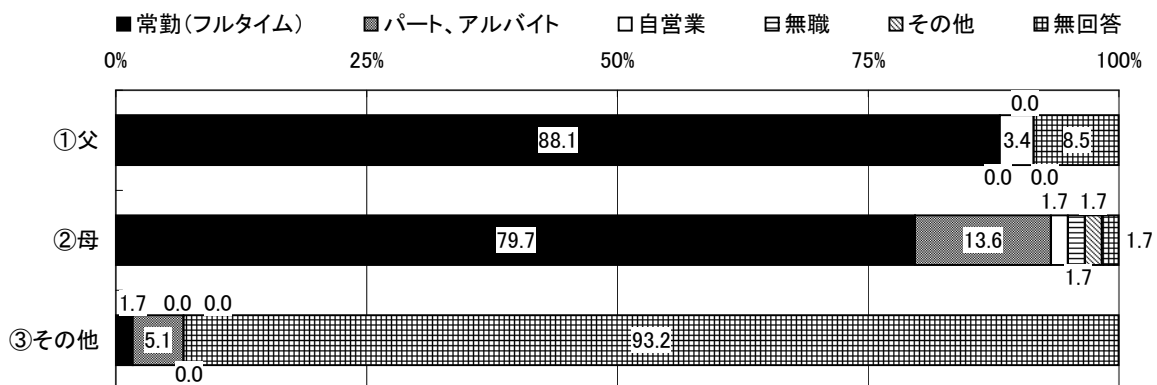
調査票記入者



主な記入者の年齢



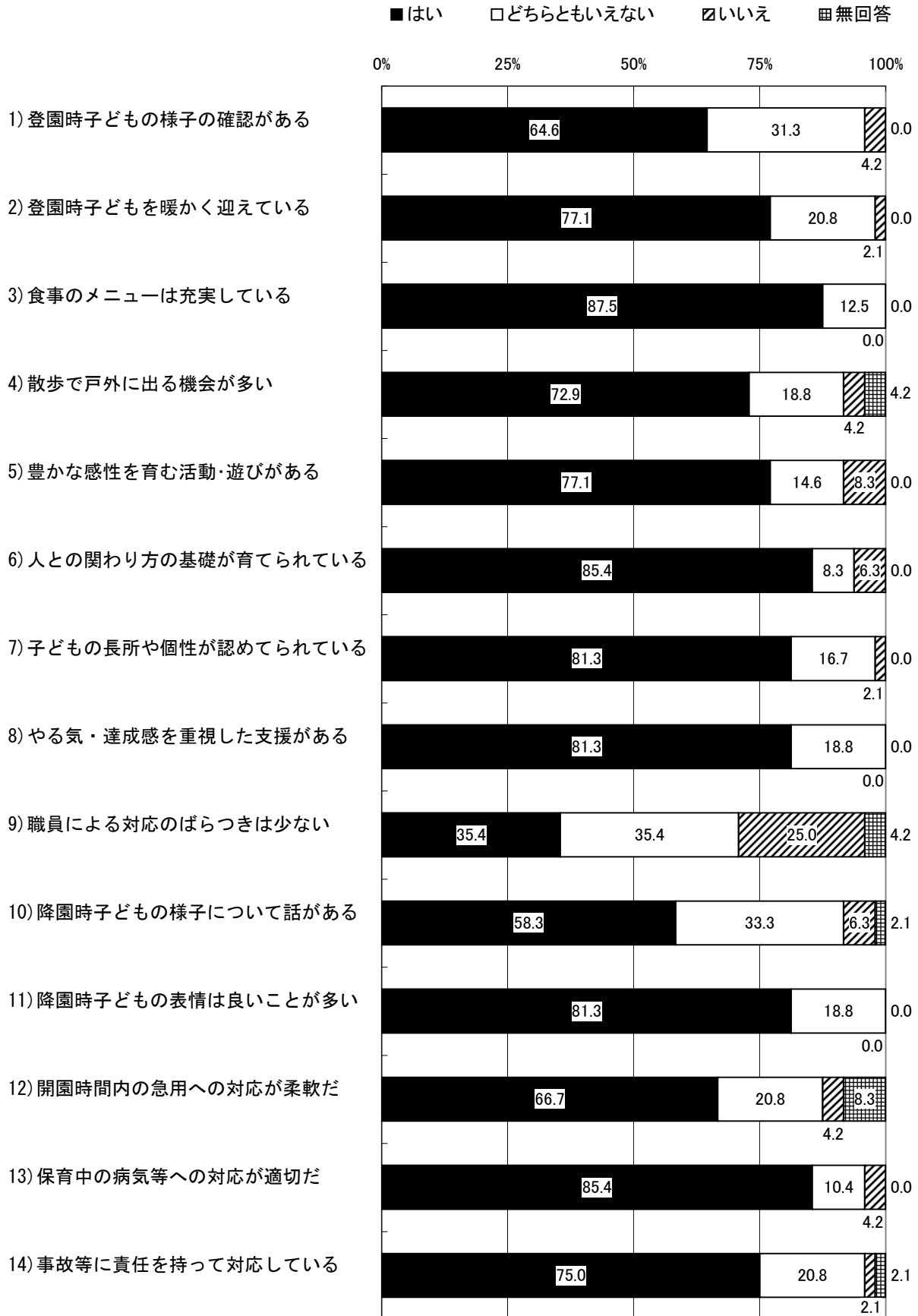
保護者の勤務形態



# 井草保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

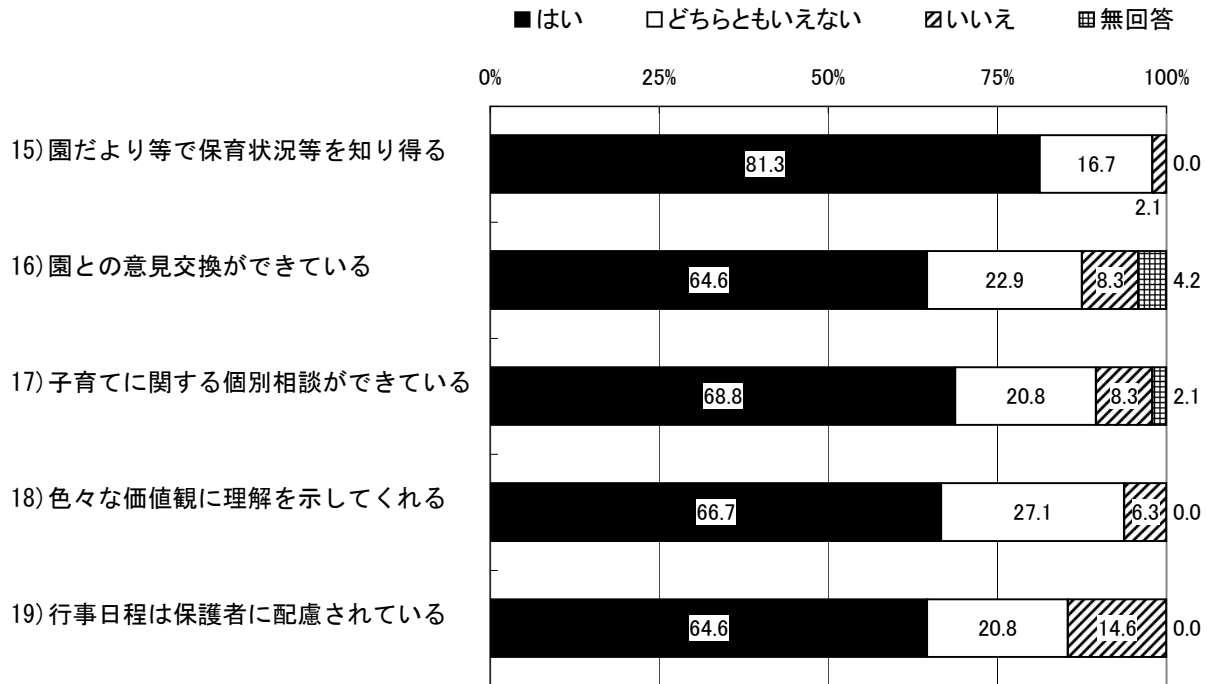
回答者数=48



# 井草保育園

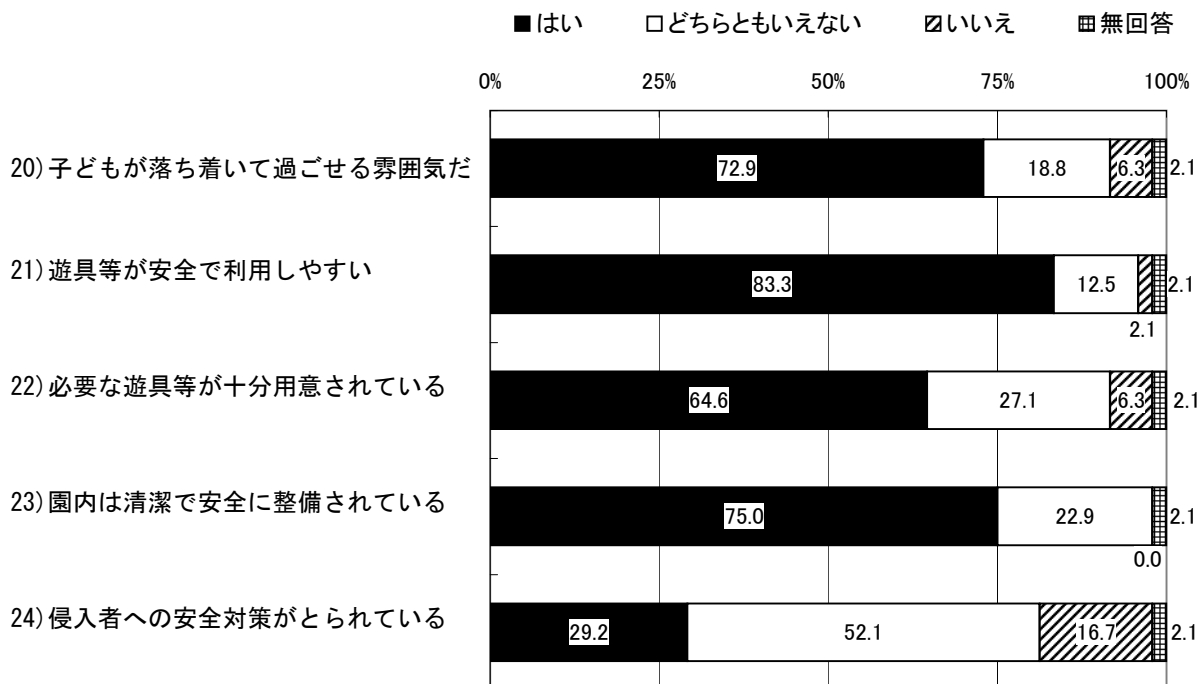
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=48



## 《施設環境についてお聞きします》

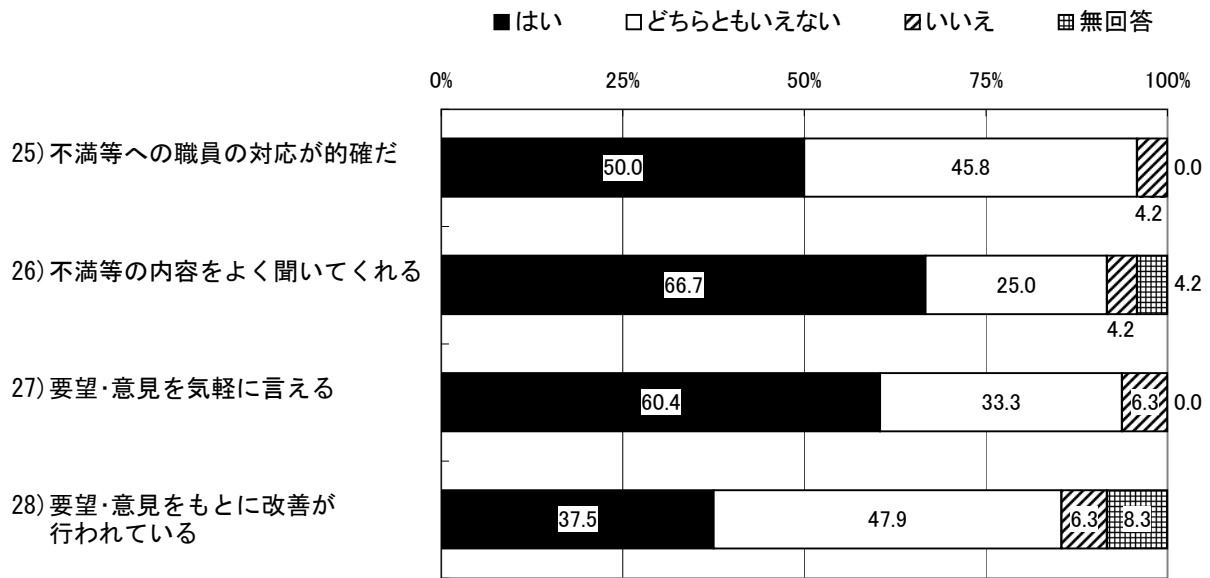
回答者数=48



# 井草保育園

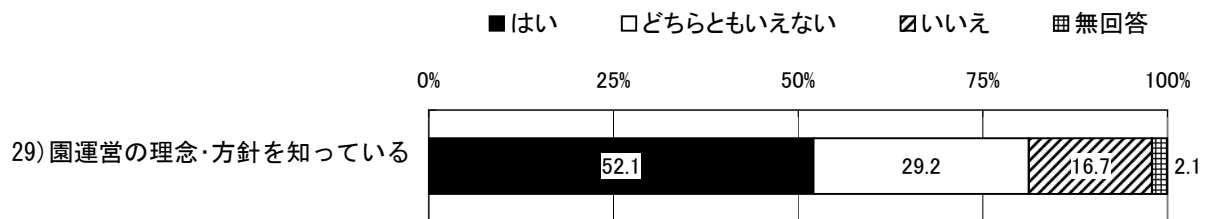
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=48



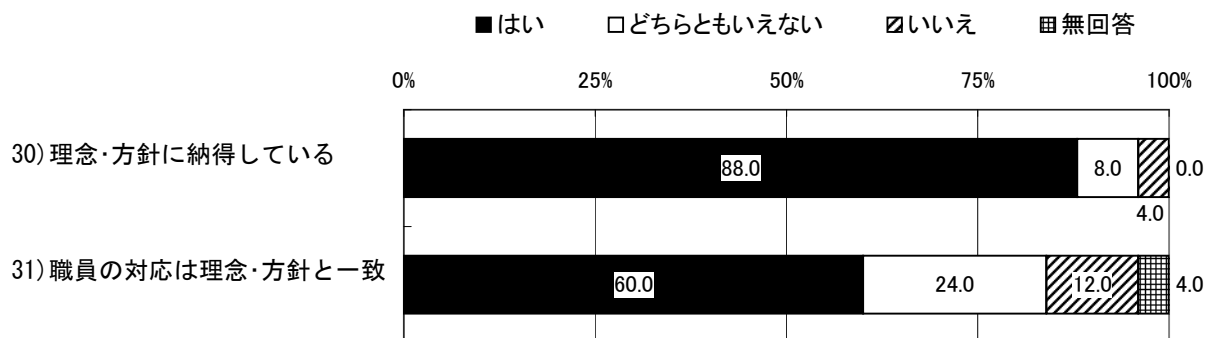
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=48



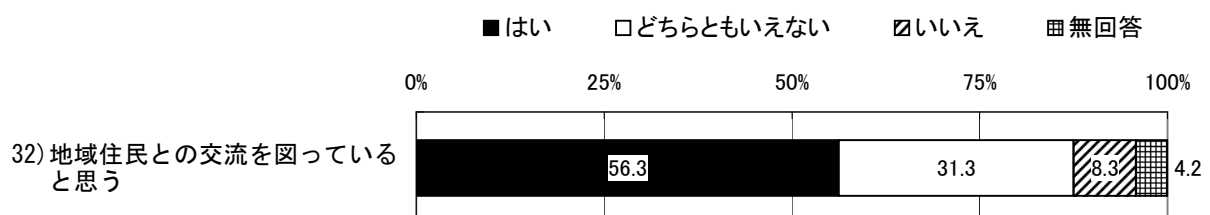
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=25



## 《地域との交流についてお聞きします》

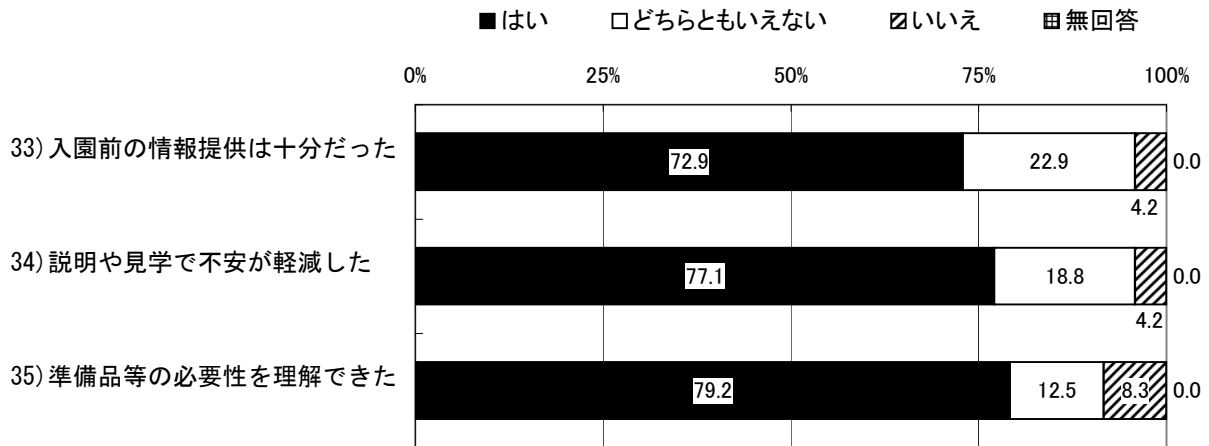
回答者数=48



# 井草保育園

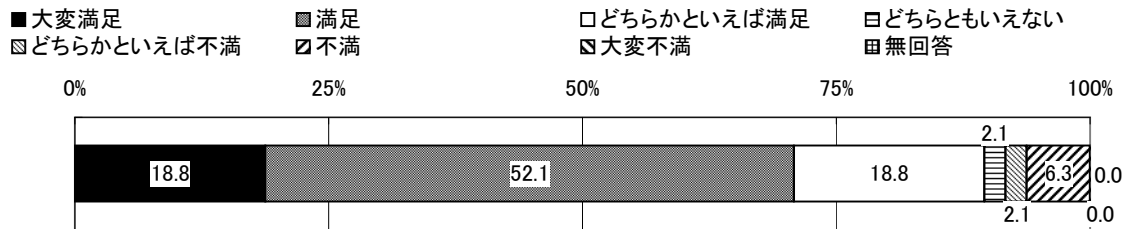
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=48



## 《総合的な感想についてお聞きします》

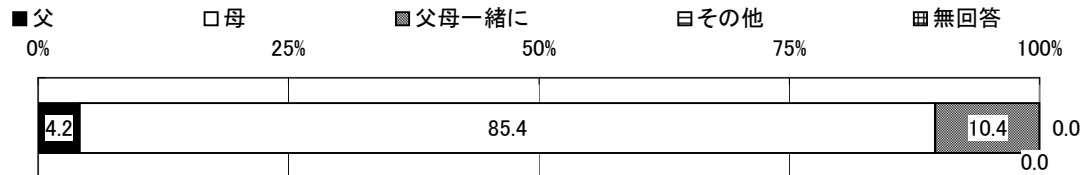
回答者数=48



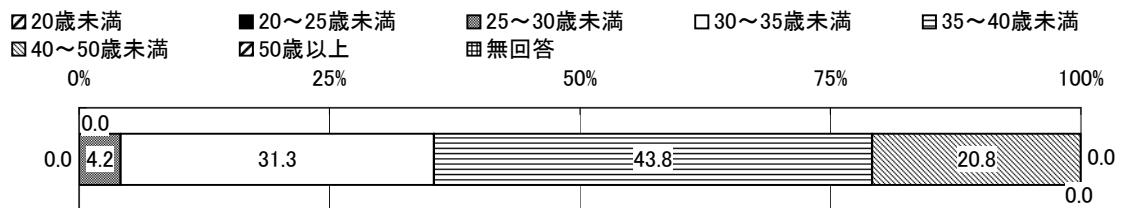
## 《回答者について》

回答者数=48

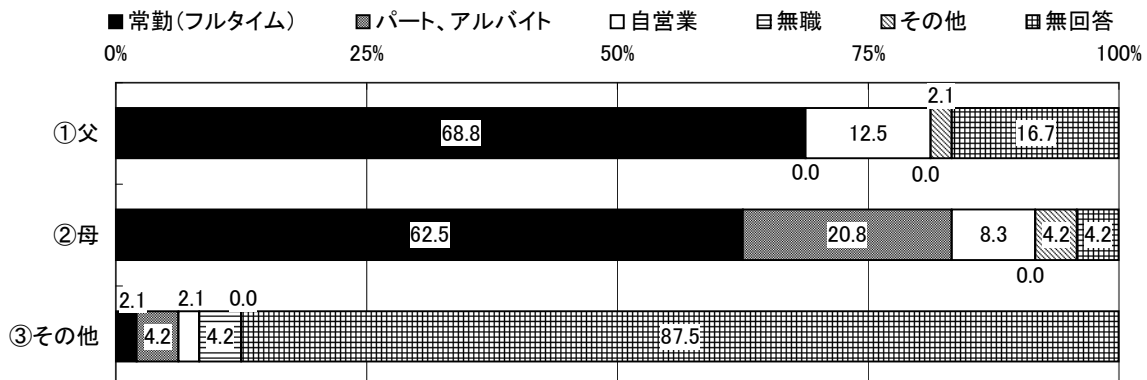
調査票記入者



主な記入者の年齢



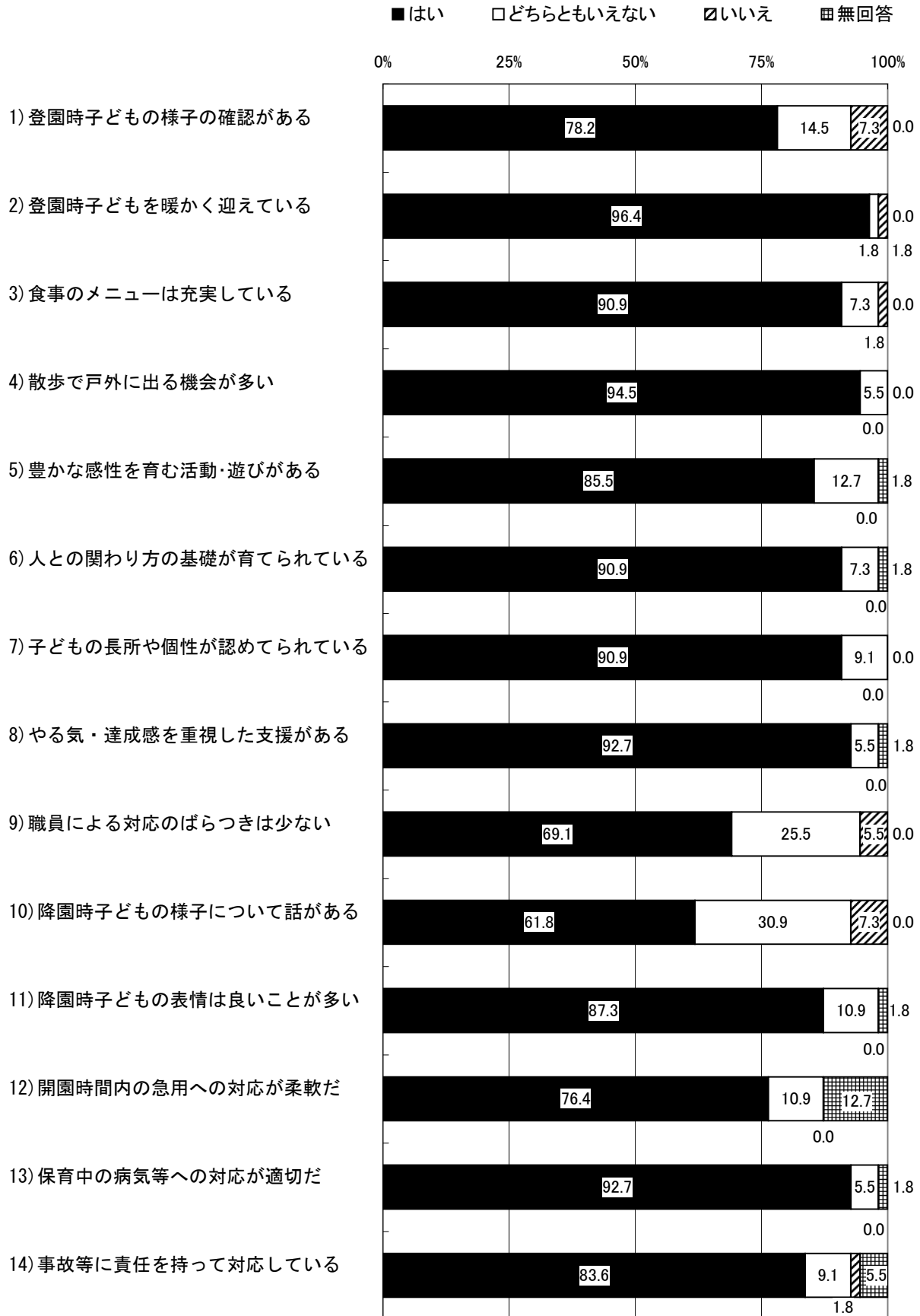
保護者の勤務形態



# 善福寺保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

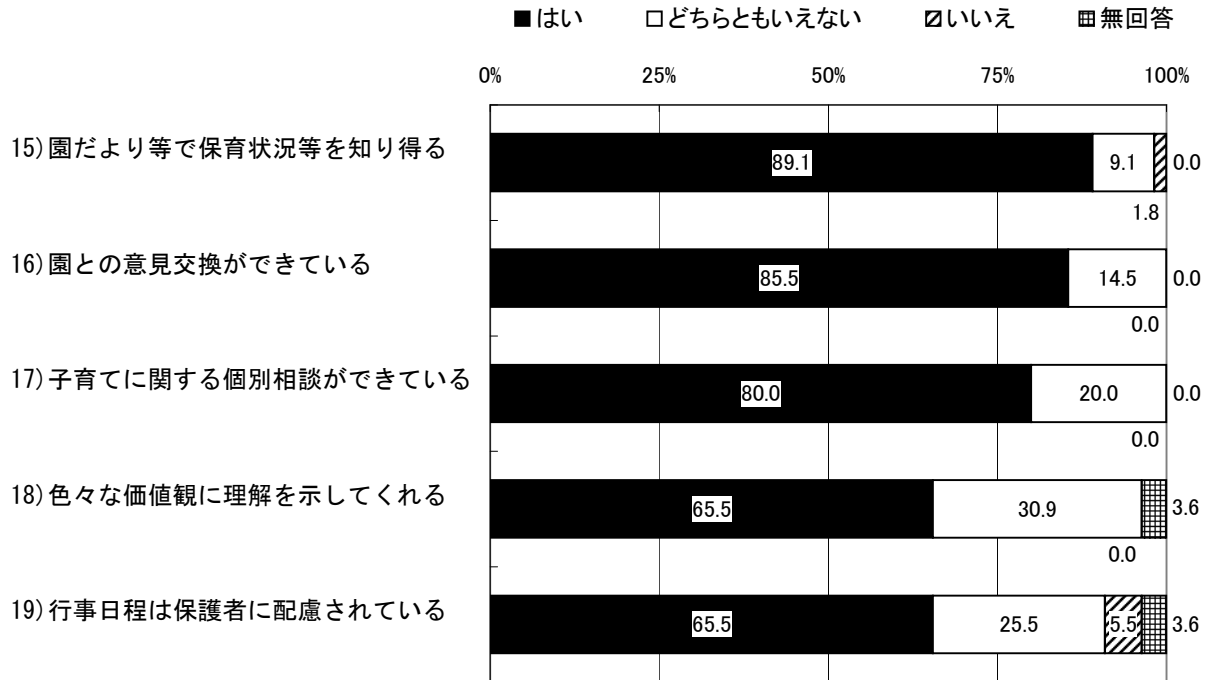
回答者数=55



# 善福寺保育園

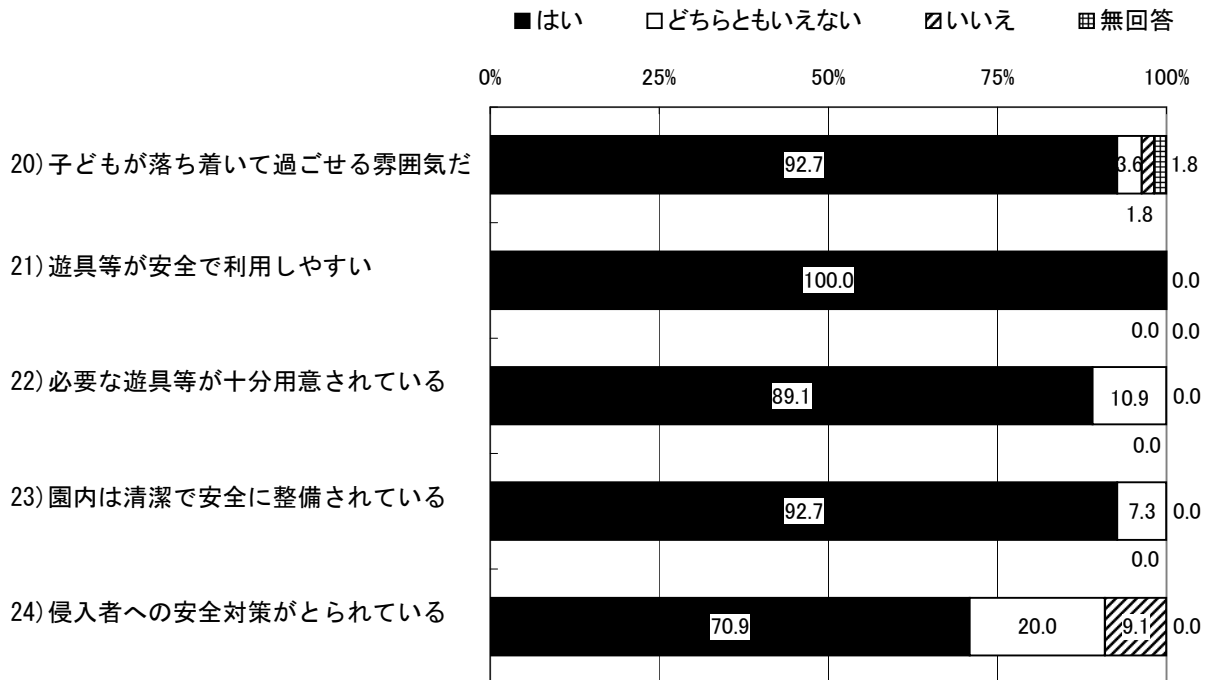
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=55



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=55

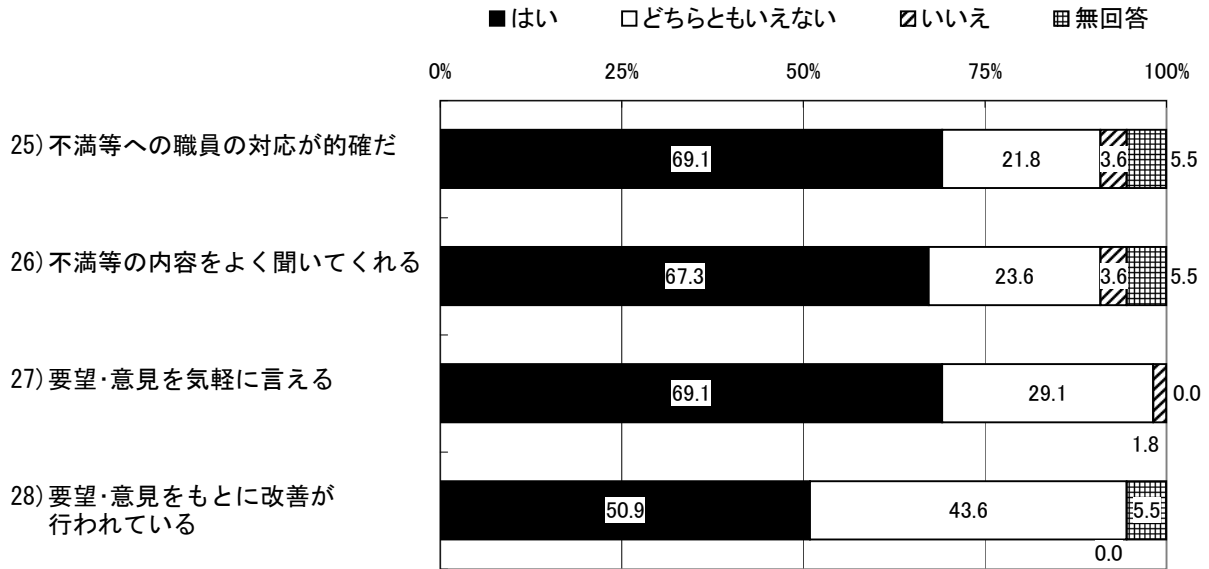




# 善福寺保育園

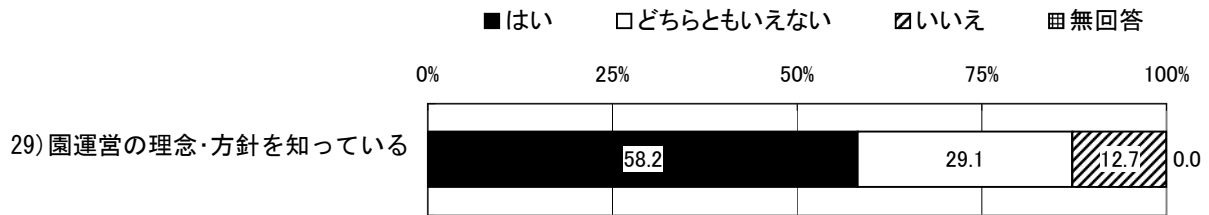
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=55



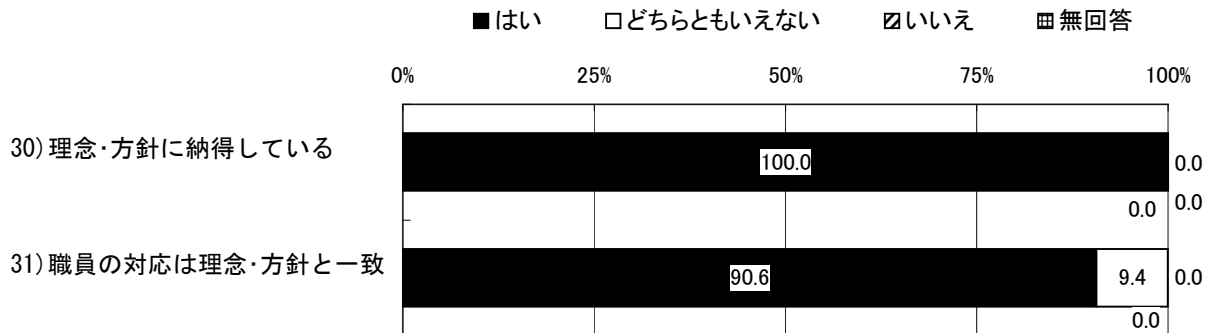
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=55



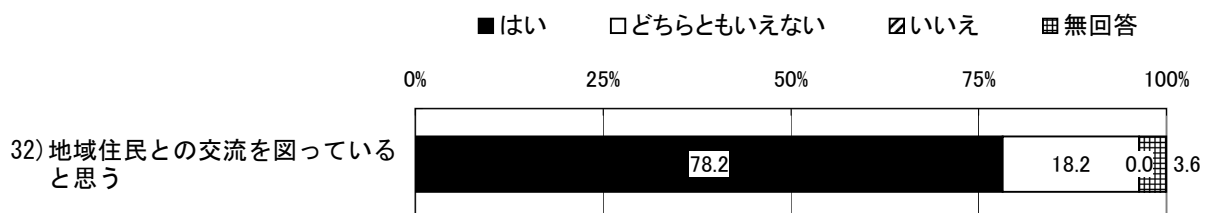
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=32



## 《地域との交流についてお聞きします》

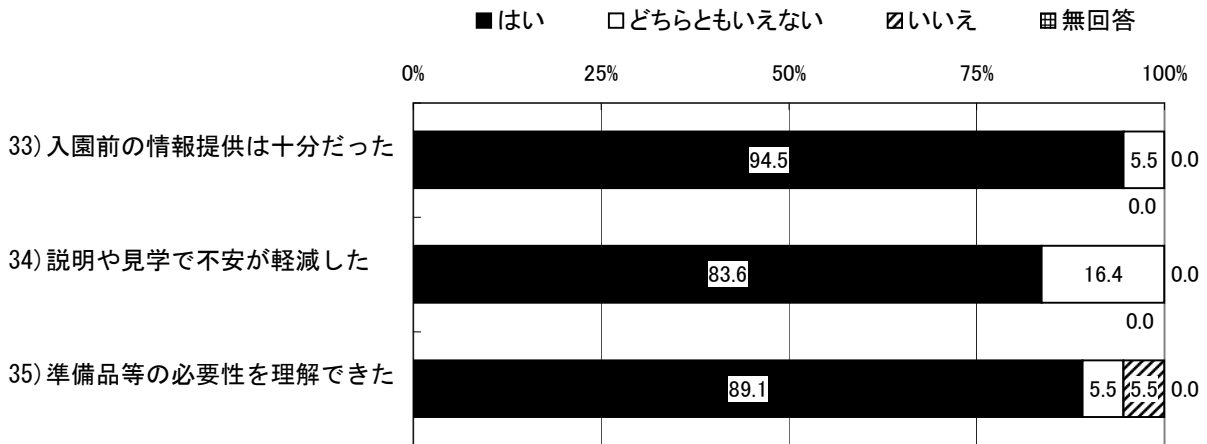
回答者数=55



# 善福寺保育園

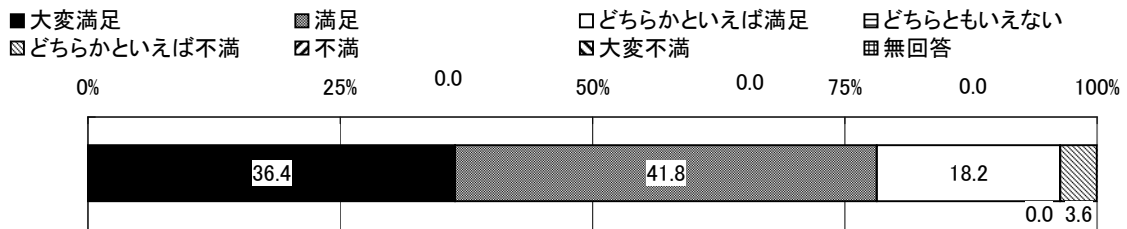
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=55



## 《総合的な感想についてお聞きします》

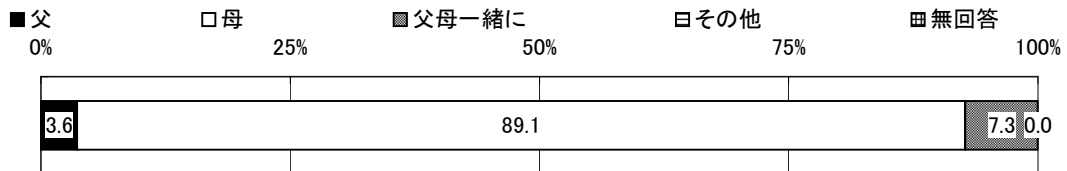
回答者数=55



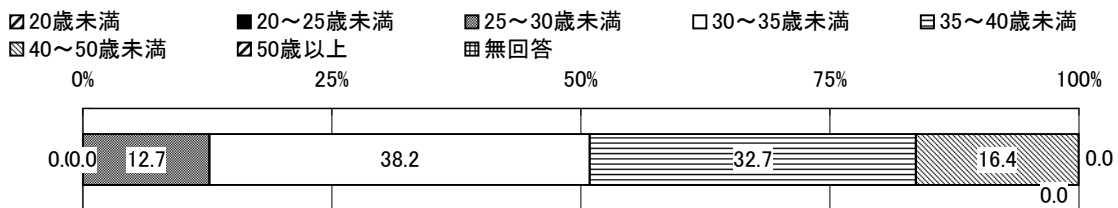
## 《回答者について》

回答者数=55

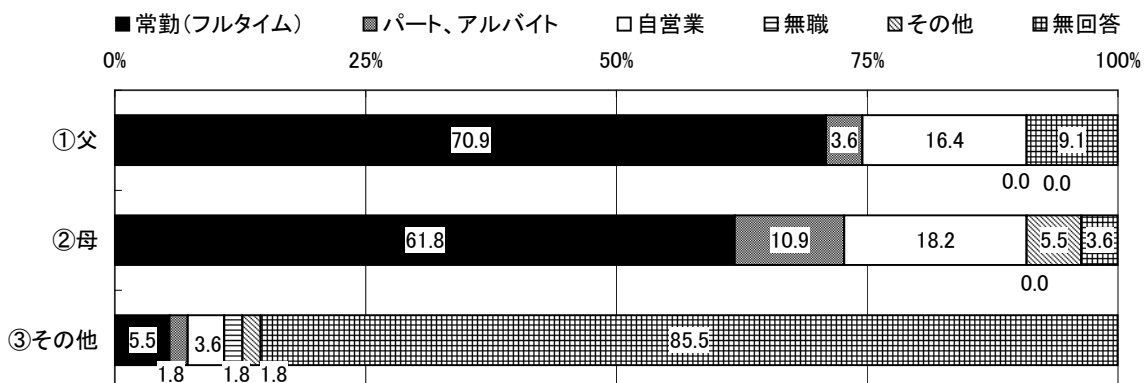
調査票記入者



主な記入者の年齢



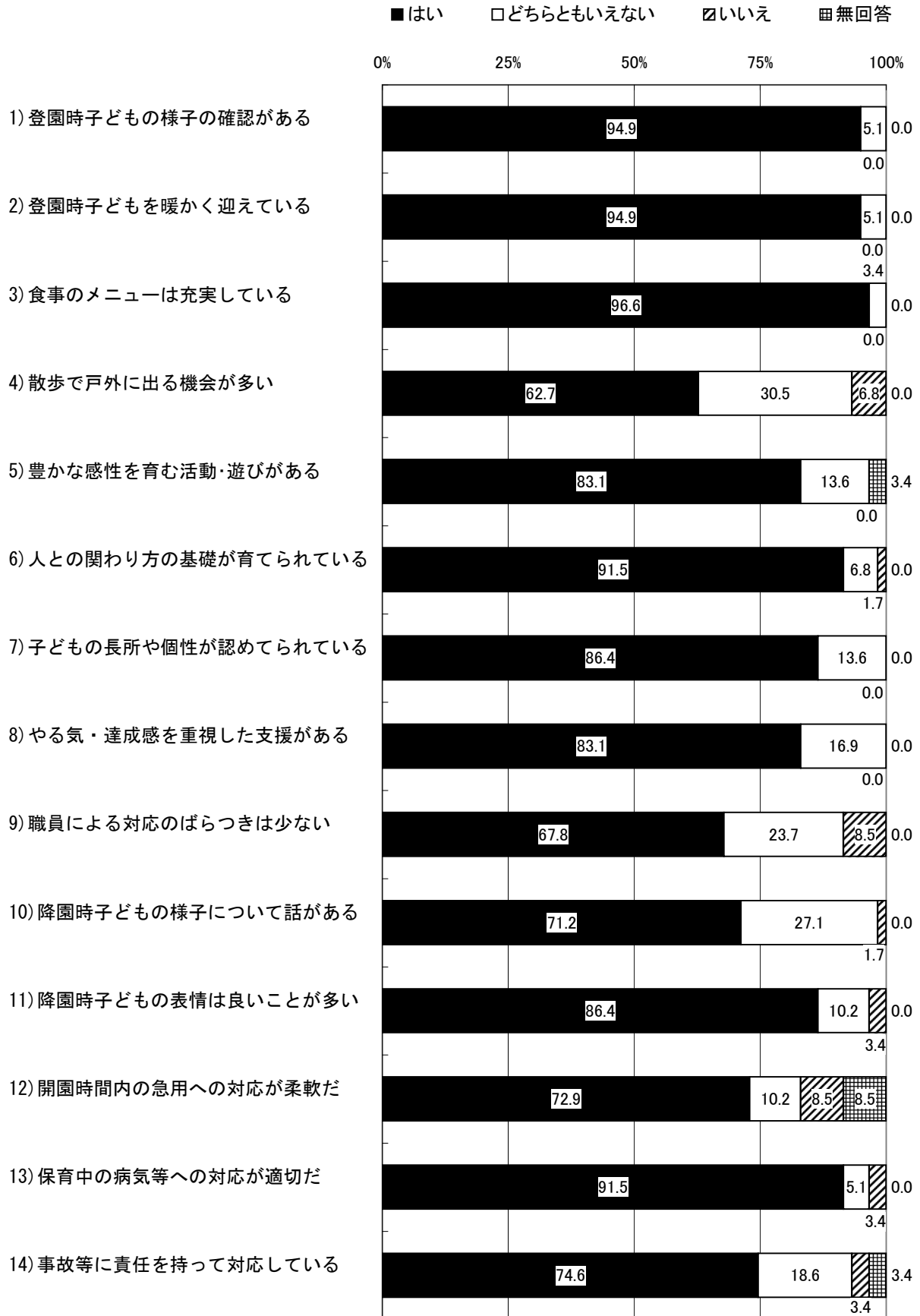
保護者の勤務形態



# 永福北保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

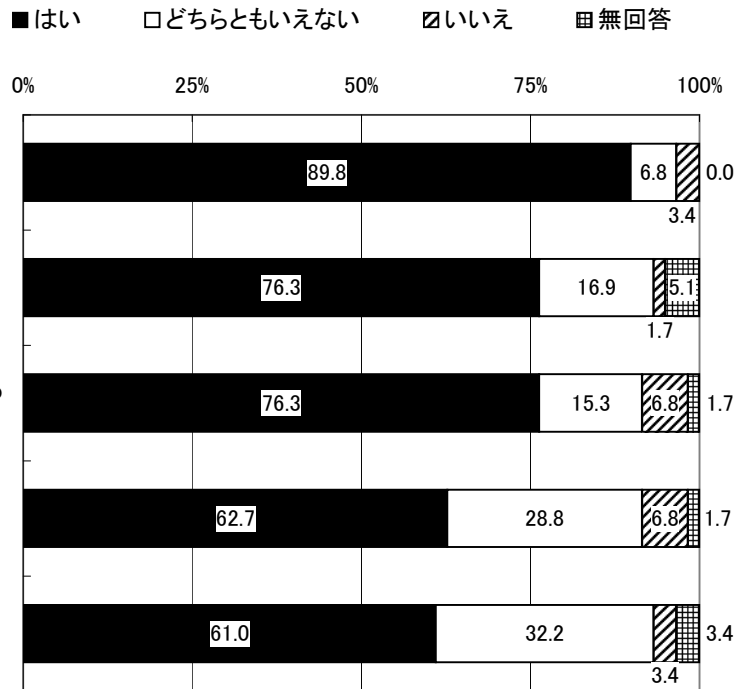
回答者数=59



# 永福北保育園

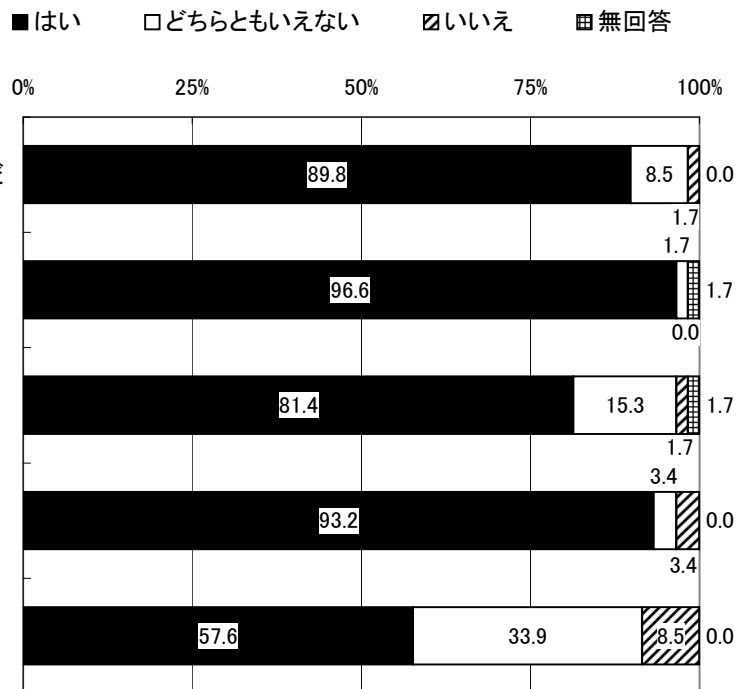
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=59



## 《施設環境についてお聞きします》

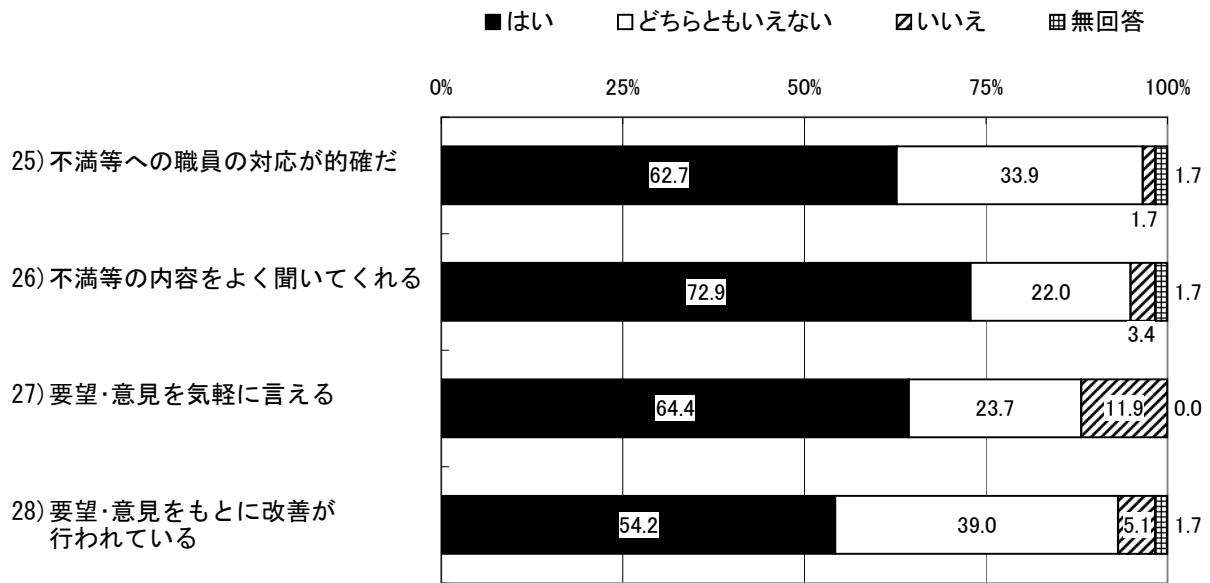
回答者数=59



# 永福北保育園

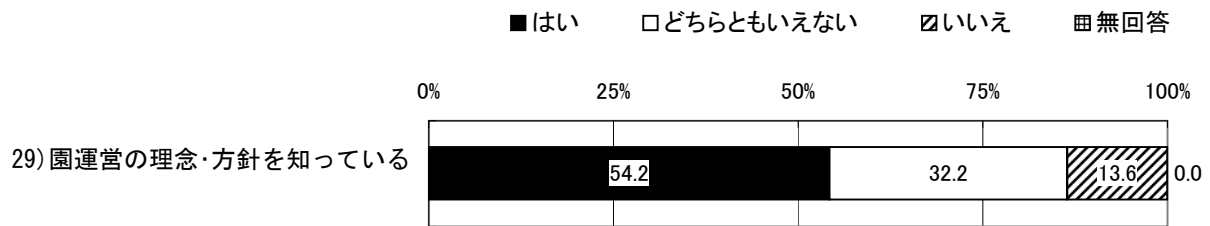
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=59



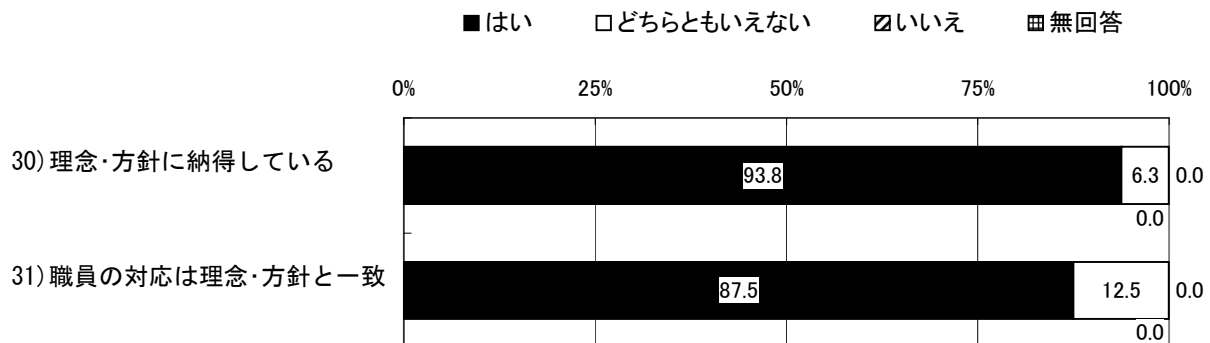
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=59



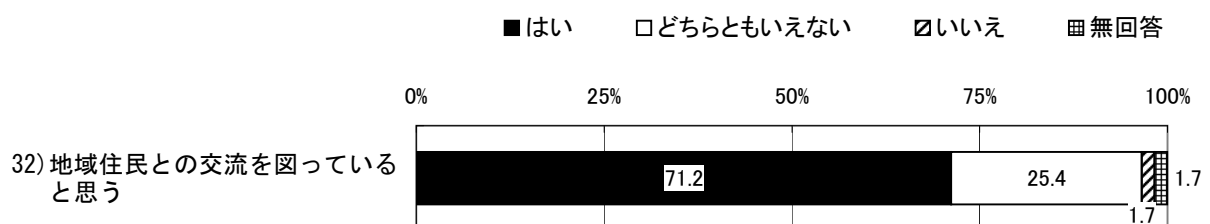
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=32



## 《地域との交流についてお聞きします》

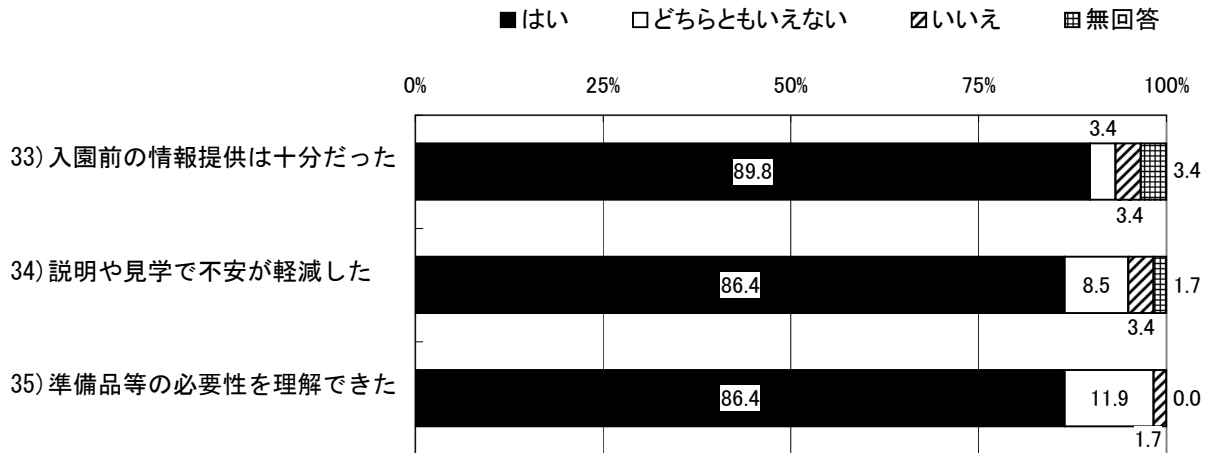
回答者数=59



# 永福北保育園

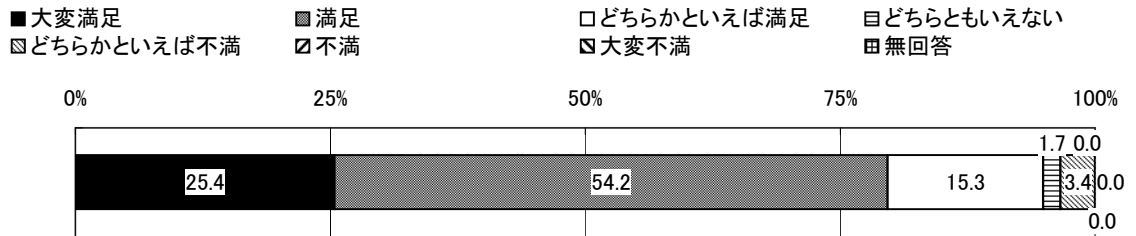
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=59



## 《総合的な感想についてお聞きします》

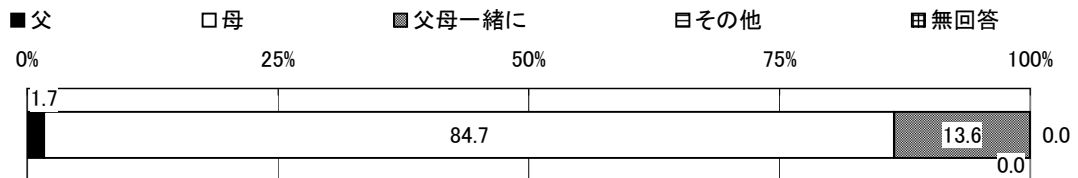
回答者数=59



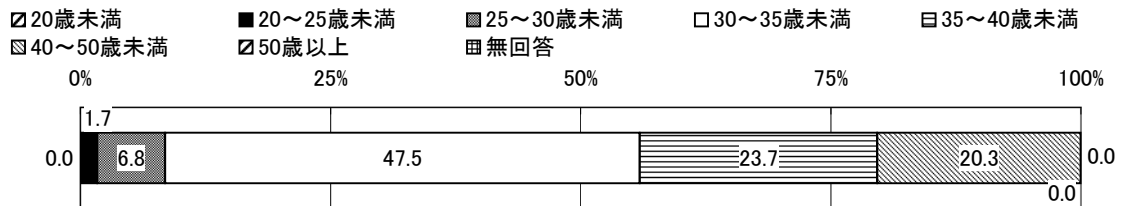
## 《回答者について》

回答者数=59

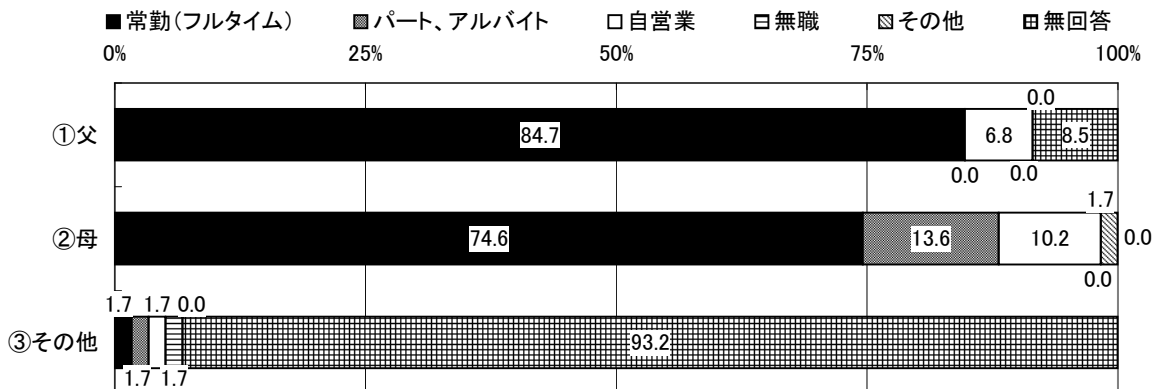
調査票記入者



主な記入者の年齢



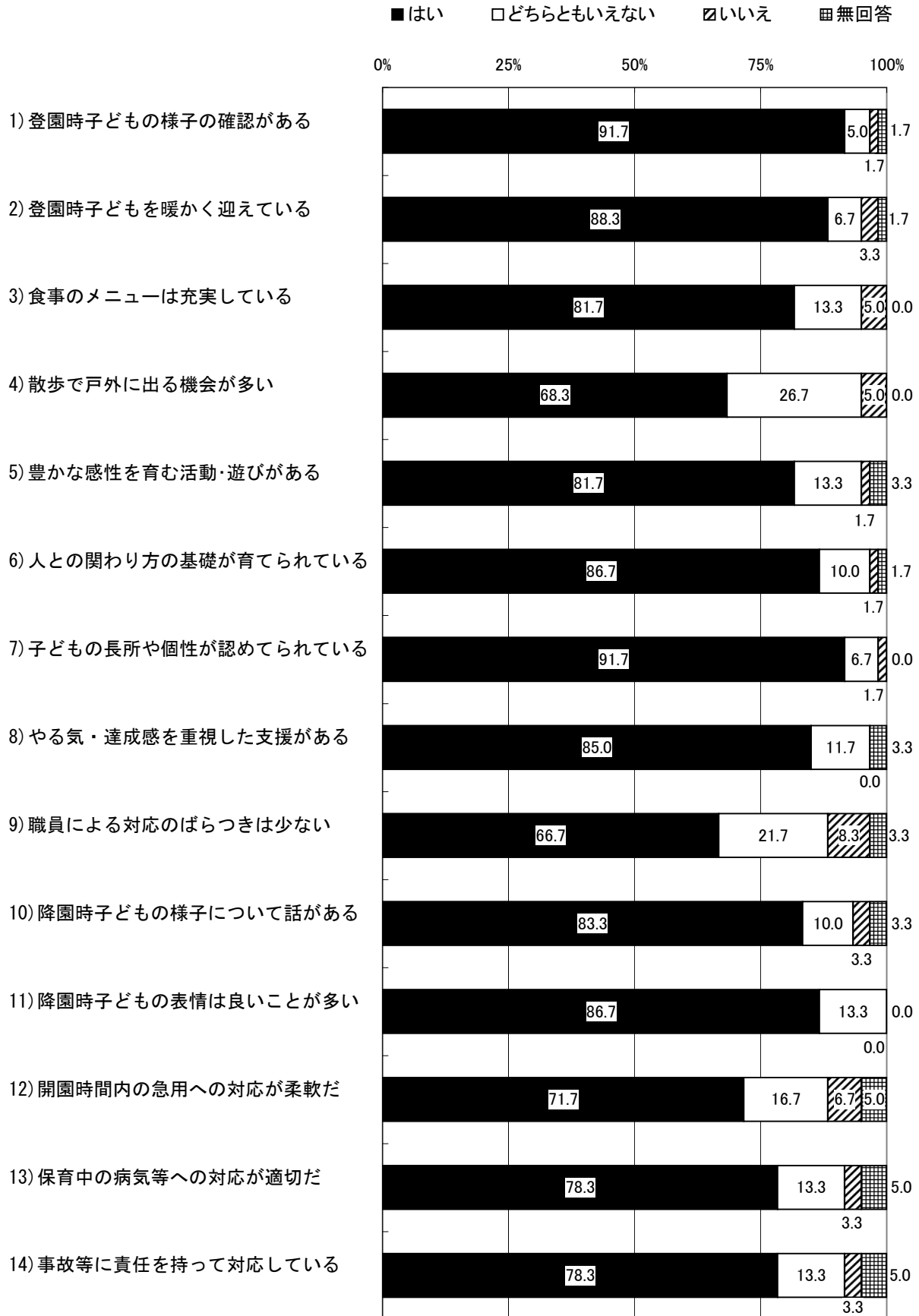
保護者の勤務形態



# 高円寺東保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

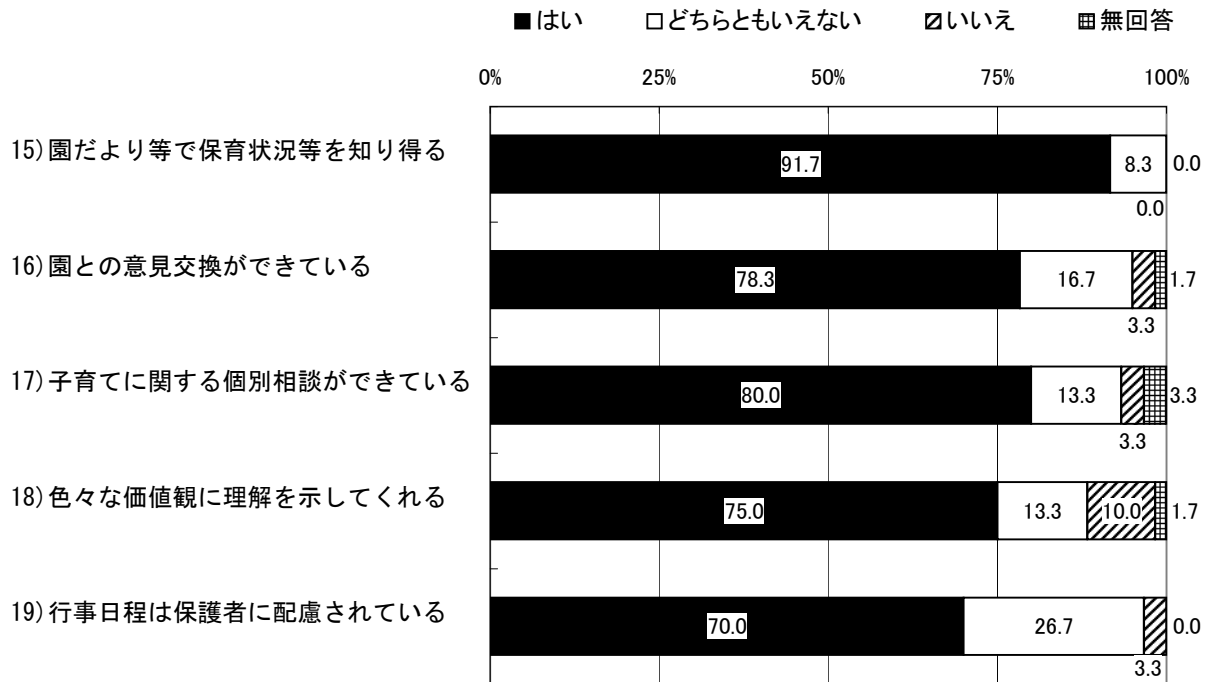
回答者数=60



# 高円寺東保育園

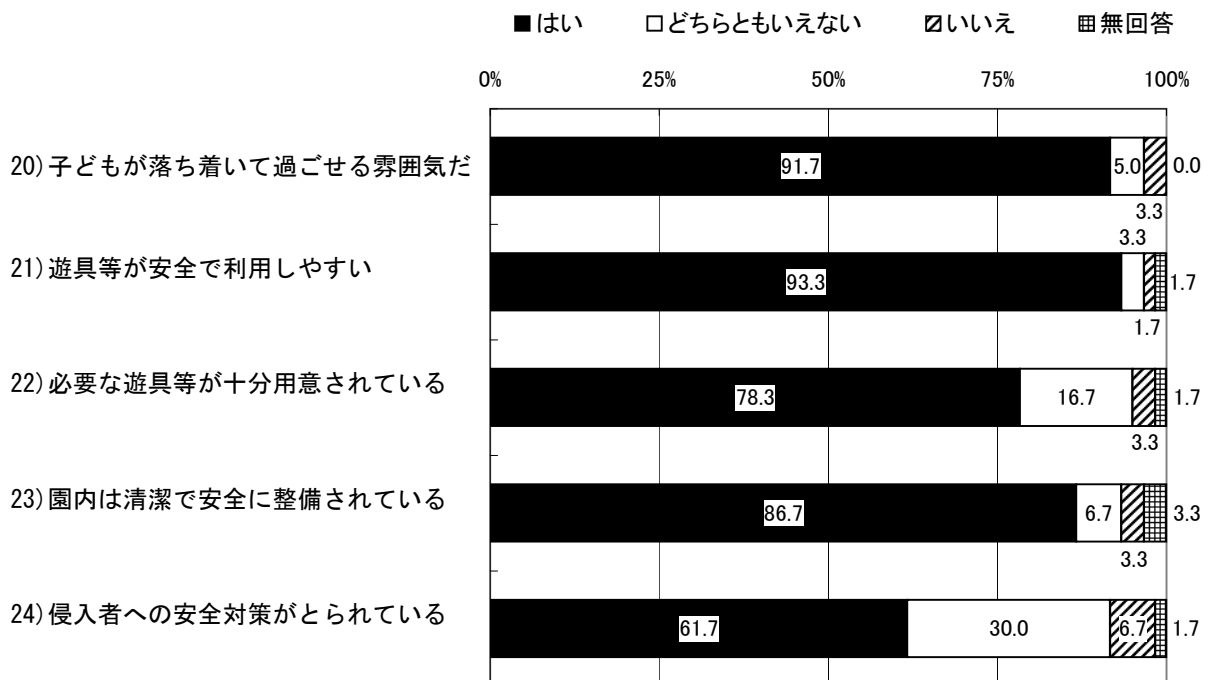
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=60



## 《施設環境についてお聞きします》

回答者数=60

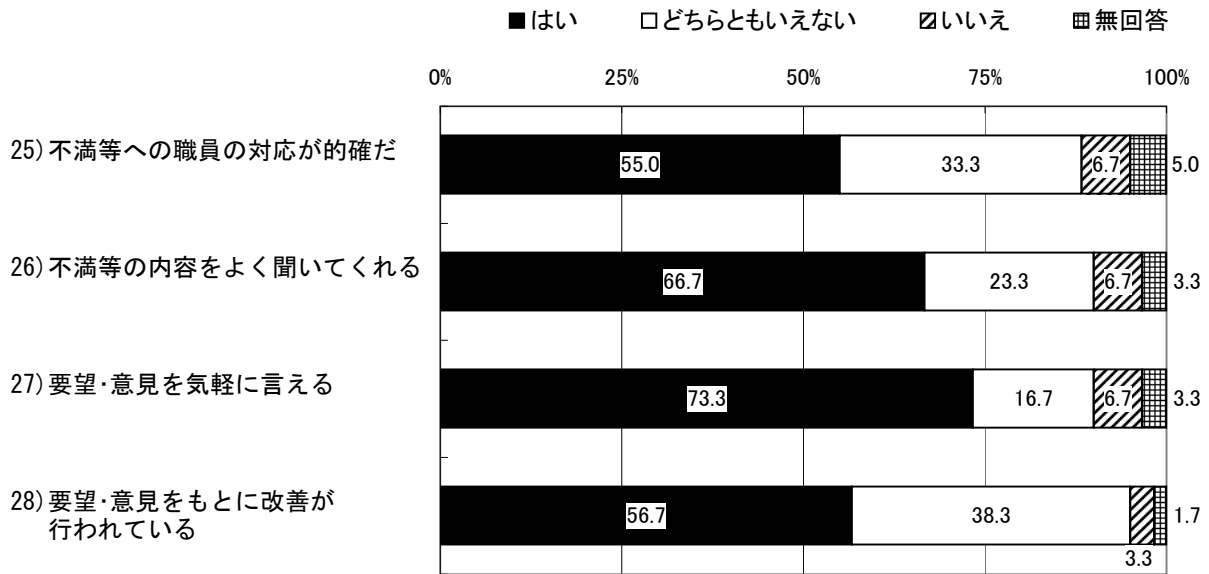




# 高円寺東保育園

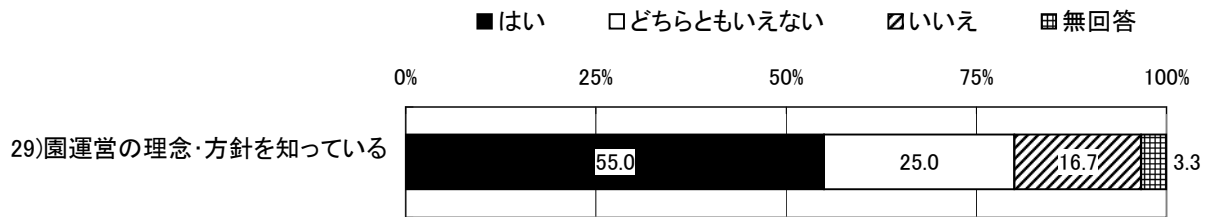
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=60



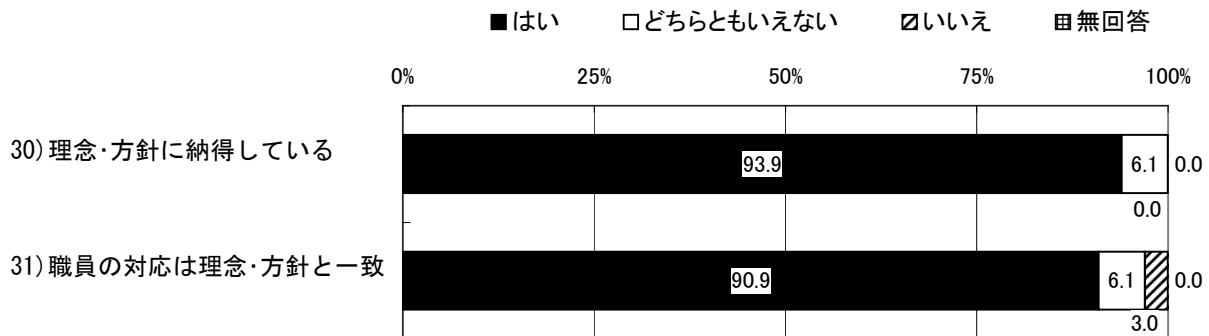
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=60



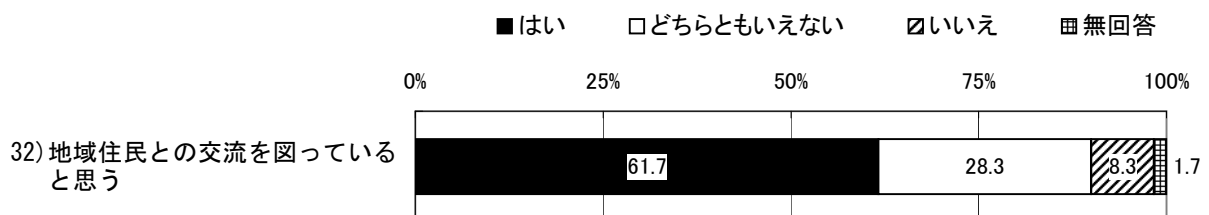
## 問29.で「はい」と回答した方への質問

回答者数=33



## 《地域との交流についてお聞きします》

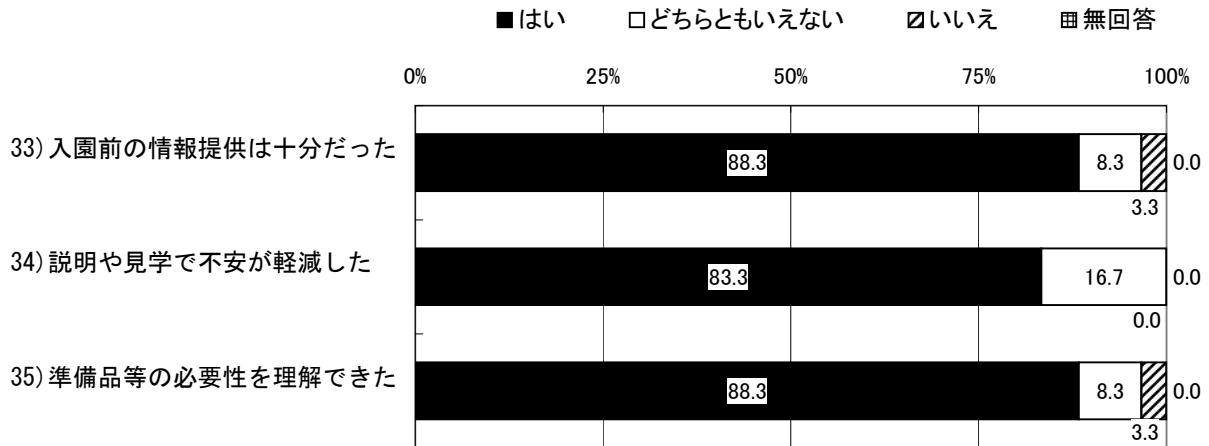
回答者数=60



# 高円寺東保育園

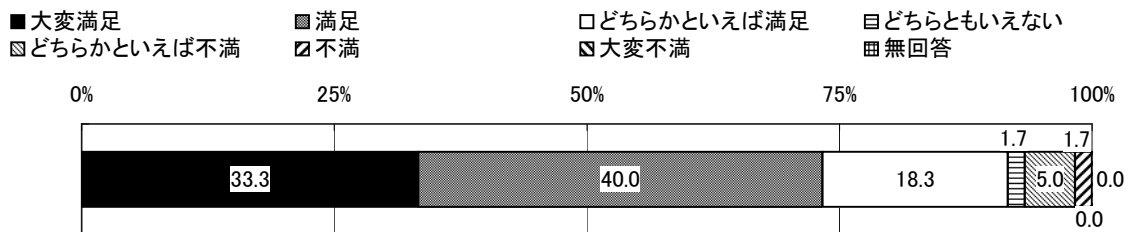
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=60



## 《総合的な感想についてお聞きします》

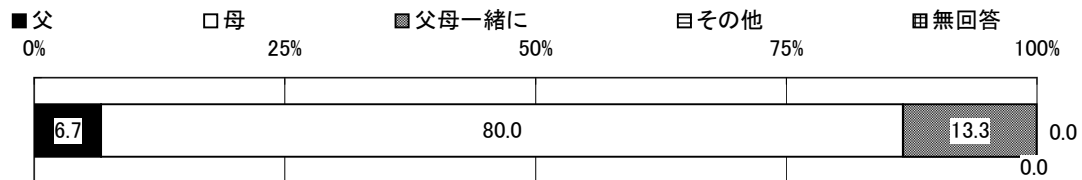
回答者数=60



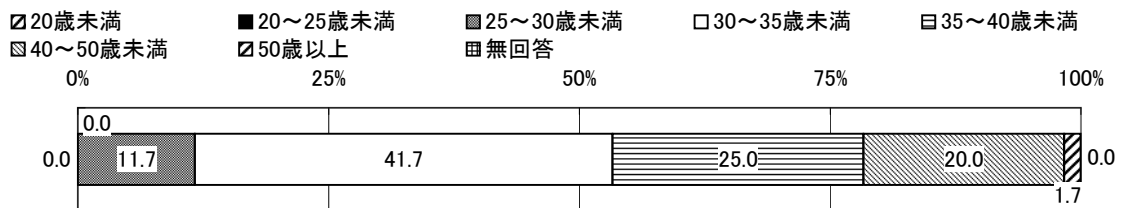
## 《回答者について》

回答者数=60

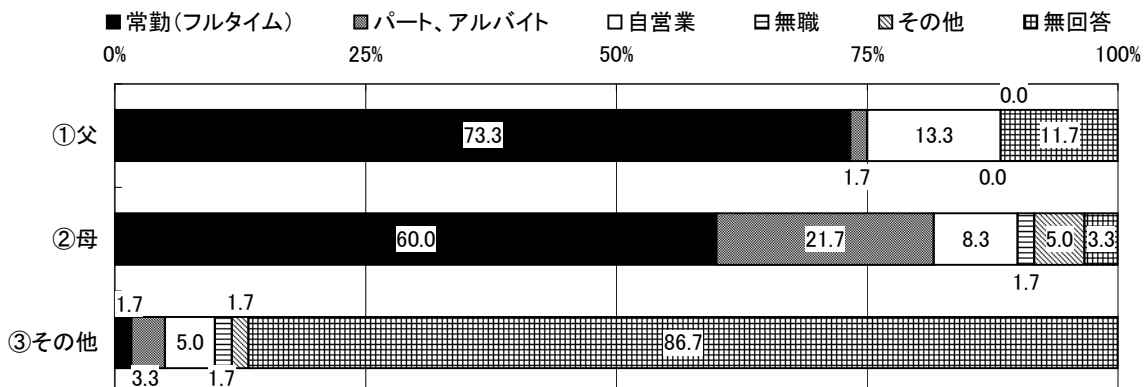
調査票記入者



主な記入者の年齢



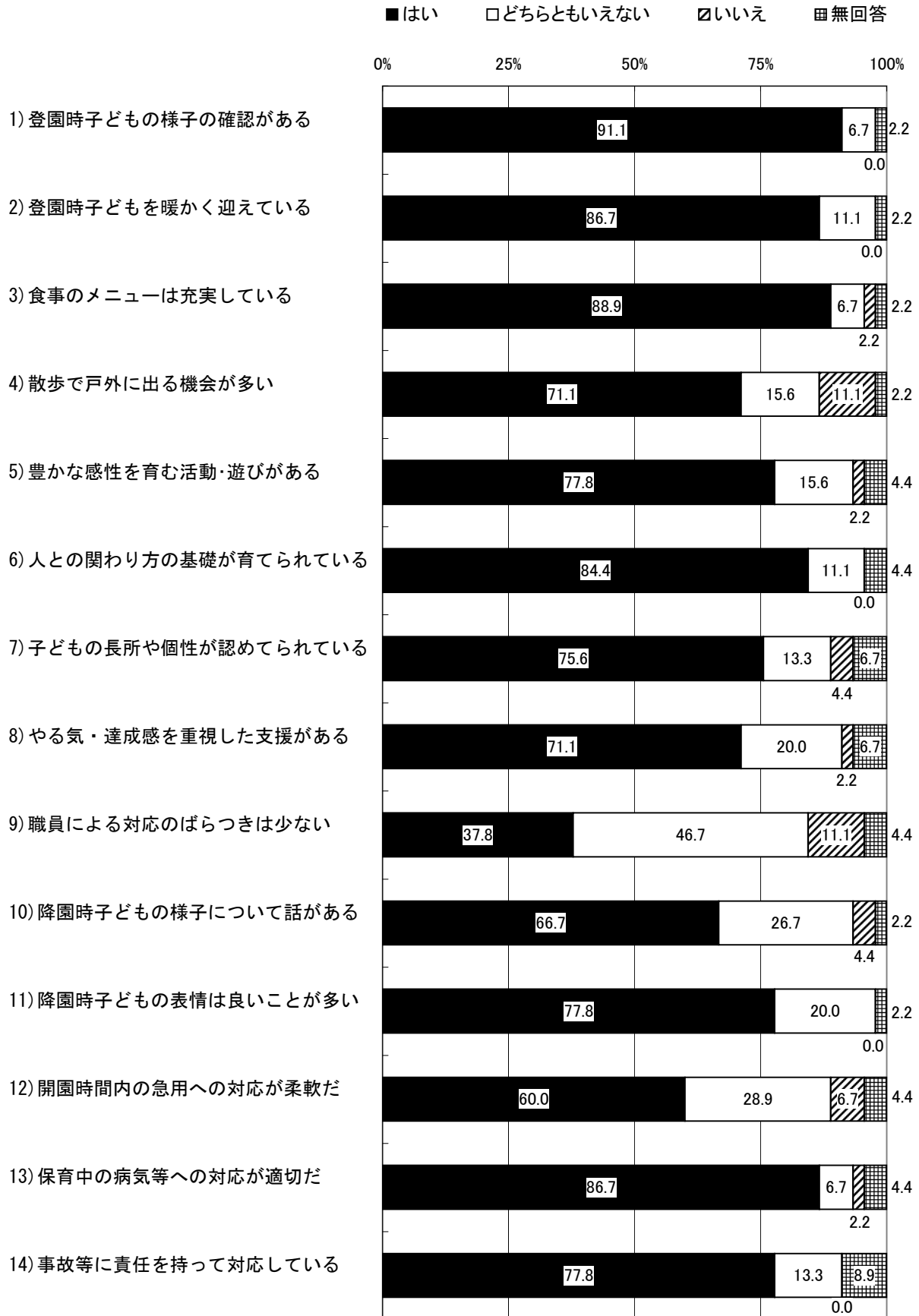
保護者の勤務形態



# 荻窪東保育園

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

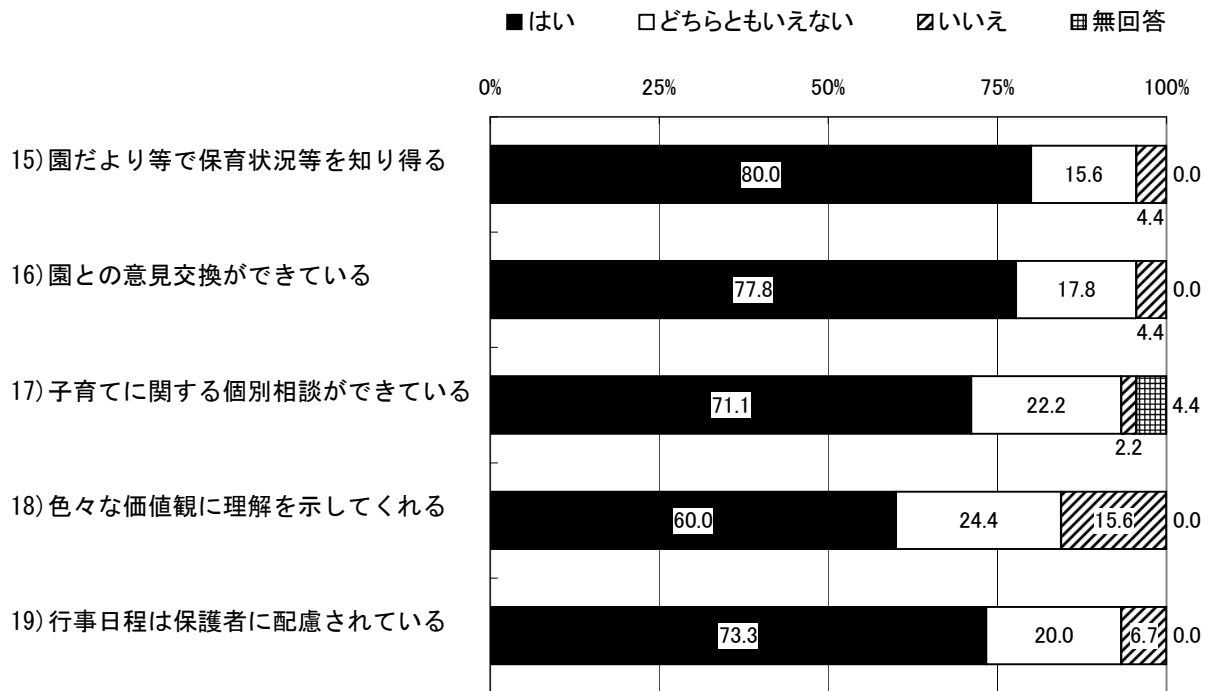
回答者数=45



# 荻窪東保育園

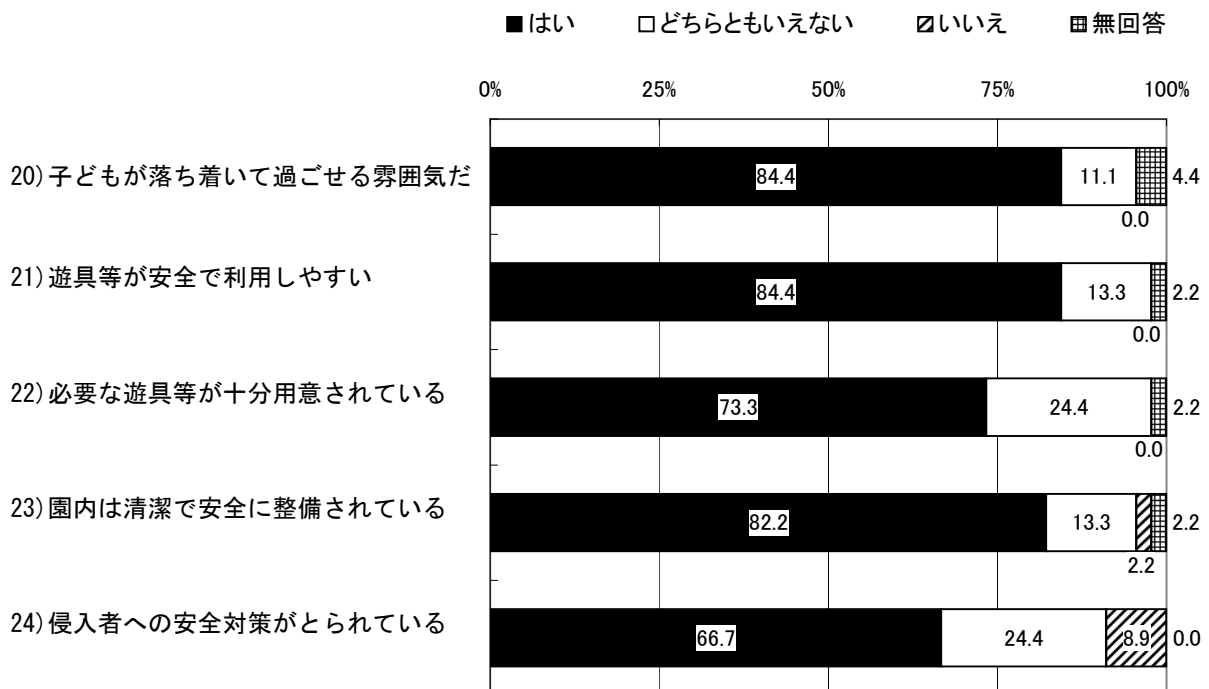
## 《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

回答者数=45



## 《施設環境についてお聞きします》

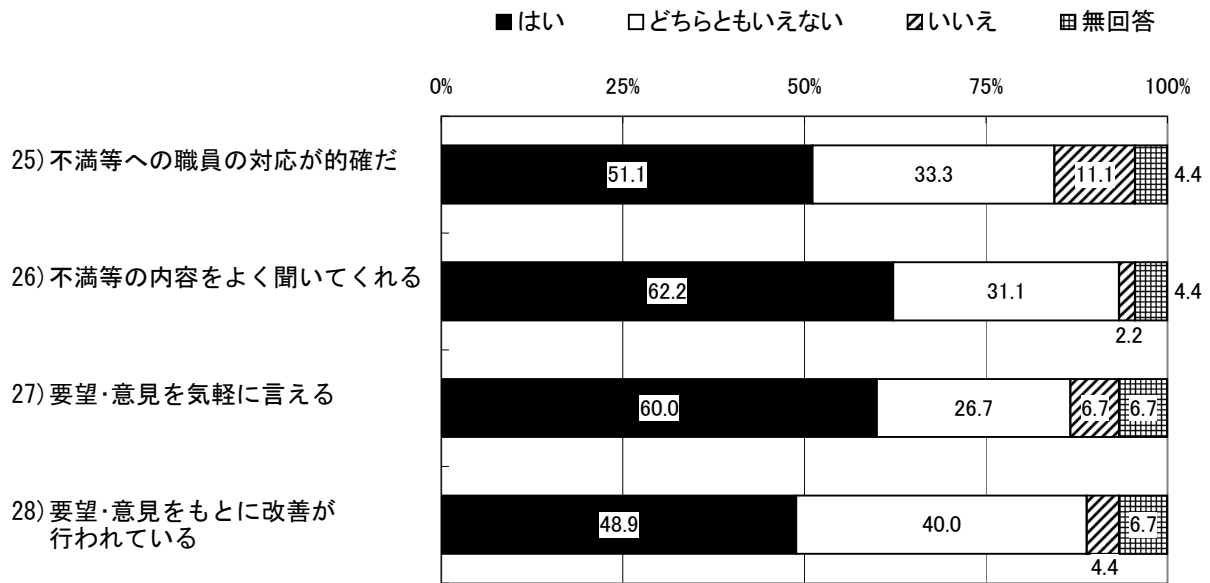
回答者数=45



# 荻窪東保育園

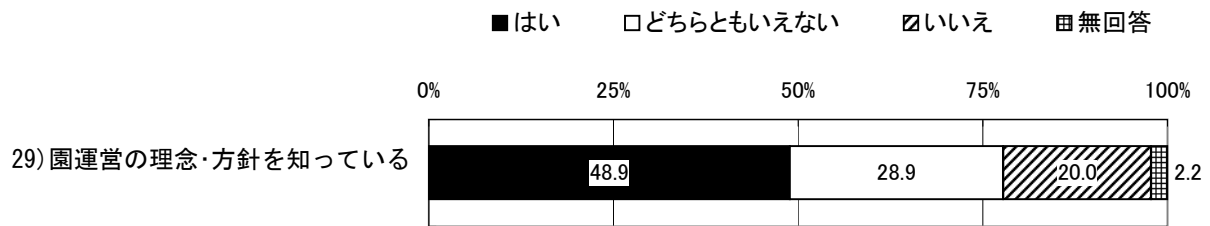
## 《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

回答者数=45



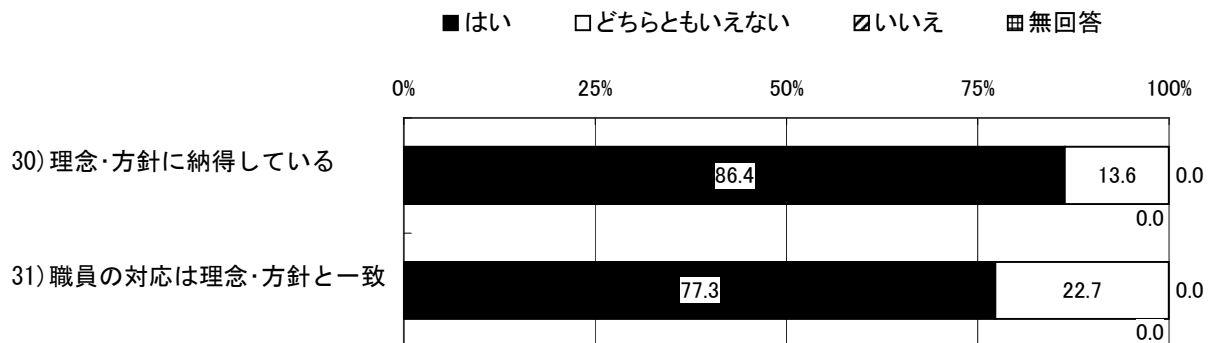
## 《保育園運営方針についてお聞きします》

回答者数=45



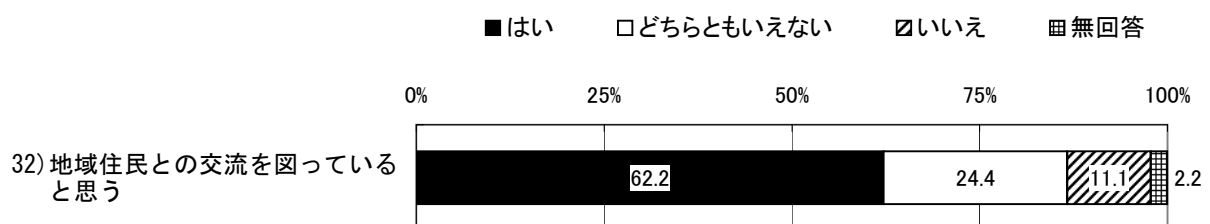
## 問29で「はい」と回答した方への質問

回答者数=22



## 《地域との交流についてお聞きします》

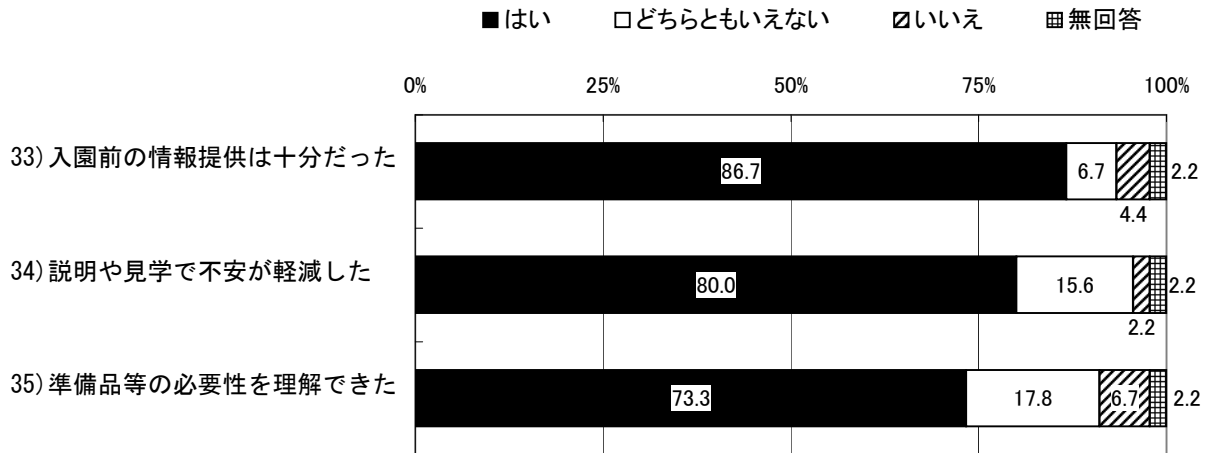
回答者数=45



# 荻窪東保育園

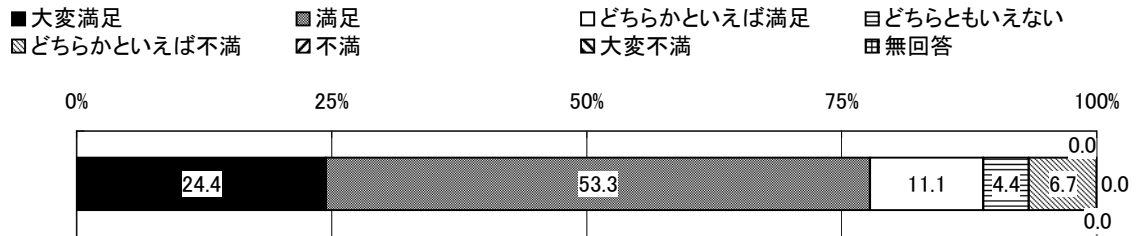
## 《入園前の対応についてお聞きします》

回答者数=45



## 《総合的な感想についてお聞きします》

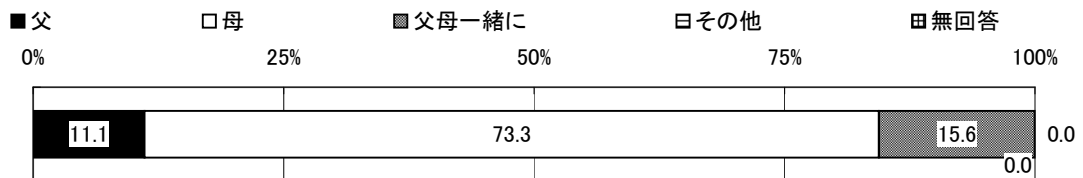
回答者数=45



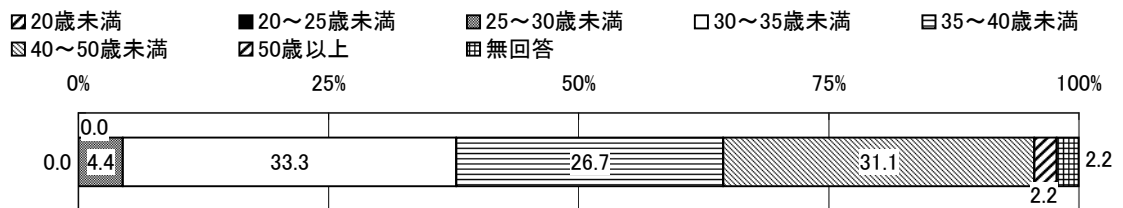
## 《回答者について》

回答者数=45

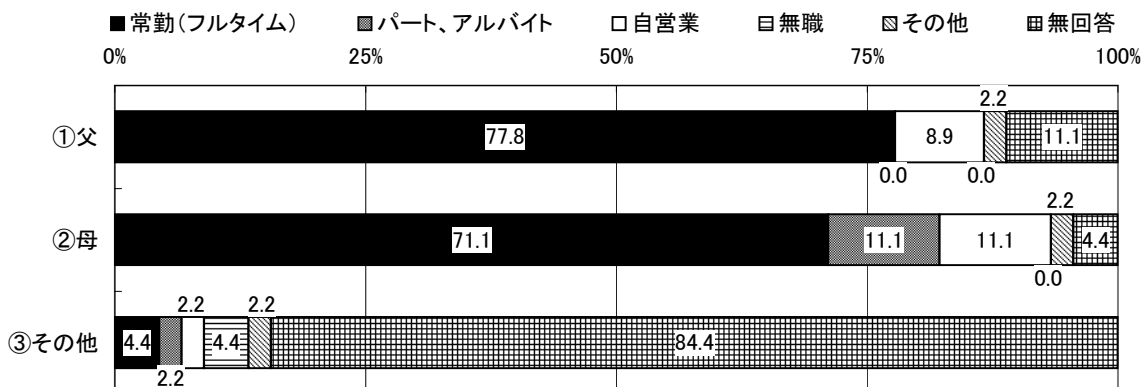
調査票記入者



主な記入者の年齢



保護者の勤務形態



## 第2部 事業評価

# I 評価の概要

組織としてのマネジメント力がどのような状況にあるか、また現在提供されているサービスの質がどのような状況であるかについて、第三者評価機関が経営層及び職員の自己評価を事前に分析し、訪問調査を実施したうえで合議により評価を決定した。（※巻末の付属資料2、巻末の付属資料3）

主な評価項目は以下の通りである。

- カテゴリー1：リーダーシップと意思決定
- カテゴリー2：経営における社会的責任
- カテゴリー3：利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- カテゴリー4：計画の策定と着実な実行
- カテゴリー5：職員と組織の能力向上
- カテゴリー6：サービス提供のプロセス
- カテゴリー7：情報の保護・共有
- カテゴリー8：カテゴリー1～7に関する活動成果（前年度比）

評価者による訪問調査及び評価結果のフィードバックは、以下の日程で行った。

	保育園名	訪問調査日	フィードバック訪問日
1	中瀬保育園	平成18年11月14日	平成19年2月2日
2	西田保育園	平成18年12月1日	平成19年1月24日
3	荻窪保育園	平成18年11月29日	平成19年1月31日
4	四宮保育園	平成18年12月15日	平成19年1月29日
5	和泉保育園	平成18年12月22日	平成19年2月7日
6	高円寺南保育園	平成18年11月27日	平成19年2月14日
7	上井草保育園	平成18年12月14日	平成19年1月29日
8	堀ノ内東保育園	平成18年12月18日	平成19年1月22日
9	西荻北保育園	平成18年11月17日	平成19年1月31日
10	上荻保育園	平成18年12月7日	平成19年2月14日
11	井草保育園	平成18年12月5日	平成19年1月31日
12	善福寺保育園	平成18年11月15日	平成19年2月7日
13	永福北保育園	平成18年12月20日	平成19年2月5日
14	高円寺東保育園	平成18年11月22日	平成19年1月24日
15	荻窪東保育園	平成18年12月11日	平成19年1月30日



## II 各保育園の評価結果報告書

園ごとの評価結果報告書は、それぞれ次の通りである。

	保 育 園 名	ページ
1	中瀬保育園	83
2	西田保育園	119
3	荻窪保育園	155
4	四宮保育園	191
5	和泉保育園	227
6	高円寺南保育園	263
7	上井草保育園	299
8	堀ノ内東保育園	335
9	西荻北保育園	371
10	上荻保育園	407
11	井草保育園	443
12	善福寺保育園	479
13	永福北保育園	515
14	高円寺東保育園	551
15	荻窪東保育園	587

### ■評価結果報告書の見方について

※カテゴリー1～7(活動状況:今年度)の評点の考え方→評点は評価項目ごとに4段階でつけます。

A+: 標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態

A: 標準項目をすべて満たした状態

B: 標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態

C: 標準項目をひとつも満たしていない状態

2 「標準項目」ができていないと確認するための要件は、次の①～③すべてを満たした場合です。

①保育園が当該事項を実施していること

②その実施が継続的(必要性を認識し、計画的)であること

③その根拠が示せること

3 「A+の取り組み」とは、標準項目をすべて満たしたうえで、下記のすべてを満たした取り組みです。

ア 当該評価項目のねらいに合致していること

イ 事業所の理念・方針に合致していること

ウ 事業所の独自性または現状を改善するプロセスが認められること

※カテゴリー8(活動成果:前年度比)の評点の考え方→評点は評価項目ごとに4段階でつけます。

A+: 計画的な取り組みによる改善傾向が確認できる状態

A: 改善傾向が確認できる状態

B: 取り組んでいるが改善結果は確認できない状態

C: 取り組んでいない状態

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	94	
調査対象者数(人)	80	
有効回答数(人)	49	
回収率	61.3	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が91.9%)。個別にみると、肯定的な回答が9割を超えているものはなく、「2.食事のメニューの充実」、「4.豊かな感性を育む活動・遊び」、「5.子どもの長所や個性が認められている」、「16.園の落ち着いた雰囲気」が9割近いという結果である。

一方、「18.外部からの侵入対策」、「19.不満やトラブルへの対応」が適切に行われているという回答は4割を下回るほか、園が取り組んでいる地域との交流・連携についても、利用者の理解が十分得られているとはいえない様子が見える。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	42	85.7	6	12.2	0	0.0	1	2.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	43	87.8	6	12.2	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	37	75.5	9	18.4	3	6.1	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	43	87.8	6	12.2	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	44	89.8	4	8.2	0	0.0	1	2.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	23	46.9	16	32.7	9	18.4	1	2.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	32	65.3	16	32.7	1	2.0	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	40	81.6	8	16.3	1	2.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	36	73.5	8	16.3	1	2.0	4	8.2
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	41	83.7	7	14.3	1	2.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	40	81.6	7	14.3	0	0.0	2	4.1
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	40	81.6	7	14.3	2	4.1	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	33	67.3	13	26.5	2	4.1	1	2.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	23	46.9	23	46.9	3	6.1	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	26	53.1	20	40.8	3	6.1	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	44	89.8	5	10.2	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	37	75.5	12	24.5	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	15	30.6	20	40.8	14	28.6	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	18	36.7	24	49.0	5	10.2	2	4.1
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	20	40.8	20	40.8	6	12.2	3	6.1

#

《事業所名：01 中瀬保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	23	46.9	13	26.5	13	26.5	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	21	91.3	2	8.7	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	17	73.9	6	26.1	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	15	30.6	29	59.2	4	8.2	1	2.0

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の保育理念や目標は入園説明会、保護者会等を通じて内容の理解が深まるような取り組みを行なっている。また、園内の各所に掲示されており、職員や訪園者はいつでも確認することができる。しかしながら、利用者アンケートでは園運営の理念・方針に対する認識度は5割を下回っており、十分伝わっているとはいえない結果となっている。保育目標や組織目標を体系的に整理し、利用者への周知方法を工夫していくことが期待される。	
②	園の重要事項については会議で話し合い、全体で確認し、園長の責任のもとに決定することとなり、決定過程は会議録に記録されている。決定した重要事項は、「園だより」への掲載や、父母会との連携などにより、その内容と決定経緯を保護者に対して伝えているほか、行事等、決定に際し保護者の意向に配慮する必要があるものについては、できる限り保護者の意向を汲み取る機会を設けている。	
③	園では、保育理念や目標、また重要な案件の検討・確認方法などについて、全職員への理解を深める必要性を感じている。異動の機会を逃さずに伝えることや、その際全園で再確認するなど、周知の機会を活かす取り組みが望まれる。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理ハンドブックが常備され、個人情報保護や危機管理に対して注意が払われているが、法令に関する区の研修には希望者が少ないなどを理由に参加していないなど、倫理法令遵守に対する意識の高まりはみられない。子どもとの関係で必要と考えられる法令について、職員会議で取り上げたり、園内研修を実施するなどの積極的な取り組みが望まれる。		
②	実習生・ボランティア等の受け入れについては、杉並ボランティア活動推進センター等を通じて、中学生の職場体験などは要望をできる限り受け入れる形で積極的に受け入れている。これら実習生やボランティアに対して、(子どもの)プライバシーの配慮や個人情報保護の観点も含め、対応手順や注意点等について、マニュアル化することが課題となっている。		
③	地域ネットワークへの参画をはじめ、小学校区の教育懇談会、中学校区の教育連絡協議会、地域運営協議会にも関わり、子どもをめぐる関係機関との連携を図っている。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	行事等についてはアンケートを実施し、利用者の意向を集約しているほか、園では日常的な保護者とのコミュニケーションからの意向把握を重視している。父母会と連携しながら、保護者の意向の反映に努めているが、利用者アンケートでは「要望等への対応」、「要望による改善」、「要望や意見の言いやすさ・聞いてもらいやすさ」(区の独自項目)などについて、肯定的に捉えられているとはいえない状況が表れている。今後は、利用者の理解が深まる取組みの工夫が望まれる。	
②	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査などを通して行っているが、園が主体的に調査結果を分析するには至っていない。園は来年度から延長保育対応の園となるが、経営層だけでなく、職員一人ひとりが区や地域の客観的なニーズを把握することは、日々の保育の実践や保護者対応の面においても有用といえる。	
③	区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」についてはポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。	

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	中・長期的計画については区の「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」等があり、必要に応じ随時見直しを行っている。年度単位の計画については、各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、チャレンジプランを策定しており、これに基づいた園内プロジェクトチームを組織し、達成目標を立てて取り組んでいる。
②	保育面では、保育目標に基づき、年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されており、当期計画の反省を次期計画に活かすサイクルが確立している。行事については、必要に応じて行事のための会議を開き、ねらいや実施予定・内容、実施後の反省を記載し、寄せられた参加者の感想・意見(実施した場合はアンケート結果)をとりまとめ、次回に活かせるようにしている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』に対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練や防犯訓練が関係機関との連携のもと実施されている。また、園では“安全・安心できる保育園づくり”を大切にしており、今年度は園を囲むフェンスを高くすることができた。今後は、不審者対策を含め利用者の関心の高い問題へのより着実な対応と、園の取組みの理解が深まるようなお知らせの工夫などが望まれる。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	<p>常勤職員については配置基準による区の採用があり、非常勤職員についてはのみ園での面接となっている。園には、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権はないといえる。</p> <p>園内の配置については、利用者と園運営の状況を鑑みて園長が責任をもって行ない、クラス担任の決定経緯は、希望状況を含めて職員に公表しており、職員が決定を理解できるよう配慮がされている。</p>
②	<p>園長は年2回の職員ヒアリングを通じて、職員の能力向上に向けた希望の把握に努めている。区では、職員が共通して受ける研修について計画的に開催している。しかしながら、一人ひとりの希望を踏まえた上での専門能力の向上といった見地からの育成計画づくりには至っておらず、園が期待する人材づくりに向けた、計画的な人材育成の展開が望まれる。</p>
③	<p>経験豊富な保育士が多く個々の対応能力は高いものの、利用者アンケートでは「保育士や職員の対応」に多少なりともばらつきを感じる人も少なくない結果となっている。今後はばらつきの要因を探るとともに、目的を明確にした職場研修に取り組み、個々の職員が持っている豊富な経験と能力を、組織として、より高いレベルで共有できるような取り組みが期待される。</p>

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	個人情報の保護制度に関しては、区の条例や関連規則により、個人情報の管理や開示請求の際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。しかし、園の利用者に対する説明・配布資料は用意されておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要といえる。
②	個人情報の利用目的の明示(文書による確認)については、入園申し込み時の書類など一部の情報に限られているのが現状であり、利用目的についての説明が口頭で行われているものも多い。今後は、これらの説明等について、文書化し、目に見える記録として管理することが求められる。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にはなっていないのが現状である。区での入園申し込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。職員に対する個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8
カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている  ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 園が大切にしている安全・安心できる園づくりに向け、園を囲むフェンスを高くした。	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている  ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
園では“職員が心をあわせてなんでも言える関係づくり”をめざしており、職員参加のミーティングを大切にしている。開催時間を参加しやすい時間帯に変更することで、職員の集まりがよくなり、結果として意識や情報の共有化が図りやすくなるという改善がみられた。	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている  ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
チャレンジプランのひとつとして“食育”を取り上げ、園庭での畑づくりや食育のパネルシアターに取り組んできた。実際に子どもが栽培・収穫し、食べる楽しさを感じる機会とすることができた。	

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	<input type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
利用者へのあいさつプラスワン運動や、日常の小さなことの伝達方法を工夫しよう、という取り組みがみられる。しかしながら、目にみえる形での改善傾向を確認するには至らず、継続的な取り組みが望まれる。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	園では“職員が心をあわせてなんでも言える関係づくり”をめざしており、チャレンジプランの1つに“話し合う機会の充実による共通理解を深める”という目標を設定した。職員参加のミーティングを大切に考え、開催時間を参加しやすい時間帯に変更することで、職員の集まりがよくなり、結果として意識や情報の共有化が図りやすくなるという改善がみられた。
②	チャレンジプランの1つとして“食育”を取り上げ、園庭での畑づくりや食育のパネルシアターに取り組んできた。実際に子どもが栽培・収穫したり、食材について楽しく学ぶなど、食べる楽しさを感じる機会を提供することができ、今後も計画的に取り組むことで、さらなる成果を期待したい。
③	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。プランに掲げながら、目に見える成果に至らないものについては、プランを変更するのではなく、長期的に継続して取り組むことが望まれる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)、献立表はひらがなで表記しているものもあり、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。園の基本情報に変更が生じる場合は、迅速なホームページの更新も必要である。	
②	園の行事予定や「ともだちひろば」の年間予定やちらし、ポスターなどを児童館に提供するなど、地域の住民に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	いつでも見学希望者を受け入れる体制を整えており、園長・主査の不在時でも対応にあたっている。施設や食事風景の見学、保育参観・参加などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には説明書類を「はじめのいっぽ」という冊子にまとめ、必要な持ち物などの配布書類を準備するなど、効果的な説明に努めている。利用者が必要としている情報を的確に提供することで、(今回の利用者アンケートで十分な肯定的回答が得られたとはいえない)「入園前の十分な情報提供」や「入園準備品の必要性の理解」(区の独自項目)がさらに進むことが期待される。
②	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。
③	公立区内への転園の場合においては、健康カードの継続受け渡しを実施している。子どもの健康を継続的に見守るとともに、健康診断の再診の負担軽減となるような配慮がみられる。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等を記録している。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。幼児はクラスごと、乳児は個別に目標をたて、計画に沿った保育が行われている。これらの目標や計画は園全体で共有されており、利用者アンケートで9割近い回答者が「子どもの長所や個性が認められている」と感じている結果につながるものとなっている。		
③	子どもの状態の変化、ミーティングでの口頭連絡のほか朝・タノートに記録されるなど、情報を共有する仕組みができています。一方、降園時に子どもの1日の様子を知りたいという保護者の要望も少なくないことから、職員間で引き継がれた子どもの情報を、保護者にもうまく伝達できるとよいのではないかと感じています。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		
評点( A )		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	“子ども一人ひとりの人権の尊重”は園がもっとも大切に考えていることの一つであり、園全体に浸透していることは職員アンケートの結果からもうかがえる。このような職員の意識や子どもと向き合う姿が、保護者にもさらに理解されるような取り組みの工夫が期待される。	
②	子どもや保護者への言動については、子どもや保護者の生活リズムや気持ちを大切にしたい個別対応について職員が確認しあっている。保護者に対しては、職員が“親の気持ちになっての言葉かけ”を心がけ、園全体での共通認識を持つべくマニュアル作成に着手している。一般的に、経験豊富な職員がつい軽視してしまいがちな、聞く態度や褒める姿勢を再認識するための、大変効果的な取り組みとして評価できる。	
③	子どもの羞恥心を養うという意味ではプールの着替えや柵の設置などにより配慮している。羞恥心やプライバシーへの配慮の具体的な対応については、環境や時代にあわせて柔軟に方法を考えていく必要がある。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<p>評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
<p>【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span></p>		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	<p>区では公立園共通の『危機管理マニュアル』の中で、緊急避難、防犯対策、園外活動の注意等基本的な対応についての手順をまとめている。また、感染症対策など使用頻度の高いものは各クラスに設置するなど、業務水準の確保に努めている。園では、職員の共通理解が得られやすいことを目指し、文章・図解などの表現に工夫したマニュアルづくりに取り組んでいることから、その早期完成と全職員への周知が望まれる。</p>	
②	<p>子どもの安全を守ることにについては、細心の注意を払っている。毎日のおそびについても、安全に配慮したルールを作り、文章化して職員に周知している。利用者アンケートでは「遊具等が安全で利用しやすい」(区の独自項目)ことを肯定する人が9割を超えるなど、園の取り組みは保護者に伝わっていることが確認できる。</p>	
③	<p>各クラスの保育リーダーは職員の相談や悩みに対応し、園長は年に2回行う職員ヒアリングの中で、職員への指導や助言を行うなど、高いレベルでの業務の標準化を図る取り組みがみられる。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	利用者アンケートは「豊かな感性を育む活動・遊び」、「子どもの長所や個性が認められている」、「人とかかわり方の基礎が育てられている」(区の独自項目)にいずれもおよ9割の肯定的な回答が寄せられる結果となり、子どもの発達を促すための保育の実践は利用者にも理解されている様子がうかがえる。		
②	具体的な実践内容としては、子どもの遊びたい気持ちを大事にし、時間や空間に配慮することで、保育(あそび)を中断しないように心がけている。遊びに関しても、職員の経験などによる技術や知識の差異をできるだけ小さくする必要もあり、各種研修の実施などによる高いレベルでの標準化が望まれる。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、保育士は区の発達センターを通して専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
<p>幼児は園庭で野菜づくりをしており、栽培や収穫の楽しさを食べることの喜びへつなげるよい機会となっている。また、栄養士を中心として食材や栄養、調理などを子どもたちに説明する食育に取り組んでおり、子どもたちに「食べること」について学び、考えるきっかけを与えている点は大変評価できる。</p>		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	<p>献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や子どもの嗜好のチェックが行われている。栄養士が巡回する際は食育教材を使用して、子どもの食への興味や関心を促す取り組みも行っている。</p>	
②	<p>アレルギーの配慮が必要な子どもについては、保護者が毎月の献立チェックを行い、チェック結果をもとに該当食材を除去した給食が用意されている。また、提供する際はお盆にのせ、一般食とは違うことが視覚的にわかるようにし、配膳の際にも間違えることがないように、細心の注意が払われている。</p>	
③	<p>食事環境については、いすやテーブルの高さを子どもの状態に合わせるほか、おしぼりや紙ナプキンの設置、室内温度調整の配慮などによって、快適に食事できるように配慮されている。また、行事の際はテーブルクロスやランチョンマットの使用など普段と異なる演出で食事を楽しむ雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	

3	<b>評価項目3</b> 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による訪園をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。園医との連携がよく、保護者からの健康に関する相談への対応にも努めている。また、園の看護師が視力検査を行っており、早期発見での適切な処置(眼鏡着用など)による子どもの視力低下防止の取り組みとして評価できる。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、月1回発行の保健だよりを通じて行っているほか、特に感染症に注意が必要な時期は、おたよりのほかに園内の掲示板を利用して注意を喚起するなど、予防対策に取り組んでいる。また、乳児のおもちゃは毎日消毒を徹底するなど、園内の衛生管理には細心の注意を払っている。		
③	子どもへの与薬は、子どもの症状や薬の種類など区で定められたルールに則り、看護師が対応している。薬品受け取りノートや、与薬管理表記入の徹底により、適切な対応に努めている。痙攣や発作などの症状に対応するため、担架を購入したり、子どもが落ち着いて休める場所の確保のために医務室を改善するなど、子どもの健康を回復・維持するための着実な取り組みがみられる。		



4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園では施設面で“子どもが遊びこめる空間づくり”と“一人あそびが保障される環境づくり”を両立すべく、保育室のコーナーづくりの工夫に努めている。季節感のある室内装飾の工夫、仕切りによる静かで落ち着ける空間づくりなどに取り組んでおり、利用者アンケートからは、子どもが落ち着いて過ごす環境が認められている様子がうかがえる。		
②	子どもが楽しめる行事としては、季節ごとのお楽しみ会の開催、お店屋さんごっこ、クリーン大作戦、リズムあそびなどが計画的に開催されている。誕生日には、お祝いのワッペンを貼って一日過ごすほか、月ごとの誕生会では子どもがホールに集まってお祝いをするなど、子どもが主役の楽しさを感じられるようにしている。		
③	食事、睡眠、運動、排泄などは子どものリズムにできるだけあわせる配慮を行い、午睡については、早く寝たい子、目が覚めてしまう子がそれぞれ快適に過ごせる場所の確保に努めている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごと園内に掲示し、降園の際にみてもらえるようにしている。アンケートでは8割を超える回答者が「園だより等で保育状況を知ることができる」と答えており、デジタルカメラの活用によるタイムリーな情報提供の取り組みも認められている様子がうかがえる。デジタルカメラについては、活用の頻度増加やスキルアップも期待される。		
②	遅い登園への柔軟な対応のほか、当日の申し込みで延長保育が受けられるスポット保育の実施などにより、保護者の事情に応じた柔軟な受け入れに努めている。子どもの登降園に関しては送迎時対応マニュアルがあり、ベビーシッターなどが迎えに来る際は身分証の提示を求めるなど、子どもの受け渡しには細心の注意が払われている。		
③	多様な就労形態の保護者みなが満足する日程調整というのは難しいが、調整段階では保護者の行事へ参加しやすさをできる限り考慮している。しかしながら、利用者アンケートでは「行事日程は保護者に配慮されている」と感じる回答者は5割強にとどまっていることもあり、引き続き、納得しやすい調整や経過説明などにより、配慮されていると感じる人の割合が増えることを期待したい。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策を行っている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所をはじめとする関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げに向けた取り組みがみられる。日々の取り組みとしては、衣服の着脱の際の身体チェックや子どもの表情の確認などにより、小さな変化をキャッチすることを心がけている。		
③	園では、“保護者と子育てを共有する”ことに向け、子どもにとって大切な食事や睡眠などの生活リズムについても保護者と共通理解を深めることを大切にしている。父母会に園長や主査が参加して、発達や育児に関する話をすることもあり、共通理解を深めるよい機会としてのさらなる活用が期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	近隣の児童館祭りへの参加や、ふれあいの家への訪問など、地域の施設や住民との交流を継続的に行っている。しかしながら、園の取り組みに比して、アンケートでは「地域住民との交流を図っている」ことについて十分な理解が得られているとはいえ、交流の様子などを保護者にさらに伝える工夫が望まれる。
②	園のすぐ隣を通る、「科学と自然の散歩みち」は花や樹木が植えられ、通る人を楽しませるものとなっている。園では、散歩みちの花壇の手入れには、園児も参加している。子どもが楽しんで参加し、成長した後も思い起こせるような取り組みとして、今後の継続を期待したい。
③	地域の情報は、地域子育てネットワークニュースの配布をはじめ、区から届けられるポスターの掲示やチラシの配布などにより行っている。今後は、さらに積極的な取り組みになるよう、職員も園の周辺の地域のことを知る、という取り組みがあってもよいのではないかと。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	安全で安心できる園づくりに向けた取組み
	内容	園では“安全・安心できる保育園づくり”を大切に考えており、子どもの安全を守ることについては、細心の注意を払っている。毎日のあそびについては、安全に配慮したルールを作り、文章化して職員への周知徹底が図られ、利用者アンケートから「遊具等が安全で利用しやすい」(区の独自項目)ことが認められるとともに、かみつきやひっかきなどの発生件数が減少するという効果につながっている。また、園を囲むフェンスを高くする、防犯灯を設置するなど、施設改善の区への要望が着実に実現しており、安全・安心の具体化の取組みとして評価できる。
2	タイトル	職員が新たな気持ちで子どもや保護者と寄り添う姿勢
	内容	職員の言動については、子どもや保護者の気持ちや生活リズムを大切にしたい個別対応を踏まえて、園全体で確認しあっている。保護者に対しては、職員が“親の気持ちになっての言葉かけ”を心がけ、園全体での共通認識を持つべくマニュアルの作成に着手している。発達や育児について、保育士の言葉をプレッシャーに感じる保護者もいることを十分考慮し、経験豊富な職員がつい軽視してしまいがちな、聞く態度や褒める姿勢を再認識するためにも、初心に返ってのマニュアルづくりは、保護者に寄り添う姿勢の表れとして評価できる。
3	タイトル	子どもの発達や個性を尊重した日々の保育
	内容	園では、子どもの遊びたい気持ちを大事にしている。保育(あそび)を中断しないように時間や場所の設定に配慮し、施設面では“子どもが遊びこめる空間づくり”と“一人あそびが保障される環境づくり”を両立すべく、保育室のコーナーづくりに工夫がみられる。利用者アンケートは「豊かな感性を育む活動・遊び」、「子どもの長所や個性が認められている」、「人とかかわり方の基礎が育てられている」(区の独自項目)には多くの肯定的な回答が寄せられており、子どもの発達や個性を尊重した保育の実践は、利用者の理解を得ている様子がうかがえる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の意向や要望への確実なフィードバック
	内容	行事等についてはアンケートを実施し、利用者の意向を集約しているほか、園では日常的な保護者とのコミュニケーションからの意向把握を重視している。また、父母会と連携しながら、保護者の意向の反映にも努めているが、利用者アンケートでは「要望等への対応」、「要望による改善」、「要望や意見の言いやすさ・聞いてもらいやすさ」(区の独自項目)などについて、肯定的に捉えられているとは言いつれない状況が表れている。今後は、利用者の理解を得るためにも、意向や要望については確実なフィードバックの工夫が望まれる。
2	タイトル	園の活動について保護者の理解を深める工夫
	内容	園では、近隣の児童館祭りへの参加や、ふれあいの家への訪問など、地域の施設や住民との交流を継続的に行っている。また、園のすぐ隣を通る「科学と自然の散歩みち」の花壇の手入れに子どもも参加している。子どもが楽しみながら参加し、成長してからも思い起こせるようなよい取り組みとなっている。しかしながら、このような園の取り組みに比して、利用者アンケートには「地域住民との交流を図っている」ことについて十分な理解が得られているとはいえない。交流の意義や様子などを保護者に伝え、理解を深める工夫が必要といえる。
3	タイトル	一貫性のある園運営の推進
	内容	経験豊富な保育士が多く、個々の対応能力は高いといえるものの、利用者アンケートでは「職員の対応のばらつき」を感じる人が少なからずいる結果となっている。保育の画一化に繋がらないような配慮は必要であるが、利用者が感じている要因を詳しく探り、園として取り組むべき方策を検討する必要があると思われる。また、園の理念や方針が、パンフレット、ホームページ、掲示物など、媒体によって内容が異なり、園の情報の受け手には一貫性の欠如を感じさせてしまうことが懸念される。園のメッセージが、わかりやすい形で表現できるとよいのではないか。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	67	
調査対象者数(人)	62	
有効回答数(人)	39	
回収率	62.9	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体の9割を超える結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が94.9%)。個別にみると、「2.給食のメニュー」、「5.子どもの個性を認めている」、「16.落ち着いて過ごせる雰囲気」に満足する回答は9割を超えるほか、「8.子どもの満たされた表情」、「12.園のたより等で子どもの様子を知る」、「24.地域との交流」についても肯定的回答が8割を大きく超えるなど、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「18.侵入に対する安全対策」、「19.不満やトラブルへ対応」、「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われている及び「21.園運営の基本的な考え方を知っている」とする回答は6割弱にとどまっており、これからの対応や利用者の理解促進が望まれるところである。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	23	59.0	11	28.2	4	10.3	1	2.6
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	37	94.9	2	5.1	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	33	84.6	6	15.4	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	32	82.1	7	17.9	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	36	92.3	3	7.7	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	24	61.5	13	33.3	2	5.1	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	27	69.2	11	28.2	1	2.6	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	35	89.7	4	10.3	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	28	71.8	7	17.9	2	5.1	2	5.1
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	30	76.9	5	12.8	0	0.0	4	10.3
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	31	79.5	3	7.7	0	0.0	5	12.8
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	34	87.2	5	12.8	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	28	71.8	8	20.5	3	7.7	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	28	71.8	9	23.1	1	2.6	1	2.6
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	32	82.1	5	12.8	2	5.1	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	36	92.3	3	7.7	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	30	76.9	9	23.1	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	22	56.4	15	38.5	2	5.1	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	21	53.8	12	30.8	1	2.6	5	12.8
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	22	56.4	15	38.5	0	0.0	2	5.1

#

《事業所名：02 西田保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	19	48.7	8	20.5	12	30.8	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	18	94.7	1	5.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	19	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	34	87.2	5	12.8	0	0.0	0	0.0



## I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;">○非該当</span>	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>	
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;">○非該当</span>	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育理念、保育の基本方針、保育目標は事務室、休憩所に掲示されているとともに、園のしおりの最初のページに掲載し、職員や保護者にも分かりやすく伝えている。特に保護者に対しては、年度の最初の父母会の場でこれらを伝えているなど、周知に努めている。また、「目指せ五つ星区役所」運動のチャレンジプランの達成目標として、“組織目標を職場内に掲示しわすれないようにする”を掲げ、積極的に取り組んでいる。しかし、利用者アンケートによると、利用者、職員ともに周知度は区平均よりもやや低いことから、今後は周知方法の工夫が望まれる。	
②	園内における役割分担は、園長・主査の職務分担表を作成するとともに、職員会議等の場で方向性を示しているものの、職員アンケートでは評価が分かれており、職員が十分理解できていないことも考えられることから、さらに分かりやすく伝えていくことが望まれる。	
③	重要な案件については、会議等を通して全職員に伝えているだけでなく、職員も関係する重要案件に関しては、各担当職員が2人チームで案件を作成し、職員会議により決定するなど、経営層と職員の連携による重要案件を決定している。近年の事例では、運動会の延期日に関する改善がされるなど、アンケート調査項目の「行事日程は保護者に配慮されている」における高い評価につながっている。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされており、毎年受け入れている実習生への対応の標準化と準備が整っている。実習生の希望を反映させながら、要望に応じて全クラスを担当できるようにしている。		
②	杉並ボランティア活動推進センターを経由してボランティアの受け入れを行っている。また、地域の中高生に対して、次世代育成の観点から保育と職場の体験学習の場を提供している。子ども達も、ボランティアと関わることでいつもと違う体験ができ、よい刺激にもなることから、園としては前向きに受け入れている。なお、子どものプライバシーの保護には十分配慮するとともに、安全対策の面からも、職員とボランティアの役割は明確になっている。		
③	地域の関係機関との交流・連携については、小学校区を中心としたネットワークが構築されており、専門知識を生かし児童館の催し物に協力している。また、地域で子育てをしている親子を対象に園庭開放、おもちゃの紹介、体重測定など多くの取組が行われている。職員アンケートにおいても「園の機能や専門性を生かしている」という回答率は高く、地域への機能還元に対する園の意識は高いことがうかがえる。		

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ1		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	
カテゴリ3の講評(一つ以上)	
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園ではその概要と委員の氏名を記載したポスターを、園庭の入り口付近に掲示して周知している。
②	保護者から日頃寄せられる意見や苦情はノートに記録するほか、イベント開催時にはアンケート調査をするなど、利用者意向を把握する取組が行われている。大きなイベントのひとつでもある運動会については、アンケート調査を実施し、寄せられた声を園だより紹介するとともに、次年度の改善に努めている。一方、日頃の保育に関するアンケート調査など、全般的な意向の集約・分析には至っていない。
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。状況把握等において園が主体的に取り組んでいるとはいえないが、これらの調査結果を活用する機会を園独自に設定することは可能であろう。経営層だけでなく、職員一人ひとりが区や地域の客観的なニーズを把握することは、日々の保育の実践や保護者対応の面においても有用といえる。

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」を策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、園では職員参加型による年間の「指導計画」や「年間行事計画」を作成するとともに、子ども一人ひとりの状況を勘案しながら計画的な保育が実施できるよう、月間の指導計画や週ごとのカリキュラム作成が行われている。
②	区では行政改革の一環として、接遇をはじめとして各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っており、年度毎に各部署(園)及び各職員において目標を掲げ、それが実現できたか否かを評価する制度が定着している。
③	子どもの安全確保については、区においてその対応方法を『危機管理マニュアル』としてまとめている。地震・火災・不審者等の災害・緊急時の対応については、消防署をはじめとする関係機関との連携のもと、定期的に訓練を実施している。また、他園の事故など、失敗事例をいかしたマニュアル作成や学習会を開催するなど安全の確保に取り組んでいるが、今後は園の取り組みを保護者に十分に周知することも必要と思われる。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	区では「研修歴カード」を用い、採用以来これまでに参加したすべての研修を記録している。園においては、園長が個別ヒアリングを行い、職員一人ひとりの希望を把握し、担当や業務分担、研修派遣に反映させている。一方で、職員の意向は「研修歴カード」に記録されないため、園長や職員の異動があると、意向が継続しにくいという問題がある。異動に影響を受けない、一人ひとりの質が向上される仕組みが期待される。
②	園内の環境や遊具の改善など、役割分担を決め、職員一人ひとりが積極的に提案し、反映できる仕組みをつくっている。また、それらの提案は、毎月行われる指導計画作成の場で、全職員が共有できる仕組みをつくっている。こうした取組は、利用者アンケートにおいても、「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」などに対する高い評価に表れている。
③	研修に参加した職員は、その研修後に職員会議での研修レポートの発表を行っている。研修に参加した職員だけでなく、職員全体への波及効果を期待する取り組みとして一定の評価はできるものの、さらなる波及効果が期待される。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
評点( A )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
評点( B )	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている情報の大半は、「紙」の文書であるが、それぞれの文書はフォルダを用いて誰が見ても見やすく管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき、整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われていると評価できる。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、個人情報保護の方法や個人情報を本人に開示する際の手続きなどが詳細に決められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対しても明示されている。また、園においても児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理がなされているとともに、職員についても個人情報保護制度に関する研修を全員が受けるなど、個人情報保護に対する組織的な対応が図られている。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にされていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。また、職員の意識を高めるために、個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8		
	カテゴリ1～7に関する活動成果		
	サブカテゴリ1		
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している		
	<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」                  ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」                  ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」</p>		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	<p>改善の成果</p> <p>区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。園長のリーダーシップにより、「地域版園だより」の発行など、新たな取り組みが行われている。</p>		
	サブカテゴリ2		
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」</p>		<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
<p>改善の成果</p> <p>日々の日誌をはじめ職員間で文章の共有化を図るため、職員グループで日誌等の記録について、分かりやすさ、誰に何を伝えるかなど分析に取り組み始めた。このことは、園長や主任が書き方について指導するだけでなく、職員同士の気づきを通じて、職員ひとり一人の能力を高めるとともに、組織の能力の向上となる取組として評価できる。</p>			
サブカテゴリ3			
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している			
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <p>・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」                  ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」</p>		<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
<p>改善の成果</p> <p>園だより、クラス便りの他、日々のクラスの様子を保護者に伝えるため、教室入り口のホワイトボード(掲示板)を利用し、登園・降園の際に文章で伝えている他、デジタルカメラを利用し、プリントしたものを掲示している。特に当園においては、外国籍の保護者もいることから、文字情報に加え、ビジュアルなもので情報を共有することに配慮した方法として評価できる。また、リアルタイムで保護者に伝える方法としても評価できる。さらに、この取組は、職員の発案がもとになっており、組織力が活かされているという。一方、写真を撮影する際には、あらかじめ承諾を得るなど、個人情報に配慮している。</p>			



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	<input type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
保護者との交流やアンケート等を通じて意向を把握する取り組みは行われているものの、利用者アンケートの「要望・意見やトラブルへの対応」関連項目や職員アンケートの関連項において、成果として現れているとはいえず、改善傾向が示されていることが確認できない。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。
②	小規模園の特性をいかし、一人ひとりの職員の意見を反映させホワイトボードやデジタルカメラを活用した保護者との情報交換が、保護者アンケート調査の「園だより等での保育状況を知り得る」など、高い評価にあらわれている。しかし、「登園時の子どもの様子の確認がある」については、評価が低いことから、さらなる改善を期待したい。
③	新たな取り組みとして「地域版園だより」の発行など、地域との交流の輪は着実に広がっており、園に通う子どもだけでなく、地域の子どもを支える保育園として評価できる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内や献立表など、外国語(英語・韓国語・中国語)やひらがなで表記しているものもあり、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。 また、地域で子育てをしている親子を対象にした「ふれあい保育」のちらしやポスターを様々な機会を通じて配布するなど、地域にひらかれた園づくりのための情報発信も積極的に行っている。	
②	園だよりやクラスだよりは、季節や行事、園での子どもの過ごす姿などを豊富に盛り込むなど内容の工夫がみられる。タイムリーで視覚に訴える情報提供については、デジタルカメラのさらなる活用により、頻度や情報量などの強化が望まれる。	
③	常時園を開放しており、いつでも見学希望者を受け入れる体制を整えている。園長・主査が中心となって対応し、施設案内や園での生活体験などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には区の資料のほかに園で作成している「入園のしおり」を配布し効果的な説明に努めている。また、曜日(H18年は土曜日)や開催回数(H18年は2回)については、できる限り参加者の状況にあわせた設定がみられる。 利用者アンケートでは回答者の9割ほどが「入園前説明会によって不安が軽減した」及び「入園説明会によって準備品が理解できた」と評価しており、園のきめ細かい対応を裏付ける結果といえる。
②	入園前に、ふれあい保育や園庭開放への参加などを利用した慣れ保育を薦めるなど、子どもや保護者の不安やストレス軽減に努めている。また、乳児には保育士の担当制を導入している。 不安感については子どもや家庭によっても違いがあるため、入園前の個別相談には複数回応じることもある。
③	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <span style="float: right;">評点( A )</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。幼児の計画はクラスごとに作成している公立園が多い中、子ども全員について指導目標を定めた個別の計画を作成している。保育士が子ども一人ひとりの姿を計画という形で明確に捉えていることは、利用者アンケートで9割を超える回答者が「子どもの長所や個性が認められている」と感じている結果につながるものとして評価できる。		
②	計画内容について保護者に対して年度当初にポイントを説明するなど、子どもの育ちに関する意識の共有化を図っている。個人面談や保護者会で出された排泄や散歩などに対する意見についても積極的に計画に取り入れるなど、保護者と園がともに保育する姿勢をみせている。		
③	子どもに関する情報は、定期的な会議のほか、問題が発生した場合は随時話し合う、また連絡ノートを職員間で共有するという仕組みができています。非常勤職員に対しては、重要事項のみを口頭での伝達するにとどまるが、今後は、指導計画の内容も含めた情報共有の仕組みづくりが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	“多様化する保護者の価値観を受け入れる”という園の基本姿勢がみられる。保育士としての考えと保護者の価値観が一致することばかりではないが、結論を急ぐよりも保護者の気持ちに寄り添い、まずは肯定するところからスタートするということが心がけている。利用者アンケートでも「色々な価値観に理解を示してくれる」ことは肯定的に受け止められている結果となっており、園の取り組みへの評価は高いことがうかがえる。
②	子どもや保護者への言動についてふりかえる際は、“自分に置き換えて考える”ことに努めている。自分が子どもだったら、自分が保護者だったら、という思考経路にあてはめ、園として、保育士としてできることを見つけるヒントとしている。
③	子どもの羞恥心を養うという意味ではプールの着替え場所(外から見えないように)、羞恥心に配慮するという点ではトイレに失敗したときの着替え場所(目立たないところ)の設定などを徹底している。羞恥心やプライバシーへの配慮の具体的な対応については、環境や時代にあわせて柔軟に方法を考えていく必要がある。

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
○あり ●なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3		標準項目	
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)			
①	区は、公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、防犯、防災、けが、事故、病気、園外活動などの際の対応について手順をまとめている。防犯については、園で作成したマニュアルをもとに訓練を行うなど、職員全員への周知が必要なものについては重点的に標準化を図っている。		
②	地震や火事の防災訓練は毎月実施している。防犯対策についても、園の立地等を踏まえた訓練を行っている。保育士は子どものけがや病気など健康面をカバーする取り組みを行い、子どもの安全性に配慮した取り組みに力を入れている。看護師の配置はないが、健康・安全・衛生管理等の面について、職員自らが積極的に取り組む姿勢がみられる。		
③	小規模園ということで、人数の面では職員間の意思疎通は図りやすいといえる一方、会議など職員が集る時間的には厳しい制約がある。夜間に職員会議を設定しているが、その時間を有効に活用するためにも、活発な意見交換をしやすい雰囲気づくりや、効果的な資料提示などの工夫が望まれる。		

## Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子どもの発達や家庭での生活状況については、保護者との面談・連絡帳のやりとり・登降園時のコミュニケーションなどにより把握し、保育計画に反映させている。園が大事にしている“子ども一人ひとりの発育・発達・人権を認めた上で、安全で家庭的な保育”を行うためにも、把握した情報は園全体での共有に努めている。		
②	園外遊びのコーナー設定やおもちゃの配置は、各クラスで年齢(月齢)にあわせて工夫している。室内にある木製の汽車、長いトンネルや大型積木、ダイニングキッチン・木製のおもちゃなどは、子どもはもちろん保護者の好評も得ている。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、保育士は区の発達センターを通して専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供の体制を整えている。 今後は、効果的な支援体制づくりや、家庭と共通理解をもつための工夫という点での取り組みが期待される。		

2	<b>評価項目2</b> 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( <b>A+</b> )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
	●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
○あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	●非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">●あり ○なし</span> 栄養士は常駐していないが、定期的に来園している。その際には子ども向けの紙芝居や成分表などを使って食育指導を実施するほか、保護者への栄養指導、食に関する質疑応答の場として活用している。 子どもが野菜の栽培や収穫を行い、園で調理して給食として提供しており、食べる意欲の増進につながっている。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や子どもの嗜好のチェックが行われている。統一メニューとはいえ、利用者アンケートでは9割を大きく超える回答者が「食事のメニューの充実」に満足するという結果である。園で取り組んでいる栄養指導をはじめとする食に関する情報発信が、保護者に肯定的に受け止められていることも、園の食事に関する評価を高める要因となっていることが推察できる。		
②	座席は毎回同じ場所にするなど、落ち着いて食事ができる環境づくりに配慮している。また、午前中に身体をたくさん動かすという工夫により、給食までにお腹をすかせ、食欲増進につなげている。		
③	アレルギーをはじめ、保護者の信条等にも配慮した食事の提供を行っている。毎月、保護者と一緒に除去する食材等の確認を行い、提供の際はトレイや名札の徹底によって、間違いのないようにしている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>B</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。		
②	看護師は常駐していないが、保育士は園医や看護師の指導を受ける機会もあり、けがや病気についてはまず保育士が対応する体制を整え、対応マニュアルは各クラスに設置されている。しかし、利用者アンケートでは「保育中の病気等への対応」について適切と感じる人が多数を占めるとはいえず、安心感の面からも看護師の不在をカバーするのは困難な状況と言わざるを得ない。引き続き、園全体としてけがや病気への対応方法のスキルアップに向けた取り組みが期待される。		
③	午睡チェックの完全実施により、乳幼児突然死症候群を予防している。感染症については、看護師の指導により、使い捨ての手袋・エプロン等での嘔吐物や下痢の処理を徹底している。感染症の発症が気になる時期には、保健だよりや園内の掲示を通じて、保護者へもその予防方法のお知らせとともに注意を促している。		

4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生日会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園の保育目標である“心身共に健康な子ども”の実現に向けて行事が計画・実施されている。園全体から祝ってもらいながら過ごす誕生日や、子どもが作った工作を一斉公開する作品展、わくわくパーティーなどのほか、毎月のお話会など、子どもが楽しめる行事の開催がみられる。 また、3才から5オクラスは、一緒に生活するたてわり交流を積極的に取り入れるなど、刺激のある生活づくりも行われている。		
②	園庭の整備を2年かけて行い、子どもがはだしで歩けるクローバーを植えるなど緑のある環境づくりが行われている。また、園底に隣接する高い塀は、好意により園でペイントしてよいことになり、保育園らしいイラストが園庭を囲み、楽しい雰囲気づくりに貢献している。 利用者アンケートでは9割を超える回答者が「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」であることを評価する結果となっている。		
③	食事や午睡については場所を固定している。眠りのリズムが他の子と異なる子どもについては、居場所を確保するなどきめ細かい対応に努めている。前述の異年齢児交流等による刺激は、このような落ち着ける場所の確保とバランスを保つことで、子どもの生活を快適にしているといえるのではないかと。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	運動会などの大きな行事については、アンケートの実施などによりできる限り保護者の意向を反映させた日程を調整に努めている。多様な勤務形態の保護者全員の意向を汲むことはでき得ないが、利用者アンケートで8割を超える回答者が「行事日程は保護者に配慮されている」と感じている結果は、園の行う日程調整の工夫や配慮が充分認められていることがうかがえる。	
②	区では1日単位で延長保育の利用ができるスポット保育を導入するなど、保護者の事情にあわせた対応を進めている。限られた延長保育の枠を有効に使う取り組みとして、今後の展開が期待される。	
③	園だよりやクラスだよりの中で、園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごとをホワイトボードに記録し、降園の際にみてもらえるようにしている。園では、保護者の関心の高さという優先順位を意識した情報発信を心がけており、内容や方法について常に検討する姿勢は評価できる。最近ではデジタルカメラを活用するなど迅速な情報提供に努めており、今後は、活用の頻度増加やスキルアップが期待される。	

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待防止やその恐れがある子どもを守る仕組みは、『虐待防止マニュアル』の実践をはじめ、児童相談所をはじめ保健所、子育て支援センターなど関係機関との連携により整えられている。気になるケースは園全体で情報を共有し、対応を前述の機関に相談するなど、早期対応に心がけている。		
②	保護者会では、栄養指導や年齢にあった発達・育児の目安など園からの発信のほかに、保護者自身に子育ての様子を話してもらう機会を設けている。身近なところで他の家庭の状況を知ることが、子育てを振り返るよいきっかけとなり、結果的に問題発生時の抑止力という効果がみられる。		
③	職員は、園内外の研修や勉強会により、支援方法のスキルアップに努めている。ケースは様々で、支援の要不要を含め検討すべき内容は膨大であるが、できる限り園全体で受けとめ、子どもと保護者にとっての最善策を模索する姿勢がみられる。継続的な園全体のスキルアップによって、多様化・深刻化するケースに対応できる体制づくりが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	地域の人が参加できる行事には、夏祭り、運動会、春と秋のお楽しみ会があり、これらについてはチラシの配布やポスターなどで地域に広くお知らせしている。利用者アンケートでは9割近い回答者が「園が地域住民との交流を図っている」と感じており、地域の親子が楽しんで参加する様子が、子どもの保護者にも伝わっているといえるのではないかと。また、行事にはボランティアや体験保育の学生も積極的に受け入れ、子どもにとっても色々な人とふれあうよい機会となっている。
②	区の地域ネットワーク事業の一環として、近隣の小学校で催されるフェスティバルに招待されたり、他の保育園と遊びの交流を行うなど、子どもが多くの人と交流する機会は確保されている。また、ゆうゆう館での歌などの発表会は、高齢者とふれあう機会にもなっている。
③	地域交流によって、子どもの生活の幅の広がりには充分確保されているといえるので、今後は、人材をはじめとする園の限られた資源のバランスのよい利用や、人の出入りをふまえた安全性の確保、さらに相手にも喜んでもらえる交流方法の検討などの展開が期待される。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	恵まれた園環境、小規模で家庭的な雰囲気の中で行われる保育
	内容	シンボルツリーを囲む様に建てられている平屋の園舎は、事務室から園庭全体や各クラスでの子どもたちの元気な様子を確認できる造りとなっている。園は“子ども一人ひとりの発育・発達・人権を認めた、安全で家庭的な保育”を大切にしており、施設環境とともに、子どもや職員の数(が少ない)など規模の面もその実践を支えているといえる。具体的には、すべての子どもの指導目標・計画づくりなど、情報を共有しやすい規模が生きる組織運営が行われ、利用者アンケートでも9割を超える回答者が「子どもの長所や個性が認められている」と感じている。
2	タイトル	地域にひらかれた園づくり ～地域との交流・地域の子育て支援～
	内容	園に併設されているゆうゆう館との交流をはじめ、地域の親子に対する園庭開放、おもちゃの紹介、身体測定や児童館との交流、夏祭りや運動会などへの招待など、地域との交流が盛んに行われている。さらに、園の活動を紹介した“地域版園だより”を児童館などを通じて配布するなど、地域への情報提供や地域の子育て支援に積極的に取り組んでいる。地域交流の実態については保護者の認知度も高く、子どもにもよい影響を与えることが認められていることがうかがえる。
3	タイトル	保育環境を支える事務機能
	内容	危機管理や緊急時の対応などをはじめ、各職員が把握しておくべき情報は増えつつあり、マニュアルや連絡事務の文書は増加している。園では記録類はきちんとファイリング・分類するなど、文書が適切に管理されており、全職員へのものない伝達に心がけている様子が見える。これら文書の管理・活用の取り組みは、保育環境の充実を支えるものとして評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	防犯、安全対策に関する取り組みのさらなる充実
	内容	防犯・安全対策として、緊急時に園児を守るための園内外の体制を整えるとともに、定期的に避難訓練を実施している。しかし、利用者アンケートからは「侵入者等への安全対策」に不安を感じる保護者も少なからずいる状況がうかがえる。園の周辺は多くの公園が立地し、散歩に出る機会にも恵まれた環境でもあることから、子どもが参加する訓練の検討・実践をはじめ、保護者に安心してもらうための取り組みが望まれる。
2	タイトル	よりよい保育環境づくりに向けた着実な目標設定と取り組み
	内容	「めざせ五つ星区役所」運動のチャレンジプランの実践により、園全体で目標をつくり、達成状況を確認する仕組みができており、プランにある“安定した保育の実施”、“地域の子育て支援”、“次世代育成支援”については、充実した取り組みの様子が見える。一方で、“保育理念の見直し”、“職員の育成”などについては、具体的な取り組みの成果という面で課題も残されているのではないかと感じる。職員全体の共通理解のもと、実現可能な具体的な目標を設定しながら着実に取り組んでいくことにより、さらなる保育環境の改善が図られることを期待したい。
3	タイトル	小規模園のメリットと職員一人ひとりの主体性を最大限に生かす
	内容	小規模園であることから、職員の意識の共有が図りやすいメリットがある一方で、全職員が同じ方向に向かってしまうと、予期せぬところに死角が生じることもある。例えば、登園時に職員全体が他のことに集中してしまうと、保護者と向き合う時間が十分とれなくなるという場面が想像できる。小規模園の特長を生かすためにも、職員一人ひとりが視野を広くもつとともに、より主体性をもった取り組みが望まれる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	65	
調査対象者数(人)	57	
有効回答数(人)	48	
回収率	84.2	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している割合は、ほぼ10割に達しており、回収率の高さとあわせ、保護者からは大変高い支持を受けている園であるということが表れる結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が97.9%)。また、ほぼ全ての設問においても「はい」という回答が7割以上、「いいえ」という回答が1割以下となっており、園運営の大部分については概ね理解・満足している様子が伺える。

その一方で、「18.外部からの侵入に対して安全な対策」を行っている及び「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われているとする回答は約6割にとどまるとともに、自由記述においても、保育制度や施設、保育士対応などに対する多種多様な意見・要望もみられる。今後は、これらに対する理解と満足につながる取り組みが期待される。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	31	64.6	13	27.1	4	8.3	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	45	93.8	2	4.2	1	2.1	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	43	89.6	5	10.4	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	44	91.7	3	6.3	1	2.1	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	44	91.7	3	6.3	1	2.1	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	37	77.1	7	14.6	3	6.3	1	2.1

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	35	72.9	9	18.8	4	8.3	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	42	87.5	6	12.5	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	41	85.4	4	8.3	0	0.0	3	6.3
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	44	91.7	3	6.3	1	2.1	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	42	87.5	2	4.2	0	0.0	4	8.3
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	44	91.7	3	6.3	1	2.1	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	40	83.3	8	16.7	0	0.0	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	32	66.7	15	31.3	0	0.0	1	2.1
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	40	83.3	5	10.4	3	6.3	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	38	79.2	4	8.3	6	12.5	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	36	75.0	11	22.9	0	0.0	1	2.1
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	30	62.5	15	31.3	2	4.2	1	2.1
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	34	70.8	10	20.8	2	4.2	2	4.2
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	29	60.4	14	29.2	2	4.2	3	6.3

#

《事業所名：03 荻窪保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	31	64.6	10	20.8	7	14.6	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	31	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	28	90.3	2	6.5	0	0.0	1	3.2
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	34	70.8	11	22.9	1	2.1	2	4.2

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育目標は、園のパフレットに掲載され、入園説明会や保護者会で説明が行われているとともに、指導計画や行事計画において具体的に展開されており、職員や利用者への浸透が図られている。また、園の組織目標が設定され、課題解決のためのプランと達成目標の作成を通じて、職員の共通理解が深まるようにしている。	
②	園内における職員の役割分担については、文書化され、明確になっている。そして、園長・主査が果たすべき指導的な役割もチャレンジプランの作成や職員会議などを通じて指導・助言していることがうかがえ、特に年間反省時には、園長・主査もそれぞれの役割分担に関して、職員と同様の反省を行っている。この日々の積み重ねは、職員に対しても十分に伝わっており、結果、園の円滑な運営に大きく貢献していると推察される。	
③	園での重要事項についての検討・決定は、職員会議により行われており、多くの職員の参加の元に検討・決定する方法が確立されている。また、保護者に対しては、必要に応じて、概ね月1回発行される『園だより』、『事務所だより』などに重要事項に関する内容と決定経緯を載せ、書面により伝えるよう配慮されている。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
○あり ●なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	区の情報公開制度や過去の保育園第三者評価結果の公表、区全体の行政評価に関するアンケート調査や結果の公表などを通じ、園の情報や園を運営する区の情報が、地域住民に対して公開されており、必要なときに必要な情報が手に入る制度が構築されている。また、園においても掲示板や各所へのはり紙などを通じ、園の行事や地域の方が利用できるふれあい保育の様子や予定について情報発信がなされており、評価できる。		
②	実習生に関しては、区内在住者及び区内の学校の生徒を受け入れており、園において実習生の実習目的に沿った個別の実習プランに柔軟に対応できる体制(役割分担等)が整えられている。また、ボランティアについても、地域の学生の体験学習(職場体験)の依頼に対し、積極的な受け入れが行われている。しかしながら、ボランティアへの対応手順、注意事項については、口頭で伝えられているのみであり、文書化されていない。今後は、これらについて文書化・標準化し、組織として対応できるようにすることが課題であろう。		
③	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、地域支援の活動として、ふれあい保育事業を実施している。地域の子どもと園に通う子どもがふれあい、保護者は保育士や看護師に子育てや健康に関する相談ができる場となっている。また、園から児童館へ講師を派遣するなど、専門性を生かした取り組みも行っている。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>		
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用			
<b>サブカテゴリ1</b>			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】		
○あり ●なし		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。	
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の送迎時の会話や連絡ノート、保護者会や行事(運動会)の際のアンケート結果等で把握しており、会議において検討した後、具体的な対応を行っている。特に前回の第三者評価(平成15年度実施)の利用者アンケートより把握された「職員対応のばらつき」に関しては、園内研修を行うなど、継続的に取り組んだ結果、今回の利用者アンケートで大幅に改善(ばらつきが少ないとする意見が42.9%から77.1%へとアップ)され、取り組みが実を結んだ点は高く評価できる。	
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。これらを園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度毎に各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを評価・見直しする制度が定着している。
②	園では、チャレンジプラン、保育・行事の年間計画、月・週の指導計画を作成するとともに、計画の反省・問題点を会議の場で明らかにし、話し合いながら、保育に取り組んでいる。しかしながら、「多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している」という点については、職員一人ひとりの意識が高いためか、職員アンケートにおいて十分に組み組めていないと回答した割合が高い。今後、これらの原因を探ることを通じ、さらにワンステップ上の保育につながることに期待したい。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練や防犯訓練が関係機関(消防署等)との連携のもと実施されている。また、園の門扉の施錠時間の厳格化に努めるとともに、これからの取り組みとして、事故等の予防に活かすため、ヒヤリハット事例についての収集・分析を行う予定があり、今後の展開が期待される。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員の採用については、区の人事担当部署が担っており、面接等に園が直接関わる機会是用意されていない。一方で、非常勤職員については、必要に応じて園で募集し、園の雰囲気やその時々状況に合致する人材を園長が直接面接等により判断することが可能である。
②	区では「研修歴カード」により採用以降参加したすべての研修が記録される仕組みを採っている。園においては、園長が「職員チャレンジ目標」を通じて、職員一人ひとりの能力向上に関する希望・目標を把握し、研修派遣の際に活かすほか、担任や業務分担を決める際にも反映させるよう心がけられている。しかし、1年を超える中長期的な能力向上に関する希望については、組織として記録する方法が用意されていない。今後は、この中長期的な希望の把握と記録の方法について検討し、職員ごとに自らのキャリアプランが描けるような取り組みを期待したい。
③	職員会議の中では、研修の報告を行う場が設けられており、研修に参加した職員は、その終了後に研修レポートを作成し、発表を行っている。この発表の際は、公的な研修レポートのほか、研修内容によっては追加の発表用資料を作成することもあり、自らの得た知識を組織に広げていこうとする職員の自発性と意識の高さを感じることができるとともに、組織全体としての能力向上に寄与していると考えられる。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている情報の大半は、「紙」の文書であるが、それぞれの文書はフォルダを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき、整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われていると評価できる。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、個人情報保護の方法や個人情報を本人に開示する際の手続きなどが詳細に決められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対しても明示されている。また、園においても児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理がなされているとともに、職員についても個人情報保護制度に関する研修を受けるなど、個人情報保護に対する組織的な対応が図られている。
③	園で取り扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にされていないのが現状である。今後は、組織として個人情報の利用目的について知らせる取り組み(各種様式に個人情報の利用目的を明示する等)が行われることを期待したい。また、園から保護者に対する区の個人情報保護制度に関するお知らせも現在では不十分であるため、これらについてもあわせて、今後の取り組みに期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」</li> <li>・カテゴリ2:「経営における社会的責任」</li> <li>・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果 ・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着してきている。 ・昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 ・会議における記録のとり方、特にプロジェクト会議の記録を改善し、あとで見返してもわかりやすいような記録となった。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 ・「一人ひとりが対応に責任を持つ」という本年度のチャレンジプランを踏まえ、様式を新たにした「朝夕ノート」を活用しながら、職員全体に朝夕保育時の状況を共有できる取り組みを行い、チャレンジプランの目標をクリアするとともに、継続的に取り組んできた保護者対応の面でも改善する方向へ向かっている。 ・各職員のチャレンジ目標に基づき、目標に沿った研修に派遣した上で、会議における研修発表を行った。特に研修発表の際には公的なレポートのほかに発表用の資料を別途作成するなど、職員の研修及びその結果発表に対する取り組みが充実してきた点は大変評価できる。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」</li> <li>・カテゴリ7:「情報の保護・共有」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 ・「子どもの姿の「今！」を伝え、子育ての喜びを共有する」という目標を立て、クラスだより等のたよりの月一回の定期発行や伝える内容の工夫(保護者の感想や意見を掲載する等)、そして、ビデオを通じた子どもの日常の姿を伝えることなどに取り組んだ。これに対し、保護者からは口頭や連絡帳などを通じて好評な旨が伝わってきており、一定の評価はいただけたといえる。 ・広くて使いやすい建物の構造ではないものの、なるべく快適でかつ穏やかに日々の保育が行えることを目標として掲げ、四季を感じさせる掲示の充実や個々の保育室の使い方の研究、保育室以外の場所の有効活用など、環境整備に力を入れて取り組んできた。その結果、今回の利用者アンケートにおいても非常に高い支持を保護者より獲得しており、大変評価できる。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
<p>・区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。</p>	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
<p>・昨年度の行事等の取り組み方に対する反省を踏まえ、本年度は利用者の意向調査(保護者会・運動会)に取り組み、保護者の意見や要望等を把握することができた。これにより、各種計画や次年度へ向けた取り組みの中で改善に向かうための素地が整った点が、成果として挙げられる。</p>	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着してきており、本園においても6つのチャレンジプランを設定し、今年度末の自己評価に向けて、組織として課題達成へ向けた取り組みを行っていることが確認できる。
②	職員一人ひとりが目標を設定し、評価するチャレンジ目標についても園長・主査における配慮のもと、各職員が目標達成に向けて意欲的に活動している。今年度は特に研修への取り組み方及びその報告において変化がみられ、組織としても相乗効果が現れてきている点が確認できた。
③	本園は、これまで組織的にそして継続的に職員による対応のばらつきを少なくすることに対して取り組んできた。本年においても様式を変更した朝タノートを活用することにより、朝夕保育時間中の状況について情報を共有することが可能となったことから、この点についてさらに改善されたことが確認できた。次年度からは新たに安全対策をテーマとして取り組むことが予定されており、その成果が期待されるところである。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	区において作成している園のしおり、そして、園情報の区ホームページへの掲載など、紙媒体と電子媒体の両面から園の情報について発信している。また、外国語による対応についてのマニュアルも区において統一的なものが整備されている。給食についても区の統一的な取り組みとして、メニューの掲示だけではなく実物(展示食)を展示するなど、わかりやすい情報提供が心がけられている。	
②	園では地域向けの園だよりを月1回の頻度で発行しており、保育園に通っている子どもや保護者ばかりでなく、地域住民に対して広く情報を発信する取り組みが行われている。また、小学校区毎に設定されている子育てネットワークに参画しており、近隣の関係機関等への情報提供に取り組んでいる。	
③	入園希望者等の園内見学については、園長・主査が担当となって受け付けている。見学内容については、見学者の希望に対応するほか、活動状況が見たければ午睡の時間は避けるなどの提案を行い、希望者の意図に沿った見学ができるように配慮している。見学の申し入れを断ることは基本的にないが、園内で感染症が流行している場合などについては見学を制限することもある、その際には必ず事情を説明して理解を得るようにしている。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園申込みの際の資料には、受け入れ時間や園での生活における基本的なルールをはじめ、入退園の条件、保育料のほかに、希望するサービスが受けられない(例えば、入園できるが延長保育は利用できない等)場合の対応方法などが示されている。また、入園内定後には、園で個人面談を行い、子どもの状況把握と、保護者の意向確認などを行い、保育のための基礎資料を得ている。面談結果は「個人面談記録」にまとめられ、「児童票」と同一のファイルに綴じられ、管理されている。
②	入園時には保護者全員を対象とした入園説明会を行っており、区で統一的に作成している資料に加え、園で独自に作成している資料を配付して説明している。園で作成している資料は、入園までに各家庭で用意すべきもの(布団カバーなど)などについて、項目毎に分かりやすくまとめるなど、内容が充実している。利用者アンケートでは「入園時の準備品等の必要性を理解できたか」という設問でほぼ10割が「はい」と回答されるなど、入園時の準備品等の説明が保護者にとって分かりやすいものとなっていることが裏付けられており、高く評価できる。
③	入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するため、「慣れ保育」を勧めている。子どもと保護者の状況に応じて無理のない期間設定するとともに、「慣れ保育」中は可能な範囲で保護者と子どもと一緒に園内で過ごす時間を長くすることを大事にしている。子どもが園に慣れるための配慮と同時に、保護者と保育士がコミュニケーションをとる時間を確保することで、両者の理解を深め、信頼関係を構築しようとするねらいもある。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の「児童票」や「個人面談記録」等に記録され、個人別の「児童票」ファイルに綴じて管理されており、入園から現在に至るまでの子どもの状況、保護者の意向等が把握できるようになっている。また、日々の子どもの様子は、必要に応じて「保育日誌」に記録されており、指導計画を更新する際には、計画期間中の子どもの状況が話し合われ記録されている。一方、保護者の意向等は、年1回必ず行う個人面談で把握している他、日々のコミュニケーションや、必要に応じて随時行なわれる個人面談等で把握している。		
②	指導計画については、年間・月間・週という単位で作成されている。子どもの状況については、毎週の定例会議のほか、毎月指導計画を検討する際にも話し合われており、計画内容は子どもの状況、保護者の意向等を反映したものとなっている。また、計画そのものではないが、“保育において大切にしていること”などについては、保護者会や個人面談の際に説明されており、園での保育について保護者の理解を深め、同意を得る取り組みが行われている。		
③	子どもの情報の共有に関しては、正規職員は必要に応じて「児童票」等を閲覧できるほか、会議などを通じて子どもの情報を共有している。また、日々の様子の申し送り、引き継ぎ等に関しては、正規職員では保育日誌のほか、「朝夕ノート」を使用して朝・夕当番との情報共有を行なっている。「朝夕ノート」は本年度改善された様式であり、当番間の引き継ぎやクラス間の連絡については、園としても力を入れて取り組んでいる点である。なお、臨時職員に対しては、必要な情報だけをクラス担任から口頭で伝達する方法がとられている。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について、他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。気になる子どもの情報等についても、園から直接関係機関へ照会するような対応はとらず、保護者と話し合い、子どもの状況について共通認識を持つように努め働きかけ、保護者が自発的に関係機関へ相談するきっかけとなるような対応を心がけている。	
②	日常の子どもや保護者とのコミュニケーションについては、職員会議やミーティングの中で常に振り返り、不適切な言動等がなかったか確認し、意識の統一を図っている。また、記録面においても、児童票の記録や、指導計画における文章表現が不適切になっていないか、といった点についてチェックし、改善していこうとする取り組みがある。	
③	家庭での生活習慣等に充分配慮し、一人ひとりを尊重した保育を実施しているが、近年では家庭での食事や睡眠の習慣が園での生活パターンに合致しないケースも見られるようになってきている。こうした状況について、対応が難しい部分もあるが、園としては強制はせず、自主的な改善を促すような働きかけを継続して行なっていくことを基本姿勢としている。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<p>評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
<p>【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span></p>		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	園の運営や各種の対応に必要なマニュアルや手引きがまとめられたマニュアル集が事務室に置かれ、職員が日常的に参照できる状態になっている。園のマニュアル集は、年度末の反省時、または必要に応じて随時内容が検討され、見直しがなされている。保育そのものについてはマニュアルという形にはまとめられていないものの、その基本事項や手順等については、会議や日常の保育の中で常に話し合われており、指導計画の内容にも反映されている。	
②	各種マニュアルや指導計画における配慮すべき事項については、会議等において周知・共有され、必要に応じて正職員から口頭で臨時職員へも伝えられている。また、園内研修では、「保護者対応」といったテーマを定めて勉強会を開催するなど、業務の一定水準を保つ取り組みが行なわれている。利用者アンケートにおいても8割近い保護者が「職員による対応のばらつきは少ない」と回答しており、こうした取り組みの効果が裏付けられている。	
③	今後は、保護者の関心が高まっている安全対策をテーマに設定し、事故等を未然に防ぐことを目的としたヒヤリハット事例に関する園内研修に取り組みたいと考えているなど、利用者の意向を念頭に置いた取り組みが予定されている点も評価できる。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子ども一人ひとりの状況を職員が的確に把握した上で保育が実施されている。今回の評価における訪問調査の際にも、評価者の園内での行動について、子どもの活動状況や個別状況に配慮した注意がゆき届き、常に子どもを中心に考えた保育を実践している姿勢がうかがえた。		
②	ごっこ遊びと発表会を組み合わせた「キッズランド」等、種々の園内行事が実施されている。また、近隣に公園が多い環境を活かして、園外保育にも積極的に取り組んでいる。利用者アンケートにおいても、9割前後の保護者が「散歩等で戸外に出る機会が多い」、「子どもの発達にあわせた豊かな感性を育む活動・遊びがある」ことを認めており、保護者にも日常の活動がしっかりと伝わり、理解されていることがわかる。		
③	障害児保育及び配慮が必要な子どもについても、個別の状況を十分に把握した上で保育を行っており、個別の指導計画と記録の整備、必要な人員配置(担当保育士やパートタイマーの配置)、施設環境整備、発達センターとの連携が行われている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】		●あり ○なし
給食時には調理員が保育室を回り子どもの食事状況を確認している。その際に食べ具合や形態、味付けなど、子どもたちからの意見も聞き、実態の把握に努め、改善につなげるようにしている。また、4歳児と5歳児は野菜等の栽培及び収穫を行う活動に取り組みんでおり、食べることの喜びやそれまでの苦勞を体験させ、その大切さについて学ぶ機会を提供している。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	看護師による食事に関する「お話」や、子どもたちによる野菜等の栽培及び収穫を活動に取り入れるなど、食べることの大切さについて学ぶ「食育」に積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。収穫物は家庭でも好評を得るなど、保護者向けの取り組みとしても手ごたえを感じている。園では、今後こうした取り組みを発展させ、保護者向けの給食の試食会などをとり入れていきたいと考えている。	
②	園の給食は、区共通のメニューに従って調理員が調理し、配食される。給食時には調理員が各教室を回り子どもの食事状況を確認し、味付けの改善等に配慮している。行事食では、子どもが選んだメニューによる給食が出されたり、盛り付けに工夫を凝らすなど、普段とは異なる雰囲気楽しんで食事ができるよう演出されている。保護者向けには、メニューの掲示と同時に実物(展示食)を展示し、給食への理解を深めており、利用者アンケートにおいても食事のメニューに関する評価は高いものとなっている。	
③	アレルギーを持つ子どものアレルギー除去食については、所定の申請書類を提出していただいた上で対応している。園での具体的な対応は、毎月一回保護者に献立チェックを行っていただき、そのチェック結果に基づいて除去食を調理し、配膳の際には個人用のトレーにのせるなど視覚的にわかるようにし、間違いが起きないように細心の注意が払われている。また、0歳児の食事については、一人ひとりの子どもの状況に応じ、食物の刻み方を変える等きめ細かな対応がなされている。	

3	<b>評価項目3</b> 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による定期健診(0才児は週1回、以後は年2回)をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の検診により行っている。また、身体測定は毎月行い、健診や身体測定等の結果は「健康カード」に記載して保護者へ報告している。子どもの日々の健康状況については、受け入れ時の視診において確認しており、園内における保健関係の活動記録や、子どもの欠席状況等は保健日誌に記録されている。また、乳児の午睡時には、「午睡チェック表」を用いて一定時間毎の状態確認を行い記録している。		
②	与薬に関しては、区で統一された方法に基づいて行っており、熱性けいれんや慢性疾患等の治療薬の園内での投与に対応している。また、園内で子どもが負傷した場合や、感染症の疑いがある症状を発症した場合などについては、危機管理マニュアルに対応方法がとりまとめられており、看護師不在時でも、職員が適切に対応できる体制が整えられている。		
③	看護師が常勤しており、毎朝の視診の際など、日ごろから保護者の健康に関する相談に応じている。また、園医が週1回(0才児健診の際に)来園しており、来園時には他クラスの子どもの診てもらったり、保護者からの相談(伝言を含む)に応じたりするなど、園医との協力体制が充実している。その他、保健分野に関する保護者への情報提供については、月に一回発行される保健だよりを通じて行われているほか、幼児クラス向けの健康教育も計画に沿って行っている。また、保健関連のポスターなどが園内の目に付く場所に掲示されている。		



4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;"><input type="radio"/>あり</span> <span style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>なし</span>		
	評価項目4の講評(一つ以上)		
①	施設は新しいが、狭い敷地に他施設と併設される形で建てられており、窮屈な印象を受けることは否定できない。そうした制約がある中、2階廊下部分を保育スペースとして有効活用したり、装飾を工夫することで、清潔感とやすらぎのある雰囲気づくりに取り組んでいる。利用者アンケートでは、8割近くの保護者が「落ち着いて過ごせる雰囲気」であるとし、9割を超える保護者が「園内が清潔で安全」であるとしているなど、園内環境については利用者の高い評価が得られているといえる。		
②	誕生会や異年齢での会食等の園内行事があり、子どもが園での生活を楽しめるような工夫がされている。4才児クラスと5才児クラスは、構造上教室がホールを介して繋がる形となっているため、生活の中で自然に異年齢交流が行なわれている。こうした交流は、保育士が意図した取り組みではないが、発達面で好影響が期待される。実際に訪問調査時にも4才児と5才児の自然な交流がみられ、家庭的な雰囲気の中で、生き生きと生活する子どもの姿がうかがえた。		
③	午睡(お昼寝)に関しては、布団の場所を決まった場所にすることで、子どもが「自分の場所」で落ち着いて眠れるように配慮している。また早く眠ってしまった子どもや、早く目が覚めてしまった子どもについては、無理に起したり、眠らせたりせずに、個別の状況に応じた対応がとられている。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
5		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	保護者に対しては、送迎時のコミュニケーション、定期的に発行するクラスだよりや園だより、保護者会、(年齢・必要に応じて)連絡帳など、様々な機会と方法を用いて園での子どもの様子を伝えるようにしている。園だよりには写真を使用したり、保護者会ではビデオを活用して子どもの普段の姿を映像で見てもらうなど、伝達手段として画像や映像を積極的に利用する工夫がある。利用者アンケートにおいても、9割を超える保護者が「園だより等により保育状況等を知り得る」と評価するなど、利用者評価も高くなっている。	
②	保育参観は基本的にいつでもできることを入園時に説明している。また、行事日程等については、運動会は土曜日に設定し、個人面談については日時について希望を受けて個別に対応しているなど、保護者が行事に参加しやすいように配慮されている。利用者アンケートにおいても8割を超える保護者が「行事日程は保護者に配慮されている」と感じている。	
③	お迎え時間の変更等については柔軟に対応しており、利用者アンケートにおいても8割を超える保護者が「急用への対応が柔軟」と感じている。事前に申請されている保護者以外の方のお迎えについて、事前に保護者から変更の申し出がなかった場合には、子どもの親類等であっても、必ず保護者に確認をとるよう徹底されている。	

<b>6</b>	<b>評価項目6</b> 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待に関しては、その防止や万が一発見されたときに対する対応などが、区全体として取り組まれており、評価できる。具体的には、関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが統一マニュアルとして整備されており、緊急時に行うべき手順や連絡先などが詳細に決められている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げがなされるよう取り組まれている。		
③	個人面談などを通じて、子どもの発達や育児について園と保護者が共通認識を持てるよう取り組んでいる。また、面談等を通じて保護者から発達等に関する相談を受けた場合には、利用できる機関を紹介するといった支援も行なっている。園では今後こうしたニーズが高まっていくものと捉えており、保護者だけでなく、地域の親子も参加できるような子育てに関する講演会や勉強会を開く取り組みが、今後の課題であると考えている。		
<b>7</b>	<b>評価項目7</b> 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	近隣にある保育園との交流があり、同年代の他園の子どもと交流する機会がもたれている。
②	地域ネットワーク事業で開催されている秋まつりに参加し、地域における交流を深めている。
③	夏祭り、運動会といった園主催行事に多くの家族、地域、卒園児などの参加があり、地域との交流が行なわれている。また、地域支援事業のふれあい保育も地域の親子と交流する機会となっている。併設施設のゆうゆう館とは、先方の考え方もあり、現在交流がないとのことであったが、先方の考え方を考慮しつつ、園側から交流をもてるよう働きかけていくことも、地域連携において有意義な取り組みだと思われる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ぬくもりを感じるやさらかしい雰囲気の内環境
	内容	平成10年の改修工事により新しくなった園舎ではあるが、広くて使いやすい建物とはいえないのが現実である。しかし、園では日々試行錯誤しながら「行き届いた掃除」、「四季を感じられ、工夫を凝らした職員手作りの掲示・装飾」、「室内スペースを最大限活用するための場の設定」など、継続的に室内環境の向上に向けた取り組みを行い、努力をしてきた。その結果、ぬくもりを感じる家庭的な現在の園の雰囲気が醸成され、利用者アンケートにおける大変良い評価につながった。室内環境の向上の取り組みは現在も進行中であり、今後にも期待したい。
2	タイトル	ばらつきの少ない職員対応の実現
	内容	前回の第三者評価の結果を踏まえ、これまで組織的にそして継続的に職員による対応のばらつきを少なくする取り組みを行ってきた。具体的には、職員個々の対応能力を研鑽すると同時に全職員が共通認識を持てるように、テーマを定めた園内研修を重ねてきた。こうした取り組みが実を結び、今回の利用者アンケートでは保護者の評価が大幅に改善(ばらつきが少ないとする意見が42.9%から77.1%へとアップ)したことは大変評価できる。今後もこうした取り組みを継続し、状態を維持またはさらに向上させていくことが期待される。
3	タイトル	食育に対する積極的な取り組み
	内容	看護師による食事に関するお話や、子どもによる野菜等の栽培及び収穫を活動に取り入れるなど、食べることの大切さについて学ぶ「食育」に積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。活動には子どもが意欲的に関わっており、家庭からも反響が得られるなど、園としても取り組みに手ごたえを感じている。園では、今後保護者向けの給食試食会の実現などを目標として、さらに取り組みを充実させていきたいと考えており、「食育」のさらなる充実が期待される。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「地域に根ざした園」を目指した取り組みの展開
	内容	園では、“地域に根ざした園を目指す”という基本的な考え方を持っている。その考え方を受け、地域ネットワークへの参加や実習生、ボランティアの受け入れ、ふれあい保育の実施などの活動が行われている。しかしながら、園長・主査においては、地域に対する取り組みについて今後の課題であると認識しており、まだ満足できる成果が得られていないと感じている。今後は、地域に受け入れられるためには何が必要かということを分析したうえでの取り組みの展開に期待したい。
2	タイトル	より一層の標準化に向けた取り組み
	内容	園では、すでに多くのマニュアルを作成しており、標準化に向けた取り組みはすでに行われているといえる。しかしながら、分野によっては、まだ、そのマニュアルが作成されていなかったり、作成されても十分に活用されていないことがあるなど、まだまだ改善の余地が残されている。今後は、標準化には手間ひまがかかることを考慮し、計画的・段階的(例えばボランティアを毎年受け入れていることからまずはボランティアに対する対応から手をつける等)な取り組みに期待したい。
3	タイトル	職員の能力向上についての意向把握
	内容	区職員として採用以来の研修受講履歴が個人毎に記録されるとともに、短期的(1年)な研修の要望も把握され、園長・主査の配慮のもと研修を受ける体制が整っていることは評価できる。しかしながら、職員一人ひとりの中長期的な視野に立った育成計画については、現在のところ、明確になっていない。今後は、この「中長期的な視野に立った育成計画」に対する仕組みを整備し、より効果的な人材育成に組織として取り組むことが求められる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	75	
調査対象者数(人)	64	
有効回答数(人)	35	
回収率	54.7	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ4分の3を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が74.3%)。個別にみると、「3.散歩等で戸外に出る機会が多い」、「8.お迎え時に満たされた表情をしている」、「10.保育中の病気への対応」への肯定的回答は9割を超えており、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「19.不満やトラブルへ対応」、「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われているという回答は約6割、「21.保育園運営理念・方針を知っている」という回答は4割にとどまる。また、園において取り組んでいる地域との交流・連携についても、利用者の理解が得られていない。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	26	74.3	8	22.9	1	2.9	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	31	88.6	4	11.4	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	33	94.3	2	5.7	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	29	82.9	6	17.1	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	31	88.6	4	11.4	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	25	71.4	10	28.6	0	0.0	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	25	71.4	8	22.9	2	5.7	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	32	91.4	3	8.6	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	29	82.9	4	11.4	1	2.9	1	2.9
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	32	91.4	2	5.7	1	2.9	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	30	85.7	3	8.6	1	2.9	1	2.9
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	31	88.6	4	11.4	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	24	68.6	10	28.6	1	2.9	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	22	62.9	13	37.1	0	0.0	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	22	62.9	11	31.4	2	5.7	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	24	68.6	11	31.4	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	26	74.3	8	22.9	0	0.0	1	2.9
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	22	62.9	13	37.1	0	0.0	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	22	62.9	9	25.7	2	5.7	2	5.7
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	20	57.1	12	34.3	1	2.9	2	5.7

#

《事業所名：04 四宮保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	14	40.0	16	45.7	5	14.3	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	14	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	12	85.7	2	14.3	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	17	48.6	15	42.9	2	5.7	1	2.9



I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育目標は、園内に掲示されているとともに、園のパンフレットに掲載されている。指導計画についても、保育目標から具体的に展開されており、職員や利用者の理解と浸透が図られている。また、園の組織目標は、職員全体的話し合いにより作成され、課題解決のためのプランと達成目標が明示されている。しかし、利用者調査結果では、利用者の園運営の理念・方針に対する認識度は4割程度と、その割合があまり高くなっていないことから、保育目標や組織目標を体系的に整理し、利用者への周知方法を工夫していくことが期待される。	
②	園長は、働きやすい環境をつくり、適切に人員を確保する責務があることを自覚し、園の責任は最後は自分が持つことを職員に伝えており、17年度の年間反省文からも、これを実践している様子がうかがえる。園内における主査や各職員の役割分担は、業務マニュアルに明確に記載されているが、園長の役割と責任についても業務マニュアルに明示していくことが望まれる。	
③	園で行われる会議については、前月に主査が会議予定表を作成・掲示して、職員が議題を追加していく方法がとられており、事前に議題が提示され、各職員が考える時間を設けてから実際の会議に臨むという仕組みが定着している。重要な案件、例えば、運動会について園の歴史や経緯を保護者に対して分かりやすく説明するなど、子ども達にとって必要な行事・活動を保護者に伝え、共に考えていこうとする姿勢がみられる。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( B )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
○あり ●なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理ハンドブックが常備され、個人情報保護や危機管理に対して注意が払われているが、法令に関する区の研修には希望者が少ないなどを理由に参加していないなど、倫理法令遵守に対する意識の高まりはみられない。子どもとの関係で必要と考えられる法令について、職員会議で取り上げたり、園内研修を実施するなどの積極的な取り組みが望まれる。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付け、各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされている。園では園長・主査が対応し、今年度は3名の実習生を受け入れている。ボランティアの受け入れについては、区のボランティアセンターを経由して行っており、今年度は2名を受け入れている。関係が継続しているボランティアもいる他、地域の中高校生約20名の体験学習の依頼にも応じている。これら実習生やボランティアへの対応手順や注意点等について、マニュアル化することが課題となっている。		
③	地域との交流・連携については、小学校区を中心としたネットワークが構築されており、原稿執筆や講演会の運営等に協力しているほか、地域支援の活動として、園庭の開放やお楽しみ会への招待、手作りおもちゃの展示・紹介など、専門性を生かしたイベントを実施している。さらに、地域の親子と一緒に触れ合う機会を設けるなどイベント内容の工夫を進め、周知・宣伝方法の改善を進めていくことが望まれる。園に併設しているNPO運営施設と協力し、高齢者と子ども達との交流活動なども積極的に試みられている。		

3	カテゴリ3	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ1		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。	
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡ノート、意見箱を活用して把握しており、例えば、駐車に関する苦情やオムツの処理をしないことに対するクレームについて、職員全体や関係者で話し合っ改善策を検討し、その結果を利用者に伝えるなど、サービス向上につなげている。利用者アンケートにおいても、「不満等への職員の対応が的確」であることを肯定的に捉える率は比較的高い。今後、把握した情報・事例について経過を記録・蓄積し、中長期的に園で活用できるようにしていくことが期待される。	
③	地域の福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。これらを園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、園では、年度毎に目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しする制度が定着している。さらに、チャレンジプランが園の複数年度に渡る取組みを既定する中期計画に発展していくことが期待される。
②	園では、年度版の業務マニュアルとして、職員体制や事務・係分担、年間行事予定、全体確認事項、避難・防犯訓練年間計画等が作成・編集されている。また、保育に関する年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されている。行事については、行事計画書で詳細を企画し、実施後に反省を行っているほか、業務や係活動、指導計画等についても、月単位、期単位での反省が行われている。今後、組織目標、チャレンジプラン、業務マニュアル等を体系的に整理し、園の事業計画として取りまとめていけると良いだろう。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難・防犯訓練年間計画に基づき、地震・火災・不審者等の災害、緊急時の訓練が関係機関との連携のもと実施されている。また、事故が発生した場合は、その経緯や内容を「事故報告書」に記載するとともに、定例会議やミーティング時に職員全体に周知するなど、再発防止に向けた取組みがなされている。園では、職員の危機管理意識を高めるため、園内でのケース研修等を継続的に企画・実施していきたいと考えている。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準に応じた区での採用、非常勤職員については各園での面接となっている。園長は人員の不足を補うべく枠内での非常勤職員の採用・確保を積極的に進めているが、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権は有していないといえる。クラス編成時には、職員は担当の希望と理由を紙に書いて提出し、園長と主任が職員の在職年数や個々の力量、バランスを考慮して決定しており、希望に添えない場合は事前にその職員に連絡するなど、職員への配慮に努めている。
②	各職員の研修については、開催の都度希望を把握するようにしているものの、個々の研修計画は作成されておらず、園長が研修内容と各々の職種における必要性を考慮して受講の推薦を行う場合が多い。今後、チャレンジプランを職員一人ひとりが作成することが必須となるようであるが、職員一人ひとりが自らのキャリアプランを描くことができ、かつ、それに向かってどのような能力が必要となるのかが明確になるような仕組みを導入することが期待される。
③	研修受講後は、職員に研修レポートの作成が義務付けられ、各自が自己評価を行って園長が確認する形式がとられている。また、職員会議の中で研修報告が行われており、研修に参加した職員だけではなく、職員全体への波及効果が期待でき、成果を共有する取り組みとして評価できる。今年度は、研修報告の効率化と充実化を図るため、研修レポートを各職員に事前配布し、読み込んだ上で報告会に臨むという方法を試み、職員間に定着してきている様子がうかがえる。

7	カテゴリ7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で使用する情報は、電子データの増加によりPCサーバー上のファイルでの管理が中心となっている。紙媒体の文書については、区のファイリング番号は使用されなくなっているため、文書・ファイル全般について見やすく活用できるように整理・保管されているとは言えない状態である。現実には、職員が閲覧・視認するためにプリントアウトして保管している文書や過去の紙媒体の記録も多く存在することを踏まえ、再度見直し整理することが望まれる。
②	個人情報保護の制度については、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、保護の方法や本人に開示する際の手続き等が詳細に定められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても児童票などの個人情報・機密情報を含む重要書類については施錠等によるアクセス管理を行っているが、利用者や実習生、ボランティアなどの関係者に対する説明・配布資料を用意しておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要である。
③	園で取扱う個人情報の利用目的に関しては、子どもの写真の掲載・掲示について保護者会で承諾を得ているものの、文書上明確にはされていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の利用目的、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。職員に対する個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」</li> <li>・カテゴリ2:「経営における社会的責任」</li> <li>・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果 ・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 ・地域に開かれた保育園づくりを目標に掲げ、地域支援活動の具体的なプラン作りの検討を進めた。地域交流事業については、PRのために散歩の際にチラシを配ったり、児童館、保健センター、図書館等へのポスター掲示を行ったりしたほか、今年度は従前より実施している園庭の開放に加えて、手作りおもちゃの展示・紹介など、専門性を生かした取り組みを行うことができた。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 ・各職員がスキルアップを目指し積極的に自己開発することを目標に掲げ、研修報告の効率化と充実化を図るために、研修レポートを各職員に事前配布し、読み込んでから報告会に臨むという方法を試み、職員間に定着してきている様子がうかがえる。 ・ロールプレイ方式の導入など具体的な研修方法を探り、園内研修の実現を目標に掲げ、危機管理事例を活用した不審者対応の防犯訓練を園内で実施することができた。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」</li> <li>・カテゴリ7:「情報の保護・共有」</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
改善の成果 ・日常の連絡体制を強化することを目標に掲げてきた。園内の連絡事項等を記入し一覧できる、申し送りや引継ぎのためのノートを事務所に設置し、職員間で活用することができている。非常勤の職員に対しても必ず連絡が伝わるような工夫がみられた。 ・保育に対する考え方や意識の統一を図ることを目標に掲げ、保育に関する提案や話し合いの場を増やしたことで、職員間の情報共有がスムーズに行えるようになってきている。		



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
<p>・区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。</p>	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
<p>・利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡ノート、意見箱を活用して把握しており、例えば、駐車に関する苦情やオムツの処理をしないことに対するクレームについて、職員全体や関係者で話し合って改善策を検討し、その結果を利用者に伝えるなど、サービス向上につなげることができている。</p>	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	<p>区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。</p> <p>また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。</p>
②	<p>各職員がスキルアップを目指して積極的に自己開発することを園の目標に掲げた。研修報告の効率化と充実化を図るため、研修レポートを各職員に事前配布し、読み込んでから報告会に臨むという方法を試み、職員間に定着してきている様子がうかがえる。また、ロールプレイ方式の導入など具体的な研修方法を探り、園内研修を実現するという目標についても、危機管理事例を活用した不審者対応の防犯訓練を園内で実施することができた。</p>
③	<p>日常の連絡体制を強化することを目標に掲げてきた。園内の連絡事項等を記入し一覧できる、申し送りや引継ぎのためのノートを事務所に設置し、職員間で活用することができている。非常勤の職員に対しても必ず連絡が伝わるような工夫がみられ、風通しの良い組織環境がつけられている。</p>

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)、献立表はひらがなでの表記も用意しており、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。	
②	地域で子育てをしている親子を対象にした活動のポスターを、近隣の児童館や図書館、保健センターなどに掲示するなど、地域にひらかれた園づくりのための情報発信も積極的に行っている。	
③	いつでも見学希望者を受け入れる体制を整えているが、できるだけ園長・主査が対応にあたるのが望ましいとの考えを基本とした日時調整を行っている。施設や食事風景の見学、保育参観・参加などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には区の資料のほかに園で作成している資料を配布している。保育時間、食事(制限食)、与薬、病気・けが対応、持ち物など、特に保護者の理解と協力が必要な項目の説明を重点的に行うなど、効果的な説明に努めている。 また、入園にあたっての持ち物準備リストは図解の資料もあり、イメージしやすい工夫がみられる。
②	摂食や睡眠の状況が、子どもの不安やストレスの度合いを測る目安となり、3～4日の慣らし保育の実施を勧めている。保護者の状況によって十分な期間が取れない場合もあるが、担当保育士がきめ細かく対応している。 子どもや保護者の不安の軽減に向けた個別対応のため、入園直後は特に園全体での確認や連絡に力を入れている。
③	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成されている。指導計画の内容や策定経緯について、常勤の職員間での情報共有は徹底されているが、今後はクラス目標や計画のねらいなど、非常勤職員の理解が進むような取り組みも期待したい。		
②	保護者に対して年度のはじめに、年齢(月齢)に応じてできる発達の目安とあわせて計画の内容を伝えている。各種おたよりの中でも計画内容にふれるなど、子どもの心身の育ちに関して保護者と認識の共有化を図る取り組みがみられる。		
③	子どもの変化をはじめ必要な情報については、職員全体の共有の徹底を大切に考えている。申し送りや引継ぎのため、事務所には伝達用のノートが設置されているほか、非常勤の職員に対しても必ず連絡が伝わるような工夫がみられる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			
評点( A )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	“人権や価値観の尊重”は園が大切に考えていることであり、園全体に浸透していることは職員アンケートの結果にも表れている。子どもや保護者への対応についてはみなで話し合うなど、一貫した姿勢をみせることを重視している。
②	保護者意向があれば、食事やお散歩のコース設定にも価値観を反映させるなど、できる限りの対応に努めている。価値観の捉え方が困難な場合でも、そのつど園全体で検討する姿勢は評価できる。一方で、プロの保育士として時には毅然とした態度で対応することも期待されるところである。
③	子どもの羞恥心を養うという意味ではプールの着替え場所(外から見えないように)、配慮するという点ではトイレに失敗したときの着替え場所(目立たないところ)の設定などを徹底している。その他、他の子にからかわれたりする可能性のあること(しらみの対応)などには、対応場所、タイミングなど十分に配慮しているといえる。羞恥心やプライバシー保護への配慮の具体的な対応については、環境や時代にあわせて柔軟に方法を考えていく必要があると思われる。

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、基本的な対応について手順をまとめている。園では、緊急時、災害時、けが、安心チェック、園庭利用、接遇など、特に職員全員への周知が必要なものについては各クラスにマニュアルを設置するなど、重点的に標準化を図っている。園で作成したマニュアルについては職員が見直しており、業務の標準化という点について園の意識は高いといえる。	
②	連絡帳や日誌をはじめ、保育士が作成する文章に指導者が添削・アドバイスするなど、適切で豊かな表現力の取得に向けた取り組みがみられる。また、保育内容や保護者とのコミュニケーションに悩む保育士には、個性にあわせた指導に心がけている。利用者アンケートで「職員による対応のばらつきは少ない」という回答が7割を超えており、前述の園のマニュアル整備による業務の標準化とあわせ、日頃の取り組みの成果が表れているといえるのではないかと。	
③	小規模園ということで、人数の面では職員間の意思疎通は図りやすいといえる一方、会議など職員が集る時間には厳しい制約がある。非常勤職員も含めた意識や情報の共有化の必要性を職員も感じていることから、日常的な意見交換や効率的な時間の使い方の検討が望まれる。なお、非常勤職員との業務分担については、連絡ノートの活用による効率的な業務遂行の工夫がみられる。現在の園全体の良好な人間関係が維持されることを期待したい。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では“子どもが将来何が起きても生きていけるための心身のたくましさ”を大事にした保育の実践に努めている。天気がよければ毎日でもお散歩に出かけて体を動かしており、アンケート結果でも9割を大きく超える回答者が「お散歩で戸外に出る機会が多い」ことを認めている。		
②	子どもが体に絵の具で色や模様をつけるボディペインティングや小石に絵の具で顔をつけるなど、想像力をきたえる表現活動の工夫がみられ、日常的な異年齢児交流とあわせて、日々の生活に刺激を加える活動となっている。 また、花の栽培や金魚、カブトムシ、ザリガニなどの飼育には子どもも積極的に参加し、生命を育む機会が園での生活に充分取り入れられている。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、保育士は区の発達センターを通して専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。 多様な個性の子どもがいることは、他の子にとっても思いやりの気持ちを育むよい機会と捉え、クラス運営を進めている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input checked="" type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
幼児クラスでは野菜(なす、きゅうり、とまと、枝豆など)の栽培や収穫を行い、園で調理して給食として提供している。食に対する意識を高めるとともに食べる意欲の増進につながり、好き嫌いの解消にも効果がみられる。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や嗜好のチェックが行われている。栄養士が巡回する際は食育教材を使用して、子どもの食への興味や関心を促す取り組みも行っている。 園が重視している“丈夫な子”づくりのためにも、体を動かしておいしく食事をするを園活動の基本としている。	
②	食事の環境づくりについては、食卓の管理及び子ども自身の手洗いの徹底により、衛生面には充分注意をしている。園庭で食べるなど食事場所に変化をつけることで、楽しい雰囲気づくりにも取り組んでいる。衛生面への配慮なども必要だが、子どもの食が進む楽しい食事環境づくりは、園も積極的に取り組む意向があることから、今後のさらなる取り組みに期待したい。	
③	アレルギーの配慮が必要な子どもについては、毎月、園と保護者が一緒になって除去する食材等の確認を行い、提供する際はトレイや名札の徹底により、間違いのないようにしている。また、月齢による一律の提供ではなく、きざみや軟飯など、入園前の喫食状況に配慮した食事の提供を行っている。	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>B</b> )	
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当	
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目3の講評(一つ以上)				
①	子どもの健康状態の把握は、園医による年3回の訪園をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の健診により行っている。看護師は常駐していないが、区の看護師との連携を図りながら、園児の健康を守る取り組みを進め、歯磨き、うがい、手洗いなどについては子どもが看護師の指導を受ける機会があるとともに、保育士自身も子どもへの指導方法の研修を受けている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。			
②	利用者アンケートでは9割を超える回答者が「保育中の病気等への対応」について適切と感じており、看護師の不在と保護者の不安感の関連は薄いように見受けられる。しかし、ケアが必要な子どもの状態の見極めと就労中の保護者への配慮の両立は非常に難しいところであり、子どもの状態を重視した対応をとれば、“対応が適切”と感じる率が下がる可能性は否めない。保護者の理解を得られるような説明技術など対応方法のスキルアップが期待される。			
③	午睡チェックの完全実施により、乳幼児突然死症候群(SIDS)を予防している。感染症については、看護師等の指導により、使い捨ての手袋・エプロン等での嘔吐物や下痢の処理を徹底している。感染症の発症が気になる時期には、保健だよりや園内の掲示を通じて、保護者へもその予防方法のお知らせとともに注意を促している。園としてはSIDSの情報提供の必要性を感じていることから、注意事項とあわせて園で行っている具体的な予防策について保護者に伝える取り組みなどが期待される。			

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園の保育目標である“心の豊かな子”、“丈夫な子”の実現に向けて行事が計画・実施されている。園全体から祝ってもらえる誕生日の過ごし方や、プラネタリウム見学、ししまいの会など、子どもが楽しめる行事の開催がみられる。園目標達成のためにも、園での食事・睡眠・運動は楽しさを伴うような工夫を心がけており、アンケートでも9割を超える回答者が「降園時に子どもの表情は良いことが多い」と感じている。		
②	保育室内は担当保士によってコーナーが設定され、設置するおもちゃや本は子どもの年齢や発達状況を考慮して選定されている。畳やダンボールを活用するなど、子どもが室内でからだを使って遊べる工夫もみられる。一方、アンケートでは「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」であることを肯定的に捉える率が高いとはいえ、「落ち着いた雰囲気」をつくり出す工夫の検討も望まれる。		
③	午睡については場所を固定している。落ち着いた眠りの確保と感染症の予防という面で効果的といえる。眠りのリズムが他の子と異なったり、入眠のくせがある場合は、環境設定や場所の確保などについてできるだけきめ細かい対応に努めている。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	運動会などの大きな行事については、アンケートの実施などによりできる限り保護者の意向を反映させた日程の調整に努めている。年間計画は年度始めに伝えるなど、保護者の参加しやすさに考慮した取り組みが認められる。多様な就労形態の保護者みなぎ満足する日程調整というのは難しいが、納得しやすい調整や経過説明などにより「行事日程は保護者に配慮されている」と感じる人の割合が高まる工夫が期待される。	
②	H18年度の園だよりのタイトル「まなざし」は公募で選ばれたもので、毎年、年度始めに決定している。園では“保護者参加型”のおたより作成に心がけており、保護者から原稿を集めることもある。今年度は継続的に「両親に似ているところ」という内容の記事が掲載され、保護者同士のコミュニケーションのきっかけとしてよい効果をあげている。	
③	園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごと園内に掲示し、降園の際にみてもらえるようにしている。アンケートでは9割近い回答者が「園だより等で保育状況を知ることができる」と答えており、内容や伝え方は評価されているといえる。最近ではデジタルカメラを活用するなど迅速な情報提供に努めており、今後は、活用の頻度増加やスキルアップも期待される。	

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待防止やその恐れがある子どもを守る仕組みは、『虐待防止マニュアル』の実践をはじめ、児童相談所をはじめ保健所、子育て支援センターなど関係機関との連携により整えられている。気になるケースは園全体で情報を共有し、対応を前述の機関に相談するなど、早期対応に心がけている。		
②	年度始めの保護者会では、年齢にあった発達・育児の目安などについて保護者と共通認識を得るようにしている。保護者のライフスタイルや価値観などを考慮し、子どもに対して園としてでき得る限りの支援をする姿勢は評価できるが、乳幼児にとって望ましい生活のリズムについて保護者の理解と実践を求め続けることもあわせて期待したい。		
③	職員は、都や区が開催する研修会への参加することなどにより、問題に対する理解を深め、子ども及び保護者への対応技術等を習得している。また、習得した知識や技術は、報告会を開催し職員間で共有している。職員に求められる知識や技術は増えていくと考えられ、園全体のスキルアップによって、多様化・深刻化するケースに対応できる体制づくりが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	併設のゆうゆう館の高齢者が折り紙やこまづくりなどを教えてくれる機会があり、世代間交流という意味でも子どもの生活に広がりを与えているといえる。また、近隣の高齢者で園庭遊びに参加したいという人や保育体験の学生を受け入れている。しかし、交流の機会づくりという点においては、園からの積極的な働きかけは確認できず、アンケートでも「地域住民との交流を図っている」ことは、充分認められているとはいえない結果である。
②	育児相談や親子コンサートなど地域の催し物などの情報は、園内に掲示したりチラシを配布して保護者に提供している。これらの情報は区から提供されるものに限られているが、地域の子育て拠点として、園が収集または園に寄せられた地域の情報を収集・発信する機能を備えるということについても、検討の余地があるのではないか。
③	職員一人ひとりが地域のことを知るということも、保護者とのコミュニケーションを円滑にしたり、園が地域の情報発信機能を備えるということに効果があると考えられる。今後の取り組みが期待される。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	共に子育てする意識の形成に向けた情報提供の工夫
	内容	園だよりのタイトルを保護者から公募して決定したり、子どもの誕生日の紹介記事を保護者に書いてもらうようにするなど、保護者参加型の園だよりのづくりを進めている。紙面には園への意見・要望を記入する欄を設けたり、家庭でも使いやすいよう毎月の行事予定をカレンダー形式で掲載する等細やかな配慮も行っている。クラスだよりで子ども達の状況を積極的に伝えているほか、イベント時はもちろん、日常生活風景を素早く写真にして園内に掲示するようしており、保護者と共に子育てする意識を形成するための情報提供の工夫を随所に見ることができる。
2	タイトル	職員間の連携の良さや情報共有化への取り組み
	内容	小規模施設のため職員間の連携が取りやすく、組織の風通しは良い。日常の連絡体制を強化することを目標に、申し送りや引継ぎのためのノートを新たに事務所に設置し、職員間で活用することができているほか、非常勤職員に対しても必ず連絡が伝わるような工夫もなされている。また連絡帳や日誌を始め、職員が作成する文章には指導者が添削・指導するなど、情報共有とサービス水準の確保に向けた様々な取り組みが行われている。利用者調査結果では、「職員による対応のばらつきは少ない」との回答が7割を超えており、これらの成果が表れているといえる。
3	タイトル	恵まれた園外環境における自由な遊びの展開
	内容	子ども達の遊びを拡大するために、広く日当たりの良い園庭を十分に活用している。砂場では、大きな砂山を作り、川を流して、木のパーツを使って橋を掛けたり、中央の花壇では、トマトやナス、きゅうりを栽培して収穫し、調理準備の体験にもつなげている。また、小石へのお絵かきやボディペインティングなど、園内でできる活動であっても、園庭に机や道具を持ち運び、広い舞台でのびのびと遊ぶ喜びを感じてもらおうようにしている。どのクラスも週の半分以上、散歩に行くことができるなど、周辺環境にも恵まれて、自由な遊びを展開することができている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	文書の整理・保管と記録の書き方の工夫
	内容	園では、職員体制や事務・係分担、年間行事予定、全体確認事項、避難・防犯訓練計画等を編集した年度版の業務マニュアルや掃除、消毒の手順等を記載した用務マニュアルが作成されており、職員会議で討議・見直しが行われるなど、業務の標準化に対する意識は高い。しかし、その一方で、文書やファイル全般について検索の便が悪く、記録類も分かり難い印象を受ける。現場においては、紙媒体の記録が標準化にとって重要な役割を果たすことを再認識し、活用できるよう整理・保管するとともに、分かりやすく見やすい記録の書き方を工夫することが望まれる。
2	タイトル	地域ニーズの把握と地域交流の充実・発展
	内容	地域支援の活動として、園庭の開放や手作りおもちゃの展示・紹介、お楽しみ会への招待、育児相談など、専門性を生かした交流イベントが実施されているが、利用者から園庭開放の日数を増やしてほしいとの要望があるほか、園としてもニーズの把握や宣伝・PR活動の不足を認識している。区で実施している保健福祉関連のアンケート調査結果や先進園の取り組み情報を収集・把握、分析し、園の子ども達や職員、地域の親子と一緒に触れ合うことのできるイベントを企画するなど、さらに活動内容を充実させ、発展させていくことが期待される。
3	タイトル	園内研修の定例化とケース研修の充実
	内容	年度毎に目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直し取り組みが定着している。園では、ロールプレイ等のより具体的な方法による園内研修の実現を目標に掲げ、その第一歩として、危機管理事例を活用した不審者対応の防犯訓練を園内で実施することができた。今後は、園内研修や勉強会を定例化し、危機管理以外の分野についても、職員の意識を高める取り組みが必要と思われる。子どもの人権やプライバシー保護、倫理法令遵守、接遇マナー等についても、同様のケース検討手法を取り入れた研修の計画・実施が期待される。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	70	
調査対象者数(人)	63	
有効回答数(人)	44	
回収率	69.8	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が88.7%)。個別にみると、「5.子どもの長所や個性が認められている」への肯定的な回答が9割を超えているほか、「2.食事のメニューの充実」、「8.お迎え時の子どもの満たされた表情」、「11.事故やけがへの責任を持った対応」、「24.地域住民との交流」が8割を超えるという結果である。

一方、「6.保育士の対応のばらつきの少なさ」や「20.要望・意見への改善」については肯定的に捉えている人は5割を下回るほか、「21.保育園運営の理念・方針」の浸透も十分とはいえない様子がうかがえる。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	34	77.3	8	18.2	2	4.5	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	39	88.6	5	11.4	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	27	61.4	13	29.5	4	9.1	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	31	70.5	13	29.5	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	40	90.9	3	6.8	1	2.3	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	18	40.9	18	40.9	8	18.2	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	25	56.8	17	38.6	2	4.5	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	37	84.1	6	13.6	1	2.3	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期的な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	33	75.0	7	15.9	2	4.5	2	4.5
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	34	77.3	9	20.5	0	0.0	1	2.3
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	36	81.8	4	9.1	1	2.3	3	6.8
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	33	75.0	7	15.9	3	6.8	1	2.3
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	33	75.0	10	22.7	1	2.3	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	27	61.4	16	36.4	1	2.3	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	32	72.7	11	25.0	1	2.3	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	34	77.3	8	18.2	2	4.5	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	26	59.1	16	36.4	2	4.5	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	31	70.5	11	25.0	1	2.3	1	2.3
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	25	56.8	17	38.6	2	4.5	0	0.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	22	50.0	20	45.5	2	4.5	0	0.0

#

《事業所名：05 和泉保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	20	45.5	20	45.5	4	9.1	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	19	95.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	17	85.0	2	10.0	1	5.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	37	84.1	3	6.8	3	6.8	1	2.3

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <span style="float:right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float:right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float:right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span>	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float:right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span>	

評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の保育理念や目標は入園説明会、保護者会等を通じて内容の理解が深まるような取り組みを行なっている。また、園内の各所に掲示されており、職員や訪園者はいつでも確認することができる。しかしながら、利用者アンケートでは園運営の理念・方針に対する認識度は5割を下回っており、十分伝わっているとはいえない結果となっている。保育目標や組織目標を体系的に整理し、利用者への周知方法を工夫していくことが期待される。	
②	園の重要事項については会議で話し合い、全体で確認し、園長の責任のもとに決定することとなり、決定過程は会議録に記録されている。決定した重要事項は、「いずみだより」への掲載などにより、その内容と決定経緯を保護者に伝えている。工事や行事、園と保護者のルール等、決定に際し保護者の意向に配慮する必要があるものについては、できる限り保護者の理解を得、また意向を汲み取る機会を設けている。	
③	園内の基本方針の再確認や意思決定については、職員全体の共通理解を深めるためにも、十分な検討時間をとることが必要といえる。検討内容の整理や、事前準備の徹底により、効果的な検討会議の運営に努め、意思決定過程の一層の透明化を図ることが望まれる。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理ハンドブック及び杉並区例規集が常備され、個人の尊厳をはじめ福祉サービス従事者としての倫理、個人情報保護等に対して注意が払われている。常勤の職員は法令に関する区の研修に参加して理解を深めており、非常勤の職員に対しては、園長が年2回のヒアリングを通じて、倫理法令遵守の理解を深めることに努めている。		
②	地域の親子を対象として園庭利用や保育参加は「いつでもどうぞ」という姿勢で受け入れているほか、隣接する公園を訪れる親子に努めて声をかけるなど、開放的な雰囲気づくりにも心がけている。また、児童館で行う乳児の遊びの紹介に保育士を派遣するなど、園の専門性をいかした取り組みもみられる。		
③	子どもや子育てに関する地域のネットワークに複数参加しており、小学校も参加する協議会は、子どもの育ちを卒園後まで見通して考える機会となっている。また、地域の親子に関しては、就学後に小学校で捉えている課題を、ふれあい保育の実践の際に検討するなど、地域の共通課題には積極的に関わっていこうとする姿勢が評価できる。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
<p>●あり ○なし</p>	<p>1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる</p> <p style="text-align: right;">○非該当</p>
<p>●あり ○なし</p>	<p>2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる</p> <p style="text-align: right;">○非該当</p>
<p>●あり ○なし</p>	<p>3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している</p> <p style="text-align: right;">○非該当</p>
<p>【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span></p>	
<p>カテゴリ3の講評(一つ以上)</p>	
①	<p>行事等についてはアンケートを実施し、利用者の意向を集約しているほか、園では日常的な保護者とのコミュニケーションからの意向把握を重視している。一方で、利用者アンケートでは「要望等への対応」、「要望による改善」、「要望や意見の言いやすさ・聞いてもらいやすさ」(区の独自項目など)について、肯定的な回答はそれぞれ6割前後にとどまり、園として検討すべき余地が残されている状況がうかがえる。園では、把握した意向及び検討経緯、保護者へのフィードバックの体系的な記録の必要性を感じていることから、効果的な記録の工夫が望まれる。</p>
②	<p>福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。園では、地域ネットワークを通じて、地域の共通課題の把握は行っているが、把握した課題を園が主体的に分析するには至っていない。園が積極的に参加している地域ネットワークの課題改善・解決に効果的に取り組むためにも、情報の整理や分析方法の工夫が期待される。</p>
③	<p>区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」についてはポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。</p>

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点( A )		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
サブカテゴリ2		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評点( A )		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	中・長期的計画については区の「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」等があり、必要に応じ随時見直しを行っている。年度単位の計画については、各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、チャレンジプランを策定しており、これに基づいた園内プロジェクトチームを組織し、達成目標を立てて取り組んでいる。
②	保育面では、保育目標に基づき、年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されており、当期計画の反省を次期計画に活かすサイクルが確立している。行事については、必要に応じて行事のための会議を開き、ねらいや実施予定・内容、実施後の反省を記載し、寄せられた参加者の感想・意見(実施した場合はアンケート結果)をとりまとめ、次回に活かせるようにしている。
③	計画の策定にあたっては、利用者や職員への影響を十分考慮している。例えば、遠足の場所については、子どもが楽しめることとあわせて安全を最優先に考え、複数の候補地について下見を徹底するとともに、その基準も厳しく定めている。また、よい保育の提供のためには職員が安定した状態にいることも重要と考え、業務の偏りや過労などについては経営層が厳しくチェックしている。

5	カテゴリ5	
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準による区の採用があり、非常勤職員についてのみ園での面接を行っている。園には、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権はないといえる。 園内の配置については利用者と園運営の状況を鑑み、また職員との個人面談を経て、園長が責任をもって行なっている。
②	職員は、保育の実践をはじめ法や倫理、虐待や育児困難家庭支援、障害児支援など、様々な研修を受ける機会が確保されており、能力向上のための基盤は整備されているといえる。
③	園長は日々の保育の振り返り及び職員ヒアリングを通じて、職員の相談対応や指導に努めている。しかしながら、職員アンケート等からは、園長の求める職員像が園全体に十分浸透しているとは言い切れないこともうかがえる。また、職員の専門性の能力向上などについては、一人ひとりの希望や適正を踏まえた育成計画づくりには至っておらず、まずは人材づくりのイメージについて、園全体で共有することが望まれる。

7	カテゴリ7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	個人情報の保護制度に関しては、区の条例や関連規則により、個人情報の管理や開示請求の際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。しかし、園の利用者に対する説明・配布資料は用意されておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要といえる。
②	園で使用する情報は、電子データが増えているものの、依然紙媒体の文書が多い状況である。電子データであっても、ファイルしていつでもみられるようにしておくのが望ましいものもあると思われる。情報の重要性、使用頻度を踏まえ、情報の見やすさ、利用しやすさを向上させる工夫が望まれる。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にはなっていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。職員に対する個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果 区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 チャレンジプランで、子どもの記録のとり方について文章表現のスキルアップを掲げている。職員が作成する記録類には指導や添削を入れ、園全体で適切な言葉でかつ表現力豊かな文章づくりに取り組み、実際の文章にも徐々に改善がみられる。	
サブカテゴリ2		
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果 園では“保育のプロとして保護者の気持ちを受け止め、家庭や社会の問題など子どもの成長の背景にも思いを寄せることができる”、“コミュニケーション力・マネジメント力がある”職員と組織のイメージがあり、チャレンジプランでも園全体のレベルアップの仕組みづくりを掲げている。 仕事の効率的な進め方については理解も進み、改善がみられる。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果 衛生管理の手順や事故対応、病気対応など繰り返し検討し、園全体で子どもの安全や健康を守る取組みに力を入れてきた。実際に感染症の適切な対策は保健所にも認められ、また事故の発生件数は減少する、という改善がみられる。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ○ A   ● B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
利用者の意向は行事のアンケートや連絡帳、日々のコミュニケーションの中で把握し、改善に努めている。しかしながら、目にみえる形で改善傾向を確認するには至らず、継続的な取組みが望まれる。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	園では“保育のプロとして保護者の気持ちを受け止め、家庭や社会の問題など子どもの成長の背景にも思いを寄せることができる”、“コミュニケーション力・マネージメント力がある”職員と組織のイメージがあり、チャレンジプランでも園全体のレベルアップの仕組みづくりを掲げている。 仕事の効率的な進め方については理解も進み、改善がみられるので、引き続き園全体のレベルアップのイメージを具体化することが期待される。
②	衛生管理の手順や事故対応、病気対応など繰り返し検討し、園全体で子どもの安全や健康を守る取組みに力を入れてきた。実際に感染症の適切な対策は保健所にも認められ、また事故の発生件数は減少する、という明確な改善がみられ評価できる。次のステップとして、健康を守るための知識や技術が、園全体に広がるための、計画的な取組みにつながることを期待される。
③	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。プランに掲げながら、目に見える成果に至らないものについては、プランを変更するのではなく、長期的に継続して取組むことが望まれる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)、献立表はひらがなで表記しているものもあり、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。園としては、適切で主体的な情報発信を目指していることから、職員自らが園の特徴を捉えたアピールのスキル向上が期待される。	
②	園の行事予定や「ふれあい保育」については、ポスターやちらしを主に児童館を通して、地域の住民に対して広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	いつでも見学希望者を受け入れる体制を整えており、園長・主査が中心となって対応にあたっている。施設や食事風景の見学、保育参観・参加などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。園では、園長・主査の不在時の受け入れ体制の整備を課題と考えていることから、見学対応方法の伝授が進むことが期待される。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説のしおりとして各種書類を冊子にまとめ、保育時間、与薬や常備薬、名前や写真など個人情報の扱いなどのルールの確認、また必要な持ち物などについて説明している。アンケートでは、回答者の9割ほどが「入園前の十分な情報提供」や「入園準備品の必要性の理解」(区の独自項目)について肯定的に捉えており、独自資料を用いての効果的な説明が功を奏している状況がうかがえる。
②	園では慣れ保育について1週間の期間を設定するなど、子どもが園の生活に自然に入っていくことを大切に考えている。また、乳児には保育士の担当制を導入するなど、子どもの不安やストレス軽減に努めている。 不安感については子どもや家庭によっても違いがあるため、入園前の保護者の相談内容を担当者が把握し、個別対応に努めている。一方、(アンケートで肯定的回答が十分とはいえない)説明会による入園前の不安の軽減については、引き続き説明方法の工夫が期待される。
③	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、保護者以外の養育の協力者など必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている児童や保護者の個別対応のために活用している。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等を記録している。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。幼児はクラスごと、乳児は個別に目標をたて、計画に沿った保育が行われている。これらの目標や計画は園全体で検討・共有されており、利用者アンケートで9割近い回答者が「子どもの長所や個性が認められている」と感じている結果につながるものとなっている。園では非常勤職員にも計画内容を伝えたいという意向を持っているので、是非実現に向けて取り組んでほしい。		
③	子どもの状態の変化は、ミーティングでの口頭連絡のほか体制表、電話ノートに記録されるなど、情報を共有する仕組みができています。一方、降園時に子どもの1日の様子を知りたいという保護者の要望も少なくないことから、職員間で引き継がれた子どもの情報を、保護者にもうまく伝達できるとよいのではないかと。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2		サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している	
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)			
①	“利用者(子ども・保護者)の人権の尊重”は園がもっとも大切に考えていることの一つとなっている。しかしながら、職員アンケートの結果などからは、園全体にその理念や具体的な取り組みが十分浸透しているとは言い切れない状況がうかがえる。“子どもの権利”の真意を園全体で再確認し、毎日の保育に活かすとともに、その取り組みについて保護者の理解を深める工夫も期待したい。		
②	子どもや保護者への言動については、子どもや保護者の生活リズムや気持ちを大切にされた個別対応について職員が確認しあっている。また、子どもの記録については、記録内容の正確さの確認とあわせて、使用する言葉が子どもや親の気持ちを傷つけない妥当なものになっているか、指導者が確認している。記録の確認は、日常の言動の振り返りにもつながる取り組みとして、効果が期待される。		
③	子どもの羞恥心やプライバシーへの配慮としては、失敗を責めない言葉かけや、トイレの失敗の際の目立たない着替え場所の設定などに心がけている。また、プールやシャワーの際に目隠しをつけることにより、子どもの羞恥心を養うことにも取り組んでいる。羞恥心やプライバシーへの配慮の具体的な対応については、環境や時代にあわせて柔軟に方法を考えていく必要がある。		

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
○あり ●なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』の中で、緊急避難、防犯対策、園外活動の注意等基本的な対応についての手順をまとめている。また、感染症対策など使用頻度の高いものは各クラスに設置するなど、業務水準の確保に努めている。しかしながら、マニュアルの見やすさ、利用しやすさについては、インデックスをつけるなどの工夫をはじめ改善の余地があると思われる。園では、職員の共通理解を進めるために内容を見直す意向もあることから、その取り組みの具体化が期待される。	
②	子どもの安全を守ることにについては、細心の注意を払っている。園で発生したけがや事故について、園全体でその原因をさぐるとともに再発防止に努め、今年度はけがの発生件数が昨年度と比べて激減するという成果につながっている。	
③	保育の悩みや問題は報告を通して園長が把握し、報告職員同士で話し合う機会もある。園長は職員ヒアリングの中で、職員への指導や助言を行うなど、より高いレベルでの業務の標準化を図ろうとする取り組みもみられる。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子どもの姿の全体像は児童票などにより把握し、クラス運営の中で保育の中で大切にしたいポイントを一人ひとり検討している。利用者アンケートでは「子どもの長所や個性が認められている」ことや「やる気・達成感を重視した支援がある」こと(区の独自項目)に9割前後の肯定的な回答が寄せられている。利用者にも、発達を促すための保育の実践が理解されている様子もうかがえる。		
②	園では、保育の実践について、園全体でフォローし合える体制の必要性を感じている。具体的な実践内容については、クラス運営の中で検討されることが多いため、まずは、検討経緯や実践内容をリアルタイムで園全体で共有するしくみが必要といえる。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、保育士は区の発達センターを通して専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( <b>A+</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input checked="" type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</span>			
幼児は園庭でピーマン、きゅうり、とまとなどの野菜づくりをしており、栽培や収穫の楽しさを食べることの喜びへつなげるよい機会となっている。また、栄養士を中心として食材や栄養、調理などを子どもたちに説明する食育に取り組んでおり、子どもたちに「食べること」について学び、考えるきっかけを与えている点は大変評価できる。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や園児の嗜好のチェックが行われている。調理員は食事の時間に各クラスを回って子ども向けに献立の話をすることもあり、子どもの食材への興味や関心を高め、好き嫌いの解消にも効果をあげているといえる。		
②	アレルギーの配慮が必要な子どもについては、保護者が毎月の献立チェックを行い、チェック結果をもとに該当食材を除去した給食が用意されている。また、提供する際はお盆にのせ、一般食とは違うことが視覚的にわかるようにし、配膳の際にも間違えることがないよう、細心の注意が払われている。		
③	食事環境については、いすやテーブルの高さを子どもの状態に合わせるほか、おしぼりや紙ナプキンの設置、室内温度調整の配慮などによって、快適に食事できるように配慮されている。また、食事の場所をテラスや園庭に移すなど、普段と異なる雰囲気でも食事を楽しむ演出にも取り組んでいる。		

<b>3</b>	<b>評価項目3</b> 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による訪園をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、月1回発行の保健だよりを通じて行っているほか、特に感染症に注意が必要な時期は、おたよりのほかに園内の掲示板を利用して注意を喚起するなど、予防対策に取り組んでいる。また、乳児のおもちゃは毎日消毒を徹底するなど、園内の衛生管理には細心の注意を払っている。		
③	看護師は常駐していないが、子どもへの与薬は、子どもの症状や薬の種類など区で定められたルールに則り、主査が中心となり対応している。与薬管理表記入の徹底により、薬の受け渡し、保管、与薬の適切な対応に努めている。また、園では診療科目別に地図添付の病院リストを準備している。保護者からの問い合わせがあれば、ロコミ情報とともにリストのコピーを提供し、医療機関につなぐ努力をしている。		



4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		<b>評点( A )</b>
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
<b>評価項目4の講評(一つ以上)</b>			
①	園では園内の施設について“整理整頓”、“安全で落ち着いて遊べるコーナーづくり”を大切に考えている。園内は季節感のある装飾に心がけ、コーナーでの畳の利用や、夏の日差しを和らげる遮光ネットの設置など、子どもが快適で楽しめる環境づくりに取り組んでいる。老朽化や損傷のあるものについては、引き続き計画的な交換や補修も望まれる。		
②	子どもが楽しめる行事としては、夏まつりや運動会をはじめ、お楽しみパーティー、手品の会、おもちゃで遊ぼう、プラネタリウムなどが開催されている。これらの行事は、子どもの発達などを踏まえ計画的に準備され、4月はじめには保護者に年間の行事予定として配布されている。		
③	食事、睡眠、運動、排泄などは子どものリズムにできるだけあわせる配慮を行い、午睡については、早く寝たい子、目が覚めてしまう子がそれぞれ快適に過ごせる場所の確保に努めている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	園だより(いずみだより)や月1回以上発行しているクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごとを園内に掲示し、降園の際にみてもらえるようにしている。全クラスのおたよりを園内に掲示することで、保護者に園全体の様子の積極的なお知らせにも努めている。 園の様子は常時参観できるが、特に「遊びに来てね」という日を設定することで、祖父母が参加しやすい雰囲気づくりにも心がけている。また、保護者会のあとの「ほっとティータイム」では保護者同士の交流を深める機会も提供している。		
②	遅い登園の子どもを柔軟に受け入れるとともに、できるだけ給食を食べてもらいたいとの思いから、給食の取り置きについての規定時間を保護者に周知している。 降園に関しては、「降園の際の子供の表情はよい」ことは認められている(アンケートで肯定する回答者が8割を超える)ものの、「降園時の子どもについての話」については保護者の要望が高いこともうかがえる。日々の保育の中での家庭との交流や連携が進む工夫にも期待したい。		
③	多様な勤務形態の保護者全員の意向を汲むことはでき得ないが、利用者アンケートでは「行事日程は保護者に配慮されている」と7割を超える回答者が感じている。年間行事予定をできるだけ早く提示したり、保護者会の開催時間を調整するなど、園の行う日程調整に向けた配慮が認められていることがうかがえる。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策を行っている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所をはじめとする関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	区の実務研修などに職員が参加し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた能力の向上に取り組んでいる。また、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織としての対応能力の底上げを目指している。 さらに、職員のグループでは園内の事例検討にも取り組むなど、気になる案件については、園全体で支えあうことを心がけている。		
③	園では、子どもの発達について保護者と共通理解を進めるために、保護者会で“1年間ですること”という話をしている。発達の進度や考えなどをわかりやすく伝え、子どもにとって大切な食事や睡眠などの生活リズムについても保護者と共通理解を深めることを大切にしている。 職員間においては、基本的な考え方が共通でも、その理解の深さや伝え方には経験などによる違いがあると思われるので、お互いの経験や悩みを共有しながら、自身をもって対応できるスキルを身につけることが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	子どもや子育てに関する地域ネットワークに参画し、地域の施設や住民との交流を継続的に行っている。夏まつりや運動会などには、地域からの参加を積極的に呼びかけるほか、園児が地域の高齢者施設に訪問して歌を披露することもある。さらに、お話ポケットというボランティアの読み聞かせや手品のボランティアとの交流も継続的に行われるなど、子どもが地域の人とふれあう機会は十分用意されている。アンケートでも8割を超える回答者が「地域住民との交流を図っている」ことを認めており、交流の様子などは保護者にも伝わっていることがうかがえる。
②	地域ネットワークへは、園長や主査以外の職員も参加しており、職員が「和泉」という地域のことを知るよい機会ともなっている。日々の業務のバランスをとることは引き続きの課題となるが、職員が地域を知ることによって視野を広げ、客観的に園の役割を見つめなおすことは、子どもとふれあう保育の現場にもよい効果をあげることが期待できる。
③	地域の情報は、地域子育てネットワークニュースの配布をはじめ、区から届けられるポスターの掲示やチラシの配布を通じて保護者に提供している。今後は、地域の情報について園の独自で収集したり、区からの情報に園で追加でコメントをつけるなど、保護者の利用しやすさをさらに向上させる取り組みの検討も期待される。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの健康と安全を守る、安心できる園づくりに向けた取組み
	内容	子どもの健康や安全を守ることに細心の注意を払っている。子どもへの与薬は、子どもの症状や薬の種類など区で定められたルールに則り、主査が中心となりきめ細かに対応するため、与薬管理表への記入を徹底している。また、園では診療科目別に地図添付の病院リストを準備し、保護者からの問い合わせがあれば、ロコミ情報とともにリストのコピーを提供するなど、医療機関につなぐ努力をしている。さらに、子どもの健康と安全について、園全体の意識の高まりとともに子どものけがなどの事故発生件数が減少するなど、具体的な数字にも成果が表れている。
2	タイトル	積極的に行われる地域交流の取組み
	内容	子どもや子育てに関する地域ネットワークに参画し、地域の施設や住民との交流を継続的に行っている。夏まつりや運動会などには、地域からの参加を積極的に呼びかけるほか、園児が地域の高齢者施設に訪問して歌を披露することもある。さらに、読み聞かせや手品のボランティアとの交流も継続的に行われるなど、子どもが地域の人とふれあう機会は十分用意されている。アンケートでも8割を超える回答者が「地域住民との交流を図っている」ことを認めており、交流の様子などは保護者にも伝わっていることがうかがえる。
3	タイトル	計画的、効果的に園運営を進めようとする姿勢
	内容	園では“保育のプロとして保護者の気持ちを受け止め、家庭や社会の問題など子どもの成長の背景にも思いを寄せることができること”と、“コミュニケーション力・マネージメント力の向上”を、職員と組織の能力向上の柱としている。いずれも、毎年度ごとに成果を見直すチャンレンジプランの中に掲げ、計画的に取り組んでいる。コミュニケーション力のレベルアップの具体策として、職員が作成する記録類を園長が指導・添削し、適切で伝わりやすい文章づくりへの改善がみられる。着実に成果をあげようとする園運営の姿勢が評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの様子をわかりやすく伝える工夫
	内容	園では子どもが楽しく快適に過ごすために様々な工夫に取り組んでいる。“安全で落ち着いて遊べる場所づくり”を大切に考え、季節感のある装飾で楽しい雰囲気づくりに努め、子どもが安全に遊べる木の手作り玩具をはじめ、積み木や絵本が十分に揃えられている。しかしながら、利用者アンケートでは「子どもの長所や個性が認められている」ことは十分認知されているものの、「感性を育む活動・遊び」の様子や「遊具が十分用意されている」ことの認知は十分とはいえない。子どもが園の生活を楽しんでいる様子が、家庭に十分伝わる工夫が期待される。
2	タイトル	人材づくり・組織づくりの具体的なイメージの園全体への浸透
	内容	園長は日々の保育の振り返りをはじめ職員ヒアリングなどを通じて、職員の相談対応や保育士としての能力向上のための指導に努めている。しかしながら、職員アンケート等からは、園長の求める職員像が園全体に十分浸透しているとは言いがたい様子もうかがえる。また、職員の専門性の能力向上などについては、一人ひとりの希望や適正を踏まえた育成計画をつくるには至っていない。まずは園が取り組む人材づくり・組織づくりの理念を、具体的なイメージとして園全体で共有し、理解を深めることが望まれる。
3	タイトル	利用者の意向や要望への確実に対応するための取組み
	内容	行事等についてはアンケートを実施し、利用者の意向を集約しているほか、園では日常的な保護者とのコミュニケーションからの意向把握を重視している。一方で、利用者アンケートでは「要望等への対応」、「要望による改善」、「要望や意見の言いやすさ・聞いてもらいやすさ」(区の独自項目)などについて、肯定的な回答はそれぞれ6割前後にとどまる。園では、把握した意向について効果的なフィードバックの必要性を感じていることから、園全体での十分な検討と検討経緯、保護者へ伝えた内容などがきちんと残るような、体系的な記録の工夫も望まれる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	109	
調査対象者数(人)	97	
有効回答数(人)	59	
回収率	60.8	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体の約7割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が71.1%)。個別にみると、肯定的な回答が9割を超えた項目はなく、「1.登園時の子どもの様子の確認」、「2.食事のメニューの充実」、「3.散歩で戸外に出る機会が多い」、「5.子どもの良い所や個性が認められている」で8割を超える結果となっている。

一方、5項目で肯定的な回答が4割を下回り、「6.職員の対応のばらつき少なさ」では否定的な回答である「いいえ」が3割を占めているなど、利用者の評価が低い部分が見受けられる。

前回評価時(平成16年度)と同じ質問だった項目では、「19.不満などへの的確な対応」や「24.地域交流を図っている」(ともに58.6%→37.3%)など、大きく評価を下けている項目があり、総合的な満足(9割→7割)も低下している。この結果には、平成21年度より公設民営化されることが今年度5月に発表されたことが影響していると思われる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	48	81.4	9	15.3	2	3.4	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	51	86.4	4	6.8	4	6.8	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	48	81.4	10	16.9	1	1.7	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	45	76.3	13	22.0	1	1.7	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	48	81.4	9	15.3	2	3.4	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	25	42.4	15	25.4	18	30.5	1	1.7

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	35	59.3	17	28.8	7	11.9	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	47	79.7	10	16.9	1	1.7	1	1.7
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	41	69.5	12	20.3	4	6.8	2	3.4
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	47	79.7	10	16.9	1	1.7	1	1.7
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	39	66.1	12	20.3	4	6.8	4	6.8
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	36	61.0	17	28.8	6	10.2	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	35	59.3	15	25.4	8	13.6	1	1.7
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	36	61.0	16	27.1	5	8.5	2	3.4
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	30	50.8	21	35.6	8	13.6	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	37	62.7	18	30.5	4	6.8	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	43	72.9	14	23.7	2	3.4	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	22	37.3	27	45.8	10	16.9	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	22	37.3	28	47.5	7	11.9	2	3.4
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	22	37.3	28	47.5	6	10.2	3	5.1

#

《事業所名：06 高円寺南保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	19	32.2	18	30.5	21	35.6	1	1.7
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	15	78.9	2	10.5	2	10.5	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	12	63.2	6	31.6	1	5.3	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	22	37.3	23	39.0	11	18.6	3	5.1



I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育目標は、区の施設案内に掲載されており、ホームページなどを通じて一般に周知されている。また、事務室内にも掲示されており、職員や事務室を訪れた利用者はいつでもこれを確認することができる。保育目標は、利用者に対しては入園説明会や保護者会において、職員に対しては会議等を通じて、園長が口頭で説明しているが、利用者アンケート及び職員アンケートの結果からは、どちらにも浸透していない様子がうかがえる。今後は、保育目標など、園が目指していることを利用者や職員に分かりやすく伝えていく取り組みが期待される。	
②	訪問調査時には、会議録やチャレンジプラン(行動計画)の実施状況などから、園長が園運営のリーダーとしての役割を果たしていることを客観的に確認するには至らなかった。今年度は平成21年度からの公設民営化が具体化したという背景もあり、厳しい状況であったことは否めない。今後は、園長が園運営の面でリーダーシップを発揮しつつ、職員や利用者の信頼を得るような取り組みが期待される。	
③	園内の重要案件については職員会議によって決定されており、会議での決定事項は周知徹底されている様子がうかがえた。ただし、職員アンケートからは案件の決定過程が適切ではないとする職員が少なからずいる状況がみとれるため、今後会議運営について、可能な限り全職員が納得できるよう留意していくことは必要であろう。保護者に対しては、保護者会やおたよりを通じて、決定事項の説明や周知を行っていることがうかがえた。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( B )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
○あり ●なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
○あり ●なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理に関する区のハンドブックが常備されている。子どもとの関係で職員に必要とされる倫理法令等の遵守などについて、関連文書の掲示や、確認し合う機会をもっているとのことであったが、職員の理解が深まるような取り組みを客観的に確認するには至らなかった。倫理法令等の遵守といった基本的事項については、とかく当然のことと考えがちであるが、制度や社会の変化も激しいことを意識し、改めて職員会議等で取り上げたり、園内研修・勉強会を実施するなど、具体的な取り組みが望まれる。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされている。また、ボランティアの受け入れは杉並ボランティア活動推進センターを経由して行っている。園においては、実習生・ボランティアの受け入れの実績はあるものの、受け入れ体制や方法等について確認することができなかった。今後は実習生やボランティアへの対応手順、注意事項を明示するなど、受け入れ体制を整備する取り組みが望まれる。		
③	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、地域支援の活動を実施し、園庭や施設・設備の開放、育児相談を行ったり、地域の子育て家庭が集まる機会を設けている。また、児童館で開催される行事に職員を派遣するなど、専門性を生かした取り組みを積極的に行っている。		

3	カテゴリ3		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
	サブカテゴリ1		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		○あり ●なし
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。さらに、日常的に目に留まる場所に掲示するようしたり、説明の機会を設けるなどの工夫が期待される。	
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の送迎時の会話や連絡ノート、必要に応じて実施するアンケート等で把握している。把握した内容は分析して対応を協議した結果を利用者へ返しており、苦情・要望等について可能な限り対応するよう務めている。しかし、利用者アンケートでは、苦情・要望等への対応に関する項目での評価が低くなっている。これには、将来の公設民営化が今年度5月に発表されたことの影響もあると思われるが、園として、意向把握や要望への対応が充分なのか、再確認することが望まれる。	
③	地域の福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。これらを園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度毎に各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しの制度が定着している。
②	園では、今年度のチャレンジプラン、年間計画や行事分担、避難訓練計画等が作成されているほか、保育に関する年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されている。行事や園内プロジェクトについては、担当ごとに計画を作成して実施している。計画を更新する際には反省を行っており、次の計画に反映させることに努めている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練が関係機関との連携のもと実施されている。利用者アンケートにおいて回答者のおよそ9割が「遊具等が安全で利用しやすい」(区の独自項目)と評価される一方で、「侵入者等への安全対策がとられている」とする回答は4割を割り込んでいるなど、安全対策について利用者からの評価が得られていない部分もあり、今後の取り組みが期待される。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <span style="float: right;">○非該当</span>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員の採用については、区の人事担当部署が担っており、面接等に園が直接関わる機会是用意されていない。一方で、非常勤職員については、必要に応じて園で募集し、園の雰囲気やその時々状況に合致する人材を園長が直接面接等している。また、クラス担任等、園内の職員配置については、職員の希望をとった上で、子ども達の保育を進める上で適切かどうかを考慮して決定している。
②	区の職員が共通して受ける研修については計画的に実施されているが、保育園における専門能力の向上といった見地からの職員個々の育成計画は明確にされていない。また、園外研修の参加には勤務日程が配慮がされ、研修後にはレポートを作成するとともに、会議の議題として研修報告を盛り込んでおり、研修後の確認と職員間での共有化に取り組んでいる。
③	園長は日々の保育や会議などの機会を通じて、職員への声かけに努めている。しかしながら、職員アンケート等からは、園長と一般職員との間の意思疎通が上手くとれていない状況があると推察される。今年度は平成21年度からの公設民営化が具体化したという背景もあり、厳しい状況であったことは否めないが、今後、園長と一般職員の相互理解をすすめ、役割分担等について再確認し、目標とやりがいをもって保育にあたるような取り組みが期待される。

7	カテゴリ7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている文書は、フォルダを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。
②	個人情報保護の制度については、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、保護の方法や本人に開示する際の手続き等が詳細に定められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。しかし、利用者に対する説明・配布資料は用意されておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要である。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、文書を用いた説明はほとんど行われておらず、口頭により行われているものが大半を占めている。また、されているものされていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。また、職員の意識を高めるために、個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

<b>8</b>	<b>カテゴリ8</b>
カテゴリ1～7に関する活動成果	
<b>サブカテゴリ1</b>	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
<b>評価項目1</b>	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
<b>改善の成果</b>	
・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 ・平成18年度は“安心して過ごせる保育園”、“情報の共有化”、“園全体の整理整頓”をチャレンジプランの目標として取り組んでいるが、訪問調査時点において成果は確認できなかった。	
<b>サブカテゴリ2</b>	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
<b>評価項目1</b>	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	
<b>改善の成果</b>	
・平成18年度のチャレンジプランにおける“情報の共有化”と関連した取り組みで、“会議録の記録・管理の推進”に取り組んでいるが、訪問調査時点において成果は確認できなかった。	
<b>サブカテゴリ3</b>	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
<b>評価項目1</b>	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	
<b>改善の成果</b>	
・保護者へ子どもの園での様子を伝えるための「今日のトピックス」を、ホワイトボードへ書き込む方法から、紙に記入してクリップボードで掲示する方法に変更した。これにより、毎日迎えに來れない保護者などが、数日分のトピックスを遡って読むことが可能になり、情報提供の面で改善がみられた。 ・保護者へ個別配布したおたより等の紛失を防ぐために、ウォールポケットを全クラスで導入し、効果があった。	



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
保護者からの声を苦情としてではなく、改善のための助言として受け止め、それをどう実現していくか考えることで、保護者対応に前向きに取り組めるようになった。具体的には、朝夕の送迎時などを通じて寄せられた意見や、会話などから、保護者の“声”を拾い出し、ノートにまとめ、その対応について会議などで話し合う取り組みが定着する成果があった。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。
②	今年度のチャレンジプランの取り組みについては、訪問調査時点において成果は確認できなかった。今年度は平成21年度からの公設民営化が具体化したという背景もあり、当初の目標を達成することが困難な状況であったことが推察される。こうした状況を踏まえた上で、来年度以降の目標設定と取り組みに期待したい。
③	厳しい状況の中で、保護者への情報提供や、要望等への対応といった面で改善成果があったことは、利用者本位という観点からも評価できる。来年度以降、改築のための仮園舎移行など、園の環境が大きく変化することも踏まえ、子どもの保育の質を落とさないことや、保護者へ十分な説明を行なっていくような取り組みが今後も求められるものと思われる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。全ての公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)で表記しているものもあるほか、給食については、メニューの掲示だけではなく乳児・幼児ともその日の給食を玄関に展示するなど、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。	
②	園では、園開放事業に取り組んでいるが、その周知方法としては、児童館などの地域の関係機関にポスターを掲示してもらい、グループ開催時には門扉に案内の木札を掲示する、年度初めの時期には保育士がグループのチラシを散歩先に持参し、地域の保護者に配布する、などを行っており、地域に住む子育て世帯に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	園の見学については、希望日時だけでなく、どのような場所・場面を見学したいのか、要望を聞いたうえで最適な日時の提案も行い、来園時も一対一の対応を行うなど、来園者個々のねらいに沿った見学ができるような心配りがみられる。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園申込みの際の資料には、受け入れ時間や園での生活における基本的なルールをはじめ、入退園の条件、保育料のほかに、希望するサービスが受けられない(例えば、入園できるが延長保育は利用できない等)場合の対応方法などが示されている。また、入園内定後には、個人面談によって、子どもの状況、保護者の意向確認などが行われるとともにその結果は児童票等に記載され、子どもの状況を把握するため重要書類として活用される。
②	入園児の保護者全員を対象とした入園説明会を行っており、園の保育に対する基本的な考え方(理念・方針)や園の基本的なルールなどは園独自に作成した「入園のしおり」を使って説明している。この「入園のしおり」については、園生活に必要な事項について1冊の冊子にまとめられており、入園後についても見返して活用できるよう工夫されている
③	利用者アンケートにおいては、「入園説明や見学で預ける不安が軽減した」とする割合が6割に満たないなど、「入園前の対応」全般に対する評価が他の区立園に比し低い結果となった。今後、入園前の対応について評価が低かった要因を分析し、今後の改善への取り組みにつなげることを期待したい。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に記録している。具体的には入園内定後に行われる個人面談の内容に始まり、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、保育を行うに当たっての留意点等が記録されている。また、情報の追加については、定期的に行われており、日ごろの保育の中から得た子どもの発達や健康状態などのほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)の中からも重要なものについては記録するよう心がけられている。		
②	子どもの保育の方針や方法等については、指導計画という形で取りまとめられ、年間・月間・週という単位で作成されている。この指導計画の内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成されている。また、指導計画の概要やねらいについては、わかりやすい表現に代えて保護者会や園だより等で伝えるよう努力されている。		
③	子どもの情報の職員間の共有に関しては、職員会議などを通じての口頭による確認(会議録には内容を記載)のほか、朝・夕ノートに記録されるなど、情報を共有する仕組みができています。しかしながら、利用者アンケートの結果では、「職員による対応の差が少ない」とする回答も4割程度にとどまっていることから、情報共有の成果が効果的に生かされていないことも考えられる。保護者の満足を得られる方策について今一度検討することが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、気になる子などの情報についても、まず保護者と話し合いをもち、納得した上で他機関との橋渡しを行うよう心がけられている。	
②	おむつ交換を別室で行う、プール時に園外からの視線をさえぎるためのネットを張るなど、子どものプライバシーに対する配慮がなされている。	
③	“子どもの権利を守り、個人の意思を尊重すること”は、園目標である“自分のことが好きな子ども”に通じる園が大切に考えていることの一つと位置づけられる。その実践については、利用者アンケートにおいて「子どもの長所や個性が認められている」と感じている保護者が8割を超えるなど、着実に実行されている様子がうかがえる。その反面、職員アンケートにおいては、本項目の職員評価が低く職員の中では現在の取り組みに満足していないことが推察されることから、今後の改善に向けた取り組みを行い、ステップアップにつなげることを期待したい。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』の中で、緊急避難、防犯対策、園外活動の注意等基本的な対応についての手順をまとめている。また、『危機管理マニュアル』の中でカバーできない点については、園においても各クラスの状況等に応じたマニュアルを作成し、定期的に見直すことも行われている。さらに、マニュアルの内容によって必要なものについては、見やすいところに貼りつけるなど、業務水準の確保に向けて努力している姿が認められる。	
②	職員アンケートにおいて「事業所業務の標準化」に関する自己評価は低く、職員においては現状に満足していない姿がうかがえた。若い職員が多いことや園運営の民間委託も考慮すれば、マニュアル等を通じた業務の標準化に向けた取り組みは、ベテラン職員が持っている保育ノウハウの次世代への継承や民間委託時の委託仕様への反映など、重要性が大変高いものとして捉えることもできる。このことを念頭にといった取り組みが行われることに期待したい。	
③	門扉の施錠や目の届きにくい通用門は限られた朝の時間のみ開く、カメラ付インターフォンを設置、保護者に対して名札をつけていただくルールを導入するなど安全対策については、様々な取り組みがなされている。しかしながら、利用者アンケートの「侵入者等への安全対策がとられている」と感じている保護者が4割を切るなど、保護者への理解が得られていない。同じ安全対策でも「遊具等が安全で利用しやすい」(区独自項目)とする保護者が9割近いことを考慮すれば、侵入者対策について保護者の理解を得られるための取り組みを行うことが課題といえる。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では、普段の年齢ごとに分けられたクラス単位の活動だけではなく、食事や散歩、お楽しみ会などにおいて3～5歳児のクラスが混合して行う活動(縦割り保育)も定期的に行われている。この取り組みは、年齢の高い子どもにとっては、年齢の低い子どもを世話することによってリーダーシップを養い、年齢の低い子どもにとっては年齢の高い子どもの姿を見てその行動について学ぶなど、両者の発達を促す効果が期待でき、園目標の“くつろげる、丸ごと家族の保育園”の実現にもつながるものとして評価したい。		
②	園外活動では、遠足やゆうゆう館への訪問、地域のお祭りへの参加などといった特別な行事のほか、日常では様々な場所への散歩が行われている。この散歩については、狭い園庭を補完する役割も期待されるため、現在行われている安全面の配慮(危ない公園には行かない、散歩先の報告、人数確認や緊急時の連絡の周知徹底等)を継続的に行いながら、今後も積極的に取り組むことを期待したい。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、区の発達センターを通じて職員が専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
<p>区の栄養士や園の看護師を中心として食育に取り組んでおり、食をテーマとした紙芝居などを通じて、子どもの食への興味や関心を促す取り組みが行われている。</p> <p>また、子どもたちが野菜を苗から育て、収穫し、食べるという実践にも取り組まれており、食べることの喜びやそれまでの苦勞を体験するとともにその大切さについて学ぶ機会が提供されており、苦手な食物の克服にもつながっている。なお、子どもたちが収穫したものがわかるように単品でお皿にのせ配食するような細かい配慮も行われ、効果的な学びにつながる工夫もされている。</p>		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	<p>普段の食事の際は、テーブルに子どものシンボルマークをつけ、同じ場所で食べることができるようにするとともに、いすやテーブルの高さも子どもの状態にあわせる(場合によってはお風呂マットを使った微調整なども行う)ことも行い、快適で安定した状態での食事に配慮している。また、行事の際はメニューだけでなくお皿も変更する、子どもの希望によりペランダで食事するなど、普段と異なる演出で食事を楽しむ雰囲気づくりにも取り組んでいる。</p>	
②	<p>アレルギーを持つ子どもに対しては、毎月一回保護者に子どものアレルギーの状況についての確認を行うとともにその状況に応じた献立のチェックを行っていただき、チェック結果に基づくアレルゲンを除去した給食が配食されている。また、アレルギー食の子どものお食事はお盆にのせ、一般食とは違うことが視覚的にわかるようにし、配膳の際にも間違えることがないよう、細心の注意が払われている。</p>	
③	<p>0歳児の食事については、食材の刻み方や軟らかさは子どもの状況に応じて一人ひとり変えるなど、きめ細かい対応がみられる。また、関係職員での情報共有が、離乳食進度表の作成を通じて行われており、適切な食事の提供を心がけている様子がうかがえる。</p>	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	児童の健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科等各診療科の年1回の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録されている。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供については、月に一回発行される保健だよりを通じて行われるとともに、特に感染症を発症した子どもが園で発生した場合は、その感染症に対しての情報と注意を促す掲示を連絡ボードを通じて行っている。		
③	看護師が常勤しており、日ごろから保護者からの健康に関する相談に応じている。特に、保護者が来園する登降園の時間帯はいつでも対応ができるような体制を取っており、保護者が必要なときに利用できる配慮がなされている。		

4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子ども一人ひとりが特別な気持ちになれるよう、誕生会は、それぞれの誕生日当日に行われている。誕生日の子どもは誕生日バッチを一日着用して過ごすほか、誕生会では手作りの誕生カードをもらい、職員が作成した(おもちゃの)ケーキでクラスのみんなにお祝いされるなど、子どもが自分の誕生日を楽しめるよう雰囲気盛り上げる配慮がなされている。また、職員間での日々の確認事項、引き継ぎ事項の中に子どもの誕生日も含まれており、担任以外の職員からも子どもに声かけができるように組織として取り組まれている。		
②	環境面では、じゅうたんは使わず、すぐに洗うことができるマットを使用するなどのアレルギーを持つ子どもに対する配慮が行われている。また、今年度のチャレンジプランの目標として「園内の整理整頓」を掲げ、場所ごとに期限を設け、計画的に取り組むことが予定されている。調査時点では、計画よりも遅れている状態であったが、今後の着実な実行に期待したい。		
③	お昼寝は、給食の配善前には環境が整えられ、食事後にすぐにお昼寝をしたい子どもに対しての受け入れ態勢を整えている。また、午睡時間に眠れない子どもについても保育室で遊んでいることができるようにするなど、個別の状況に応じた配慮がなされている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしきみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者に対しては、定期的かつ目的別に発行し、配付されるクラス・園・保健等の「たより」や行事毎に発行されるお知らせ、また連絡帳・各クラスの連絡ボードを通じて園での子どもの様子やクラスの様子などが伝えられている。また、散歩については、散歩先やそこまでに通るルートなどを『お散歩マップ』として地図に表現し、子どもたちだけではなく保護者も理解できるように取り組まれており、利用者アンケートの「散歩で戸外に出ることが多い」と回答した保護者が8割を超える結果にもつながっている。		
②	行事については、年度の始めに日程をきめ、保護者にお知らせすることにより、保護者の日程調整が行いやすいよう配慮がなされている。特に運動会は近隣の学校等と重ならないように配慮するほか、卒園式は5月の保護者会において年長クラスの保護者の予定を聞きながら、調整し、日程を決定することも行われている。しかしながら、利用者アンケートでは本項目の満足度が約5割と低い。関係者全員が満足する日程決めは不可能であるが、満足度が低い原因について把握し、理解を得るための取り組みについて検討していくことは必要であろう。		
③	園では、園内に入るときに保護者を含め、園が作成した「名札」を着用することをルール化している。保護者以外が子どもの登降園時の付き添いとなる場合は、この名札を着用してもらうほか、事前に園に連絡を入れていただくこととなっており、連絡がない場合は確認が取れるまで引き渡さないことがルールとして定められ、周知されている。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待に関しては、その防止や万が一発見されたときに対する対応などが、区全体として取り組まれており、評価できる。具体的には、関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが統一マニュアルとして整備されており、緊急時に行うべき手順や連絡先などが詳細に決められている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員から会議などを通じて園全体へ研修で学んだことを伝え、職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げがなされるよう取り組まれている。		
③	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識の醸成については、保護者会でのお話や個人面談における説明等を通じて行われているとともに、職員が参加するような発達や育児に関する研修や講演会についてもお知らせするように心がけられている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	地域の情報などは、特に子育てに関する情報を中心として、ポスター掲示やチラシの配布、園だよりへの掲載等を通じて行われている。また、前述の情報や休日当番医の情報など一度お知らせしている情報についても、要望に応じて必要なときにすぐに回答できるよう事務室に準備するなどの配慮がされている。
②	ゆうゆう館利用者との交流(お茶会やフラダンスの発表会への参加、輪投げ遊びなど)や英語を教えていただくボランティアさん等との交流、保育実習生、職場体験等の地域の学生の受け入れなどを通じ、地域の方々との交流を積極的に行っている。また、運動会などの行事は地域の方々も参加することができ、そのためのお知らせとして、子どもたちが書いた絵をポスターとして用意し、地域の各種施設に掲示してもらったも行われている。
③	職員においても地域のお祭りにコーナーを出店し参加するなど、地域とのかかわりを深める取り組みがなされている。しかしながら、職員アンケートでの本項目の自己評価では、十分に行っているとする意見は少なく(3割強)、また、利用者アンケートにおいても「地域住民との交流を図っていると思う」とする保護者は4割に満たない。今後、職員も保護者も共に満足ができる取り組みについて、その周知の方法も含め検討していくことが望まれる。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	多彩な園外活動への取り組み
	内容	駅から近くの繁華街に位置しており、園庭も広いとはいえないが、その分園外活動には力を入れて取り組んでいる。遠足やゆうゆう館への訪問、地域のお祭りへの参加などといった特別な行事のほか、日常では様々な場所への散歩が行われており、子どもが身近な自然に親しむ良い機会となっている。また、安全面への配慮も行き届いている。こうした取り組みは保護者にもよく伝わっており、利用者アンケートでは8割を超える利用者が「散歩等で戸外に出る機会が多い」ことを認めている。
2	タイトル	きめ細かく配慮された食育に対する取り組み
	内容	区の栄養士や園の看護師を中心として食育に取り組んでおり、食をテーマとした紙芝居などを通じて、子どもの食への興味や関心を促す取り組みが行われている。また、子どもたちが野菜を苗から育て、収穫し、食べるという実践にも取り組まれており、食べることの喜びやそれまでの苦勞を体験するとともにその大切さについて学ぶ機会が提供されており、苦手な食物の克服にもつながっている。なお、子どもたちが収穫したものがわかるように単品でお皿にのせ配食するような細かい配慮も行われ、効果的な学びにつながる工夫もされている。
3	タイトル	一人ひとりの利用者に向き合った園運営への取り組み
	内容	子どもや保護者の個々のニーズを踏まえ、それに向き合って保育していこうという姿勢がうかがえる。従来から、利便性の高い立地条件もあり、利用者の置かれている環境は様々で、そのニーズも多岐にわたる。加えて、今年度は平成21年度からの公設民営化が具体化するなど、園の置かれている条件も大きく変化した。こうしたなかで、利用者要望等への対応方法を改善する取り組みがされたことは評価できる。利用者アンケートでは厳しい評価が目立ったが、今後は理解が進むものと期待される。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員対応の差を解消する取り組み
	内容	職員対応の差が生じる要因としては、事業所業務の標準化(園という組織として求める保育の質のレベルの明示)と情報の共有という大きく2つの点が十分ではないことにより生じていると推察される。特に事業所業務の標準化については、ベテラン職員の持つ保育ノウハウの伝承や民営化の際の委託仕様にも波及する重要性が大変高いものとして捉えることもできる。この2点についてはチャレンジプランの目標設定や職員アンケートの結果から園としても職員個人としても「課題である」と認識しており、今後の取り組みに期待したい。
2	タイトル	情報を記録として残すことの重要性の再確認とその徹底
	内容	園内のルールや様々な情報については、文書化し、目に見える記録として保存されているものもあるが、職員の間での口頭による伝達のみでとどまっているものも多数見受けられた。目に見える形で記録することは、非常に労力がかかることであるが、自分以外の他者に対して物事を「正確」「確実」に伝えるためには、必要なことである。今後は、この重要性について再認識すると共に、情報の記録化に対する取り組みが行われることに期待したい。
3	タイトル	一層の意思決定過程の透明化
	内容	園内の重要案件については職員会議によって決定されており、会議での決定事項は周知徹底されている様子が見えてきた。ただし、職員アンケートからは案件の決定過程が適切ではないとする職員が少なからずいる状況がみとれるため、今後は会議運営等において、可能な限り全職員が納得できるよう留意していくことが必要である。また、利用者へも決定過程を含めた情報提供に努め、理解を得る取り組みを続けていくことが今後の園運営において必要である。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	107	
調査対象者数(人)	84	
有効回答数(人)	60	
回収率	71.4	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が93.3%)。個別にみると、「2.食事のメニューの充実」や「3.散歩等で戸外に出る機会が多い」への肯定的回答が9割を超えるほか、「4.豊かな感性を育む活動・遊び」、「5.保育士が子どもの良いところや個性を認めている」、「8.お迎え時に満たされた表情をしてい」、「10.保育中の病気への対応」、「12.園からのたよりなどで子どもの様子を知る」などについても9割近い回答となっているなど、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「19.不満やトラブルへ対応」、「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われているという回答は約6割、「21.保育園運営理念・方針を知っている」という回答は5割をそれぞれ下回る。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	37	61.7	20	33.3	3	5.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	55	91.7	5	8.3	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	55	91.7	5	8.3	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	53	88.3	7	11.7	0	0.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	52	86.7	8	13.3	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少)ない)ですか	34	56.7	17	28.3	9	15.0	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	38	63.3	20	33.3	2	3.3	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	52	86.7	8	13.3	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不規則な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	45	75.0	14	23.3	1	1.7	0	0.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	53	88.3	7	11.7	0	0.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	49	81.7	9	15.0	0	0.0	2	3.3
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	52	86.7	8	13.3	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	45	75.0	10	16.7	4	6.7	1	1.7
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	43	71.7	15	25.0	1	1.7	1	1.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	36	60.0	23	38.3	1	1.7	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	41	68.3	17	28.3	1	1.7	1	1.7
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	42	70.0	17	28.3	0	0.0	1	1.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	34	56.7	22	36.7	3	5.0	1	1.7
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	33	55.0	24	40.0	1	1.7	2	3.3
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	33	55.0	24	40.0	2	3.3	1	1.7

#

《事業所名：07 上井草保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	26	43.3	27	45.0	6	10.0	1	1.7
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	25	96.2	1	3.8	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	22	84.6	4	15.4	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	36	60.0	20	33.3	4	6.7	0	0.0

## I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

<p>評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している</p>		<p>評点( A )</p>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<p>【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;"><input type="radio"/>あり</span> <span style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>なし</span></p>		
<p>カテゴリ1の講評(一つ以上)</p>		
①	<p>園の理念と保育目標は、園内に掲示されているとともに、園の入園のしおり等に掲載されている。指導計画においても、保育目標から具体的な展開がなされており、職員や利用者の理解と浸透が図られている。一方、園の組織目標が職員全体の話し合いにより作成され、課題解決のためのプランと達成目標が明示されている。利用者アンケートでは、利用者の園運営の理念・方針に対する認識度は4割程度と、その割合があまり高くなっていないことを踏まえ、保育理念や保育目標、組織目標を整理・見直して、利用者への周知方法を工夫していくことが期待される。</p>	
②	<p>園長は、園の方向性の明示、地域の子育て支援、苦情・トラブルへの対応など、園運営が円滑に行われるよう窓口になって対応する責任があることについて、年度始めの職員会議の他、事あるごとに各職員に伝え、報告を求めている。園では、年度の担任表や行事・係・プロジェクト・会議の予定、園長保育・朝・夕保育の仕事内容、災害時の連絡方法、アレルギー等の配慮児の一覧、防犯・防災の計画等園の重要事項を職員向けにとりまとめた、年度の「保育に関する諸計画」を作成しており、この中に園長の役割と責任についても掲載すると良いだろう。</p>	
③	<p>園では、問題が提起されたときは、情報を収集し、園全体に関わる事項か、クラスで対応・解決できる事項かを整理し、職員会議で話し合うようにしている。会議時間は限られているため、いかにポイントを明らかにして短時間で話し合うかが課題となっている。決定事項については、職員会議や定例打合せ、毎日のミーティングで報告を行い、職員全体に伝わるようにしている。保護者には、園だよりやお知らせの掲示で伝えるほか、保護者会場で話をするようにしており、必要に応じて保護者説明会も設けている。</p>	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	都や区の職員ハンドブックが常備され、公務員倫理や法令の規定がいつでも確認できるようになっているほか、守秘義務や個人情報保護に関する文書、NG用語集が職員に配布されている。また、子どもの人権について配慮し、名前を呼び捨てにしないことなどが職員会議において確認されている。区の関連する研修の受講にも努めていることがうかがえる。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付けて各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と現場の実習を行う、という役割分担となっている。園では、年間計画に基づき、年2～3名の実習生を受け入れており、事前オリエンテーション時に実習のしおりを配布して説明を行い、実習生の意向を大切にするとともに、実習効果が上がるような指導に努めている。ボランティアについては、区のボランティアセンターを経由して、今年度4名を受け入れている他、地域の中高生約10名の体験学習の依頼にも応じている。		
③	地域との交流・連携については、小学校区を中心とした子育てネットワークに参加して広報誌の編集・発行に協力しているほか、地域の行政連絡会や懇談会に担当者を決めて出席し、情報交換を行っている。また、保健センターの母親学級や地域の中学校の福祉講座に保育士を派遣するなど、専門性を生かした活動を行っている。園では、職員体制上、講師等の派遣を拡大していくことは難しいが、毎週、園庭や施設を開放している「あそびの広場」を通じて地域の子育てに貢献したいと考えており、さらなる活動の拡大と充実が期待される。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。		
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談の機会等を活用して把握しており、例えば、利用者の自転車駐輪場所の不足に関する苦情については、区に要請して門の移設工事を行って駐輪スペースを確保したり、当該スペースの水はけの悪さを解消するために別途工事を実施するなど、サービスの向上につなげている。		
③	地域の福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。これらを園としても分析して運営に活用するとともに、園の運営や保育に対する独自のアンケート調査を実施していけるとよいだろう。		

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」「保健福祉計画」「子ども子育てアクションプラン」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度ごとに各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しする制度が定着している。さらに、チャレンジプランが園の複数年度に渡る取組みを既定する中期計画に発展していくことが期待される。
②	園では、年度の園の概要や活動の計画を職員向けにとりまとめた、「保育に関する諸計画」が作成・編集されているほか、保育に関する年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されている。行事については、行事計画書で詳細を企画し、実施後に反省を行っており、業務や係活動、指導計画等についても、月単位、期単位での反省と課題の検討が行われている。さらに、保育に関する諸計画や園の組織目標、チャレンジプラン等を体系的に整理し、より実行性の高い事業計画として取りまとめていけると良いだろう。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、地震・火災・不審者等の災害・緊急時の避難訓練や防犯訓練が実施されている。地域の見回りを行う安全パトロール隊や学校警備員との連絡・連携も密に行われている。また、事故が発生した場合は、その経緯や内容を「事故報告書」に記載するとともに、職員全体に周知して改善策を話し合う、再発防止に向けた仕組みも機能している。新年度当初には、入り口や通園路に職員が立って子ども達を見守り、安全を確認していく意向である。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準に応じた区での採用、非常勤職員については各園での面接となっている。園長は、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権は有していないといえる。クラス担任については、毎年度末、職員から希望をとり、ベテラン、中堅職員などのバランスを考慮した上で決定するようしており、現在のところ希望に沿った配置を行うことができている。係分担についても、各職員が得意なことを十分に発揮することができるよう希望を出してもらい、業務負担が偏らないように調整した上で決定している。
②	各職員の研修については、開催の都度、各自の希望を把握するようにしているものの、個々の研修計画は作成されていない。来年度より、個人別のチャレンジプランの作成が必須となるようであるが、職員一人ひとりが自らのキャリアプランを描くことができ、それに向かってどのような能力・研修が必要となるのかが明確になる仕組みとしていくことが望まれる。昨年度からの園内研修の試みとして、月1回、臨床心理士の指導を受け、気になる子どもについてビデオを見ながら事例を検討する勉強会を行っており、多くの気付き・学びを得ることができている。
③	研修受講後は、職員に研修レポートの作成が義務付けられ、各自が自己評価を行って園長が確認する形式がとられている。また、職員会議の中で研修報告が行われており、研修に参加した職員だけではなく、職員全体への波及効果が期待でき、成果を共有する取り組みとして評価できる。職員の就業状況の改善としては、フリーの職員を配置することで、休憩時間を保障することができるようになったことが挙げられる。

7	<b>カテゴリ7</b>
情報の保護・共有	
<b>サブカテゴリ1</b>	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
<b>評価項目1</b> 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
<b>評点( A )</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
<b>評価項目2</b> 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
<b>評点( B )</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理する文書は、フォルダを用いて事務室のファイリングキャビネットで管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。
②	個人情報保護の制度については、区の個人情報保護条例や関連規則により、保護の方法や本人に開示する際の手続き等が詳細に定められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。児童票などの個人情報・機密情報を含む文書については、施錠できる場所に保管されており、電子データの場合も、PCに個人別のID・パスワードが設定され、職位別にアクセス管理が徹底されている。実習生やボランティアに対する個人情報保護の説明については、口頭に止まっており、実習のしおりに追加記載することが望まれる。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、撮影したビデオを保護者に提示することを園だよりでお知らせしているケースはみられるが、全般的な文書での明示は行われていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても、利用者に具体的な利用目的を明示するとともに、区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。職員に対する個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCAサイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 ・園庭や施設を地域の親子に開放する「あそびの広場」について、隔週の開催から週1回の開催に拡大させることができ、利用者も定着してきている。「安心して遊べる」との利用者の好感度も得ている。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
・全職員が希望したクラスを担任し、円滑に運営することができている。 ・園内研修の試みとして、月1回、臨床心理士の指導を受け、気になる子どもについてビデオを見ながら事例を検討する勉強会を行っており、職員は多くの気付き・学びを得ることができた。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
・日々の保育の様子を分かりやすく保護者に伝えるとともに、職員の事務量を軽減するため、ホワイトボードによるお知らせを改善して、写真を取り入れるとともに、内部管理用の保育日誌と保護者への連絡帳を融合させた新たなお知らせ形式を考案し、実践することができた。 このことにより、子どもの情報について保護者との情報共有が進み、コミュニケーションがスムーズになってきているとともに、親子の会話も広がっている。 ・延長スポット保育制度を導入し、利用者も増加している。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
<p>・区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。</p>	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
<p>・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」</p>	
改善の成果	
<p>・利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談の機会等を活用して把握しており、例えば、利用者の自転車駐輪場所の不足に関する苦情については、区に要請して門の移設工事を行って駐輪スペースを確保したり、当該スペースの水はけの悪さを解消するために別途工事を実施するなど、サービスの向上につなげている。</p> <p>・利用者からの要望を受けて、幼児クラスに冷房を設置し、夏季期間における子どもの生活環境を改善することができた。特に食事については、喫食状況が良好であった。</p>	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	<p>区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCAサイクルが定着している。</p> <p>また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。</p>
②	<p>日々の保育の様子を分かりやすく保護者に伝えるとともに、職員の事務量を軽減するため、ホワイトボードによるお知らせを改善して、写真を取り入れるとともに、内部管理用の保育日誌と保護者への連絡帳を融合させた新たなお知らせ形式を考案し、実践することができた。このことにより、子どもの情報について保護者との情報共有が進み、コミュニケーションがスムーズになってきているとともに、親子の会話も広がるという波及効果がある。</p>
③	<p>利用者の自転車駐輪場所の不足に関する苦情について、区に要請して門の移設工事を行って駐輪スペースを確保したり、当該スペースの水はけの悪さを解消するために別途工事を実施するなど、速やかに対応し、サービスの向上につなげている。また、幼児クラスに冷房を設置し、夏季期間における子どもの生活環境を改善することができた。</p>

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)、献立表はひらがなでの表記も用意しており、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。園では、園だよりやクラスだよりの作成にあたっては、目で見て分かりやすい、ということを重要視している。	
②	地域で子育てをしている親子を対象にした活動のポスターを、近隣の児童館や図書館、保健センターなどに掲示するなど、地域にひらかれた園づくりのための情報発信も積極的に行っている。園では、年度始めに近隣の住宅にポスティングを行って、参加者の幅を広げていきたいと考えている。	
③	利用者の都合を最優先に考え、いつでも見学希望者を受け入れられるような体制を整えている。園長・主査が中心となって対応し、施設案内や園での生活体験などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会は、園長、主査、看護師が分担・協力して対応しており、区の資料のほかに園で作成している「入園のしおり」を配布しているほか、職員が園の子どもや行事を撮影・編集したビデオを上映して、効果的な説明に努めている。利用者アンケートでは、回答者の9割ほどが「入園前の情報提供は十分だった」、「入園前説明会によって不安が軽減した」、「入園説明会によって準備品が理解できた」と評価しており、園のきめ細かい対応を裏付ける結果といえる。
②	摂食や睡眠の状況が、子どもの不安やストレスの度合いを測る目安となり、3～4日の慣らし保育の実施を勧めている。保護者の状況によって十分な期間が取れない場合もあるが、担当保育士がきめ細かく対応している。 子どもや保護者の不安の軽減に向けた個別対応のため、初日は利用者に半日程度の付き添いをお願いしているほか、入園直後は特に園全体での確認や連絡を密に行い、情報を共有化することに力を入れている。
③	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか、保護者会や個人面談等で把握した保護者からの意見や要望も取り入れながら作成されている。指導計画の内容や策定経緯について、常勤の職員間での情報共有は徹底されているが、非常勤職員には開示されておらず、今後、非常勤職員の理解が進むような取り組みにも期待したい。		
②	保護者に対して年度のはじめに、年齢(月齢)に応じてできる発達の目安とあわせて計画の内容を伝えている。各種おたよりの中でも計画内容にふれるなど、子どもの心身の育ちに関して保護者と認識の共有化を図る取り組みがみられる。今後、指導計画そのものを保護者に開示し、同意を得る仕組みの検討が望まれる。		
③	子どもの変化をはじめ緊急性の高い情報については、職員全体の共有の徹底を大切に考えている。申し送りや引継ぎのため、毎日のミーティングの中で報告が行われているほか、体制表や朝保育・夕保育ノートが設置され活用されている。非常勤の職員に対しても必ず連絡が伝わるよう各クラスの担任が個別に指導を行っている。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			
			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、気になる子などの情報についても、まず保護者と話し合いをもち、納得した上で他機関との橋渡しを行うよう心がけている。	
②	プール遊びでは、シャワー時にお風呂マットなどを用いて外から視線をさえぎるようにしているほか、子ども達にバスタオルをまいて移動する事を指導し、着替えも必ず園舎内で行うようにしている。また、トイレに失敗したときには目立たない場所に移動して着替えることを徹底しており、子どもの性的な言葉遣いについても注意を払うなど、子どもの羞恥心やプライバシー保護に対して十分に配慮していることがうかがえる。	
③	「使っちゃダメ!! NG用語」を作成しているほか、子どもの名前を呼び捨てにしないこと、怒らないことを職員に周知しており、非常勤の職員や実習生などにもこれらの指導を徹底している。保護者からの「職員のことは気がなる」とのクレームを受けて、職員全体に改めて言動の見直しを周知するなど、日常の保育を進めていく中で問題提起があったとき、気が付いたときには、職員間で話し合い、園全体の問題として考えていくことができている。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、感染症やアレルギー、与薬、事件・事故等についての基本的な対応手順をまとめている。園では、看護師や調理、用務などの各職務についての区のマニュアルを見直し、独自に追加・修正を加えて使用しているほか、職員としての基本的な対応やデイリープログラム、保護者との関わり、実習生の受け入れ、保護者と職員間の連絡方法、お散歩マニュアルなどを作成し、園のマニュアル集としてファイリングしており、業務の標準化についての園の意識は高い。	
②	園のマニュアルが全てまとめられたマニュアル集は事務室に設置され、日常的に参照できる状態になっており、職員会議での周知、保育日誌やクラスノートの活用も意欲的に行われている。また、非常勤職員に対して、仕事内容をきちんと書面でも伝えるなど、職員業務の一定水準を確保できるような取り組みがみられる。しかし、利用者アンケートでは「職員による対応のばらつきは少ない」という回答は5割を超えるに止まっていることも踏まえ、職員会議やミーティングの改善への取り組みを継続・強化していくことが期待される。	
③	クリスマス会で、サンタクロースを派手に登場させず、来訪した形跡だけ残して子ども達のイメージを膨らませる、という職員からの案も取り入れるなど、職員会議やクラス打ち合わせ、日々のミーティングは、参加する職員全体で自由に確認し合う雰囲気がつくられている。できるだけ会議の透明性を高めたいとの園長の意向もあって、特に保護者とのコミュニケーションに悩む保育士にとっては、相談しやすく、貴重な参考意見を得る機会となっている。	

## Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では“いきいきとした子ども”を目標に、丈夫な体づくりをしていくために意識的・計画的に散歩を取り入れており、利用者アンケート結果でも9割を大きく超える回答者が「お散歩で戸外に出る機会が多い」ことを認めている。また、園内活動として異年齢児交流をはじめ、草花の栽培、カブトムシの飼育など、子どもの発達を促す活動が取り入れられている。園外活動では、遠足やプラネタリウム見学といった季節ごとの行事の開催や散歩など、子どもたちが様々な体験ができる機会を提供している。		
②	園内遊びのコーナー設定やおもちゃの配置は、職員がアイデアを出し合い、各クラスで年齢(月齢)にあわせて工夫している。室内に置いてあるテーブルやいす、トンネル、手洗い場などは、牛乳パックに布を張った職員の手作りで、木製の自動車や大型積木、キッチン・木製のおもちゃなどとともに、子どもはもちろん保護者の好評も得ている。また、エコ教室を年2回開催しており、ごみの分別やリサイクルマークについてコント混じりで楽しく環境啓発を行うとともに、子どもから親にも伝えることで、「見てやってみる」気持ちを高めることにもつなげている。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられ、個別に指導計画を立案・作成している。また、保育士は区の発達センターを通して臨床心理士等の専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
幼児クラスでは野菜(なす、きゅうり、とまと、枝豆など)の栽培や収穫を行い、園で調理して給食として提供している。食に対する意識を高めるとともに食べる意欲の増進につながり、好き嫌いの解消にも効果がみられる。子ども達は、自分達が栽培した野菜を調理して食べられることについて、「本物の味!」と言って喜んでいる。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や園児の嗜好のチェックが行われている。栄養士が巡回する際は食育教材を使用して、子どもの食への興味や関心を促す取り組みも行っている。 園が重視している“丈夫なからだ”づくりのためにも、体を動かしておいしく食事をするを園活動の基本としている。	
②	食事の環境づくりについては、施設内・食卓の清掃・清潔や子ども自身の手洗いの徹底により、衛生面には充分注意をしているほか、イスや背もたれの高さを個別に調整するなどの配慮に努めている。月1回のホールで行われる「おめでとうレストラン」は、クッキー作りとティーパーティーなど、新たな食文化とマナーを知る食育の機会であるとともに、子どもの食が進む楽しい食事の場となっている。レストランでの子ども達の写真や説明記事をいち早く掲示するなど、保護者も楽しみを共有できるよう取り組んでいる。	
③	アレルギーの配慮が必要な子どもについては、毎月、園と保護者が一緒になって除去する食材等の確認を行い、提供する際はトレイや名札の徹底により、間違いのないようにしている。また、月齢による一律の提供ではなく、きざみや軟飯など、入園前の喫食状況に配慮した食事の提供を行っている。	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、看護師の毎日の視診・巡回のほか、園医による年2回(0歳児は月1回)の健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の健診により行っている。身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者に報告している。		
②	SIDS対策としては、乳児に対して午睡の状態を10～15分ごとにチェックし、午睡チェック表に記録しているほか、呼吸状態を把握するため毛布を使用している。また、感染症に対しては、感染症対策マニュアルを活用し、日ごろの手洗いの徹底等はもちろんのこと、看護師の指導により、使い捨ての手袋・エプロン等での嘔吐物や下痢の処理を徹底している。与薬については、園の与薬方法を保護者に伝えており、与薬が必要な場合は申込書の提出、確認票により管理を行う仕組みが確立している。		
③	看護師が中心となって、日常的に保護者からの子どもの健康に関する相談に応じている。また、保健分野に関する保護者への情報提供については、月に1回発行される保健だよりを通じて行うとともに、感染症の発症が気になる時期には、園内の掲示を通じて、保護者へもその予防方法のお知らせとともに注意を促している。		



4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園での行事については、年間行事予定表を年度初めに作成し、季節の行事などが計画的に行われるよう企画されている。毎月、年長組の子ども達が準備して、園の子どもたち皆が集まって成長をお祝いする「おめでとうレストラン」など、子どもが楽しめる行事の工夫がみられる。園目標達成のためにも、園での食事・睡眠・運動は楽しさを伴うような工夫を心がけており、アンケートでも9割に近い回答者が「降園時に子どもの表情は良いことが多い」と感じている。		
②	保育室内は、子どもが遊びに集中できるコーナーづくりや、いつでも休息できる空間づくり、季節ごとの遊具の出し入れなどに工夫して取り組んでおり、設置するおもちゃや絵本は子どもの年齢や発達状況を考慮して選定されている。園では、環境係を置いて、牛乳パックを使った手作りの仕切りの設置や花壇の手入れ、季節に合わせた玄関・廊下の装飾、園内の掃除の徹底など、環境整備に力を入れている。		
③	午睡については場所を固定している。落ち着いた眠りの確保と感染症の予防という面で効果的といえる。眠りのリズムが他の子と異なったり、入眠のくせがある場合は、視界を狭くした午睡コーナーを作るなど、環境設定や場所の確保等についてできるだけきめ細かい対応に努めている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者の保育参加・参観は、いつでも可能であることを知らせ、常時受け付けているほか、保護者会の開催については、朝・夕の時間帯での実施など参加者の状況に合わせて様々な時間・方法で対応している。保護者との個人面談についても、土曜日に行ったり、毎月実施するようにしているクラスもみられる。また、保護者の送迎の遅れ、延長保育やそのスポット利用の変更等に関しても、理由を問いたずようなことなく、保護者の要望や事情に合わせて柔軟に対応している。		
②	運動会や夏祭りは土曜日に実施するなど、行事については保護者の意向を聞きながら、早めに日程を決めてお知らせしており、保護者に対して最大限に配慮している様子がうかがえる。しかしながら、利用者アンケートでは、本項目に関する満足度が6割に止まることから、その原因を把握し、納得しやすい調整や経過説明など、満足度の向上のための検討が望まれる。		
③	園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日の出来事について園内に写真を掲示し、降園の際に見てもらえるようにしたり、保護者会の際にデジカメやビデオの映像を見せて保育士が解説を行うなど、速やかに分かりやすく情報提供を行っている。利用者アンケートでは、9割近い回答者が「園だより等で保育状況を知ることができる」と答えており、内容や伝え方は評価されているといえる。機器の使用に関しては、活用の頻度増加とともに職員全体のスキルアップも期待される。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待防止やその恐れのある子どもを守る仕組みは、『虐待防止マニュアル』の実践をはじめ、区の担当課や児童相談所、保健所、子ども家庭支援センターなどの関係機関との連携により整えられている。気になるケースについては、職員全体で情報を共有し、話し合っ、対応を関係機関に相談するなど、早期対応に心がけている。		
②	年度始めの保護者会では、年齢にあった発達・育児の目安などについて保護者と共通認識を得るようにしている。保護者のライフスタイルや価値観などを考慮し、子どもに対して園としてでき得る限りの支援をする姿勢は評価できるが、乳幼児にとって望ましい生活のリズムについて保護者の理解と実践を求め続けることもあわせて期待したい。		
③	職員は、園内外の研修や勉強会への参加により、問題に対する理解を深め、子ども及び保護者の支援方法のスキルアップに努めている。また、習得した知識や技術は、報告会を開催し職員間で共有している。ケースは多様で、支援の要不要を含め検討すべき内容は膨大であるが、できる限り園全体で受けとめ、子どもと保護者にとっての最善の方法を模索する姿勢がみられる。継続的な園全体のスキルアップによって、多様化・深刻化するケースに対応できる体制づくりが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	地域の催し物などの情報は、園内に掲示したりチラシを配布して保護者に提供している。これらの情報は区から提供されるものがほとんどであるが、地域の子育て拠点として、園が収集したり、園に寄せられた地域の情報を収集・発信する機能を備えるということについても、検討の余地があるのではないかと。
②	地域の方々が参加できる運動会や夏祭り、あそびの広場等の行事、素話やお手玉・歌などを教えてくれるボランティアの来園、職場体験等の地域の学生の受け入れ、小学校の運動会への見学などを通じて、子ども達は地域の方々とふれあい、交流している。園長には、さらに園の開放を進めていきたい意向があり、今後、企画中の高齢者デイサービスセンターとの交流やあそびの広場のPRを進め、交流を充実させていくことが期待される。
③	地域交流については、前述のように行われているものの、利用者アンケートでは、この点に関する保護者の理解が約6割を占めるにとどまり、他の項目に比べてやや低い結果となっている。地域との交流を広げ、子ども達の生活の幅を広げるためには、保護者の協力を得ることも重要であることから、今後は、子どもの楽しみを増やす取り組みであることを積極的に伝えていくなど、保護者の理解を深める取り組み・工夫が望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者と喜びを共有するための業務改善の取り組み
	内容	入園時説明会や保護者会では、職員が撮影・編集した園のビデオの上映を行うほか、日々子ども達の様子をデジタル写真にして説明記事を一緒に掲示するなど、園の様子や保育内容を保護者に分かりやすく伝え、保護者と喜びを共有することに取り組んでいる。また、登園・降園の際に保護者にその日の子どもの状況を知らせる掲示方法について、速やかに見やすく伝えるとともに職員の事務量を軽減することを目標に、職員全体で改善の検討を進め、職員の保育日誌と保護者への連絡帳を融合させた新たな連絡形式を考案し、実践した点は高く評価できる。
2	タイトル	園で長時間過ごす子ども達のための環境づくりの工夫
	内容	コーナーづくりやおもちゃの配置は、長時間を園で過ごす子ども達が絵本や遊びに集中でき、いつでものんびりと休息できるよう、職員がアイデアを出し合い、各クラスで工夫している。大人には見えても子ども同士では見えない様々な空間を設定し、午睡時には眠れない子のために視界を狭くする仕切りを設けるなど、きめ細かい対応を行っている。室内のテーブルやトンネル、手洗い場等の遊具、仕切りは、牛乳パックを使った職員の手作りで温かみがあり、木製の自動車や大型積木などとともに、子どもはもちろん保護者にも好評である。
3	タイトル	業務の標準化への取り組み
	内容	『危機管理マニュアル』等の区で作成した共通のマニュアルに加え、看護師や調理、用務などの各職務に関する区のマニュアルを見直して、独自に追加・修正を加えて使用している。職員としての基本的な対応や実習生の受け入れ、保護者と職員間の連絡方法、お散歩マニュアルなども作成し、園のマニュアル集としてファイリングしているほか、年度の担任表や行事・プロジェクト・会議の予定、延長・朝・夕保育の仕事内容等の重要事項を集約し、年度の事業計画として職員に配布も行うなど、業務の標準化に対する園の意識は高いといえる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	理念・目標の見直しと保護者への浸透
	内容	園の理念と保育目標が指導計画に展開されている一方、園の組織目標が設定され、課題解決のためのプランと達成目標がつけられている。両者は密接に関連する必要があると考えられるが、その関連性や体系は明確にはなっていない。利用者アンケートでは、利用者の「園運営の理念・方針」に対する認識度は4割程度と、その割合があまり高くないことを踏まえ、園が現在大切にしていることは何か、園の活動の出発点を再度確認し、これらの理念・目標を整理するとともに、利用者の理解を深めるための周知方法を工夫することが期待される。
2	タイトル	「あそびの広場」を通じた地域子育て支援のさらなる展開
	内容	地域の母親学級での育児相談や中学校の福祉講座に保育士を派遣しているほか、毎週、園庭や施設を「あそびの広場」として開放するなど、園の機能と専門性を活かした地域交流の取り組みを行っている。園では、職員の体制上、講師等の派遣を拡大することは難しいが、遊びの広場の活動等を通じて積極的に地域の親子を園に招待し、子育て支援に貢献していきたいと考えている。さらに、園の子ども達が一緒に遊べる企画や他施設との連携による保健・栄養相談を実施するなど、活動内容を充実させるとともに、近隣への広報活動を拡大していくことが期待される。
3	タイトル	申し送り・引継ぎ方法の継続的改善による業務の一定水準の確保
	内容	園のマニュアル集は事務室に設置され、日常的に参照できる状態になっており、職員会議での周知、保育日誌やクラスノートの活用も意欲的に行われている。また、非常勤職員に対して、仕事内容をきちんと書面でも伝えるなど、職員の業務の一定水準を確保するための取り組みがみられる。しかし、利用者アンケートでは「職員による対応のばらつきは少ない」という回答は5割を超えるに止まっており、会議やミーティングでの連絡体制の改善を進めてきた成果はまだ具体的に表れておらず、取り組みの継続が必要である。定期的なマニュアルの研修も期待される。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	96	
調査対象者数(人)	80	
有効回答数(人)	49	
回収率	61.3	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が91.8%)。個別にみると、肯定的な回答が9割を超える項目はなく、8割を超えるものとして「1.登園時の把握・確認」、「2.食事のメニューの充実」、「8.お迎え時の満たされた表情」、「16.落ち着いた雰囲気」があげられる。

一方、「18.外部からの侵入対策」、「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われているという回答は4割を下回るほか、参加しやすい行事日程への配慮や園が取り組んでいる地域との交流・連携についても、利用者の理解が十分得られているとはいえない様子が見える。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	42	85.7	6	12.2	1	2.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	41	83.7	7	14.3	1	2.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	38	77.6	10	20.4	1	2.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	36	73.5	11	22.4	1	2.0	1	2.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	39	79.6	10	20.4	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	20	40.8	20	40.8	9	18.4	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	28	57.1	17	34.7	4	8.2	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	42	85.7	6	12.2	1	2.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	35	71.4	6	12.2	5	10.2	3	6.1
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	38	77.6	10	20.4	1	2.0	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	36	73.5	11	22.4	1	2.0	1	2.0
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	36	73.5	10	20.4	2	4.1	1	2.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	30	61.2	13	26.5	5	10.2	1	2.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	28	57.1	16	32.7	2	4.1	3	6.1
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	20	40.8	18	36.7	11	22.4	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	40	81.6	8	16.3	1	2.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	29	59.2	18	36.7	2	4.1	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	18	36.7	25	51.0	5	10.2	1	2.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	28	57.1	17	34.7	3	6.1	1	2.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	18	36.7	25	51.0	5	10.2	1	2.0

#

《事業所名：08 堀ノ内東保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	23	46.9	16	32.7	10	20.4	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	19	82.6	3	13.0	1	4.3	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	17	73.9	4	17.4	2	8.7	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	23	46.9	19	38.8	4	8.2	3	6.1



I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育目標は、園のパフレットに掲載され、入園説明会や保護者会で説明が行われているとともに、指導計画においても具体的に展開されており、職員や利用者への浸透が図られている。また、園の組織目標が設定され、課題解決のためのプランと達成目標の作成を通じて、職員の共通理解が深まるようにしている。しかし、利用者アンケートでは、利用者の園運営の理念・方針に対する認知度は5割を下回り高いとはいえないことから、保育目標や組織目標を体系的に整理し、利用者への周知方法を工夫していくことが期待される。	
②	園内における職員の役割分担については、行事分担や年間計画等に一部明示されているが、園長や主査の基本的な責務や役割については文書上明確にはされていない。また、園長・主査の方針の伝達や指導は口頭に止まっており、職員がその実践について十分理解できていないことも考えられる。今後は、文書による周知や指導を行っていくとともに、会議録等の記述を充実させていくことが望まれる。	
③	定例会議、夜の会議、毎日のミーティング等、職員が自由に意見交換できる場が設けられ、職員の参加により課題が検討されるとともに、決定事項が周知徹底されている。業務改善や行事運営などの重要な案件については、職員のプロジェクトチームによる取り組みも行われている。保護者に対しては、園だよりやクラスだより、ポスター掲示等で情報提供を行っており、園の改修工事について2回に渡って説明会を開催したり、進捗状況をお知らせで詳細に伝えるなど、納得を得られるよう取り組んでいる様子がうかがえる。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( B )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
○あり ●なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理に関する区のハンドブックが常備され、園長・主査は、子どもの人権に十分に配慮するよう努めている。子どもとの関係で職員に必要とされる倫理法令等の遵守については、とかく当然のことと考えがちであるが、制度や社会の変化も激しいことを意識し、改めて職員会議等で取り上げたり、園内研修・勉強会を実施するなどの具体的な取り組みが望まれる。		
②	実習生の受け入れに関しては、区の保育課で受付け、各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行うという役割分担がなされており、園では、今年度2名の実習生を受け入れている。ボランティアの受け入れについては、遊びやお手伝いに10名程の協力を得ているほか、地域の中高生数十名の体験学習の依頼にも応じている。また、隣接する児童館と共催して、赤ちゃんとふれあう中高生ボランティアを公募する新たな試みも行っている。これら実習生やボランティアへの対応手順、注意事項について、マニュアル化することが課題である。		
③	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、地域支援の活動として、児童館・子育てサポートセンターとの協働により、園庭や施設・設備の開放、育児相談、遊びの紹介を行ったり、講習会や懇談会を開催して地域の子育て家庭が集まる機会を設けている。また、園長が社協や専門学校で保育に関する講師を務めるなど、専門性を生かした取り組みを積極的に行っている。関係施設が隣接する環境を活かし、地域の子育て支援も保育園の役割であると意識して行動している点は高く評価できる。		

3	カテゴリ3		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
	サブカテゴリ1		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>			
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり</span> <span style="margin-left: 20px;">●なし</span>		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	<p>苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。さらに、日常的に目に留まる場所に掲示するようしたり、説明の機会を設けるなどの工夫が期待される。</p>	
②	<p>利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の送迎時の会話や連絡ノート、父母の会との意見交換会、父母の会が実施するアンケート等により把握している。把握した内容は園全体で検討し、職員紹介写真の掲示、異年齢児保育の実施、防災ミニマップの全家庭への配布など、実際のサービスの改善につなげている。しかし、利用者アンケートでは、「要望・意見を気軽に言える」、「要望・意見をもとに改善が行われている」等の項目に対する評価が十分に高いとはいえず、意向を汲み取る手段を増やすとともに、結果を工夫して伝えていくことが期待される。</p>	
③	<p>地域の福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。状況把握等において園が主体的に取り組んでいるとはいえないが、経営層だけでなく、職員一人ひとりが区や地域の客観的なニーズを把握することは今後ますます重要になると考えられる。これらを園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。</p>	

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度毎に各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しの制度が定着している。
②	園では、今年度のチャレンジプラン、年間計画や行事分担、避難訓練計画等が作成されているほか、保育に関する年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されている。行事については、行事ごとに行事実施記録を作成して、ねらいや実施予定・内容、実施後の反省と感想を記載し、次回に活かせるようにしている。全体会議において、月単位、期単位、年度単位の反省を行って、次の計画に反映させることに努めている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練や防犯訓練が関係機関との連携のもと実施されている。園では、児童館、サポートセンター、都営住宅との合同避難訓練も実施している。事故が発生した場合は、その経緯や内容をミーティングノートに記載して、その日のミーティング時に周知するとともに、必ず全体会議の場で事例報告と反省を行って、再発防止と予防に取り組んでいる。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準による区の採用があり、非常勤職員についてはのみ園での面接を行っている。園には、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権はないといえる。 クラス担任については、園長と主査が子ども達の保育を進める上で適切かどうかを考慮して決定している。
②	園では、常勤職員全員が「職員チャレンジ目標自己申告書」により、自らの職務(仕事)に関して、能力開発と自己啓発のためのチャレンジ目標を設定し、年度末に達成状況と自己評価を報告するという取り組みを行っている。園長・主査は、各職員のチャレンジ目標に沿った研修を個別に案内し、受講させるようにしており、研修に参加しやすいよう園全体で体制と日程の調整を行っている。
③	研修受講後は、職員に研修レポートの作成が義務付けられ、各自が自己評価を行って園長が確認する形式がとられており、必要に応じて職員会議の場で研修報告を行うようにしたり、全体で考える議題としたりするなど、成果を共有する取り組みが行われている。さらに、全ての研修レポートを職員間で共有できる仕組みを検討することが期待される。職員の就業状況に関しては、園長は、平等に休暇取得ができるよう調整に努めているが、職員アンケートでは、就業状況の把握・改善について高い評価が得られておらず、休暇取得が困難との声が複数挙げられている。

7	カテゴリ7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている文書は、フォルダを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。常に正確な情報を確認する必要がある家庭連絡票、児童票、園児引渡しカード等の情報は変更の都度改訂され、園作成のマニュアルについても必要に応じて見直し・改訂が行われている。
②	個人情報保護の制度については、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、保護の方法や本人に開示する際の手続き等が詳細に定められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。しかし、利用者に対する説明・配布資料は用意されておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要である。
③	園で取り扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にされていないのが現状である。区での申し込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取り扱い、開示請求方法を明示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが期待される。

カテゴリ8		
8	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
改善の成果 区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。		
サブカテゴリ2		
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果 ・“ともに喜びや苦勞を共有する生き生きとした職場関係・人間関係”、“一人ひとりの思いが保育園の思いとなり、共通認識の上で園運営に関わっていくこと”を目標に掲げ、その第一歩として、全職員が一つ以上のプロジェクト活動に参加することができた。 ・年間の職員会議のテーマを決めて会議を進めたことで、園全体で問題に向き合い、解決のための議論を深めることができた。必要な資料作成や会議録作成の面でも職員の積極的な協力が得られるようになった。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果 ・園のマニュアルは、年間反省において検討され、必要に応じ見直しが行われている。また、新しいマニュアルの作成や既存マニュアルの大幅な見直しを行う際には、プロジェクトチームを結成し、集中的に検討、作成する体制がとられている。今年度は、『堀ノ内保育園の環境衛生』『プール衛生と園児健康管理』『散歩先での留意点』の3つのマニュアルを新規作成するとともに、『散歩でのお約束』『いれん時の対応手順』の2つのマニュアルを改訂している。 ・情報・伝達を確実にすることを目標に掲げ、夕保育での子どもの連絡事項が翌日に漏れないように、ミーティング連絡ノートの書式を改め、記入欄を追加した。 ・児童館・子育てサポートセンターとの協働による地域支援活動「すくすくタイム」の実施を通じて、関係機関との連携が密になっており、これら地域の関係機関にもふれあい保育のポスターを掲示してもらったり、広告を昨年度の3倍も作成・配布するなど、保育園に通っている子どもや保護者ばかりでなく地域に住む区民に対して広く情報を発信するようになったことで、園の活動の認知度が高まり、確実に見学や問合せが増えている。		



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	● A+   ○ A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会、個人面談の在り方を再検討することを目標に掲げ、子どもの今の姿を見てもらえるよう平日朝に保育参加・参観ができるようにし、保護者に声かけを行っている。</li> <li>・父母の会と園長・主査が意見交換する場「園長先生と話そう会」を設定して、これまで以上に保護者の声を把握することができるようになった。保護者から出された問題点に対しては、職員全体で早急に話し合う体制も整えている。</li> <li>・父母の会からの要望を受けて、担任以外であっても、保護者に対して必ず挨拶とともに子どもの様子をひと言伝える、「一声 声かけ運動」を開始し、力を入れて取り組んでいる。</li> </ul>	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。
②	園独自のマニュアルは、年間反省において検討され、必要に応じ見直しが行われている。また、新しいマニュアルの作成や既存マニュアルの大幅な見直しを行う際には、プロジェクトチームを結成し、集中的に検討、作成する体制がとられている。今年度は、『堀ノ内保育園の環境衛生』、『プール衛生と園児健康管理』、『散歩先での留意点』の3つのマニュアルを新規作成するとともに、『散歩でのお約束』、『けんすんの対応手順』の2つのマニュアルを改訂することができた。
③	保護者会・個人面談の在り方を再検討することを目標に掲げており、子どもの日常の姿を見てもらえるよう平日朝に保育参加・参観ができるようにしたほか、父母の会と園長・主査が意見交換する場「園長先生と話そう会」を設定して、保護者の声を積極的に把握するようにし、保護者から出された問題点に対して職員全体で早急に話し合う体制も整えた。また、父母の会からの要望を受けて、担任以外であっても、保護者に対して必ず挨拶とともに子どもの様子をひと言伝える、「一声 声かけ運動」を開始し、力を入れて取り組んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	区において作成している園のしおり、そして、園情報の区ホームページへの掲載など、紙媒体と電子媒体の両面から園の情報について発信している。また、外国語による対応についてのマニュアルも区において統一的なものが整備され、園に備え付けており、必要なときにすぐに取り出しができるように管理されている。給食については、メニューの掲示だけではなく乳児・幼児とも展示食を玄関に展示するなど、わかりやすい情報提供が心がけられている。	
②	区のホームページの園紹介のページについては、年度ごと必要に応じ園から情報を提供し更新する仕組みとなっているほか、児童館などの地域の関係機関についてもふれあい保育のポスターを掲示してもらうなど、保育園に通っている子どもや保護者ばかりでなく地域に住む区民に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	園の見学については、希望日時だけではなく、どのような場所・場面を見学したいのか、要望をきいたうえで、それに最適な日時の提案も行っており、来園者個々のねらいに沿った見学ができるような心配りがみられる。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園申込みの際の資料には、受け入れ時間や園での生活における基本的なルールをはじめ、入退園の条件、保育料のほかに、希望するサービスが受けられない(例えば、入園できるが延長保育は利用できない等)場合の対応方法などが示されている。また、入園内定後には、園長との個人面談によって、子どもの状況、保護者の意向確認などが行われる。面談結果については児童票等に記載され、子どもの状況を把握するため重要書類として活用される。
②	入園する子どもの保護者全員を対象とした入園説明会を行っており、園の保育に対する基本的な考え方(理念・方針)や園の基本的なルールなどは「入園のしおり」や園で作成した配布資料を使って説明している。また、入園までに各家庭で用意すべきもの(布団カバーなど)など、口頭や文章のみでは理解しづらいものについては、寸法や作成方法などを絵を使って図解するなどの工夫がみられる。
③	入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するため、ならし保育(園になれるための短時間保育で通常1週間～10日)を勧めている。ならし保育については、入園説明会など保護者が子どもとともに登園する機会があれば入園前でも対応するなど、保護者の負担軽減についての配慮がみられる。また、面談結果・健診結果・保育時間等を一覧表にまとめた資料を作成し、個別の状況を保育士に周知することにより、無理なく園生活になじむための個別配慮を可能にしており、ならし保育の期間が短くなるような支援が行われている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等を記録している。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	指導計画については、年間・月間・週という単位で作成されている。この指導計画の内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成されている。また、指導計画の概要やねらいについては、保護者会や個人面談の際に説明されており、保護者の理解を深める取り組みが行われている。		
③	子どもの情報の職員間の共有に関しては、職員会議などを通じての確認のほか、クラス連絡帳や子どもの連絡様式による確認が行われており、情報共有の仕組みはできているといえる。しかしながら、利用者アンケートでは、「職員による対応のばらつきが少ない」とする回答が4割程度にとどまることを踏まえ、保護者の満足を得られる方策について今一度検討することが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			
評点( A )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、気になる子などの情報についても、まず保護者と話し合いをもち、納得した上で他機関との橋渡しを行うよう心がけられている。
②	園が公園に隣接していることから、プールに入る際には、すだれやブルーシートなどを用いて公園からの視線をさえぎるようにしているほか、着替えも園舎内で行うなど、子どもの羞恥心やプライバシー保護に対する十分な配慮が配慮が行われている。
③	職員アンケートの結果から、子どものプライバシー保護の徹底への意識は高いことがうかがえる。環境や時代に応じて園が要求される内容が変化することが予想されるので、具体的な対応策については柔軟に方法を考えていく必要があると思われる。

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3		標準項目	
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)			
①	園のマニュアルが全てまとめられたマニュアル集は事務室に、使用頻度の高いものを抜粋したマニュアル集は各教室に1部ずつ配置されており、日常的に参照できるよう状態になっている。また、非常勤職員に対して、仕事内容をきちんと書面でも伝えるなど、職員業務の一定水準を確保できるような取り組みがみられる。		
②	園のマニュアルは、年間反省において検討され、必要に応じ見直しが行なわれている。また、新しいマニュアルの作成や既存マニュアルの大幅な見直しを行う際には、プロジェクトチームを結成し、集中的に検討、改訂する体制がとられている。		
③	職員のサポートは、職員会議や個別相談などを通じた助言・指導を行っているほか、各種記録類についても園長において目を通し、書き込みを行うことで指導・助言が行われている。		

## Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では遊びに集中できる環境づくりを心がけ、お迎えの時間が近づき部屋を移動する際はなるべく1回で移動がすむように、教室の使い方や人員配置について工夫している。また、積み木遊びなどで大作が完成した際は、翌日までその作品を残しておくなど、子どもの気持ちに沿うことを基本とした取り組みが行われている。		
②	園内活動として月2回程度の異年齢児交流をはじめ、草花の栽培、カブトムシの飼育など、子どもの発達を促す活動が取り入れられている。また、園外活動では、遠足や芋ほりといった季節ごとの行事の開催、散歩や地域の老人福祉施設への訪問等が行われ、子どもたちが様々な体験ができるような機会を提供している。		
③	看護師を中心として、年間計画に基づく健康教育が行われている。歯磨きや手洗いなど基本的な健康管理のほか、人の体の仕組みを知るプログラムなどもあり、教材や時間配分、グループ設定など子どもが楽しく学べるように工夫されている。		



3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科等各診療科の年1回の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、月1回発行の保健だよりを通じて行っているほか、特に感染症に注意が必要な時期は、玄関付近にある「保健」専用の掲示板を利用して注意を喚起するとともに予防対策の情報を貼りだしている。この保健専用の掲示板については、保護者の間にも浸透してきており、来園する保護者は必ず確認するようになっている。		
③	看護師が中心になって、日ごろから保護者からの健康に関する相談に応じている。また、中途退園した保護者の健康に関する相談にも応じるなど、柔軟に相談ができる体制づくり・雰囲気づくりができていくことがうかがえる。		

4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生日会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	誕生日会は、特別な気持ちになれることを大切に、子ども一人ひとりの誕生日に行われている。誕生日会では、職員が作成した(おもちゃの)ケーキに火のついたローソクを立て、それを消すというセレモニーのほかに、クラス全員が誕生日の子どもに握手してお祝いの言葉をかけるなど、主役になれる雰囲気づくりの工夫がみられる。		
②	園では環境係を置くなど、環境整備に力を入れており、利用者アンケートでも回答者の8割強が「園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている」ことを肯定的にとらえている。 訪問調査時は、園舎の改修工事後ということもあり、教室や廊下の展示や掲示については控えめな印象を受けたが、引き続き子どもが楽しく快適に過ごせる環境づくりの取り組みが期待される。		
③	お昼寝は、給食の配膳前には環境を整え、食事後にすぐにお昼寝をしたい子どもの受け入れ態勢を整えている。また、お昼寝時間以外についてもどうしても眠たい場合などは、医務室のベットを利用して寝かせるなど、個別の状況に応じた配慮がなされている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者の保育参観(参加)は常時受け付けている。また、保護者会の開催を土曜日から平日に日程を変更したことで、子どもの普段の保育の場面を見てもらうことができ、園での子どもの生活を伝えることに役立ったといえる。		
②	保護者に対しては、定期的かつ目的別に、クラス・園・保健等の各種おたよりをはじめ、連絡帳・各クラスのホワイトボードを通じて、園での子どもやクラスの様子などが伝えられている。また、父母会からの要望により始まった「一声 声かけ運動」を通じて普段の声かけを大事にした情報提供も行われている。今後も継続して行われることを期待したい。		
③	運動会は土曜日に行われているほか、行事については早めに日程を決めて保護者にお知らせするなど、保護者が日程調整を行いやすい配慮がみられる。しかしながら、利用者アンケートでは本項目の満足度が約4割ほどにとどまることから、その原因を把握し、満足度の向上のための検討が望まれる。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策を行っている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所をはじめとする関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げに向けた取り組みがみられる。		
③	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識の醸成については、園だよりで生活習慣の改善などをテーマとしてお知らせするほか、保護者会や個人面談における指導計画の説明等を通じ行われている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	老人福祉施設との交流やお手玉や歌など教えていただくボランティアとの交流、職場体験等の地域の学生の受け入れなどを通じ、地域の方々との交流は5歳児クラスを中心として積極的に行われている。また、乳児に関しても「中高生と赤ちゃんのふれあい事業」を通じた、地域の中高生との積極的な交流などが評価できる。
②	園が児童館等と共催して行う事業をはじめ、地域の子育てに関する情報などは、ポスター掲示やチラシの配布等を通じて積極的に行われている。
③	これまで地域交流に関しては、園長・主査が積極的に地域に足を運ぶことを中心として行われてきたが、園全体としての取り組みとするためには、他の職員も「堀ノ内」という地域を知り、活動していくことが必要となる。今後の展開に期待したい。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域の子育て家庭のニーズを満たす多彩なサービスメニュー
	内容	園では、特別保育として、産休明け保育や延長保育、障害児保育、一時保育を実施している。また、児童館、子育てサポートセンターと隣接している立地条件を活かし、協働して地域支援事業「すくすくタイム」を実施しているほか、園庭や施設・設備の開放、育児相談、遊びの紹介、講習会や懇談会を開催するなど、地域の親子が集まる様々な機会を創り出している。園生活を体験するふれあい保育も定期的に行っており、地域の子育て家庭のニーズを満たす魅力的なサービスメニューを取り揃え、積極的に展開している。
2	タイトル	保護者との信頼関係を築く取り組み
	内容	保育参加・参観について、子どもの日常の姿を見てもらえるよう平日の朝に受け入れられるようにしたり、父母の会と園長・主査が意見交換する場を新たに設定して保護者の声を積極的に把握している。また、父母の会からの要望を受けて、担任以外であっても、保護者に対して必ず挨拶と共に子どもの様子をひと言伝える「一声声かけ運動」に取り組むなど、保護者との信頼関係を築くために努力している。
3	タイトル	プロジェクト活動による園独自マニュアル作成の取り組み
	内容	区共通のマニュアル集が作成されているほか、『堀ノ内保育園の環境衛生』、『プール衛生と園児健康管理』、『散歩先での留意点』などの園独自のマニュアルが作成されている。これらは、年間反省において検討され、必要に応じ見直しが行われており、新しいマニュアルの作成や既存マニュアルの大幅な見直しを行う際には、プロジェクトチームを結成して、集中的に検討・改訂する体制がとられている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	実習生やボランティア受け入れに対する標準化への取り組み
	内容	園では、実習生やボランティアを積極的に受け入れており、地域の中高生の体験学習の依頼にも数多く対応している。また、隣接する児童館と協働して、赤ちゃんふれあう中高生ボランティアを公募するという新たな試みも行っている。今後、これら実習生やボランティアに確実に対応し、受け入れをさらに拡大していくためには、内部の受け入れ対応手順を定めたマニュアルや、参加者に対する守秘義務等の注意事項・実施スケジュール等を記載した配布資料を作成するなど、標準化を進めていくことが望まれる。
2	タイトル	園内における情報提供と温かみのある雰囲気づくり
	内容	園外には、地域支援、保健衛生、父母の会専用など、目的や対象者に合わせた掲示板が設置され、必要な案内やポスターが都度更新されている。しかし、園内は改修工事を終えたばかりという事情もあり、水槽や絵本のコーナーは設置されているものの、やや装飾や掲示物が乏しいように感じられる。識別のために必要な表示や制度・園に関するお知らせ等の有用な情報の掲示はもちろん、子ども達の作品や写真、子ども達の発達を促す絵画や写真などの掲示や展示も行い、保育園らしい温かい雰囲気をつくり出すことにも期待したい。
3	タイトル	職員の能力向上についての意向把握
	内容	園では、全職員が「職員チャレンジ目標自己申告書」により、自らの職務(仕事)に関して能力開発と自己啓発のためのチャレンジ目標を設定し、年度末に達成状況と自己評価を報告するという取り組みを行っており、園長・主査は、各職員の目標に沿った研修を個別に案内し、受講させている点は評価できる。しかし、職員アンケートにおいては、職員の質の向上、やる気の向上への取り組みについての評価が十分に高いとはいえない結果が出ている。このことを踏まえた今後の取り組みに期待したい。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	92	
調査対象者数(人)	82	
有効回答数(人)	49	
回収率	59.8	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が91.9%)。個別にみると、「2.食事のメニューの充実」、「4.豊かな感性を育む活動・遊び」、「5.保育士が子どもの良いところや個性を認めている」、「8.お迎え時に満たされた表情をしている」、「10.保育中の病気への対応」で肯定的な回答が9割を超えている。また、「16.落ち着いて過ごせる雰囲気」、「17.発育や意欲を促す玩具」などについても9割近い回答となっているなど、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「6.保育士や職員の一定の対応」及び「7.お迎え時の子どもの様子の話し」が適切とする回答は約5割にとどまることから、これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	41	83.7	7	14.3	0	0.0	1	2.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	47	95.9	2	4.1	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	36	73.5	10	20.4	2	4.1	1	2.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	45	91.8	3	6.1	1	2.0	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	46	93.9	2	4.1	0	0.0	1	2.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少)ない)ですか	24	49.0	18	36.7	6	12.2	1	2.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	25	51.0	19	38.8	3	6.1	2	4.1
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	45	91.8	3	6.1	0	0.0	1	2.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	34	69.4	8	16.3	2	4.1	5	10.2
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	45	91.8	2	4.1	0	0.0	2	4.1
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	40	81.6	5	10.2	1	2.0	3	6.1
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	41	83.7	7	14.3	0	0.0	1	2.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	37	75.5	7	14.3	2	4.1	3	6.1
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	36	73.5	10	20.4	2	4.1	1	2.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	38	77.6	7	14.3	4	8.2	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	43	87.8	6	12.2	0	0.0	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	44	89.8	4	8.2	1	2.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	33	67.3	14	28.6	1	2.0	1	2.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	32	65.3	12	24.5	0	0.0	5	10.2
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	32	65.3	13	26.5	0	0.0	4	8.2

#

《事業所名：09 西荻北保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	29	59.2	17	34.7	3	6.1	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	28	96.6	1	3.4	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	26	89.7	3	10.3	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	33	67.3	11	22.4	2	4.1	3	6.1

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3		標準項目	
重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( A )	
評価			
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている		○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
カテゴリ1の講評(一つ以上)			
①	保育目標には“丈夫なからだ ゆたかな心 あそぶの大好き よく考える子”を掲げている。保育目標は区の施設案内に掲載されており、ホームページやパンフレットを通じて一般に周知しているほか、利用者に対しては入園説明会、保護者会等を通じて保育目標への理解が深まるような取り組みを行なっている。また、保育目標は事務室内にも掲示されており、職員や、事務室を訪れた利用者はいつでもこれを確認することができる。		
②	園の重要事項については会議で話し合い、全体で確認し、園長の責任のもとに決定することとなり、決定過程は会議録に記録されている。決定した重要事項は、「園だより」に掲載したり、保護者会で説明したりすることによってその内容と決定経緯を保護者に対して伝えているほか、行事等、決定に際し保護者の意向に配慮する必要があるものについては、必要に応じてアンケート等を行い、保護者の意向を汲み取る機会を設けている。		
③	「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、18年度のチャレンジプラン“笑顔いっぱい子育て発信…つながれ地域へ”を策定し、これに基づいたプロジェクトチームを組織するなど、役割分担を明確化し、園長は責任者として計画全体の進行管理にあたっている。一方で、職員事業評価では、“園が目指していることの実現に向け一丸となっている”ことへの課題意識が高いこともうかがえる。経験豊富な人材が多い中、より高いレベルで計画に取り組めるような職員間の意識共有と連携が今後の課題である。		

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	地域支援の活動として、2000年より地域の親子を対象とした「ともだちひろば」を開催している。「ともだちひろば」では、親子で保育園で遊んでもらうほか、育児相談、身体測定、離乳食(食事)相談、栄養相談を行なっている。開催は毎月第2水曜日(H18年度)に固定するなどの工夫により、毎回10組を超える親子の参加がみられ、取り組みは定着しているといえる。また、参加者の感想文を通じてニーズを収集し、活動内容の充実に活かすなど、計画的に行動し実績を上げている点が高く評価できる。		
②	他機関等と連携した地域支援については、小学校区の子育てネットワークに参画し、子育てネットワーク事業に職員を派遣するなどの取り組みを行なっている。		
③	実習生・ボランティア等の受け入れについては、保育課や杉並ボランティア活動推進センターを通じて、中学生の職場体験などは園で直接受け入れている。こうした実習生やボランティア等の受け入れについては、『受け入れマニュアル』が作成されており、これに沿って実習生等に対してオリエンテーションを行い、諸注意事項を伝えると共に、効果的に園内活動が行なえるよう配慮している。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	<p>行事等についてはアンケートを実施し、利用者の意向を集約しているほか、園では日常的な保護者とのコミュニケーションからの意向把握を重視している。具体的には、口頭で寄せられた意見や「連絡ノート」に書かれた意見をその都度拾い上げているほか、事前に「連絡メモ」用紙の束を保護者に渡しておくことで、面と向かって意見は言いにくいという保護者や、後々まで残る「連絡ノート」には意見を書きにくいという保護者でも気軽に意見を寄せられるよう配慮がされている。</p>	
②	<p>苦情を含め、園に寄せられた意見に関しては、必要に応じて職員に周知、意見への対応策を協議・決定し、決定内容を利用者に回答し、その経緯を記録に残している。苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」に関するポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。</p>	
③	<p>福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。状況把握等において園が主体的に取り組んでいるとはいえないが、これらの調査結果を活用する機会を園独自に設定することは可能であろう。日々の保育の実践や保護者対応の場面においても、経営層だけでなく、職員一人ひとりが区や地域の客観的なニーズを把握することは今後ますます重要になると考えられる。</p>	

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span>	

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	中・長期的計画については区の「杉並区基本計画」「保健福祉計画」「子ども・子育て行動計画」等があり、必要に応じ随時見直しを行っている。年度単位の計画については、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、チャレンジプランを策定しており、これに基づいた園内プロジェクトチームを組織し、達成目標を立てて取り組んでいる。
②	保育面では、保育目標に基づき、年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されており、当期計画の反省を次期計画に活かすサイクルが確立している。行事については、必要に応じて行事のための会議を開き、ねらいや実施予定・内容、実施後の反省を記載し、寄せられた参加者の感想・意見(実施した場合はアンケート結果)をとりまとめ、次回に活かせるようにしている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』に対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練や防犯訓練が関係機関との連携のもと実施されている。職員は会議等を通じて随時安全の確保・向上について協議し、決定事項を確認しており、必要に応じて利用者へも周知している。利用者アンケートにおける安全に関する項目(遊具や園庭の安全性や不審者対策)では、園の取り組みに対して肯定的な回答が多く(H18年度杉並区内比較)、安全対策は利用者から一定の評価を受けているといえる。

5	カテゴリ5	
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準に応じた区での採用、非常勤職員については各園での面接となっている。園長は、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権は有していないといえる。クラス担任については、毎年度末、職員から希望をとり、ベテラン、中堅職員などのバランスを考慮した上で決定するようにしている。クラス担任の決定経緯は、希望状況を含めて職員に公表しており、職員が決定を理解できるように配慮がされている。
②	区の職員が共通して受ける研修については計画的に実施されているが、職員一人ひとりの希望を踏まえながらの専門能力の向上といった見地からの育成計画が明確になっているとはいえない。園では“専門性と広い視野”を兼ね備えた人材づくりを大切に考えていることから、計画的な人材育成の展開が望まれる。
③	経験豊富な保育士が多く個々の対応能力は高いものの、利用者アンケートでは「保育士や職員の対応」に多少なりともばらつきを感じる人も少なくない結果となっている。今後も目的を明確にした職場研修に取り組み、個々の職員が持っている豊富な経験と能力を、組織として、より高いレベルで共有できるような取り組みが期待される。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園では情報リーダー(園長・主査)を置き、組織的に情報の管理を行なっている。園で管理されている文書は、種類毎にファイル・フォルダ等を用いて誰が見ても見やすく管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時ファイル・フォルダ等に追加されるなど、更新も行われており、適正な管理が行われている。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の条例や関連規則により、個人情報の管理や開示請求の際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。しかし、園の利用者に対する説明・配布資料は用意されておらず、口頭での説明が主となっている点は改善が必要といえる。
③	個人情報など、取り扱いに注意が必要な情報については、施錠できる棚等に収納しアクセス管理を行なっている。事務室設置のパソコンについては、職員ごとにIDとパスワードの設定及びアクセス権限の設定が行われており、基本的な部分の管理はできているといえる。また、実習生やボランティア等については、オリエンテーションを行う際に個人情報の保護に関する説明を行なっている。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCAサイクルが定着している。 “地域に向けての活動の充実”をチャレンジプランの1つに掲げ、計画的に取り組むことで、“「ともだちひろば」の内容の充実”を達成することができた。 具体的な充実内容は、栄養士による「栄養相談」を新たに盛り込むこと、実施回数を昨年度実績の年10回から11回へと増やすことができたことである。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
園内研修として、職員が講師を務める「パソコン研修」を開催するなど、職員同士で能力を向上させるような取り組みが行われ、組織としての能力向上につながっている。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
これまで延長保育の当番を固定していたため、延長保育、延長スポット保育の実態、子どもの様子、保育内容、問題点などが職員全体で共有しづらい状況であったが、検討の結果、全職員の当番制とすることになった。これにより、特定の職員への負担を分散すると共に、延長保育における問題点や気づきや工夫について、共有しやすい体制となった。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
園運営において、保護者の意向に応えられるよう常に配慮して取り組んでいる。 ・本年度はかねてより利用者からの要望が多かった園庭改修が実現した。 ・園内行事の「みんなであそぼう会」のアンケートで、マンネリ化しているとの指摘があったので、新しいアイデア、工夫を盛り込んだところ、参加者からの好評を得ることができた。(アンケートでも確認できた)	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCAサイクルが定着している。目標に掲げた“ともだちひろばの充実”は、「栄養相談」を盛り込むなどによって改善が図られてきた。来年度以降も、適正な目標設定及び計画的な活動による継続的な取り組みが期待される。
②	サブカテゴリ1及び5の改善点については、利用者からの要望等に基づいて課題が抽出され、組織として解決に取り組んだ結果、具体的な成果をあげているものである。利用者の満足度や気持ちを十分配慮している姿勢がうかがえ評価できる。
③	サブカテゴリ2の改善点については、利用者ニーズの高い事業所の業務について、全職員が問題を共有できるよう取り組んでいる姿勢がうかがえる。職員の業務負担の分散と、情報の共有という両面において改善の取り組みがみられる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内や献立表など、外国語(英語・韓国語・中国語)やひらがなで表記しているものもあり、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。	
②	園の行事予定や「ともだちひろば」の年間予定やちらし、ポスターなどを児童館をはじめ、近隣の小学校、保健センター、幼稚園などに配布し、地域にひらかれた園づくりのための情報発信も積極的に行っている。	
③	いつでも見学希望者を受け入れる体制を整えているが、できるだけ園長・主査が対応にあたるのが望ましいとの考えを基本とした日時調整を行っている。施設や食事風景の見学、保育参観・参加などは、見学者の状況や要望にあわせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には説明書類を一式そろえて必要な持ち物などの配布書類を準備している。利用者アンケートでは「入園前の十分な情報提供」及び「入園説明会により不安が軽減した」(区の独自項目)ことへの肯定的回答が9割を超えており、効果的な説明への満足は高いことがうかがえる。園では、さらに視覚にうつたえる内容を目指し、プロジェクターを使用した園の紹介に取り組む意欲もみられる。
②	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。
③	公立区内への転園の場合においては、健康カードの継続受け渡しを実施している。子どもの健康を継続的に見守るとともに、健康診断の再診の負担軽減となるような配慮がみられる。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	園と家庭の円滑な情報伝達の工夫のひとつとして「連絡メモ」の活用がみられる。(連絡帳を使用しない幼児クラスでは)日々の連絡のほか、個人面談の際は、予め保護者がメモを作成することで、面談時間を有効に使うことにも役立っている。保護者の意見や要望の記録についてはファイル管理され、子どもや家庭の重要な情報として活用されている。		
②	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。幼児はクラスごと、乳児は個別に目標をたて、計画に沿った保育が行われている。これらの目標や計画は園全体で共有されており、利用者アンケートで9割を超える回答者が「子どもの長所や個性が認められている」(区の独自項目)と感じている結果につながるものとして評価できる。		
③	子どもの状態の変化はクラスノートに記録され、夕方の連絡会でもちろん情報を共有する仕組みができています。アンケートでは、降園時に「子どもの表情が良い」ことに満足する人は9割を超えている一方、「子どもの様子について話がある」ことを肯定的に捉える人は5割ほどにとどまる結果となっている。職員間の子どもの情報の引継ぎを、保護者にもうまく伝達できるとよいのではないかと。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	“多様な価値観の中でお互いを認め合う”という園の基本姿勢がみられる。保育士としての考えと保護者の価値観が一致することばかりではないが、結論を急ぐよりも保護者の気持ちに寄り添い、まずは肯定するところからスタートするということを心がけている。利用者アンケートでも「色々な価値観に理解を示してくれる」ことは肯定的に受け止められている結果となっており、園の取り組みへの評価は高いといえる。	
②	子どもや保護者への言動については、毎月の打ち合わせにおいて保育士の対応を振り返る機会を設けるほか、子どもや保護者の生活リズムや気持ちを大切にしたい個別対応についても、職員が確認しあっている。	
③	子どもの羞恥心を養うという意味ではプールの着替えやシャワーの場所(外から見えないように)に配慮している。園は、乳児のトイレにもついでを設置するという意向もあり、今後計画的な取り組みが期待される。羞恥心やプライバシーへの配慮の具体的な対応については、環境や時代にあわせて柔軟に方法を考えていく必要がある。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』で基本的な対応についての手順をまとめ、園独自のものとして、園庭の使い方、園外保育、避難訓練、防犯訓練のマニュアル化を行なっている。また、感染症対策、スポット保育の対応についてなど、使用頻度の高いものは各クラスに設置するとともに、非常勤職員にも書面で配布し、業務水準の確保に努めている。	
②	園のマニュアルは、年度末に検討され、必要に応じ見直しが行なわれている。また、新しいマニュアルの作成や既存マニュアルの見直しを行う際には、利用者からの意見や要望を改めて検討したうえで改訂している。	
③	職員の会議や打ち合わせに全員が参加することは困難であるが、欠席者には検討内容、決定経緯及び決定事項については会議録を使つての周知徹底に努めている。一方、職員間の情報共有や意見交換については、職員の強い向上心もうかがえることから、時間や議題のより適切な設定などによる効果的な会議運営が期待される。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では“人とかかわりの中で子どもが健やかに育ちあうことができる”ことを大事にした保育の実践に努めている。利用者アンケートは「豊かな感性を育む活動・遊び」、「子どもの長所や個性が認められている」、「降園時に子どもの表情は良い」、「人とかかわり方の基礎が育てられている」(区の独自項目)にいずれも9割を超える肯定的な回答が寄せられる結果となり、子どもの発達を促すための保育の実践は利用者にも理解されている様子がうかがえる。		
②	具体的な実践内容としては、リズム遊びや絵画制作、歌、散歩、戸外遊びを展開するほか、木製遊具の活用、手作りのおもちゃづくりなど、自主性や自発性が育つような工夫を心がけている。園では、職員の経験などによる技術や知識の差異をできるだけ小さくする必要性を感じていることから、各種研修の実施などによる標準化が望まれる。		
③	園では子どもが充分遊びこめる環境整備(時間と空間)が重要であると考え、室内環境や戸外(園庭)環境を考えるチームによる、職員の主体的な取り組みが行われている。		

2	<b>評価項目2</b> 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( <b>A+</b> )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
	●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">●あり ○なし</span> 幼児はプランターで野菜づくりをしており、栽培や収穫の楽しさを食べることの喜びへつなげるよい機会となっている。また、栄養士を中心として食材や栄養、調理などを子どもたちに説明する食育に取り組んでおり、子どもたちに「食べること」について学び、考えるきっかけを与えている点は大変評価できる。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や子どもの嗜好のチェックが行われている。5才児は給食の盛り付け(汁のみ)を自分たちで行うなど、食事の準備にも積極的に関わられるようにしている。 子どもには“全部食べた！”という達成感も必要であるとの考えから、食事量に応じた盛り付けについて検討している。子どもの気持ちに配慮した取り組みとして評価できる。		
②	アレルギーの配慮が必要な子どもについては、保護者が毎月の献立チェックを行い、チェック結果をもとに該当食材を除去した給食が用意されている。また、提供する際はお盆にのせ、一般食とは違うことが視覚的にわかるようにし、配膳の際にも間違えることがないように、細心の注意が払われている。		
③	食事環境については、いすやテーブルの高さを子どもの状態に合わせるほか、おしぼりや紙ナプキンの設置、室内温度調整の配慮などによって、快適に食事できるように配慮されている。		

3	<b>評価項目3</b> 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による訪園をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。園医との連携がよく、急な受診にも応じてもらえるなど、良好な関係が築かれている様子がうかがえる。なお、利用者アンケートでも9割を超える回答者が「保育中の病気等への対応が適切」としており、子どもの健康を回復・維持する取り組みが認められている。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、月1回発行の保健だよりを通じて行っているほか、特に感染症に注意が必要な時期は、おたよりのほかに園内の掲示板を利用して注意を喚起するなど、予防対策に取り組んでいる。また、乳児のおもちゃは毎日消毒を徹底するなど、園内の衛生管理には細心の注意を払っている。		
③	子どもへの与薬は、子どもの症状や薬の種類など区で定められたルールに則り、看護師が対応している。薬品受け取りノートや、与薬管理表記入の徹底により、適切な対応に努めている。		



4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園の保育目標である“丈夫なからだ ゆたかな心 あそぶの大好き よく考える子”を実施すべく、季節ごとのお楽しみ会をはじめ、七夕会食、節分、ひなまつり、お茶会などが計画的に開催されている。誕生会は一人ひとりその日に行い、誕生児の写真掲示を行うなど、主役の楽しさを感じられるようにしている。		
②	園内は、観葉植物や季節の花を飾るほか、カフェカーテンの使用や、遊具棚でのコーナー作りなど、快適で落ち着ける環境空間を作っている。 また、午睡については、室温や換気の調節や、睡眠のリズムが他の子とあわない子どもが静かに過ごせる場所や遊びの提供なども、適切に行われている。		
③	異年齢児交流保育については、子どもの数が少ない朝・夕のみ行われている。園では計画的な取り組みの必要性を感じていることから、日中の活動においても異年齢児保育を積極的に取り入れ、自然な形で年長の子どもが年少のお世話をすることなどが期待される。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごと園内に掲示し、降園の際にみてもらえるようにしている。アンケートでは8割を超える回答者が「園だより等で保育状況を知ることができる」と答えており、デジタルカメラの活用によるタイムリーな情報提供の取り組みが認められている様子がうかがえる。デジタルカメラについては、活用の頻度増加やスキルアップも期待される。	
②	午後からの登園を受け入れるほか、当日の申し込みで延長保育が受けられるスポット保育の実施などにより、保護者の事情に応じた柔軟な受け入れに努めている。子どもの登降園に関しては送迎時対応マニュアルが作成され、子どもの受け渡しには細心の注意が払われている。	
③	保護者が行事などに参加しやすい配慮として、「みんなで遊ぼう会」を土曜日に開催したり、個人面談の日時はできる限り希望をきくようにしている。多様な就労形態の保護者みなが満足する日程調整というのは難しいが、アンケートでは4分の3を超える回答者が「行事日程は保護者に配慮されている」と感じており、園の配慮は保護者にも理解されていることがうかがえる。引き続き、納得しやすい調整や経過説明などにより、配慮されていると感じる人の割合が増えることを期待したい。	

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策を行っている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所をはじめとする関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げに向けた取り組みがみられる。 日々の取り組みとしては、衣服の着脱の際の身体チェックや子どもの表情の確認などにより、小さな変化をキャッチすることを心がけている。		
③	園では、“親・子共育ち”の考えから、子どもにとって大切な食事や睡眠などの生活リズムについて、保護者と共通理解を深めることを大切に考えている。現在は対処的に行っているため、今後は保護者が集まる機会を利用して、保護者の知恵を借りるという観点も加え、保護者と園が勉強する会の計画的な開催などに期待したい。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	幼小連携教育モデル事業に取り組み、子どもが近隣の小学校児童との交流を楽しめる機会となっているほか、職員は小学校の先生方と意見交換する機会ができ、子どもの成長を卒園後も含めた長期にわたった視野で考えるよききっかけとなっている。
②	併設のゆうゆう館(敬老館)の高齢者とお茶会や、近隣の高齢者交流施設を訪問する機会があり、世代間交流という意味でも子どもの生活に広がりを与えているといえる。また近隣の幼稚園や児童館にも子どもが出かけて交流を楽しむ取り組みも積極的に行っている。園の取り組みに比して、アンケートでは「地域住民との交流を図っている」ことについて十分な理解が得られているとはいえ、交流の様子などを保護者にさらに伝える工夫が望まれる。
③	地域の情報は、地域子育てネットワークニュースの配布をはじめ、区から届けられるポスターの掲示やチラシの配布などにより行っている。今後は、さらに積極的な取り組みになるよう、職員も「西荻北」という地域のことを知る、という取り組みがあってもよいのではないかと。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園の理念のもと 子ども一人ひとりを大切にする保育の実践
	内容	園では“人のかかわりの中で子どもが健やかに育ちあうことができる”ことを大切にした保育の実践に努めている。利用者アンケートでは「豊かな感性を育む活動・遊び」、「子どもの長所や個性が認められている」、「人のかかわり方の基礎が育てられている」への肯定的な回答がいずれも9割を超えており、子どもの個性にあわせながら発達を促すための保育が実践されている様子がうかがえる。園の取り組みが利用者にも十分理解されている点も含め、理念の実現に向けた取り組みとして評価できる。
2	タイトル	園全体で親・子共育ちを支援する取り組み
	内容	園では、子育てを通じて親も職員も共に育つという考えを大切にしている。職員には、保護者(家庭)支援の視点をもつことを期待しており、職員も保護者と子どもの情報や育児技術の共有を積極的に行うことなどで期待に応えている。また、“子どもの健やかな育ち”については、その理想像や課題などを職員で確認しあう機会を多く持ち、同時に保護者とも共通理解が進むことに心がけている。園全体に“親・子共育ち”の考えが定着し、一丸となって取り組んでいる点が評価できる。
3	タイトル	職員の主体的な学びの姿勢
	内容	職員アンケートなどから、職員の学びに対する意欲が高いことがうかがえる。表には出にくい部分ではあるが、職員の自主的な勉強会への参加もみられ、成果は保育環境や遊びの中の創意工夫として還元されている。会議では、活発に議論しやすい雰囲気もあり、職員間のコミュニケーションが良好であるなど、働きやすい職場であるとの思いも職員アンケートからうかがえた。職員が主体的に学ぶ姿勢とともに、個々の能力を発揮する場を組織として提供できている点が評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	降園時間帯における保護者とのコミュニケーションの改善
	内容	園では延長保育を実施しており、常に定員満員に近い利用があるため、利用者が降園時に担任と話をする機会が十分とはいえなくなっている。こうした状況が一因となり、利用者アンケートにはもっと「降園時に子どもの様子についての話」をしたいという要望が表れている。また、延長保育を実施する中で、降園時間の遅れが目立つ利用者が生じるなど、新たな問題も発生している。こうした問題に対処するために、降園時の利用者への情報伝達の方法や、コミュニケーションのとり方などについては、今後検討していくべき課題といえるのではないかと。
2	タイトル	職場研修の充実と経験・知識の共有化
	内容	経験豊富な保育士が多く、個々の対応能力は高く、さらに利用者アンケートでは園全体についておおむね満足している一方で、「職員の対応のばらつき」を感じる人が少なからずいるという状況が表れている。園では、職員が講師を務める「パソコン研修」を実施するなど、職員同士で能力を向上するような取り組みも行なわれており、こうした点については評価できる。今後も目的を明確にした職場研修に取り組み、個々の職員が持っている豊富な経験と能力を、組織として、より高いレベルで共有できるような取り組みが期待される。
3	タイトル	園運営について課題意識の共有化～より広い視点から
	内容	保育の実践をはじめ保護者と向き合う姿勢などについても、園全体で共通理解されている様子が、利用者アンケート及び職員アンケート等からうかがえる。また、重点的に取り組むべきことについては、プロジェクトチームを組織し、役割分担を明確化するなど、着実な園運営も行われている。経験豊富な人材が多いことも踏まえ、経営層だけでなく、職員一人ひとりが区や地域の客観的な保育ニーズを把握し、公立園に求められる役割の理解を深めるなど、より広い視点での課題意識が共有化が進み、さらなる組織力の向上につながることを期待される。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	108	
調査対象者数(人)	99	
有効回答数(人)	59	
回収率	59.6	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は、回答者全体の約9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえれば満足」以上の回答者の合計が89.8%)。個別にみると、「1.登園時子どもの様子の確認がある」、「5.子ども長所や個性が認められている」の肯定的な回答はほぼ全員の96.6%となっている他、「2.食事のメニューは充実している」、「8.降園時子どもの表情が良いことが多い」、「12.園だより等で保育情報を知り得る」についても肯定的回答が9割弱(85%以上)など、園における基本的な生活については満足している様子がうかがえる。

一方、「21.園運営の理念・方針を知っている」については約5割と高いとはいえ、「18.侵入者等への安全対策がとられている」については6割を下回っている。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	57	96.6	2	3.4	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	53	89.8	5	8.5	0	0.0	1	1.7
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	40	67.8	14	23.7	4	6.8	1	1.7
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	47	79.7	9	15.3	1	1.7	2	3.4
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	57	96.6	2	3.4	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	38	64.4	17	28.8	4	6.8	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	48	81.4	11	18.6	0	0.0	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	51	86.4	8	13.6	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	48	81.4	7	11.9	2	3.4	2	3.4
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	50	84.7	8	13.6	0	0.0	1	1.7
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	47	79.7	6	10.2	0	0.0	6	10.2
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	51	86.4	7	11.9	1	1.7	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	45	76.3	10	16.9	1	1.7	3	5.1
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	45	76.3	10	16.9	0	0.0	4	6.8
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	41	69.5	12	20.3	5	8.5	1	1.7
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	47	79.7	8	13.6	3	5.1	1	1.7
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	45	76.3	11	18.6	2	3.4	1	1.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	34	57.6	19	32.2	4	6.8	2	3.4
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	47	79.7	9	15.3	1	1.7	2	3.4
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	39	66.1	18	30.5	0	0.0	2	3.4

#

《事業所名：10 上萩保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	30	50.8	19	32.2	9	15.3	1	1.7
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	26	86.7	3	10.0	1	3.3	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	27	90.0	3	10.0	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	47	79.7	11	18.6	0	0.0	1	1.7



I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3		標準項目	
重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( A )	
評価			
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている		○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○非該当
【A+の取り組み】		○あり	●なし
カテゴリ1の講評(一つ以上)			
①	保育目標は、園のパフレット等に掲載され、入園説明会や保護者会で説明されているとともに、指導計画においてその具体的な内容を示しており、職員や利用者に対して浸透を図っている。しかし、利用者アンケートでは、利用者の園運営の理念・方針に対する認知度は5割と高いとはいえない結果となっている。なお、全調査項目の中で、周知されている割合が最も低くなっている。ことから、周知方法を工夫していくことが期待される。		
②	園内における役割分担を明確にするとともに、保育実践が計画どおりに進められるよう、年間評価・反省について会議で話し合われている。また、会議録や連絡帳などの各記録については、マイナスの評価ではなく、プラスの表現となる様に、園長が主体となって指導がされている。		
③	重要案件の検討や決定手順については、マニュアルで明示され、案件に合わせて、リーダー会議、プロジェクトチーム、経験者別の話し合いなどの場で行われている。また、決定事項については、園だより、掲示の他、口頭説明により保護者に周知されている。		

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理に関する区のハンドブック等が常備されているとともに、園独自のマニュアルでは、最初のページに「全国保育士会倫理綱領」を載せるなど、公務員・保育士として守るべき事を明示しているとともに、会議等の場で伝えるなど、職員の意識を高める取組が行われている。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされ、毎年、実習生が受け入れられている。また、園独自のマニュアルの中でも、実習生の対応の項目を設け、標準化と体制が整えられている。		
③	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、児童館の講座等に保育士や看護師を派遣している。また、地域の乳幼児を対象に、毎月1回、園庭・園内を開放して、遊びの提供や手作り玩具の紹介をしている他、園の備品を高齢者交流施設や児童館に貸し出すなど、人と物の両面で地域に還元している。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを毎月掲示して、利用者に周知が図られている。また、園に直接、苦情や意見を伝える方法についても、入園時や保護者会等の場で周知されている。利用者アンケートにおいても、要望・意見や不満・トラブルの対応に対して、肯定的な意見が概ね8割となっていることから、日常の取り組みの成果を確認することができる。	
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、職員一人ひとりが小さなことでも見逃さず、改善策を見いだす姿勢で取り組めるように、全体会議を開催し、職員に周知し、解決策の検討がされている。しかし、利用者アンケートでは、要望・意見や不満・トラブルへの対応全体では概ね8割が肯定的に捉えている中で、改善策については、他項目と比較してやや評価が低いことから、さらに工夫することが望まれる。	
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。また、園では、情報収集の中心的な担当者を決めているとともに、特に確認が必要な情報については、見学等に行き、直接、生の情報を得ようとするなど、積極的な取り組みがみられる。	

4	カテゴリ4
計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度毎に各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しの制度が定着している。さらに、チャレンジプランが園の複数年度に渡る取り組みを規定する中期計画に発展していくことが期待される。
②	園においては、チャレンジプラン、年間計画、月の指導計画を作成するとともに、過去の記録を参考にしながら、計画の反省・問題点を明らかにするなど、ふりかえりの仕組みができています。園内環境、園だより、園庭の改善など、短期的な活動については、プロジェクトチームでの話し合いにより、充実が図られている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、園独自のマニュアルにもまとめられているとともに、消防署立ち会いの訓練や児童館との合同の避難訓練を実施している。また、万一事故が発生した際には、原因、対処、改善策を保護者にも提示している。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準による区の採用があり、非常勤職員についてのみ園での面接となっている。園には、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権はないといえる。クラス編成時には、園長が面接で職員ひとり一人の希望を聞き、経験や能力等を考慮しながら決定する仕組みとなっている。
②	職員一人ひとりの保育姿勢については、園長・主査が経験に応じたアドバイスを行っている他、クラスリーダーやプロジェクトリーダーが助言・相談を行うなど、職員ひとり一人の主体性を尊重しながら、組織力を発揮している。
③	研修や勉強会等には、可能な限り2人で参加することにより、お互いに内容を確認しあい、一方で、視点の違いを含めて意見交換することにより、成果を高め合う仕組みとなっている。また、受講後は、研修レポートを作成し、研修報告やレポートや資料等の回覧が行われており、研修に参加した職員だけではなく、職員全体への波及効果が期待できる。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている文書は、ファイルを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時ファイルに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。園作成のマニュアルについても、定期的な見直しと、必要に応じて改善されている。なお、園のマニュアルは、1項目1頁で構成され、経験を問わず誰もが分かりやすく、かつ、使いやすいものとなっていることは、高く評価できる。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の条例や関連規則により、個人情報の管理や開示請求の際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得る仕組みができています。児童票などの重要書類については、園長、主査の2人立ち会いのもと保管状況を確認するなど、管理が徹底されている。
③	園で取扱う個人情報の保護については、園独自のマニュアル等を活用し、職員や実習生、ボランティア等に周知している。一方、入園時の区全体の対応や書類については、文書上明確にされていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みについても必要であると思われる。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。園においては、園長のリーダーシップのもと保育目標の見直しや保育計画の振り返り評価が着実に実行されるようになった。また、目標を明確にすることにより、職員が前向きな姿勢になるなど、着実な成果が見られる。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
子どもや保護者の要望や意見などに対し、“人任せにしない”、“互いに連絡をスムーズにする”など、分かりやすい目標を定め、園全体で対応するなど、組織能力の向上につながる取り組みがみられる。また、研修等への参加が多くなるなど、職員一人ひとりの取組を組織の能力向上につなげている。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
チャレンジプランの目標に“マニュアルの作成”を掲げ、園独自マニュアルが作成された。マニュアルは1項目1頁で分かりやすくまとめられており、日常業務で活用しながら、必要に応じて改訂されている。これらの取組を通じて情報共有にもつなげている。		



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
意見、要望、苦情等については、要望ファイルにとりまとめられている。また、保護者の意見や要望に対しては、全体での話し合いをもちながら即対応できる様な仕組みを設けるとともに、職員一人ひとりが「知らない」、「聞いてない」、「分からない」といった対応を無くすことを意識しているなど、その成果は利用者アンケート結果にも現れている。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	チャレンジプランの目標をもとに、園長のリーダーシップのもと、誰でも分かりやすいマニュアルを作成することにより、業務の標準化が進められたことは、高く評価できる。
②	意見や要望に対しては、「人任せにしない」、「互いに連絡をスムーズにする」。また、業務全体では、「知らない」、「聞いてない」、「分からない」といった対応を無くすなど、組織運営のあるべき対応の姿を、言葉に示すことにより、職員全体に共通意識を持たせる新たな取り組みとして評価できる。
③	園長のリーダーシップのもと保育目標の見直しや保育計画の振り返り評価が着実に行われる様になるなど、園運営において、PDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着に取り組む姿勢は高く評価できる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	区において作成している園のしおり、そして、園情報の区ホームページへの掲載など、紙媒体と電子媒体の両面で情報提供されている。また、外国語表記のマニュアルも区において統一したものが整備されている。区のホームページでは、各園の紹介のページを年度ごと必要に応じて更新する仕組みとなっている。	
②	園だよりやクラスだよりは、写真を活用するなど、保護者が関心を持ちやすく、分かりやすい工夫がなされている。また、児童館や保健センターなど関係機関からの情報は、チラシ等を配布するなど、保護者にも提供されている。	
③	保護者の問い合わせや見学等については、朝、夕、土曜日など、保護者の勤務条件など、都合に合わせて設定している。また、見学希望者は、常時受け入れられており、園長・主査が中心となって対応し、施設案内や園での生活体験など、きめ細かく対応できる体制が整えられている。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には区の資料のほかに入園のしおりやプリントを配布し、入園後の説明だけでなく、入園までの生活についての説明も行われている。特に、持ち物リストについては、園独自の資料を作成し、各年齢次別に分かりやすく説明しており、持ち物に関する質問等も減少している。
②	入園内定後には、園長との個人面談によって、子どもの状況、保護者の意向確認などが行われる。面談結果については、区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に記録するとともに、入園後の児童の発達や保護者の意向などを時系列に記録し、保育の最重要書類として活用されている。
③	入園当初は、親子で半日過ごしてもらうなど、入園直後の子どもの不安やストレスを軽減する取り組みが行われている。また、入園前の説明会等では、生活のリズムづくりなど、事前の対応などについても、保護者に伝えている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<p><b>評価項目2</b>                  必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している</p> <p style="text-align: right;">評点( <b>A</b> )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当
<p>【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span></p>		
<p><b>評価項目3</b>                  必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点( <b>A</b> )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<p>【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span></p>		

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等が記録されている。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)や個人面談で話し合われた内容についても追加される仕組みとなっている。		
②	指導計画は、年間と月間、さらに週単位で作成されている。指導計画の作成にあたっては、子どもの発達段階や精神的な状況を踏まえるほか、保護者との個人面談、日頃の要望等も取り入れられている。なお、年間計画の概要等については、保護者にも資料が配布されている。また、年間、半期、月など定期的な反省を行い、見直されているとともに、緊急に変更が生じた場合などについては、会議や月間指導計画の作成の際に対応する仕組みとなっている。		
③	職員間での子どもの情報の共有に関しては、職員会議のほか、指導計画打ち合わせ、毎日のミーティングなどの場で伝えられている他、体制表、連絡ノート、クラスノート等の書類を活用し朝夕の対応、アレルギー対応、また、非常勤職員の配置等、情報共有の仕組みができています。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<p>【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 150px;"><input type="radio"/>あり</span> <input checked="" type="radio"/>なし</p>	
<p>サブカテゴリ5の講評(一つ以上)</p>	
①	<p>子どもの情報について他機関に照会すること及び他機関から照会された時の対応については、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、園においては、気になる子などの情報は、まず保護者と話し合いをもち、了解を得た上で他機関への照会が行われている。</p>
②	<p>1歳児クラスのトイレに仕切りを設置、プールの遮光ネットを設置するなど、環境面で子どもの羞恥心に配慮した取り組みが行われている。プライバシーや子どもの人権については、保育士会の倫理綱領をマニュアルの最初に掲載するなど、子どもに対する基本姿勢が強く感じられる。引き続き、環境面の整備に合わせて、職員一人ひとりの意識を高めていくことが望まれる。</p>
③	<p>職員一人ひとりの保育姿勢の確認は、主査を中心に行われている。また、担任同士がお互いに声を掛あうなど、職員一人ひとりの気づきを大切にしながら保育の質の向上に園全体で取り組んでいる。</p>

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	園独自のマニュアルは、1項目を1頁で見やすく、使いやすくまとめられており、非常勤職員を含め、職員全員が活用できる構成となっており、業務の一定水準を確保する仕組みができています。また、マニュアルの改善は、共通な理解が得られるように、会議を通じて行われています。園独自のマニュアルの他、危機管理マニュアル、保健マニュアルなどが活用されています。	
②	指導計画の作成・見直しは、年間、半期ごとに、職員会議、保護者会、個人面談等の記録を参考にしながら行われている。また、各種会議の次第には、職員一人ひとりの提案や気づきを出せる仕組みとなっている。職員一人ひとりのサービスの提供方法については、園長・主査が経験に応じたアドバイスを行っている他、クラスリーダーやプロジェクトリーダーが助言・相談を行うなど、OJTの取組がみられる。	
③	研修や先進事例の見学などについては、可能な限り2人以上で参加することによって、視点の違いの発見や参加後に内容確認を容易にするなど、効果を高めるための工夫が行われている。自主的に受ける研修等の内容については、多角的な視点から選択しており、保育の質の向上を図る取り組みとして高く評価できる。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	児童の発達の過程や生活環境の把握については、保護者との面談・連絡帳のやりとり・登降園時のコミュニケーションなどを通じて行われ、保育計画に反映しながら、保育に取り組んでいる。利用者アンケートにおいても、登園時や降園時の様子の確認に対する評価が高いことから、継続的な取り組みが期待できる。		
②	手話ソング(4歳児より継続して行っている)や運動プログラム、カブトムシの飼育や野菜の栽培、また、外国人親子との交流など、多様な表現活動や園外活動に取り組んでいる。これらの取り組みについては、園だより、クラスだよりなどで、写真を載せながら分かりやすく保護者に伝えられている。		
③	個別に対応が必要な児童については、他の子どもたちの注意を過剰引き起こさない様に配慮した保育が行われている。また、区としては、発達センターの専門家が、巡回保育指導を行うなど、保育士が現場の事例から学ぶ機会が設けられている。		

2	<b>評価項目2</b> 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( <b>A+</b> )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
	●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">●あり ○なし</span> 園庭でのプチトマトやインゲン、ゴーヤなどの野菜づくりは、栽培や収穫、下処理(年長児)等、楽しみながら食べ物について考える機会が提供されている。さらに、インゲンの種を保護者に分けたり、栽培の様子を園だよりを通じて紹介するなど、園内にとどまらず、家庭にまで広げた食育を展開している。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	献立は区で統一のメニューとなっており、調理員による食事量や嗜好のチェックが行われている。なお、アレルギーの配慮が必要な子どもについては、除去食、代替食で対応し、その確認については、3人以上で4回で確認を行うなど、徹底した管理が行われている。		
②	快適に食事ができる環境としては、食事前の専用エプロン、三角巾の取り替えを行っている。また、行事に合わせた会食やランチパーティー等、異年齢の子どもが楽しく食事をする機会をもっている。誕生日には各クラスで工夫を凝らしながら食事ができる環境が提供されている。		
③	0歳児の食事については、食材の刻み方や軟らかさは子どもの状況に応じて一人ひとり変えるなど、きめ細かい対応がみられる。また、離乳食進度表の作成により、適切な食事の提供を心がけている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	児童の健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の健診が行われている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告されている。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、保健だよりや園だよりを通じて行われている他、ポスターを掲示、0歳児懇談会などの場で周知に努めている。特に感染症に注意が必要な時期は、注意を喚起するとともに予防対策の情報提供が適宜行われている。		
③	看護師が中心になって、保護者からの健康に関する相談に専門的に応じている。また、医療ケアが必要な子どもに対しては、投薬対応や関係医療機関との連携を行う他、体調不良などの際には必要に応じて安静にさせるなどの処置が行われている。また、感染症等の疑いがある場合は、他の子どもたちと離れた場所で安静にする様に配慮がされている。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
	●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
	●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
	評価項目4の講評(一つ以上)		
①	年間行事計画のもと、行事を楽しめるように工夫が図られている。特にお誕生会では、祝われる子どもが主役となれるようにしたり、日常の保育やお散歩においても、楽しめる様な工夫が図られている。		
②	室内環境の整備や遊具などについては、環境学習会に全クラスの担当が参加し、話し合いを通じて充実が図られている。また、園舎の改修の際には、子どもたちが落ち着いてのびのび過ごせるような暖かみのある壁の色にように、区の担当課に要望するなど、子どもたちの視点に立った環境改善が行われている。こうした取り組みにより、環境が充実するだけでなく、学習会に参加している職員が、自分の意見を他に伝えられる様にもなるなど、波及効果もみられる。		
③	午睡チェックの完全実施により、乳幼児突然死症候群(SIDS)を予防している。また、家庭で夜早く入眠できる様に、幼児クラスでは、早めに起床することを基本するなど、家庭生活を考えながら、昼寝の時間が設定されている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )	
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目5の講評(一つ以上)				
①	園やクラスの様子は、クラス・園・保健等の目的別に定期的に伝えられ、クラスだよりでは、写真入りで構成するなどの工夫が図られている。また、日々の様子は、連絡帳や各クラスのホワイトボードに書き込んだり、その日撮影したデジカメの写真を掲示するなど、タイムリーに伝えられている。			
②	園の行事については、年度初めの保護者会で予定を伝えるほか、小学校の校庭を借りて開催される運動会も土曜日に設定されている。また、個人面談などは、保護者の都合に合わせるなど、できるだけ保護者の負担を少なくし、参加しやすいように配慮されている。			
③	登降園を保護者以外が行う場合、必ず保護者から連絡をしてもらうことと、ファミリーサポート、ベビーシッター等の証明書を義務づけとし、子どもの安全を確保する仕組みが定着している。			

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	区全体の虐待に対する取組、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援については、『虐待防止マニュアル』に沿った対策が行われている。		
②	園では、虐待防止マニュアル、園独自のマニュアルで対応を示すとともに、研修等に積極的に参加する様にしている。また、区の保育課指導係、子ども家庭支援センターや、児童相談所や保健所をはじめとする関係機関との連携、ケース会議等への参加などが行われている。また、対応が必要と思われる児童や家庭に対しては、担任だけでなく、園長、看護師と一緒に支援する体制を整えている。		
③	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識の醸成については、保護者会等を通じて年齢にあった発達・育児の目安に関する情報提供、子育てに関する悩みについて意見交換などが行われている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	児童館などの地域施設や機関からの情報は、ポスターを掲示や各家庭にチラシを配布等などによって行われている。引き続き、園の情報とあわせて地域の情報を分かりやすく伝えていくことが望まれる。
②	夏祭り際には、近隣ボランティアが子どもに踊りを教え、一緒に踊るなど地域の人を受け入れている。一方で、高齢者クラブの行事では、子どもが手話ソングを披露するなど、地域との交流が積極的におこなわれている。
③	地域交流に関しては、利用者アンケート、職員アンケートともに一定の評価がされていることから、引き続き、交流の輪を広げていくことが期待できる。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりに目が行き届いた保育
	内容	日常の保育の中で、子ども一人ひとりの状況を把握することがしっかり行なわれており、把握された情報は子どもの心身の発達を促すための活動設定や環境整備のための基礎として十分に活かされている。こうした情報は、職員間で共有され、職員が一丸となって保育に取り組む姿勢がうかがえる。利用者アンケートでは、ほぼ全員が「登園時子どもの様子の確認がある」、「子どもの長所や個性が認められている」と回答するなど、こうした園の取り組みが裏付けられており、高く評価できる。
2	タイトル	職員全体が共通意識のもと質の向上と維持に取り組む園
	内容	保育の目標や保育士としての倫理、また、組織としてあるべき姿を会議等で確認し合うことにより、職員全体で共通意識を持って園全体の質の向上と維持に取り組んでいる。具体的には園において勉強会を開催したり、研修参加を積極的に促したりすることで職員の質の向上に努めており、また職員個人も意識を高く持ち、自主的に先進事例の見学や園外研修などに取り組む、質の向上に努めている。さらに、園運営全般にわたるマニュアルが整備されており、業務の一定水準の維持にも努めている点などが高く評価できる。
3	タイトル	地域交流・世代間交流
	内容	夏祭り際には、近隣ボランティアが子どもに踊りを教えたり、一緒に踊ったりするなど、地域に開かれた行事運営が行なわれている。また、近隣の高齢者のクラブの行事に子どもたちが参加し、手話ソングを披露するなど、園外での地域交流も積極的に行われている。利用者アンケートや職員アンケート結果からも、地域交流やボランティアを積極的に受け入れる姿勢が認められており、園の取り組みが裏付けられている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域や保護者に対する情報提供の工夫と充実
	内容	地域向けの情報提供は、直接交流している団体や機関を中心に行なわれており、地域全体への情報提供・発信は十分とはいえない状況である。また、保護者に対する情報提供では、組織的な保育の質の向上や安全対策など、様々な取り組みを充分伝え切れていない部分が見受けられ、地域版の園だよりを発行したり、保護者向けの情報提供について改善の余地がないか検討するなど、情報提供の工夫と充実が望まれる。
2	タイトル	園の理念、保育目標を伝え続ける
	内容	利用者アンケートでは、「園運営の理念や方針を知っている」保護者の中では「理念や方針の内容」及び「理念や方針と職員の行動の一致状況」が十分認められているものの、園の理念や方針そのものの周知は高いとはいえない状況にある。保育目標などの「園運営の理念や方針」は、あらゆる事の基本であり、園で行う保育など全ての根拠となるものであることから、一層の周知を図っていくことが望まれる。
3	タイトル	園独自のマニュアルの有効活用と会議等で共通認識を高める工夫
	内容	園独自のマニュアルを活用し、非常勤職員を含め、業務水準の維持が図られている。しかしながら、利用者アンケート結果によると、職員の対応の差については、まだ改善の余地が残されている。引き続き、マニュアルを充実していくとともに、様々な制約がある中で、可能な限り、非常勤職員を含めた話し合いの場を設けるなど、共通認識を高める工夫が望まれる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	90	
調査対象者数(人)	74	
有効回答数(人)	48	
回収率	64.9	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が89.7%)。個別にみると、肯定的な回答が9割を超えているものはなく、9割近いものは「2.食事のメニューの充実」、「10.保育中の病気への対応」にとどまる結果となっている。

一方、「6.保育士や職員の一定の対応(ばらつきがない)」をはじめ、「18.外部からの侵入に対して安全な対策」、「20.要望・意見に応じた改善」については肯定的な回答はきわめて少なく、客観的な数値からは利用者から十分満足されているとはいえない様子がうかがえる。

今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	31	64.6	15	31.3	2	4.2	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	42	87.5	6	12.5	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	35	72.9	9	18.8	2	4.2	2	4.2
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	37	77.1	7	14.6	4	8.3	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	39	81.3	8	16.7	1	2.1	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少)ない)ですか	17	35.4	17	35.4	12	25.0	2	4.2

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	28	58.3	16	33.3	3	6.3	1	2.1
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	39	81.3	9	18.8	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	32	66.7	10	20.8	2	4.2	4	8.3
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	41	85.4	5	10.4	2	4.2	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	36	75.0	10	20.8	1	2.1	1	2.1
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	39	81.3	8	16.7	1	2.1	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	33	68.8	10	20.8	4	8.3	1	2.1
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	32	66.7	13	27.1	3	6.3	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	31	64.6	10	20.8	7	14.6	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	35	72.9	9	18.8	3	6.3	1	2.1
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	31	64.6	13	27.1	3	6.3	1	2.1
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	14	29.2	25	52.1	8	16.7	1	2.1
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	24	50.0	22	45.8	2	4.2	0	0.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	18	37.5	23	47.9	3	6.3	4	8.3

#

《事業所名：11 井草保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	25	52.1	14	29.2	8	16.7	1	2.1
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	22	88.0	2	8.0	1	4.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	15	60.0	6	24.0	3	12.0	1	4.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	27	56.3	15	31.3	4	8.3	2	4.2

## I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	
○非該当		
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		○あり ●なし
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	語句の表現等には若干変化があるものの、「一人ひとりの子どもを尊重する園」という意味で“ひとりひとりを大切に”、「保護者と保育者が共に育て、育ちあう園」という意味で“共育ち、共育て”を園運営の基本理念としている。基本理念は、入園説明会や保護者会で説明が行われているとともに、指導計画や行事計画もこれに基づいて策定されており、職員や利用者への浸透が図られている。現在、区のホームページに掲載されている当該園の「保育目標」は、「目指す子ども像」にあたる部分のみであるが、今後は基本理念も掲載することが望まれる。	
②	「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、18年度のチャレンジプラン“共育ち、共育ての「わ」を広げよう!”を策定し、これに基づいたプロジェクトチームを組織し、役割分担を明確化、園長は責任者として計画全体の進行管理にあたっている。リーダー層にあたる園長と主査を含む全職員が、年度当初に組織の一員としての行動目標を設定し、年度末にはその反省を行なう仕組みができています。	
③	毎日のミーティング、原則週1回開催する定例会議、年5～6回開催する夜の会議等、職員が自由に意見交換できる場が設けられ、案件の重要度に応じて検討・決定されている。会議欠席者等に対しては、毎日のミーティングを通じて報告したり、会議資料を配付することで周知徹底している。保護者に対しては、必要に応じて園だよりやクラスだより、ポスター掲示等を用いて決定事項と経緯を伝えるほか、保護者と関係が深い案件については、保護者の意向をふまえて決定するよう配慮されている。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
評点( <b>A+</b> )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">●あり ○なし</span> ボランティアセンターや学校を通じて園に寄せられる感想だけでなく、園が主体となってボランティアや職場体験の参加者から感想を集め、問題点やニーズの把握に努めている。また、把握した問題点やニーズから改善できる点を話し合い、ボランティア等の受け入れ手順や注意事項について園独自でまとめた「実習のしおり」にフィードバックする仕組みが出来ているなど、主体的かつ継続的な取り組みがなされている。		
<b>評価項目3</b> 地域との関係機関との連携を図っている		
評点( <b>A</b> )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域との関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ2の講評(一つ以上)		
①	実習生の受け入れに関しては、区の保育課で受け、各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行うという役割分担がなされている。ボランティアや中学生などの職場体験の受け入れについては、実施主体のアンケート等に回答することで受け入れ姿勢を表明している。これら実習生やボランティア等への対応手順などについて、園独自の「実習のしおり」を作成しているほか、園が主体となって参加者の感想を集め、「実習のしおり」にフィードバックする仕組みが出来ているなど、主体的かつ継続的な取り組みがなされている。	
②	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、地域支援の活動として、園庭や施設・設備の開放、育児相談、遊びの紹介などを開催して、地域の子育てを支援している。また、児童館に看護師や保育士を派遣し、専門分野を活かした講演会等を企画するなど、保育園の機能を地域に還元する取り組みが積極的に行なわれている。	
③	遵守すべき法令・倫理の周知については、公務員倫理に関する区のハンドブックに基づき、園長・主査を中心に、守るべき法、規範、倫理について会議で周知徹底するなど、全職員の理解が深まるように取り組んでいる。	

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>		
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用			
<b>サブカテゴリ1</b>			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
カテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の送迎時の会話や連絡帳、保護者会でのアンケート等を通じて把握し、内容に応じて職員会議等に対応を検討し、利用者に回答するようになっている。また、苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要を記載したポスターを掲示して、利用者に周知している。		
②	利用者の意向により行事内容を改善し、好評を得た事例があるものの、今回の利用者アンケートでは、「要望・意見をもとに改善が行われている」項目に対する評価はあまり高くなっていない。日々の利用者とのコミュニケーションにおいて意見・要望等を捉えきれていない部分がないか、園が実施しているアンケート等の内容・方法が適切なものか、といった意見・要望の把握方法に関する問題や、意見・要望等への対応内容と、利用者への説明が適切かつ充分であったかどうか、検討し改善につなげる取り組みが今後期待される。		
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査などを通して行っている。これらを園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。		

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	中・長期的計画については区の「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」等があり、必要に応じ随時見直しを行っている。年度単位の計画については、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動に基づき、チャレンジプランを策定しており、これに基づいた園内プロジェクトチームを組織し、達成目標を立てて取り組んでいる。
②	保育面では、保育目標に基づき、年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されており、当期計画の反省を次期計画に活かすサイクルが確立している。行事については、必要に応じて行事のための会議を開き、ねらいや実施予定・内容、実施後の反省を記載してとりまとめ、次回に活かせるようにしている。保育や行事の計画は利用者意向に配慮して策定し、必要に応じて保護者会等で説明するなど、計画についての理解を深めるような取り組みも行っており、評価できる。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練や防犯訓練が関係機関との連携のもと実施されている。また、園内での事故事例を分析した結果、子どもが身体を上手くコントロールできずに転倒しているケースが目立ったため、今年度はその根本的な改善策として子どもの「からだづくり」を活動に取り入れるなど、利用者の現状に即した取り組みがなされていることは評価できる。

<b>5</b>	<b>カテゴリ5</b>	
職員と組織の能力向上		
<b>サブカテゴリ1</b>		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>		
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>		

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	<p>常勤職員については配置基準による区の採用があり、非常勤職員についてはのみ園での面接となっている。園には、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権はないといえる。</p> <p>クラス担任等の園内の保育士の配置については、園長に権限がある。クラス担任等を決定する際には、まず職員一人ひとりが希望を出し、それを下敷きに子どもにとって最善の配置となるよう職員が話し合って調整を行い、最終的には園長が責任をもって決定している。</p>
②	<p>区の職員が共通して受ける研修については計画的に実施されているが、保育園における専門能力の向上といった見地からの職員個々の育成計画は明確にされていない。個々の育成計画が明確でないため、これを踏まえた形ではないが、園外研修の参加には勤務日程が配慮されている。研修後については、区の様式による報告書は作成しているものの、研修に関する報告発表やレポートの回覧といった職員間の共有化が不十分である。この点については、リーダー層の考えや職員アンケートの自由記述においても課題として挙げられており、今後の課題である。</p>
③	<p>経験豊富な保育士が多く、個々の対応能力は高いものの、利用者アンケートでは「職員の対応のばらつきが少ない」とする回答率は高いとはいえない。園では、夜間に園内研修を実施するなど、職員間の意識の共有に取り組んでいるものの、『職員間で保育の方法などにばらつきがある』点がリーダー層の考えや職員アンケートの自由記述においても問題として挙げられている。今後は、個々の職員が持っている豊富な経験と能力を、組織として、より高いレベルで共有できるような取り組みが期待される。</p>

7	カテゴリ7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園では園長・主査を中心に、組織的に情報の管理を行なっている。園で管理されている文書は、種類毎にファイル・フォルダ等を用いて誰が見ても見やすく管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時ファイル・フォルダ等に追加されるなど、更新も行われており、適正な管理が行われている。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、個人情報保護の方法や個人情報を本人に開示する際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対しても明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。園では、利用者に向けた配布資料も作成しており、利用者の理解や協力を得る取り組みとして評価できる。
③	個人情報など、取り扱いに注意が必要な情報については、施錠できる棚等に収納しアクセス管理を行なっている。事務室設置のPCについては、職員ごとにIDとパスワードの設定及びアクセス権限の設定が行われており、基本的な部分の管理はできているといえる。また、実習生やボランティア等については、受け入れマニュアルである「実習のしおり」に沿って、オリエンテーションを行う際に個人情報の保護に関する説明を行なっている。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 今年度は昨年度の子どもの状況や、保護者の意向を勘案して、従来からあった「運動会」「卒園式」に、「からだづくり(※こどもの身体コントロールの向上)」「小冊子(※園の入園説明資料の小冊子作成)」「情報共有」の3つを新たなプロジェクトとして加えて取り組んでおり、成果を上げつつある。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
チャレンジプランに基づき、園としての問題点と取り組みが明確になったことで、職員間の問題意識の共有化が図られ、会議の運営、意見交換が活発になるなど、職員がこれまで以上に意欲的に改善に取り組めるようになってきている。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
子ども一人ひとりを尊重するひとつの方法として、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮する環境整備と保育士の意識を改善することができた。 これまでは、園庭が直接公道に面していないこともあり、夏のプール時の着替えやシャワーの際に特別な対策を講じていなかったが、職員会議等でその必要性が話し合われ、今年度より視線を遮る囲い等を設置するなど、子どものプライバシーに配慮する環境整備を行った。これにより、園外や併設施設(児童館)からの視線に対する子どものプライバシー保護が向上したほか、職員もこれまで以上に意識をもって保育にあたるようになった。また、子どもの間にも「みだりに人前で裸になるものではない」という意識が芽生える効果がみられた。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
「年間指導計画」の提示を保護者から求められていたことから、本年度は保護者会において実際の「年間指導計画」と参考となる「発達の目安」を資料として作成・配布し説明をおこなった。保護者の要望に応えるだけでなく、保護者との間で保育観を共有する効果も大きかった。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している点、また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になっている点は評価できる。
②	サブカテゴリ3の改善点については、職場体験参加者からの指摘などを契機としている。この点は、内部の職員だけでは園内の問題点に気づきにくい場合もある、という事実を表している一方で、園としてボランティアや職場体験にきめ細かい対応をとっていることや、園に対する意見等に柔軟に対応できる組織であることが背景となっていると考えられ、そうした点については評価できる。
③	サブカテゴリ5の改善点については、保護者の要望に応える形で行なわれており、利用者本位の取り組みとして評価できる。内容的にも、園として掲げている運営理念のひとつである“共育ち、共育て”に直接繋がるような取り組みであるといえ、今後も園として継続して取り組み、内容を充実させていくことが期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	区において作成している園のしおり、そして、園情報の区ホームページへの掲載など、紙媒体と電子媒体の両面から園の情報について発信している。また、外国語による対応についてのマニュアルも区において統一的なものが整備され、園に備え付けており、必要なときにすぐに取り出しができるように管理されている。日本語の読解が困難な保護者には、ローマ字表記でやりとりするなどの配慮もみられる。	
②	区のホームページの園紹介のページについては、年度ごと必要に応じ園から情報を提供し更新する仕組みとなっているほか、児童館などの地域の関係機関についてもふれあい保育のポスターを掲示してもらうなど、保育園に通っている子どもや保護者ばかりでなく地域に住む区民に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	園の見学については、希望日時だけではなく、どのような場所・場面を見学したいのか、要望をきいたうえで、それに最適な日時の提案も行っており、来園者個々のねらいに沿った見学ができるような心配りがみられる。問い合わせに対して、誰でも対応できるようにマニュアルが作成されており、園長・主査の不在時でも迅速な対応が可能な配慮がなされている。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には区の資料のほかに園で作成している資料を配布している。保育時間、食事(制限食)、与薬、病気・けが対応、持ち物など、特に保護者の理解と協力が必要な項目の説明を重点的に行うなど、効果的な説明に努めている。 アンケートによると、入園の説明で、準備品の必要性は理解できたが、預ける不安が十分軽減されるには至っていない、という状況がうかがえるので、この点に配慮した効果的な説明が望まれる。
②	入園時に、園の保育に対する基本的な考え方(理念・方針)や園の基本的なルールなどは「入園のしおり」や園で作成した配布資料により説明している。アンケートでは、園の理念の認知度は5割強にとどまることから、効果的な伝え方の工夫もあると良いと思われる。
③	入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するため、ならし保育を勧めている。また、無理なく園生活になじむために、子どもがこだわりのある好きなものを持ち込め、個別の状況にあわせた睡眠や食事などの生活リズムを急激に変えない配慮をしている。家庭での過ごし方も含め24時間のサイクルを視野に入れ、徐々に園の生活に馴染めるようにしている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<b>評価項目1</b> 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	
評点( A )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等を記録している。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	指導計画については、年間・月間・週という単位で作成されている。この指導計画の内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成されている。また、指導計画の概要やねらいについては、保護者会や個人面談の際に説明されており、保護者の理解を深める取り組みが行われている。		
③	子どもの情報の職員間の共有に関しては、職員会議などを通じての定期的な確認のほか、日々の変化は朝夕保育日誌などを利用するなど、情報共有の仕組みはできているといえる。しかしながら、利用者アンケートでは、「職員による対応のばらつきが少ない」とする回答が4割弱にとどまることを踏まえ、非常勤の保育士も含めた共有も検討し、保護者の満足を得られる方策について探ることが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			
			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2		サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している	
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)			
①	“基本的人権の尊重”は園がもっとも大切にしていることの一つであり、その実践として子どもに「あなたのことが大切よ」というメッセージを伝えることを心がけている。子どもが自分のことを肯定でき、さらに他者を認める心を養う基礎として重要な取り組みといえる。		
②	プールに入る際には、囲いやバスタオルを利用して周囲からの視線をさえぎるようにしている。これまで“子どもの羞恥心を養う”、という観点からの取り組みが比較的少なかったこともあり、羞恥心の配慮については園だよりを通じて保護者の理解を得るなどの取り組みを行った。		
③	職員アンケートの結果から、子どものプライバシー保護の徹底への意識は高いことがうかがえる。環境や時代に応じて園が要求される内容が変化することが予想されるので、具体的な対応策については柔軟に方法を考えていく必要があると思われる。		

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、緊急時、災害時、園外活動の際など、場面ごとに子どもの安全を守るための基本的な対応について手順をまとめている。園では、安全に遊具で遊ぶためのマニュアル『園庭遊具の約束』の作成に着手している。職員以外の人が実習生やボランティアとして多く園に立ち入る現状にあわせた対応として評価でき、マニュアルの活用が期待される。	
②	子どもの安全を守ることについては、細心の注意を払っている。緊急時の避難訓練は定期的な実施をはじめ、日常的なところでは子どもの爪の点検なども取り入れている。事故やけがなどがあれば事例検討に努め、再発防止の検討も徹底している。	
③	職員のサポートは、マニュアルや手順書の理解促進とあわせ、職員会議や個別相談などを通じた助言・指導を行っている。非常勤職員についても、さらに高い水準確保を目指すべく、業務の理解やサービス提供方法の充実について検討できるとよいのではないかと。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では、年齢にあわせた遊びの工夫を心がけ、1歳では小麦粉粘土づくり、3歳からは野菜や花の栽培などを遊びの中に取り入れている。5歳クラスではカメのえさやりなどのお世話も子どもみずから取り組み、自主性の尊重、生き物を育む気持ちの醸成などにつながっている。		
②	伝統的な文化を取り入れる試みが行われている。エイサーやソーラン節を取り入れた表現活動では、保護者から提供された古いワイシャツをリフォームして作ったおそろいのハッピーを着て、運動会で踊りを発表するなど、子どもが楽しめると共に保護者の好評も得ることができた。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられる。また、保育士は区の発達センターを通して専門家から特別な保育指導を学ぶ機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		



3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。		
②	看護師の常駐と、園医との連携のよさにより、利用者アンケートでは「保育中への病気等への対応」を適切と感じる人は8割を大きく超えている。職員は、看護師や園医から医療の情報を入手することができ、保護者に伝えることができる。園で行う病児のケアの体制や子どもの心身の健康維持の取り組みは、保護者が望む形と乖離することもあるが、集団生活に必要な形として歩み寄れる方策の検討が、引き続き必要であると思われる。		
③	午睡チェックの完全実施により、乳幼児突然死症候群(SIDS)を予防している。感染症については、看護師等の指導により、使い捨ての手袋・エプロン等での嘔吐物や下痢の処理を徹底している。感染症の発症が気になる時期には、保健だよりや園内の掲示を通じて、保護者へもその予防方法のお知らせとともに注意を促している。		



4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	子ども一人ひとりが特別な気持ちになれるよう、誕生会は、子ども一人ひとりの誕生日に行われている。誕生日バッチをつけたり、誕生カードのプレゼントなど、子どもが主役を楽しめる雰囲気づくりがみられる。		
②	園では、室内に緑を取り入れるなどの工夫の必要性を感じている。利用者アンケートでは「子どもが落ち着いてすごせる雰囲気」を肯定的に捉える回答は7割強にとどまることから、子どもに必要な環境づくりについては、職員間でじっくり検討するなど、よりよい環境づくりのための方策が望まれる。		
③	食事、睡眠、排泄、運動などについては、“子どものリズムにあわせる配慮する”という共通認識をもって取り組んでいる。一方で、子どものリズムの捉え方や、リズムにあわせる基準については、職員間の共通化が十分図られているとはいえず、今後の検討課題となっている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	運動会などの大きな行事については、アンケートの実施などによりできる限り保護者の意向を反映させた日程の調整に努めている。年間計画は年度始めに伝えるなど、保護者の参加しやすさに考慮した取り組みが認められる。多様な就労形態の保護者みな満足する日程調整というのは難しいが、納得しやすい調整や経過説明などにより「行事日程は保護者に配慮されている」と感じる人の割合が高まる工夫が期待される。		
②	保護者の保育参観(参加)は常時希望を受け付けている。園の行事日程を早く知らせるとともに参加しやすい雰囲気づくりに努め、保護者会の前後に保育室を訪れる保護者などもあたたかく迎え入れている。		
③	園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日のできごと園内に掲示し、降園の際にみてもらえるようにしている。最近ではデジタルカメラを活用するなど迅速な情報提供に努めており、今後は、活用の頻度増加やスキルアップも期待される。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待に関しては、その防止や万が一発見されたときに対する対応などが、区全体として取り組まれており、評価できる。具体的には、関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが統一マニュアルとして整備されており、緊急時に行うべき手順や連絡先などが詳細に決められている。		
②	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識を持つことを心がけており、保護者の質問や悩みの多いしつけや叱り方について、保護者会などで取り上げることもある。ともに学ぶ機会のさらなる必要性を感じていることから、園の積極的な取り組みが期待される。		
③	職員は、都や区が開催する研修会への参加することなどにより、問題に対する理解を深め、子ども及び保護者への対応技術等を習得している。また、習得した知識や技術は、報告会を開催し職員間で共有している。職員に求められる知識や技術は増えていくと考えられ、園全体のスキルアップによって、多様化・深刻化するケースに対応できる体制づくりが期待される。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	園が児童館等と共催して行う事業やその他の地域の情報などは、特に子育てに関する情報を中心として、ポスター掲示やチラシの配布等を通じて積極的に行われている。
②	近隣の図書館に子どもが自ら本を借りに行き、年長さんは小さい子の分も選んであげるという機会がある。本への関心が高まり、近隣のメリットを活かしたよい取り組みとなっている。
③	これまで地域交流に関しては、園長・主査が積極的に地域に足を運ぶことを中心として行われてきたが、園全体としての取り組みとするためには、他の職員も「井草」という地域を知り、活動していくことが必要となる。今後の展開に期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの個性や特性にあわせてあせらずに保育する姿勢
	内容	園では“子どもも親も丸ごと受け止める”ことをサービス提供の基本姿勢のひとつとしている。例えば入園前の生活から園の生活に移行する時期は、子どもや親にとって不安やストレスの多い時期であることから、子どもの食事や睡眠は時間をかけて園のリズムにあわせてゆくとともに、保護者とも時間をかけて歩み寄ることを心がけている。子どもにも親にも、あせらずにじっくり向き合う姿勢は、園の特徴ともなっている。
2	タイトル	子どもを大事にするメッセージの伝達
	内容	“基本的人権の尊重”は園がもっとも大切にしていることの一つであり、その実践として子どもに「あなたのことが大切よ」というメッセージを伝えることを常日頃心がけている。子どもが自分のことを肯定でき、さらには他者を認める心を養う基礎となる、重要な取り組みといえる。園全体、また保護者ともこの理念の共有がさらに進むことを期待したい。
3	タイトル	整備されたボランティア等の受け入れ体制と実践活動
	内容	実習生やボランティア等への対応手順などについて、園独自の「実習のしおり」を作成しているほか、園が主体となって参加者の感想を集め、「実習のしおり」にフィードバックする仕組みが出来ているなど、主体的かつ継続的な取り組みがなされている。こうした取り組みは、ボランティアや体験学習の場として園を活用してもらう一方で、職員が自らの保育を省みる良い機会となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	思いを共有できる組織づくり
	内容	経験豊富な保育士が多く、個々の対応能力は高いものの、利用者アンケートでは「職員の対応のばらつき」を感じる人が少なからずいる結果となっている。園では、会議等の機会を通して職員間の意識の共有に取り組んでいるものの、依然『保育の方法や保護者への対応などに人による違いがある』状態であることは否めない。保育の画一化に繋がらないような配慮は必要であるが、利用者が感じている要因を詳しく探り、園として取り組むべき方策を検討し、可能な限り臨時職員も含めた全職員の経験や知識をより高いレベルで共有していく取り組みが期待される。
2	タイトル	園が大切に考えている“共育ち、共育て”のさらなる推進
	内容	利用者の意見・要望等に、園として積極的に対応している姿勢がうかがえる。しかしながら今回の利用者アンケートでは、「要望・意見をもとに改善が行われている」項目に対する評価はあまり高くなっていない。今後は意見・要望の把握方法や対応内容に問題がないか、利用者への説明が適切かつ充分であったのかといった点について検討し、改善につなげる取り組みが期待される。また、保護者との間で、保育に関する意識や知識の共有をさらに進める取り組みも期待される。
3	タイトル	地域に開かれた保育園を目指して
	内容	“地域社会の育児センター的役割”を目指して、小学校区の子育てネットワークに参画し、園の機能を地域に還元する取り組みが積極的に行われている。しかしながら現在は地域のニーズの把握や地域に対する働きかけが充分とはいえない状態である。今後は地域のニーズを関係機関等の交流の中で把握しながら地域活動を展開するとともに、園の存在をPRしていくことも望まれる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	94	
調査対象者数(人)	82	
有効回答数(人)	55	
回収率	67.1	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体の9割を超える結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が96.4%)。個別にみると、「2.食事のメニューの充実」をはじめ、「3.散歩等で戸外に出る機会が多い」、「5.担当保育士が子どもの良い所や個性を認めている」、「10.病気への対応が適切」、「16.生活環境が落ち着いた雰囲気」などで肯定的回答が9割を超えており、園における基本的な生活については満足している様子がうかがえる。

一方、「20.要望・意見に応じた改善」が行われているとする回答は約5割にとどまっているが、「いいえ」とする回答はなく、前回評価時(平成16年度)と同じ質問だった項目では、「24.地域住民との交流」を除いたほとんどの項目で「はい」とする回答が増えるなど、この2年間の改善傾向がみてとれる。なかでも「18.外部からの侵入に対する安全対策」(32.2%→70.9%)や「11.事故・けがに責任をもって対応している」(57.6%→83.6%)での改善が目立っている。

今後も利用者の要望・意見を把握し、改善に努めていくことを継続し、高い満足度を維持していくことが望まれる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	43	78.2	8	14.5	4	7.3	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	50	90.9	4	7.3	1	1.8	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	52	94.5	3	5.5	0	0.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	47	85.5	7	12.7	0	0.0	1	1.8
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	50	90.9	5	9.1	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	38	69.1	14	25.5	3	5.5	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	34	61.8	17	30.9	4	7.3	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	48	87.3	6	10.9	0	0.0	1	1.8
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	42	76.4	6	10.9	0	0.0	7	12.7
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	51	92.7	3	5.5	0	0.0	1	1.8
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	46	83.6	5	9.1	1	1.8	3	5.5
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	49	89.1	5	9.1	1	1.8	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	44	80.0	11	20.0	0	0.0	0	0.0
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	36	65.5	17	30.9	0	0.0	2	3.6
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	36	65.5	14	25.5	3	5.5	2	3.6
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	51	92.7	2	3.6	1	1.8	1	1.8
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	49	89.1	6	10.9	0	0.0	0	0.0
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	39	70.9	11	20.0	5	9.1	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	38	69.1	12	21.8	2	3.6	3	5.5
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	28	50.9	24	43.6	0	0.0	3	5.5

#

《事業所名：12 善福寺保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	32	58.2	16	29.1	7	12.7	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	32	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	29	90.6	3	9.4	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	43	78.2	10	18.2	0	0.0	2	3.6





<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"> <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし                 </span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	保育目標は園のパンプレットや区の施設案内に掲載されており、ホームページや紙面を通じて一般に周知しているほか、事務室内にも掲示されている。利用者アンケートによると保護者の「園運営の基本的な考え方」に対する周知率は6割弱程度ではあるが、2年前の評価時の調査よりも約16%周知率が上がっている。利用者に対しては入園説明会、保護者会等を通じて保育目標への理解が深まるような取り組みを行っており、「園運営の基本的な考え方」を知っている保護者の全員が、「その考え方に納得している」と回答していることは評価できる。	
②	園内における役割分担は、業務分担を示す表により明確になっている。園長・主査は日常の業務遂行や会議運営にあたり、果たすべき役割や責任を表明し、実践している様子が会議録などからうかがえる。しかしながら、園長・主査自身も、自身の考え方や意思が職員全体に十分に伝わっていないと感じており、職員の自己評価においても、リーダー層との考え方の相違や、意思統一に欠ける点があるという意見があげられている。今後も会議の場などで、職員が一丸となって園運営にあたるよう議論を重ねていくことが必要であろう。	
③	意思決定は夜の職員会議、定例の打ち合わせなど、必要に応じて園長が適宜提案し、全職員で検討し、決定することになっている。園では職員間の情報伝達の向上に力を入れて取り組んでいるが、時間的制約から会議を十分に活かしていない点、情報を即日伝えるようにしているが充分伝わっていない点、などが問題となっている。今年度もそうした問題の解決に取り組んでいる途上であり、会議の持ち方など、改善された点もある。今後の取り組みの成果にも期待したい。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	遵守すべき法規・倫理等のうち、重要なものについては手引書やハンドブックが作られており、事務室に常備されている。保育を行っていく上で職員に必要とされる倫理法令等の遵守などについて、新聞等の切抜きを事務室内に掲示したり、会議の中で議題としてとりあげるなど、職員の理解が深まるような取り組みを行なっている。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園では実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされている。また、ボランティアの受け入れは杉並ボランティア活動推進センターを経由して行っている。園においては、実習生・ボランティアを受け入れる際の対応方法等について取りまとめた独自のマニュアルが整備され、受け入れ体制が整っている。また、地域の中高生の体験学習などを受け入れており、次代を担う世代に保育の現場体験や子どもとふれあう機会をを積極的に提供している点は評価できる。		
③	地域の関係機関との交流・連携については、小学校区を中心としたネットワークが構築されており、専門知識を生かしたイベント(ふれあい保育)の開催や児童館などとの交流が行われている。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
<b>評価項目1</b> 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;"><b>評点( A )</b></span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
<b>評価項目2</b> 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;"><b>評点( B )</b></span>			
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
○あり ●なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b> <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。 園に直接、または保育課等を通じて園に寄せられた苦情等に関しては、職員全体のものとして捉え、迅速な対応が心がけられている。こうした苦情等への対応の経過や結果に関する情報は、園の「苦情処理ファイル」にまとめられている。	
②	利用者の意向把握については、口頭や連絡帳による日常的な意向把握のほか、父母の会が実施するアンケート等を通じて意見が寄せられるなど、園が主体となって行なわなくても、利用者から意見が寄せられる状況にある。寄せられた意見等に対しては、園として集約・分析を行い、対応している点は評価できる。今後は、意見収集が悪い意味での利用者まかせにならないように、適宜、園として利用者の意向把握を行うことを検討していくことが望まれる。	
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査などを通して行っている。現在は園の主体的な取り組みには至っていないが、調査結果を園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	中・長期的計画については区の「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」等があり、必要に応じ随時見直しを行っている。年度単位の計画については、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「目指せ五つ星の区役所」運動に基づき、チャレンジプランを策定しており、園としての達成目標を設定し、改善に向けて取り組んでいる。
②	保育面では、保育目標に基づき、年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されており、当期計画の反省を次期計画に活かすサイクルが確立している。行事などの園内プロジェクトについては、年度当初に役割分担を決め、計画的に取り組んでいる。行事等については、実施後の反省を記載し、連絡ノートや父母の会などを通じて寄せられた参加者の感想・意見をとりまとめ、次回に活かせるようにしている。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、避難訓練計画に基づき、地震・火災等の災害発生時の訓練が関係機関との連携のもと実施されている。園では、職員間で危機管理情報の共有に務めており、園独自の安全に関するマニュアルを作成している。利用者アンケートにおいて回答者全員が「遊具等が安全で利用しやすい」(区の独自項目)とし、7割が「侵入者等への安全対策がとられている」とするなど、安全対策について利用者からも一定の評価を受けている。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準に応じた区での採用、非常勤職員については各園での面接となっている。園長は、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権は有していないといえる。クラス担任等の園内の保育士の配置については、保育士の希望と子どもの状況等をふまえ、適材適所の人員配置になるよう配慮されている。しかし、職員の意見からは少なからず人員配置に関する問題点が挙げられており、今後は、園として取り組める範囲で必要な人材の要望を区に出し、適正配置に務め、職員の理解を得ていくことが期待される。
②	区の職員が共通して受ける研修については計画的に実施されているが、保育園における専門能力の向上といった見地からの職員個々の育成計画は明確にされていない。個々の育成計画が明確でないため、「計画」を踏まえた形ではないが、園外研修の参加には勤務日程が配慮がされ、研修後にはレポートを作成、必要に応じてレポートを回覧、または会議議題としており、研修後の確認と職員間での共有に取り組んでいる。
③	経験豊富な保育士が多く、個々の対応能力の高さを園長も認めており、園長・主査が指導的役割を担う場面は少ないとのことであった。こうした場合、「対応のばらつき」を利用者に感じさせてしまうことがあるが、利用者アンケートにおいても回答者の約7割が「職員の対応のばらつきは少ない」とするなど、職員の対応については、利用者からも一定の評価を得ている。しかしながら、職員からは「職員間の考え方の相違」等を要改善点とする意見も複数挙げられており、今後、組織としての能力向上へ向けた取り組みも期待される。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で保持する情報の大半は、「紙」の文書であるが、それぞれの文書はファイルを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき、整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時ファイルに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。しかしながら、訪問調査時には、文書の探し出しに若干手間取る場面もあり、今後は管理の一層の適正化が期待される。
②	個人情報の利用目的の明示(文書による確認)については、入園申し込み時の書類など一部の情報に限られているのが現状であり、利用目的についての説明が口頭で行われているものも多い。今後は、これらの説明等について、文書化し、目に見える記録として管理することが求められる。なお、個人情報の保護制度に関しては、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、個人情報保護の方法や個人情報を本人に開示する際の手続きなどが詳細に決められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対しても明示されている。
③	児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理がなされているとともに、会議・研修等を通じて個人情報保護に関する職員の理解を深めているなど、組織的な対応が図られている。園では情報共有に積極的に取り組んでいるものの、情報の保護と共有については、職員から「経営層との間に認識の相違がある」といった問題点が指摘されている部分であり、今後も引き続き改善に取り組んでいくことが期待される。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。 ・平成18年度は“保育目標や保育計画を見直すことにより、共通認識をもつこと”をチャレンジプランの目標のひとつとして取り組み、職員間で保育目標等に関する認識を新たにするという成果をあげることができた。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
・平成18年度は“職員一人ひとりの持っている力や才能を出し合えるクラスづくりをしていくこと”をチャレンジプランの目標のひとつとして取り組み、会議が活性化するなどの成果をあげることができた。この点については、達成目標に見合った成果は得られているものの、職員には、自分の意見を出し切れない、といった意見もあることに留意する必要がある。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
・平成18年度は“保育目標や保育計画を見直すことにより、共通認識をもつこと”をチャレンジプランの目標のひとつとして取り組み、保育目標や保育計画を園だよりに掲載するなど、保護者と共通認識をもつ取り組みをもつことができた。 ・平成18年度のチャレンジプラン『話・輪・和』において、情報伝達をすみやかにこなすことに取り組み、保育におけるグループ討議をもつなど、職員間の情報共有の質・量の見直しと改善に取り組むことができた。この点については、達成目標に見合った成果は得られているものの、職員には、情報伝達が充分でない、といった意見もあることに留意する必要がある。 ・保護者(家庭)との交流の面で、デジタルカメラの活用が広がり、子どもの姿を分かりやすく伝えることが可能となった。		



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
・平成18年度は“保育目標や保育計画を見直すことにより、共通認識をもつこと”をチャレンジプランの目標のひとつとして取り組み、保育目標や保育計画の刷新に取り組んだが、その過程において、利用者の意向を反映する形で保育計画等の検討を進めることができた。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCAサイクルが定着している。また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。
②	「職員と組織の能力向上」「情報の保護・共有」などについては、計画的な取り組みが成果をあげている点は大変評価できる。しかしながら、成果が確認できる一方で、職員自己評価では、まだ充分でない、とする意見も出されていることから、今後も問題点を洗い出して対応策を検討するなど、継続的に改善に取り組んでいくことが期待される。
③	平成18年度の改善点については、組織面での改善点が目立ったように見受けられる。利用者本位という観点では、保護者との共通理解を深めるという目標が含まれているものの、その意向把握については、父母の会のアンケート等の保護者側からの働きかけに頼る部分が大い。今後は園側からの働きかけによる意向把握を取り入れていくことも検討する価値があると思われる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	区において作成している園のしおりのほか、園独自のパンフレットも作成し、より分かりやすい情報提供に努めている。園情報は区のホームページでも閲覧できるようになっているほか、外国語による対応についてのマニュアルも区において統一したものが整備されている。園だより等では、デジタルカメラを利用した写真を掲載したり、給食紹介についてはメニューの掲示だけではなく実物を展示する展示食(区統一の取り組み)を用いるなど、わかりやすい情報提供が心がけられている。	
②	小学校区毎に設定されている子育てネットワークに参画しており、近隣の関係機関等への園のパンフレット、地域ネットワーク事業のパンフレットを配布するなど、地域に向けて、園の情報発信に取り組んでいる。	
③	入園希望者等の園内見学については、園長・主査が担当となって受け付けている。見学内容については、見学者の希望に応じ、希望者の意図に沿った見学ができるよう配慮している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園申込みの際の資料には、受け入れ時間や園での生活における基本的なルールをはじめ、入退園の条件、保育料のほかに、希望するサービスが受けられない(例えば、入園できるが延長保育は利用できない等)場合の対応方法などが示されている。また、入園内定後には、園で個人面談を行い、子どもの状況把握と、保護者の意向確認などを行い、保育のための基礎資料を得ている。面談結果は「個人面談記録」にまとめられ、「児童票」と同一のファイルに綴じられ、管理されている。
②	入園時には保護者全員を対象とした入園説明会を行っており、区で統一的に作成している資料に加え、園で独自に作成している「持ち物のお知らせ」等を配布して説明している。利用者アンケートでは「入園前に保育内容に関する必要な情報を提供してくれたか」(区の独自項目)という設問で9割を大きく超える人が「はい」と回答するなど、入園前の情報提供が保護者にとって十分に行われていることが裏付けられており、高く評価できる。
③	入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するため、「慣れ保育」期間を設けている。「慣れ保育」については、子どもと保護者の状況に応じて無理のない期間設定をしている。「慣れ保育」期間中は可能な範囲で保護者と子どもと一緒に保育園で過ごしてもらうよう勧めており、子どもが園での生活に慣れ、保護者も保育の様子を知ること、安心して子どもを預けられるようにするための配慮をしている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通の様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等が記録されている。この児童票に記録される情報は、日々の保育の中での子どもの発達状況・健康状況に応じて追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	指導計画については、年度初めの時期に年間の指導計画を作成し、その年度の方針等を定めるほか、年間指導計画を月ごとに細分化した月間指導計画を月毎に作成し、さらに週ごとのカリキュラムを週案として取りまとめている。指導計画は、子どもの発達状況と、子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成され、適宜グループ討議や職員会議で検討され、職員間での共有化が図られている。		
③	日々の子どもの情報に関しては、正規の職員では打ち合わせや会議を通じて確認するほか、日誌・クラスノート等を通じた文書による確認が行われている。また、非常勤職員には、常勤の職員から必要な情報が口頭及び文書で伝えられているなど、職員間の情報共有の仕組みがあり、一定水準の情報共有はできている。しかしながら、伝達が上手くいっていないことがある、という意見が職員から複数あげられており、園長もそれを認め、情報伝達について再確認する必要性を感じている。この点については今後の一層の改善を期待したい。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。子どもと保護者の情報については、日々のコミュニケーションの中で把握するよう努めている。	
②	プール時の着替え、トイレの使用、オムツ交換などの際には、周囲の視線を遮ったり、決まった場所で行なったりといった、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮した措置を講じている。	
③	職員は一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、ゆっくりと話す時間をもつよう心がけている。子どもに対して、出来るだけ否定的な言葉を避ける、呼び捨てにしない、大声で話さないといった注意点も会議や打ち合わせの際に確認され、非常勤職員にも口頭で伝達されている。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
○あり ●なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	園のマニュアルがまとめられたマニュアル集は、職員が見やすい場所に置いてあり、日常的に参照できるよう配慮されている。しかし、マニュアルが充分活用されているとは言えない状況となっている。今後は、マニュアルの見直しの際など、マニュアル作成に全職員が積極的に関わり、マニュアルを「自分たちのもの」と捉えられるような取り組みが期待される。	
②	日々の打ち合わせや、職員会議は、保育について意見交換することや、半期や年度末に行なう反省を通じて、日頃の保育を振り返る機会となっており、業務の一定水準を確保するための一助となっている。しかしながら、職員の工夫や改善できたことを報告し合い、そうした事例を園全体のものとしていく、という取り組みには至っていない。今後は、一定水準を確保すると同時に、園ならではの工夫、といったものを生み出せるような取り組みが期待される。	
③	会議はなるべく全員参加するよう務めることはもちろん、非常勤職員に対しても積極的に働きかけ、園として保育の一定水準を保てるように取り組んでいる姿勢は評価できる。利用者アンケートにおいても、「職員による対応」について約7割が「ばらつきは少ない」と評価するなど、一定の評価は得ている。今後は組織としての能力向上を図り、こうした評価をさらに高めていくことに期待したい。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園周辺の公園や緑地が多い環境を活かし、園外活動を積極的に取り入れている。園外活動で触れた四季折々の自然などを、創作活動や室内装飾に取り入れたりするなど、園外と園内の活動の連続性にも配慮がされている。こうした取り組みは保護者にもよく伝わっており、利用者アンケートでは9割を大きく超える人が「散歩等で戸外に出る機会が多い」ことを認めている。		
②	子どもが継続・発展的に遊べるように配慮し、子どもの意向を取り入れて活動内容を臨機応変に変化させているほか、環境設定や遊具の選択にも配慮がされている。利用者アンケートにおいても、保育に関する項目では一定の評価を得ているが、訪問調査時には、乳児では落ち着いた家庭的な雰囲気の中で保育されている様子がうかがえ、幼児では園庭での遊び等を通じて、自然に異年齢間で交流している姿も見られ、活き活きと生活している様子がうかがえた。		
③	職員が一对一で対応する必要がある障害のある子どもについて、担当職員任せにせず、全職員が支えていこうという姿勢がある。同じ保育室の中で、障害のある子どももそうでない子どもも自然に関わりを持ち、生活している。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
区民農園や園庭のプランターを利用し、芋や野菜を栽培し、収穫するとともに、収穫物を給食で食べたり、焼芋会といった行事を行うことにより、収穫の喜びや、食べることの喜びを体験させ、その大切さについて学ぶ機会を提供している。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	園の給食は、区共通のメニューに従って調理師が調理し、配食される。普段の食事でもテーブルにティッシュやおしぼりを置いたり、花を飾り付けたりするなどの環境面の配慮が行なわれている。行事の際には、特別なメニューに、ランチ皿を使用した盛り付けや、テーブルの飾り付けなどが施され、リクエスト会食では子どもが選んだメニューによる給食が出されるなど、普段とは異なる雰囲気楽しんで食事ができるような演出がされている。また、幼児クラスでは、行事の際に縦割り(異年齢)で会食することもある。	
②	栽培から調理、実際の食事に至る取り組みは、特に野菜などの子どもの苦手な食物の克服にも一役買っている。日々のメニューにおいても、子どもが残すことはほとんどなく、よく食べているとのことであり、訪問調査時にも、野菜などを残す子どもはほとんど見られなかった。	
③	アレルギーを持つ子どもに対しては、毎月1回保護者の献立チェックを行ってもらい、そのチェック結果に基づくアレルゲンを除去した給食が配食されている。同様に個別対応が必要な0歳児の食事については、一人ひとりの子どもの状況に応じ、食材の刻み方を変える等きめ細かな対応がなされている。調理室との「連絡ノート」を作成しており、調理師と保育士の間でのお互いに確認しあい、共通の認識を持てるような取り組みがなされている。	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	園児の健康状態の把握は、園医による定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の検診により行っている。また、身体測定も定期的に行い、健診や身体測定等の結果は「健康カード」に記載して保護者へ報告している。児童の日々の健康状況については、受け入れ時の視診において確認しており、園内における保健関係の活動記録や、園児の欠席状況等は保健日誌に記録されている。また、乳児の午睡時には、「午睡チェック表」を用いて一定時間毎の状態確認を行い記録している。		
②	与薬に関しては、区で統一された方法に基づいて行っており、熱性けいれんや慢性疾患等の治療薬の園内での投与に対応している。また、園内で子どもが負傷した場合や、感染症の疑いがある症状を発症した場合などについては、危機管理マニュアルに対応方法がとりまとめられており、看護師不在時でも、職員が適切に対応できる体制が整えられている。利用者アンケートにおいても保育中の病気等への対応については高い評価を得ており、対応の質の高さを裏付けている。		
③	看護師が常勤しており、毎朝の視診の際など、日ごろから保護者の健康に関する相談に応じている。また、園医が週1回来園しており、園医との協力体制が充実している。その他、保健分野に関する保護者への情報提供については、保健だよりを通じて行われているほか、保健関連のポスターなどが園内の目に付く場所に掲示されている。		

4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		<b>評点( A )</b>
	<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせて工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
<b>評価項目4の講評(一つ以上)</b>			
①	園内の環境設定について、保育室などは子どもの遊び場として配慮されたコーナー設定がされているが、手作りの遊具や装飾により、家庭的な温かみが醸成されている。廊下等の保育室外のスペースについても配慮が行き届いており、利用者アンケートにおいても「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気か」という設問に対して「はい」という回答が9割を超えるなど、利用者からも高い支持を得ている点は非常に評価できる。		
②	恵まれた周辺環境を活かした多様な園外活動が行なわれており、園庭も十分な広さがあり、子どもが園外活動や園庭での遊びを楽しんでいる様子が、写真や園だより、また訪問調査時の様子などからうかがえた。誕生会については、一人ひとりの誕生日当日にお祝いし、「自分が主役」になれるよう配慮がされている。		
③	お昼寝はクラスの活動の状況に合わせて入るようにしている。また早く眠ってしまった子どもや、早く目が覚めてしまった子どもについては、個別の状況に応じた対応がとられている。現状では、お昼寝の時間は職員の事務のための時間となっているが、事務仕事量を工夫することで、よりきめ細かい対応をとることも今後の検討課題として捉えられている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者に対しては、送迎時のコミュニケーション、定期的に発行するクラス便りや園だより、保護者会、(年齢・必要に応じて)連絡帳など、様々な機会と方法を用いて園での子どもの様子を伝えるようにしている。デジタルカメラを積極的に活用することで、園だよりや、行事・日常の様子など子どもの姿を写真で伝える機会が増えており、利用者アンケートからも好評を得ている様子がうかがえる。		
②	保育参観や参加は常時受け付け、対応している。行事日程等については、調整が難しい部分もあるが、保護者の都合に合わせてるように努力はしているとのことであった。今回の利用者アンケートにおいては、卒園式や保護者会の開催日程に配慮をお願いする記述もみられ、今後も可能な限り日程調整を行い、決定経緯について保護者に説明し、理解を求めていくことを続ける必要がある。		
③	保護者が組織する「父母の会」との連携が上手くとられており、行事の共催や、意見交換の場として上手く機能している。今後も「父母の会」との協力関係を維持していく必要があるが、利用者意向等の把握などについては、園長が感じているように園が主導して行なうことも必要であると思われる。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待に関しては、その防止や万が一発見されたときの対応などが、区全体として取り組まれており、評価できる。具体的には、関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが統一マニュアルとして整備されており、緊急時に行うべき手順や連絡先などが詳細に決められている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げがなされるよう取り組まれている。		
③	保護者会などにおいて子どもの発達や育児に関する話を行い、保護者との共通認識を得るように務めている。園内には、虐待防止に関するポスターを掲示したり、パンフレットを置いたりするなど、啓発と情報提供に努めている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	ゆうゆう館との交流があり、「敬老の日の集い」や「卒園を祝う会」を行なっている。また、児童館や小学校との交流があり、行事参加や年長児の学童クラブ体験などが行なわれている。しかしながら、地域ネットワークとの関わり合いが少ないという点は園長も課題と認識しており、今後、地域ネットワーク事業を通じた交流や、高齢者福祉施設との交流を、園側から働きかけていくことも検討する必要があると捉えられている。
②	地域住民向けに行事ポスターを掲示するなどして、保育園行事を告知し、参加を呼びかけている。子育て支援事業等では、園児が地域の親子と交流する機会にもなっている。
③	保護者への地域情報の提供に関しては、関連するポスターの掲示や、パンフレットの設置を通して行なっている。今後、園の地域交流活動や、保護者家庭の地域交流の支援を考えていくためには、職員が「善福寺」という地域のことを知る取り組みも有意義であると思われる。現在も「自然環境に恵まれた地域」という面では、地域の特性をよく把握し、保育にも活かされているが、今後は人的交流面での地域特性を把握し、保育に活かすような取り組みが期待される。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然環境に恵まれた立地とそれを活かした保育
	内容	園の周囲の公園や緑地が多い環境を活かし、園外活動を積極的に取り入れている。園外活動で触れた四季折々の自然などを、創作活動や室内装飾に取り入れたりするなど、園外と園内の活動の連続性にも配慮がされ、園児の心の成長に良い影響を与えている。こうした取り組みは保護者にもよく伝わっており、利用者アンケートでは9割を大きく超える人が「散歩等で戸外に出る機会が多い」ことを認めている。
2	タイトル	経験豊かな職員に見守られ、健やかに育つ子どもたち
	内容	日常の保育は、子どもが継続・発展的に遊べるのが大事にされており、子どもの意向を取り入れて活動内容を臨機応変に変化させているほか、環境設定や遊具の選択にも配慮されている。訪問調査では、乳児では落ち着いた家庭的な雰囲気の中で保育されている様子や、幼児では園庭での遊び等を通じて、自然に異年齢間で交流している姿も見られた。利用者アンケートでは子どもの健康・安全面にも配慮が行き届いている点に満足する人が多く、前回(平成16年度)と比較すると、満足する人の割合が大きく増えていることなどから、改善の様子が明らかである。
3	タイトル	利用者とのコミュニケーションを大切にした園運営
	内容	保護者に対しては、送迎時のコミュニケーション、定期的に行うクラスだよりや園だより、保護者会、(年齢・必要に応じて)連絡帳など、様々な機会と方法を用いて園での子どもの様子を伝えており、デジタルカメラを積極的に活用するなど、情報提供能力の向上にも取り組んでいる。保護者が組織する「父母の会」との連携も上手くとられており、行事の共催や、意見交換の場として機能している。利用者とのコミュニケーションを重視しているという姿勢と行動が評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	必要な情報の伝達と共有の徹底
	内容	日々の子どもの情報に関しては、正規の職員では打ち合わせや会議を通じて確認するほか、日誌・クラスノート等を通じた文書による確認が行われている。また、パートタイマー等の非常勤職員には、正規の職員から必要な情報が口頭及び文書で伝えられているなど、職員間の情報共有の仕組みがあり、一定水準の情報共有はできている。しかしながら、伝達が上手くいっていないことがある、という意見が職員から複数あげられており、園長もそれを認め、情報伝達について再確認する必要性を感じている。この点については今後の一層の改善を期待したい。
2	タイトル	職員が共有できるマニュアルの整備と活用
	内容	園のマニュアルがまとめられたマニュアル集は、職員が見やすい場所に置いてあり、日常的に参照できるよう配慮されている。利用者アンケートにおいても、「職員による対応」について約7割が「ばらつきは少ない」とするなど、業務水準の確保という点では一定の評価を得ている。しかし、マニュアルが充分活用されているとは言えない状況にあり、今後はマニュアル作成に全職員が積極的に関わるなど、マニュアルを「自分たちのもの」と捉えられるような取り組みが期待される。
3	タイトル	職員の経験を活かした組織力の向上
	内容	経験豊富な保育士が多く、日々の打ち合わせや、職員会議を通じて、業務の一定水準を確保することにはある程度成功しているといえる。しかしながら、職員の工夫や改善できたことを報告し合い、そうした事例を園全体のものとしていく、という取り組みには至っていない。今後は、一定水準を確保すると同時に、職員の経験を積極的に交換することで、園ならではの工夫、といったものを生み出せるような取り組みが期待される。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	95	
調査対象者数(人)	79	
有効回答数(人)	59	
回収率	74.7	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が94.9%)。個別にみると、「1.登園児子どもの様子の確認がある」や「2.食事のメニューの充実」、「10.保育中の病気等への対応が適切」への肯定的回答が9割を超えるほか、「4.豊かな感性を育む活動・遊び」、「5.保育士が子どもの良いところや個性を認めている」、「8.お迎え時に満たされた表情をしている」、「12.園からのたより等で子どもの様子をを知る」などについても9割近い回答となっているなど、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「3.散歩で戸外に出ることが多い」、「14.保護者の色々な価値観に理解」、「15.保護者が参加しやすい行事日程」、「19.不満やトラブルへ対応」が適切に行われているという回答は約6割、「20.要望・意見に応じた改善」「21.保育園運営理念・方針を知っている」という回答は約5割となっている。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	56	94.9	3	5.1	0	0.0	0	0.0
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	57	96.6	2	3.4	0	0.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	37	62.7	18	30.5	4	6.8	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	49	83.1	8	13.6	0	0.0	2	3.4
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	51	86.4	8	13.6	0	0.0	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	40	67.8	14	23.7	5	8.5	0	0.0

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	42	71.2	16	27.1	1	1.7	0	0.0
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	51	86.4	6	10.2	2	3.4	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	43	72.9	6	10.2	5	8.5	5	8.5
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	54	91.5	3	5.1	2	3.4	0	0.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	44	74.6	11	18.6	2	3.4	2	3.4
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	53	89.8	4	6.8	2	3.4	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	45	76.3	9	15.3	4	6.8	1	1.7
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	37	62.7	17	28.8	4	6.8	1	1.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	36	61.0	19	32.2	2	3.4	2	3.4
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	53	89.8	5	8.5	1	1.7	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	48	81.4	9	15.3	1	1.7	1	1.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	34	57.6	20	33.9	5	8.5	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	37	62.7	20	33.9	1	1.7	1	1.7
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	32	54.2	23	39.0	3	5.1	1	1.7

#

《事業所名: 13 永福北保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	32	54.2	19	32.2	8	13.6	0	0.0
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	30	93.8	2	6.3	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	28	87.5	4	12.5	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	42	71.2	15	25.4	1	1.7	1	1.7

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	園の保育目標は、事務室や廊下に大きな文字で掲示されているとともに、園のしおりに掲載され、内容が分かりやすく説明されている。指導計画においても、保育目標から具体的な展開がなされており、職員会議や保護者会を通して繰り返し伝えられるなど、職員や利用者の理解と浸透が図られている。しかし、利用者アンケートでは、利用者の園運営の理念・方針に対する認識度は5割を超える程度と、その割合があまり高くなっていないことを踏まえ、利用者への周知方法をさらに工夫していくことが期待される。	
②	園長は、毎日の夕連絡会はもとより、昼の打合せや月1回の夜の職員会議等において、園の方向性の明示、地域の子育て支援、事故やクレームへの謝罪・対応などの自らの責任を職員に周知しており、園長と主査とのスムーズな連携の中に園の安定があると考え、積極的な意思表示と行動に心がけている。園だよりには毎号、園長からのメッセージを掲載していること、職員が対外的に作成する文書はすべて確認と指導を行うことから、その役割と責任を果たしていることがうかがえる。	
③	年間行事を始めとした重要な案件については、職員全体で話し合い、前回の反省を基に立案・検討を行っており、「年間行事計画及び係分担表」を作成して、担当者を明らかにして取り組んでいる。決定事項は、各種の打合せ・会議を通じて職員に繰り返し伝え、会議の欠席者には必ず議事録や関係資料を読むよう指導しているが、全員への周知徹底が課題となっている。保護者に対しては、園だよりやクラスだより、張り紙等で周知しており、利用者アンケートでは、約9割が「園だより等で保育状況を知り得る」と回答しており、認識度は高い。	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( B )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
○あり ●なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
○あり ●なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
○あり ●なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	都や区の職員ハンドブック、子ども・家庭に関する法令通達集が常備され、更衣室には非常勤職員に対する留意事項「区立保育園で働くにあたって」が掲示されているほか、全職員に「保育所保育指針」が配布されており、公務員倫理や関係法令の規定がいつでも確認できるようになっている。また、園内に第三者評価事業報告書を常備したり、地域版の園だよりを発行し積極的に配布するなど、開かれた組織となるよう取り組んでおり、職員の自己評価も高い。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受け付け各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と現場の実習を行う、という役割分担となっている。園では、年間1～2名の実習生を受け入れており、オリエンテーション時に園のしおりやお散歩マップ、指導計画を配布して説明を行うとともに、実習生の意向を確認してできるだけ希望に沿うように対応している。ボランティアについては、区のボランティアセンターを経由して今年度3名を受け入れているほか、地域の中学生約15名の体験保育を実施したり、夏季には幼稚園教諭の協力依頼にも応じている。		
③	地域との交流・連携については、小学校区を中心とした子育てネットワークに参画し、離乳食の作り方の指導や赤ちゃんとの買い物体験などを行う「赤ちゃん事業」や子育てシンポジウムの企画・運営に協力している。赤ちゃん事業では、主査が小学生に対するおむつ替えの体験授業の講師を担当するなど積極的に活動しており、今後、他の職員も交代で参画できるよう体制を整えていきたいと考えている。また、月1回、「子育てあんずっ子 愛・会い」を開催して、園庭・ホールの開放や身体計測、育児相談を行い、地域の親子との交流、子育て支援に努めている。		

3	カテゴリ3		
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
サブカテゴリ1			
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>			

<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名、面談日を記載したポスターを掲示して、利用者に周知を行っている。	
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談等の機会を活用して把握しているほか、園内に意見箱を設置したり、クラスだよりに切り取って返信できるアンケートをつけるなど、汲み上げる工夫を行っている。利用者の声に対しては、早急に園だよりや貼り紙で応えるようにしており、園の入り口に外灯を設置したり、子どもが事務室のドアに手を挟まないように緩衝材を取り付けるなど、サービスの改善・向上につなげている。	
③	地域の福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。これらを園として独自に分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( <b>B</b> )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】			<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度ごとに各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを年度ごとに評価・見直しする制度が定着している。園では、今年度のチャレンジプランが前年度と同内容であり、新しい様式が活用されていないことが惜しまれる。
②	園では、「年間行事計画及び係分担表」、「職員会議月当番表」、年度の「園運営及び保育に関わる確認事項」が作成されているほか、保育に関する年間の指導計画、月間の指導計画、週ごとのカリキュラムが作成されている。行事については、行事計画書で詳細を企画し、実施後に反省を行っており、業務や係活動、指導計画等についても、月単位、期単位、年間での反省と課題の検討が行われている。各種の予定表を集約するとともに、園の組織目標やチャレンジプラン等を体系的に整理して、より実行性の高い事業計画として取りまとめていると良いだろう。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、地震・火災・不審者等の災害・緊急時の避難訓練や防犯訓練が実施されている。消防署や警察署に依頼して、職員の災害時の動きや子どもの自己防衛策等についての指導も受けている。また、事故が発生した場合は、その経緯や内容を「事故報告書」に記載するとともに、職員全体に周知して改善策を話し合う、再発防止に向けた仕組みも機能している。今後、防犯訓練のプロジェクトを立ち上げ、子どもを交えた訓練の実施を検討していく意向である。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員については配置基準に応じた区での採用、非常勤職員については各園での面接となっている。園長は、園全体の人材構成を踏まえた実質的な人事権は有していないといえる。クラス担任については、毎年度末、職員から希望をとり、乳児・幼児クラス間のバランスを考慮した上で園長・主査が立案し、職員にも検討してもらった上で決定するようしており、職員への透明性が高い。係分担についても、各職員の希望を重視し、業務負担が偏らないように調整した上で決定している。
②	職員の研修については、職層別の研修実施計画が作成されており、区の能力開発実施計画概要が職員に配布されている。園では、研修案内の都度、園長が各自の希望を確認したり、不足している分野の受講を促すようにしているものの、個人別の研修計画までは作成されていない。来年度より、個人別のチャレンジプランの作成が必須となるようであるが、職員一人ひとりが自らのキャリアプランを描くことができ、それに向かってどのような能力・研修が必要となるのかが明確になる仕組みとしていくことが望まれる。
③	研修受講後は、職員に研修レポートの作成が義務付けられ、各自が自己評価を行って園長が確認する形式がとられている。また、職員会議の中で研修報告を行ったり、研修報告書を回覧するなど、研修に参加した職員だけではなく、全体で成果を共有する取り組みを行っている点は評価できる。研修報告が必ずしも予定通り行なわれていない点に関しては、報告時間を確保する工夫を行い、改善していくことが望まれる。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
○あり ●なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理する文書は、フォルダを用いて事務室のファイリングキャビネットで管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理され、きちんとタイトル付けもなされている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加され、更新も行われている。訪問調査の際の関係書類の検索、提示も早く、適切な管理が行われている様子がうかがわれた。
②	個人情報保護の制度については、区の個人情報保護条例や関連規則により、保護の方法や本人に開示する際の手続き等が詳細に定められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。児童票などの個人情報・機密情報を含む文書については、施錠できる場所に厳重に保管されており、電子データの場合も、PCに個人別のID・パスワードが設定され、職位別にアクセス管理が徹底されている。実習生やボランティアへの個人情報保護に関する説明は、口頭に止まっており、今後、配布資料等を作成することが望まれる。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、入園の面談時や園児引渡しカード作成時に、緊急連絡の際に使用すること等が部分的に伝えられているものの、文書での明示は行われていないのが現状である。区での入園申込み時よりも、園においても、利用者に具体的な利用目的を明示するとともに、区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みが必要であると思われる。職員に対する個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	・区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着してきている。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
・地域交流事業「子育てあんずっ子 愛・会い」の企画・運営を各クラスの保育士が担当している。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
・日々の保育の様子を分かりやすく保護者に伝えるために、お知らせスペースを拡大し、行事や子どもの写真の掲示を積極的に進めたり、お散歩マップを充実させるなどの工夫を行った。掲示する写真については、デジタルカメラで撮影し、すぐに園のカラープリンターで印刷し、リアルタイムで提供することに努めている。 ・地域交流事業「子育てあんずっ子 愛・会い」について、子ども達の遊べる時間を多く取るようにした。 ・延長スポット保育制度を導入し、利用者も増加している。 ・防犯と個人情報保護のため、事務室のドアや小窓など全てに鍵を取り付けるとともに、新たに警備会社を導入した。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
<p>・区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。</p>	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
<p>・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」</p>	
改善の成果	
<p>・利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談の機会等を活用して把握しており、例えば、園内に意見箱を設置したり、園の入り口に外灯を設置するなど、サービスの改善・向上につなげている。</p>	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着してきている。
②	日々の保育の様子を分かりやすく保護者に伝えるとともに、お知らせスペースを拡大し、行事や子どもの写真の掲示を積極的に進めたり、お散歩マップを充実させるなどの工夫を行った。掲示する写真については、デジタルカメラで撮影し、すぐに園のカラープリンターで印刷して、リアルタイムで提供することに努めている。
③	利用者からの意見、要望、苦情等については、日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談等の機会を活用して把握しているほか、園内に意見箱を設置したり、クラスだよりに切り取って返信できるアンケートをつけるなど、汲み上げる工夫を行っている。利用者の声に対しては、早急に園だよりや貼り紙で応えるようにしており、園の入り口に外灯を設置したり、子どもが事務室のドアに手を挟まないように緩衝材を取り付けるなど、サービスの改善・向上につなげている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の保育目標やサービス内容などの基本的な情報は、区で統一されたホームページに掲載されている。公立園で統一的使用している保育園案内は外国語(英語・韓国語・中国語)、献立表は子どもが読めるようにひらがなの表記も用意しており、保護者の状況にあわせた情報提供に努めている。園では、園だよりやクラスだよりの作成にあたっては、保護者の立場に立った表記、ということを重要視している。	
②	地域で子育てをしている親子を対象にした活動のポスターを、近隣の児童館や図書館、保健センターに掲示するなど、地域に開かれた園づくりのための情報発信を積極的に行っている。園だよりは、毎月、保護者向けのものとは別に、個人情報に配慮し、行事情報を差し替えた「地域版」も発行して、広く配布を行っている。	
③	利用者の都合を最優先に考え、いつでも見学希望者を受け入れられる体制を整えている。園長・主査が中心となって対応し、施設案内や園での生活体験などは、見学者の状況や要望に合わせてきめ細かく対応している。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会は、園長、主査、看護師が分担・協力して対応しており、区の資料のほかに園で作成している「入園のしおり」、「お散歩マニュアル」を配布して、効果的な説明に努めている。利用者アンケートでは、回答者の9割ほどが「入園前の情報提供は十分だった」、「入園説明や見学で預ける不安が軽減した」、「入園説明会によって準備品が理解できた」と回答しており、園のきめ細かい対応を裏付ける結果といえる。
②	摂食や睡眠の状況が、子どもの不安やストレスの度合いを測る目安となるため、3～4日の慣らし保育の実施を勧めている。保護者の状況によって十分な期間が取れない場合もあるが、担当保育士が柔軟に対応している。 子どもや保護者の不安を軽減するために、家庭に近い環境での保育を心がけ、慣れるまでは保育士が1対1で対応したり、できる限り小さい集団で過ごしたりするようにしている。入園直後は特に園全体での確認や連絡を密に行い、情報を共有化することに力を入れている。
③	区で統一された「児童票」及び「家庭連絡票」に則り、入園前の生活リズムをはじめとする子どもの様子のほか、必要に応じて家庭の状況を把握している。入園後も子どもの発達や保護者の意向などを時系列に記録し、園が大事に考えている子どもや保護者の個別対応のために活用している。 子どもが途中で転園する場合には、支援の継続性に配慮し、退園後も相談に応じる意向はあるが、今後、どのように案内し、どこまで対応していくかを明らかにしていくことが望まれる。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	園の生活の基本となる指導計画は、年間・月間・週という単位で作成されている。内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか、保護者会や個人面談等で把握した保護者からの意見や要望も取り入れながら作成されている。指導計画の内容や策定経緯について、常勤の職員間での情報共有は徹底されているが、非常勤職員には開示されておらず、今後、非常勤職員の理解が進むような取り組みにも期待したい。		
②	保護者に対して年度のはじめに、年齢(月齢)に応じてできる発達の目安とあわせて計画の内容を伝えている。各種おたよりの中でも計画内容にふれるなど、子どもの心身の育ちに関して保護者と認識の共有化を図る取り組みがみられる。今後、指導計画そのものを保護者に開示し、同意を得る仕組みの検討が望まれる。		
③	子どもの変化をはじめ緊急性の高い情報については、職員全体の共有の徹底を大切に考えている。申し送りや引継ぎのため、毎日の打合せの中で報告が行われているほか、体制表や朝保育・夕保育・延長保育日誌が設置され活用されている。非常勤の職員に対しても、ホワイトボードやカレンダー、各クラス担任の個別指導を通じて必ず連絡が伝わるようにしている。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり ●なし</span>	
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、気になる子などの情報についても、まず保護者と話し合いをもち、承諾を得た上で他機関との橋渡しを行うよう心がけている。
②	周囲はマンション・住宅に囲まれている環境にあることから、プール遊びの際は、子ども達にバスタオルで隠して移動する事を指導しており、着替えも必ず園舎内で行うようにしている。 また、トイレに失敗したときには目立たないように声をかけ、他の子どもがいない場所で着替えるようにしており、子どもの言葉遣いについても注意を払うなど、子どもの羞恥心やプライバシー保護に対して十分配慮している様子がうかがえる。
③	子どもの名前を呼び捨てにしないこと、相手が分かるように伝えること、それぞれの家庭の方針を受け止めることを職員全体に周知しており、園だよりでは子どもをすべて「さん」づけで表記することを徹底している。日常の保育の中で気になった言動は、園長から都度職員に伝えるようにしているが、利用者アンケートでは、職員の言動に対する不満の意見が複数寄せられている。非常勤職員も含めた職員全体で接遇・マナーを再確認する機会を定期的に設定していくことが望まれる。

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	区では、公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、感染症やアレルギー、与薬、事件・事故等についての基本的な対応手順をまとめている。園では、年度の会議や保育、家庭連絡、衛生管理等のポイントを簡潔にまとめた『園運営及び保育に関わる確認事項』や、調理や用務、朝夕・延長・土曜日の仕事の流れ等派遣職員や非常勤職員のためのマニュアル、お散歩マニュアルを作成している。お散歩マニュアルには、切り取って子どもに渡す読み物や職員の名札の裏に入れておくための資料をつけるなど随所に工夫がみられる。	
②	園のマニュアルが全てまとめられたマニュアル集は事務室に設置され、日常的に参照できる状態になっており、職員会議での周知、保育日誌やクラスノートの活用も行われている。また、非常勤職員に対して、仕事内容をきちんと書面でも伝えるなど、職員業務の一定水準を確保できるような取り組みがみられる。利用者アンケートでは、「職員による対応のばらつきは少ない」との回答は約7割と比較的高いと考えられるが、さらに、マニュアルの活用と見直しを積極的に実施していくことに期待したい。	
③	玄関前への図書コーナーの設置、職員の紹介写真の掲示、お散歩マップの作成・掲示など、職員の発案を取り入れて改善や工夫を行った事例が多い一方、職員アンケートでは、職員間の意思の疎通が十分ではない点や相談しにくい環境を指摘する意見が複数見られる。会議や日々の打ち合わせにおいて、参加する全職員が自由に意見交換しやすい雰囲気づくりや、効果的な資料の提示方法などの工夫を行うとともに、異動してきた職員に対するサポート体制についても見直ししていくことが望まれる。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	児童の発達や家庭での生活状況については、保護者との面談・連絡帳のやりとり・登降園時のコミュニケーションなどにより把握し、把握した情報は、保育計画に反映させるとともに、園全体での共有に努めている。園では、子どもが園にいる時間だけでなく、家庭での生活も支援したいと考えており、基本的な生活習慣を身に付けることができるよう保護者への働きかけも積極的に行っている。		
②	園内活動として、異年齢児交流をはじめ、草花の栽培、リズム遊び、お店屋さんごっこなど、子どもの発達を促す活動が取り入れられている。園外活動では、遠足や芋ほりといった季節ごとの行事の開催のほか、クリーン大作戦など社会的な活動にも参加し、子どもたちの多様な体験の機会を提供している。幼児クラス全員がホールに集まって行うリズム遊びは、にぎやかに過ごす時間や、難しいポーズができるようになる喜びを、子どもと職員が共有できる優れた活動で、さらに毎日行っていることも特筆すべき点といえる。		
③	園での生活にあたって特に配慮や補助が必要と認められる子どもには、非常勤職員の配置が加えられ、個別に指導計画を立案・作成している。また、保育士は区の発達センターを通して臨床心理士等の専門家から特別な保育指導を受ける機会も用意されているなど、区として、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えている。		

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( <b>A+</b> )
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当	
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当	
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">●あり ○なし</span>			
サツマイモやプチトマト、ピーマン、枝豆などの野菜やあんず、夏みかんなどの果実を栽培し、収穫するとともに、食物の調理補助(玉ねぎの皮むきや鞘むき等)や実際の調理(サツマイモを焼く等)を行うことにより、食べることの喜びやそれまでの苦労を体験させ、その大切さについて学ぶ機会を提供している。特に野菜などの子どもの苦手な食物の克服にも一役買っている点は評価できる。			
評価項目2の講評(一つ以上)			
①	献立は区で統一の半月サイクルのメニューとなっており、調理員による食事量や園児の嗜好のチェックが行われている。栄養士が巡回する際は食育教材を使用して、子どもの食への興味や関心を促す取り組みも行っている。		
②	快適に食事ができる環境としては、季節に応じた飾り付けを行っているほか、昼食時に自由にクラスを行き来できる日を設けたり、幼児全体でホールでバイキング形式の会食を実施するなど、変化を持たせている。		
③	アレルギーの配慮が必要な子どもについては、毎月、園と保護者が一緒になって除去する食材等の確認を行い、除去食、代替食で対応している。提供する際はトレイや名札の徹底により、間違いのないようにしている。また、月齢による一律の提供ではなく、きざみや軟飯など、入園前の喫食状況に配慮した食事の提供を行っている。		

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、看護師の毎日の視診・巡回のほか、園医による年2回の健診をはじめ、耳鼻科・歯科など各診療科の年1回の健診により行っている。身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者に報告している。また、0歳児に対しては、毎週、園医による巡視も行われている。		
②	SIDS対策としては、乳児に対して午睡の状態を10～15分ごとにチェックし、午睡チェック表に記録しているほか、呼吸状態を把握するため毛布を使用している。また、感染症に対しては、感染症対策マニュアルを活用し、毎月のノロウイルス対策のチェック、日ごろの手洗い・うがいの徹底等はもちろんのこと、看護師の指導により、使い捨ての手袋・エプロン等での嘔吐物や下痢の処理を徹底している。与薬については、園の与薬方法を保護者に伝えており、与薬が必要な場合は申込書の提出、確認票により管理を行う仕組みが確立している。		
③	看護師が中心となって、日常的に保護者からの子どもの健康に関する相談に応じている。また、保健分野に関する保護者への情報提供については、月1回、看護師が作成・発行する保健だよりを通じて行うとともに、感染症の発症が気になる時期には、園内の掲示を通じて、保護者へもその予防方法のお知らせとともに注意を促している。また、紙芝居や絵本、小道具、塗り絵などを取り入れた健康教育に取り組んでおり、看護師から子ども達に体の不思議さや命の大切さを伝えている。		



4	<b>評価項目4</b> 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評(一つ以上)			
①	園での行事については、年間行事予定表を年度初めに作成し、季節の行事などが計画的に行われるよう企画されている。いも掘り、焼きいも会などのほか、父母の会主催のお楽しみ会や、毎年、職員が寸劇や合唱・合奏、手品などを披露する「あんずの会」が開催され、子ども達とともに地域の方々も楽しめる催しとなっている。“豊かな心を持つ”という園目標達成のためにも、園での食事・睡眠・運動は楽しさを伴うような工夫を心がけており、アンケートでも9割に近い回答者が「降園時に子どもの表情は良いことが多い」と感じている。		
②	保育室内は、子どもが遊びに集中できるコーナーづくりや、いつでも休息できる空間づくりに工夫して取り組んでおり、設置する積み木などのおもちゃや絵本は子どもの年齢や発達状況に応じて選定されている。使用済みの牛乳パックを使った手作りの仕切りや、どんぐりやまつぼっくりなどを使った手作りの遊具は、職員が話し合っ、季節ごとに設定を変えるなど、飽きないコーナーづくりが進められている。		
③	午睡については場所を固定し、落ち着いた眠りの確保と感染症の予防に努めている。眠りのリズムが他の子と異なったり、入眠のくせがある場合は、環境設定や場所の確保等についてできるだけきめ細かく対応しており、特に、乳児クラスは、個々のリズムを崩さないように注意を払うとともに、幼児クラスにおいては、体調等に配慮しながら横になる時間を確保できるようにしている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者の保育参加・参観は、いつでも可能であることを知らせ、常時受け付けている。園だよりやクラスだよりの中で園の生活の様子を紹介するほか、毎日の出来事について園内に写真を掲示し、降園の際に見てもらえるようにするなど、リアルタイムに分かりやすく情報提供を行うことに努めている。利用者アンケートでは、9割近い回答者が「園だより等で保育状況を知ることができる」と答えており、内容や伝え方は概ね満足されている様子がうかがえる。		
②	全園児が参加する大きな行事は土曜日に実施したり、運動会などは小学校と重ならないようにするなど、開催日程について保護者の意向に配慮している様子がうかがえる。しかしながら、利用者アンケートでは、本項目に関する満足度が6割に止まることから、その原因を把握し、納得しやすい調整や経過説明を行うなど、満足度向上のための取り組みが望まれる。		
③	区では1日単位で延長保育の利用ができるスポット保育を導入するなど、保護者の事情にあわせた対応を進めている。限られた延長保育の枠を有効に使う取り組みとして評価できるが、各園の事務負担は大きく、今後の負担軽減策等の検討が期待される。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策が行われている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所、子ども家庭支援センターなどの関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	年度始めの保護者会では、年齢にあった発達・育児の目安などについて保護者と共通認識を得るようにしている。保護者のライフスタイルや価値観に配慮しながらも、乳幼児にとって望ましい生活のリズムについて保護者の理解と実践を求め続けている点は評価できる。		
③	職員は、区の実務研修や勉強会への参加により、軽度発達障害や育児困難家庭に対する理解を深め、子ども及び保護者の支援方法のスキルアップに努めている。また、習得した知識や技術は、報告会を開催し職員間で共有することにより、組織としての対応能力の底上げを図っている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	地域の人が参加できる行事には、夏祭りや運動会、職員主催のお楽しみ会「あんずの会」があり、これらについてはチラシの配布やポスターの掲示などで広く地域にお知らせしている。地域の行事・イベントに関する情報や区の子育て支援サイトなどについても、随時園内への掲示やパンフレットの配布を通じて提供している。
②	行事にはボランティアや体験保育の学生も積極的に受け入れているほか、紙飛行機を教えてくれるボランティアの来園、職場体験等の地域の学生の受け入れなどを通じて、子ども達は地域の方々とふれあい、交流している。
③	地域交流については、前述のように行われているものの、利用者アンケートでは、この点に関する保護者の理解が約7割を占めるに止まっており、他の項目に比べてやや低い結果となっている。地域交流のより一層の発展のために、保護者の理解を深める取り組み・工夫が望まれる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者への情報提供の充実
	内容	日々の保育の様子を分かりやすく保護者に伝えるために、お知らせの掲示スペースを拡大し、園の事業案内をパネル展示したり、行事や子どもの写真を積極的に掲示している。「お散歩マップ」では、複数の散歩コースを表示し、子ども達が今どこに散歩に行っているかが分かるように工夫を行ったり、写真については、デジタルカメラで撮影し、すぐに園のカラープリンターで印刷するなど、タイムリーな提供にも努めている。利用者アンケートでは、回答者の9割が「園だより等で保育状況を知り得る」とし、園の取り組みが成果を上げている様子がうかがえる。
2	タイトル	子どもの感性や発達を促す様々な活動や雰囲気
	内容	施設内には、子ども達の作品をはじめ、ぬいぐるみや人形の展示など温かい雰囲気がつくり出されている。1階には各クラスの部屋とは別にホールが確保され、子ども達はリズム遊びやお店屋さんごっこなど、のびのびと遊びを展開することができる。幼児クラス全員がホールに毎日集まって行うリズム遊びは、にぎやかに過ごす時間や難しいポーズができるようになる喜びを子どもと職員が共有できる優れた活動といえる。このような「豊かな感性を育む活動や遊び」は、保護者にも肯定的に受け止められていることがアンケート結果からもうかがえる。
3	タイトル	保護者意向の把握とサービス改善への取り組み
	内容	日々の保護者との会話や連絡帳、個人面談等の機会を活用して保護者の意見、要望、苦情を把握しているほか、園内に意見箱を設置したり、クラスだよりに切り取って返信できるアンケートをつけるなど、その意向を汲み上げる工夫を行っている。利用者の声に対しては、早急に園だよりや貼り紙で応えるようにしており、外部の送迎路の電柱や園の入り口に外灯を設置したり、子どもが事務室のドアに手を挟まないように緩衝材を取り付けるなど、実際のサービスの改善・向上につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	組織目標とチャレンジプラン策定への取り組み
	内容	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する評価を行い、次年度の目標設定へつなげるという課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。しかし、園では、17年度のプラン内容が本年度も継続され、本年度から導入された現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を記載する新たな書式が有効に活用されていない。新しい様式は、園の方向性を明確にし、達成状況がわかりやすいように設計されていることを考慮して、今後有効に活用することが望まれる。
2	タイトル	地域交流・連携の推進と職員の育成
	内容	子育てネットワークの「赤ちゃん事業」では、小学生に対するおむつ替えの体験授業の講師を担当するなど積極的に活動しており、月1回の地域交流事業「子育てあんずっ子 愛・会い」では、園庭・ホールの開放や身体計測、育児相談を行い、地域の親子の子育て支援に努めている。これらの活動を継続・発展させるためには、継続的な職員の育成や、個々の能力の一層の活用が必要といえる。各クラスの保育士が主体的に企画・運営を担当する取り組みを継続するとともに、全職員が交代で様々な対外活動に参画できるような体制を整えていくことに期待したい。
3	タイトル	業務に関するマニュアルや記録の整理・活用
	内容	園で管理する文書は、フォルダを用いて事務室のファイリングキャビネットで管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理され、きちんとタイトル付けもなされている。マニュアルや関係記録は適切に作成・管理されているものの、日常的に閲覧し、必要な情報を得るための整理や集約は充分ではないように思われる。職員会議録や研修レポート、申し送り・連絡ノート、苦情・相談対応の記録などの有用な情報について、過去の業務を振り返るとともに、必要な情報を抽出し活用していくことができるような記述と整理の工夫が望まれる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	111	
調査対象者数(人)	82	
有効回答数(人)	60	
回収率	73.2	

### 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は回答者全体の9割を超える結果となった(総合的な評価で「どちらかといえば満足」以上の回答者の合計が91.6%)。個別にみると、「1.登園時の子どもの様子の把握・確認」をはじめ、「5.担当保育士が子どもの良い所や個性を認めている」、「12.日々の子どもの様子や気持を知ることができる」、「16.生活環境が落ち着いた雰囲気」、ことへの肯定的回答は9割を超えており、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「19.不満やトラブルへ対応」、「20.要望・意見に応じた改善」が適切に行われている及び「園運営の基本的な考え方を知っている」とする回答は6割弱にとどまるとともに、自由記述においても、職員対応などへの多様な要望がみられる。また、園において取り組んでいる地域との交流・連携についても他の項目に比し、十分理解が得られているとはいえない。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

### アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	55	91.7	3	5.0	1	1.7	1	1.7
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	49	81.7	8	13.3	3	5.0	0	0.0
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	41	68.3	16	26.7	3	5.0	0	0.0
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	49	84.5	8	13.8	1	1.7	0	0.0
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	55	91.7	4	6.7	1	1.7	0	0.0
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	40	66.7	13	21.7	5	8.3	2	3.3

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	50	83.3	6	10.0	2	3.3	2	3.3
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	52	86.7	8	13.3	0	0.0	0	0.0
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	43	71.7	10	16.7	4	6.7	3	5.0
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	47	78.3	8	13.3	2	3.3	3	5.0
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	47	78.3	8	13.3	2	3.3	3	5.0
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	55	91.7	5	8.3	0	0.0	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	48	80.0	8	13.3	2	3.3	2	3.3
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	45	75.0	8	13.3	6	10.0	1	1.7
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	42	70.0	16	26.7	2	3.3	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	55	91.7	3	5.0	2	3.3	0	0.0
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	47	78.3	10	16.7	2	3.3	1	1.7
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	37	61.7	18	30.0	4	6.7	1	1.7
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	33	55.0	20	33.3	4	6.7	3	5.0
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	34	56.7	23	38.3	2	3.3	1	1.7

#

《事業所名：14 高円寺東保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	33	55.0	15	25.0	10	16.7	2	3.3
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	31	93.9	2	6.1	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	30	90.9	2	6.1	1	3.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	37	61.7	17	28.3	5	8.3	1	1.7



I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

<p>評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している</p>		<p>評点( A )</p>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	<p>保育目標は園内に掲示されているとともに、各クラスに準備されている業務マニュアル集の先頭ページへの掲載、そして、指導計画の様式にもこの保育目標について書き込む欄が用意されており、様々な場面で保育目標を職員が目にする事によって、その理解及び浸透を図ろうとする姿勢が伺えた。しかし、利用者アンケートによると利用者の保育目標に対する周知率は5割程度と他のアンケート項目に比し、その割合があまり高くないことから、今後は利用者に向けた周知方法の工夫が望まれる。</p>	
②	<p>園内における役割分担は、業務分担を示す表により明確になっている。しかしながら、園長・主査が果たすべき役割や責任を實踐しているということに関しては、考え方や意思を職員に伝えているものの、口頭での伝達に止まっていることから、職員がその実践について、十分理解できていないことも考えられる。今後は、口頭だけではなく書面により記録として残すことが望まれる。</p>	
③	<p>園で行われる会議については、事前に議題が提示され、一定の考える時間を設けてから実際の会議に臨むという段取りが定着している。また、3歳児の遠足の方法を変更する際は、その内容や決定経緯について、3歳児の保護者だけではなく、全てのクラスの保護者に対して伝えるなど、保護者に対する重要案件の伝達については、必要に応じて行われている。</p>	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			<b>評点( A )</b>
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされている。園においては、その際の対応方法等について取りまとめた独自のマニュアルが整備されており、毎年受け入れている実習生への対応の標準化と準備が整っている。		
②	ボランティアの受入れは杉並ボランティア活動推進センターを経由して行っており、その対応についても標準化(マニュアルの整備)と準備が整っている。また、ボランティア以外にも、地域の中高生の体験学習を受け入れており、次代を担う世代に保育や職場を体験する機会を積極的に提供している点が評価できる。		
③	地域の関係機関との交流・連携については、小学校区を中心としたネットワークが構築されており、専門知識を生かしたイベント(おもちゃで遊ぼう会等)の開催や小学校訪問などの交流などが行われている。さらに、区内で流行した感染症に対して、連携してその沈静化を図るなど、地域ネットワークを有効に活用し課題を解決する体制が整っており、非常に評価できる。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
<b>サブカテゴリ1</b>		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
【A+の取り組み】		
○あり ●なし		
カテゴリ3の講評(一つ以上)		
①	苦情の受付については、園で日ごろから行っている口頭や連絡ノートを活用する方法と区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」を使う方法の2系統が用意されている。	
②	利用者意向の把握・分析については、口頭や連絡ノートによる日常的な意向把握のほか父母会を通じ寄せられたものを通じて行い、そのつど対応しているが、組織としてこれらの記録を活用できるよう整理、分析するには至っていない。利用者アンケートの結果からも「要望・意見をもとにした改善」に対する評価が、他の項目に比して理解が十分得られているとはいえないことから、今後この項目に関する検討が望まれる。	
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際をはじめ行政評価に関する区民アンケート調査などを通して行っている。園の主体的な取り組みには至っていないが、調査結果を園として分析し、運営に活用して行くことが望まれる。	

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
		評点( A )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"> <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし                 </span>		
サブカテゴリ2		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
		評点( A )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"> <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし                 </span>		

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」を策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、園では毎年職員からの意見や提案を反映した年間の「指導計画」を作成するとともに、子ども一人ひとりの状況を勘案しながら計画的な保育が実施できるよう、月間の指導計画や週ごとのカリキュラム作成が行われている。
②	区では行政改革の一環として、接遇をはじめとして各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っており、年度毎に各部署(園)及び各職員において目標を掲げ、それが実現できたか否かを評価する制度が定着している。
③	子どもの安全確保については、区においてその対応方法を『危機管理マニュアル』としてまとめている。そして、地震・火災・不審者等の災害、緊急時の訓練を関係機関との連携のもと実施されているほか、起震車を手配し、実際に地震を体験するなどの子どもたちがより興味を持てるような工夫も行われており、評価できる。また、事故が発生した場合は、その経緯や内容を「事故報告書」に記載するとともに、すぐに職員会議での議題として取り上げるなど、再発防止に向けた取り組みがなされている。

5	カテゴリ5
職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

<b>サブカテゴリ2</b>		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	職員の業務分担や目指す能力向上の意向については、園長が個別ヒアリングを行い把握している。そして、採用以来これまでに参加した研修が記録されている「研修歴カード」を用いて参加状況の確認を行い、職員の参加意向及び現在園において任されているポジションと合わせ、必要と思われる研修を勧めるなど、研修に出やすい時間的・人的配慮が為されている。今後は、職員ごとに自らのキャリアプランが描け、かつ、それに向かってどのような能力が必要となるのかについて明示されるような取り組みが行われることが期待される。
②	園独自の取り組みとして、チューター制度が導入されており、園長・主査以外で指導的な役割を果たすべき職員が「チューター」として明確化されている。今年度は、このチューターを中心として、園内での情報共有という課題に取り組み、一定の成果をあげている。
③	研修に参加した職員は、その研修後に職員会議での研修レポートの発表が行われている。、研修に参加した職員だけではなく職員全体への波及効果が期待できる取り組みとして評価できる。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で保持する情報の大半は、「紙」の文書であるが、それぞれの文書はフォルダを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づき、整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時フォルダに追加されるなど、更新も行われており、適正な管理が行われていることが評価できる。
②	個人情報の利用目的の明示(文書による確認)については、入園申し込み時の書類など一部の情報に限られているのが現状であり、利用目的についての説明が口頭で行われているものも多い。今後は、これらの説明等について、文書化し、目に見える記録として管理することが求められる。
③	個人情報の保護制度に関しては、区の個人情報保護条例や条例の関連規則により、個人情報保護の方法や個人情報を本人に開示する際の手続きなどが詳細に決められており、区のホームページなどを通じて一般区民に対しても明示されている。また、園においても児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理がなされているとともに、職員についても個人情報保護制度に関する研修を全員が受けるなど、個人情報保護に対する組織的な対応が図られている。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
チューターを中心として、日ごろの記録のとり方や文章表現の方法などについて、読みあわせを通じた気づきや個別の表現内容について検討してきたことが、本年度の成果として評価できる。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
「めざせ五つ星の区役所」運動で平成18年度の目標として掲げた「専門職として互いに高めあおう!」を達成するにあたり、園で行われる毎日のミーティング時間を朝から昼に変更することによって、職員間の情報の周知や共有の状況が改善されるとともに、職員会議でより掘り下げた保育内容等を討議することが可能となった。これによって、会議の際に様々な意見が出されるようになり、議論が活発となったことが評価できる。		



サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
利用者の苦情に対する対応として、本年度は感染症などの対策において、園だけではなく保育課や地域の関係機関と連携して取り組むとともに、利用者への対応として、状況の把握・説明・取り組み状況の報告などを行うことにより、対応の改善を図ることができたことが評価される。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。また、昨年度から現状の課題や問題点、年間の取り組み目標、達成目標を明確化しやすい様式を取り入れ、園として行うべき点が明確になった。
②	地域との交流・連携は、以前からの取り組みが結実したことが大変評価できる。特に、小学校との交流の促進(学芸会への参加や小学校2年生との交流等)と地域課題の解決に向けた連携(感染症対策等)が成功したという事例は、地域共通の「成功体験」という財産として位置づけられ、今後同種の取り組みを行う際の推進力としての効果が期待される。
③	職員間での情報の共有について、会議時間の変更や討議内容の変更、議論の活発化、記録のとり方の工夫などを通じ、改善されたことが確認できる。しかしながら、これらに対する取り組みは現段階でやっとスタートを切った状態であることから、今後も引き続き改善に取り組む、保護者や子どもの満足度の向上という大きな成果として結実するよう、努力していくことが望まれる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	園の情報は、区で作成しているしおり及び園紹介のホームページによって、紙媒体と電子媒体の両面から発信されている。また、区で統一して作成した外国語(英語・韓国語・中国語)による案内も園に備え付けてあり、必要なときにすぐに利用できるようになっている。	
②	園紹介のホームページについては、定期的に園の情報を更新する仕組みとなっている。児童館など地域の関係機関には、配布用の園のしおりの設置や行事の案内のポスターの掲示を依頼するなど、地域の住民に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	園の見学については、見学者の要望に沿う形で行われるよう、最大限の配慮がなされている。見学に関する問合せ時に希望日に沿う形で二つ調整することはもちろんのこと、直接園に見学者が来た場合についても基本的に見学を受け付けるなど、柔軟に対応することが心がけられている。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園申込みの際の資料には、受け入れ時間や園での生活における基本的なルールをはじめ、入退園の条件、保育料のほかに、希望するサービスが受けられない(例えば、入園できるが延長保育は利用できない等)場合の対応方法などが示されている。また、入園内定後には、園長との個人面談によって、子どもの状況、保護者の意向確認などが行われる。面談結果については児童票等に記載され、子どもの状況を把握するため重要書類として活用される。
②	入園する子どもの保護者全員を対象とした入園説明会を行っており、園の保育に対する基本的な考え方(理念・方針)や園の基本的なルールなどは「入園のしおり」や園で作成した配布資料を使って説明している。また、入園までに各家庭で用意すべきもの(布団カバーなど)など、口頭や文章のみでは理解しづらいものについては、寸法や作成方法などを絵を使って図解するなどの工夫がみられる。
③	入園直後の子どもの不安を取り除くための「ならし保育」を大切に考え、入園申込書にも誰が行うのかを記載する欄が用意されている。園においては、一人ひとりの子どもの状況(年齢や集団への適応・保育士への適応等)に応じて必要な期間を見定めるとともに、特に低年齢児については、食事や睡眠など、入園前の生活リズムを急にくずさない配慮がなされている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、共通の様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等が記録されている。この児童票に記録される情報は、日々の保育の中での子どもの発達状況・健康状況に応じて追加されるほか、保護者とのコミュニケーション(口頭・連絡帳等)を受けて、また、年に1回定期的な保護者面談や希望に応じて随時行われる個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	指導計画については、年度初めの時期に年間の指導計画を作成し、その年度の方針等を定めるほか、年間指導計画を月ごとに細分化した月間指導計画を月毎に作成し、さらに週ごとのカリキュラムを週案として取りまとめている。この指導計画の内容については、子どもの発達状況を踏まえるほか子どもや保護者からの要望も取り入れながら作成され、最終的に職員会議の中で検討・決定する。また、年間指導計画については、年度初めの保護者会の際に各クラスで口頭で説明されており、保護者からの理解を深める取り組みが行われている。		
③	子どもの情報に関しては、日々のミーティングやクラス会議などの会議を通じての確認のほか、クラスノート・連絡ノート等を通じた文書による確認が行われており、職員間の情報共有の仕組みができています。今後はチューターを中心として、さらに効果的な情報共有に向けた取り組みを継続的にいき、情報共有の徹底が図られることが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び子どもの情報について他機関から照会されたことに対して回答することは、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、園においてもこのようなケースが発生した際には、保護者の承諾を得なければ情報は出さないという確認が行われている。	
②	トイレや着替え、プールなどの際には、幼い心が傷つくことがないよう、トイレやシャワーにカーテンを設置したり、ついたてを使用するなどの配慮が行われている。	
③	チューターを中心とした会議の中で日誌の読み合わせを行うとともに、記録のとり方や表現方法などについて検討し、不適格な表現や記録として十分か否か等の検証が行われている。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



評価項目3		標準項目	
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)			
①	園のマニュアルがまとめられたマニュアル集は、各教室に1部ずつ配置されており、日常的に参照できるよう配慮されているとともに、特に重要度の高いマニュアルについては、当番ノート等の先頭ページに貼りつけるなど、場面場面において参照しやすいように工夫がなされている。		
②	園のマニュアルは、年間反省において検討され、必要に応じ見直されている。また、この年間反省を通じた見直しの際や新規マニュアルの作成の際には、必ず全職員が関わりを持ち、個々の職員が自分の意見を反映できる機会が与えられるよう配慮されている。このような機会を設けることは、職員が自らの行動を見つめ直し、成長を促すような効果が期待され、評価できる。		
③	職員をサポートする体制として、保育分野に関しては、園長・主査のほかチューターがおり、保健分野についても看護師のほか園医も職員の相談にのってくれるなど、体制が整えられている。また、多数の職員が集まる職員会議だけでなく、少人数で検討を行うグループ討議の場が設けられていることも相談・助言・指導が行いやすい環境を醸成しているものと推察される。		

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	園では、子どもの発達を促すため、園内活動では「まぜまぜ会食」などを通じた異年齢児交流や実習生・ボランティア・職場体験の学生との交流など普段とは少し違うことを行う活動が積極的に行われている。また、園外活動では、遠足や芋ほりといった特別な行事の開催、散歩や地域の催しへの参加等が行われ、子どもたちに様々な体験ができるような機会を提供している。		
②	子どもの自主性や自発性を大事に考えており、遊びに集中している際はできるだけ声かけをしないなどの配慮はもちろんのこと、手作り遊具の活用や小集団による保育の実践、緑化された屋上スペースの活用など、様々な配慮がなされており、評価できる。		
③	看護師を中心として、歯磨きや手洗い、また、人の体などについて学ぶ健康教育も年間計画に基づき年齢別に集中できる時間、グループ設定に配慮しつつ行われている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
保育士・栄養士・調理士・看護師が連携して食育に取り組んでおり、定期的に食をテーマとしたペアプサートなどを行うことを通じて、子どもたちに「食べること」について学び、考えるきっかけを与えている点が大変評価できる。 また、野菜や果実のなる木を栽培し、収穫するとともに、食物の調理補助(皮むき等)や実際の調理(サツマイモを焼く等)を行うことにより、食べることの喜びやそれまでの苦勞を体験させ、その大切さについて学ぶ機会を提供している。また、特に野菜などの子どもの苦手な食物の克服にも一役買っている点は評価できる。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	園の給食は、区共通のメニューに従って調理士が調理し、配食されるが、年4回のリクエスト会食時は、子どもが選んだメニューによる給食が出され、普段とは異なる雰囲気楽しんで食事ができるよう演出されている。また、栄養士は、子どもの喫食状況などを食事時のクラスを訪問することにより把握し、次回献立作成時の判断材料として情報の蓄積を行っている。	
②	アレルギーを持つ子どもに対しては、毎月1回保護者の献立チェックを行ってもらい、そのチェック結果に基づくアレルゲンを除去した給食が配食されている。また、アレルギー食の子どもへの食事はお盆にのせ、他とは違うことがわかるようにし、配膳の際にも間違えることがないよう、細心の注意が払われている。	
③	0歳児の食事については、一人ひとりの子どもの状況に応じ、食材の刻み方を変える等きめ細かな対応がなされているとともに、現在の状況と今後の予定を離乳食進度表により記録し把握することによって、調理士と保育士の間でのお互いに確認しあい、共通の認識を持てるような取り組みがなされている。	

3	<b>評価項目3</b> 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( <b>A</b> )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の記録については、その見やすさも含めた工夫が考えられている。例えば、毎月行われている身体測定の結果の記録はもとより、色々な書類に記録されている一人ひとりの子どもの健康記録を「個人カルテ」という形で集成し、子どもに何か健康上のトラブルがあった際にすぐにその子どもの様々な記録を確認できるよう、配慮されている。		
②	SIDS対策としては、乳児に対して午睡の状態を10～15分ごとにチェックし、午睡チェック表に記録している。また、感染症に対しては、日ごろの手洗いの徹底等はもちろんのこと、感染症の疑いがある子どもは、多目的室を利用した別保育を実施し、クラスに感染症が広がるリスクに配慮しており、本年度は感染症発生時においても休む子どもが全体の10%以下をキープできている点は評価できる。		
③	保健分野に関する保護者への情報提供については、月に1回発行される保健だよりを通じて行われるとともに、特に感染症を発症した子どもが園で発生した場合は、その感染症に対しての情報と注意を促す掲示を全てのクラスに行い、保護者への緊急の情報提供が図られている。また、健康に関する保護者からの相談に応じる体制についても園の看護師を中心として整備されており、月に3回程度訪問する園医も看護師のサポート役としても機能しており、大変評価できる。		

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
	◎あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当
	【A+の取り組み】	○あり ◎なし	
	評価項目4の講評(一つ以上)		
①	園での行事については、年間行事予定表を年度初めに作成し、季節の行事などが計画的に行われるよう企画されている。また、散歩や地域の催しへの参加などの園外活動についても積極的に行われているとともに防災対策の一環として起震車を呼ぶなど、様々なイベントで子どもたちが楽しみながら取り組めるような配慮が為されている。		
②	園では、子どもの自主性や自発性を大事に考えており、その前提としての環境づくりにも力を入れている。具体的には「環境グループ」という個別検討プロジェクトチームによる検討や、各クラスのコーナー設定に工夫を凝らすなどの取り組みが行われ、効果をあげている。		
③	お昼寝は、ホールが狭い等のハード的な制約があるものの、場所を2箇所に分散するなどして必要なスペースを確保している。また、給食の配膳時には布団を引きはじめ、食事後にすぐにお昼寝をしたい子どもの受け入れ態勢を整えるとともに、お昼寝をする場所(布団の位置)を固定することにより、子どもが安心し、落ち着いて睡眠がとることができるよう配慮されている。ただし、経営層では幼児のお昼寝に関して、より一層の細かい配慮が必要であるとの認識を持っており、今後の取り組みが期待される。		

評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
5	評価	標準項目
●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目5の講評(一つ以上)		
①	保護者に対しては、情報の鮮度や重要度、目的別にそれぞれ効果的な方法で提供されており、気がつきやすく、また、わかりやすい提供方法について配慮が為されている。具体的には、文書にした方がよい情報については、定期的かつ目的別に発行し、配付されるクラス・園・保健・延長保育等の「たより」で提供され、また、食事についてはその日の献立を展示食により紹介、さらに、園の門付近・事務所前・各クラスの入り口の掲示スペースでは園における毎日の活動や誕生日の子どもの紹介、感染症情報などが写真やホワイトボードなどを用いて紹介されている。	
②	保護者の事情に応じてお迎えの時間の変更などに柔軟に対応されており、評価できる。	
③	運動会は、土曜日開催を原則として近隣の学校等と日程が重ならないよう、配慮されている。また、保護者会なども保護者の意向やこれまでの実績を踏まえながら、夕方の時間帯に設定する等、保護者の参加しやすいような日程の設定が心がけられており、最大限の配慮がされている。	

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待に関しては、その防止や万が一発見されたときの対応などが、区全体として取り組まれており、評価できる。具体的には、関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが統一マニュアルとして整備されており、緊急時に行うべき手順や連絡先などが詳細に決められている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げがなされるよう取り組まれている。		
③	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識の醸成については、保護者会における年間指導計画の説明等を通じ行われている。しかし、経営層は、「これでは不十分である」と考えており、来年度以降の検討課題として認識している。今後のより積極的な取り組みに期待したい。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	【A+の取り組み】		○あり ●なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	保護者からの要望の高い地域のお医療機関に関する情報については、医療マップという形で予めわかりやすい情報提供に努めているとともに、地域の行事・イベントに関する情報は随時掲示物やパンフレットの配布を通じ行われている。また、区役所全般については#8800の情報提供サービスが行われており、このサービスの周知についても、のぼりや口頭でのお知らせを通じ行っている。
②	園では、実習生・ボランティア・職場体験の学生との交流が行われているとともに、お話の会やおもちゃで遊ぼう会などの行事に地域の方への門戸を開くなど、地域の方々に保育園へ来てもらう活動が行われ、さらに、小学校に出向いて学芸会へ参加するなど、保育園から地域へ子どもたちが出て行く行事についても取り組まれている。こういった取り組みは、「地域の中の保育園であり地域とともに発展する」という園の理念とも合致しており、大変評価できる。
③	地域交流については、前述のように積極的に行われているものの、利用者アンケートの結果については、この点に関する保護者の理解が約6割を占めるにとどまり、他の項目に比し低かった。地域交流のより一層の発展には、保護者の理解を得ることも重要であることから、今後は、保護者に対してより深い理解が得られるような工夫を行うことが望まれる。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どものニーズに沿った遊びを実現した安全性の向上
	内容	園では“子どものニーズに応えることを第一とする”という基本的な考え方を持っており、子どものニーズに沿って遊べるための環境改善を継続的に行ってきた。その結果、安全面において物理的に危険な箇所が減り、職員の側で注意すべき点も明確になったことから、より子どものニーズに沿った園庭遊び・運動遊び等を行うことが可能となった。この子どものニーズに沿った遊びの実現は、子どもの満足や自信を生み、その自信が意欲的に様々な活動を行うことにつながってくることも期待される非常に重要な取り組みであるといえ、大変評価できる。
2	タイトル	地域との交流・連携の促進 ～地域の中の保育園としての取り組み～
	内容	“地域の中の保育園であり、地域とともに発展する”という園の方針のもと、以前から行われていた地域との交流・連携に対する取り組みが、小学校との交流(学芸会への参加や小学校2年生との交流等)や地域課題の解決に向けた連携(感染症対策等)の成功という形で結実したという事実は、大変評価できる。この成功は、今後の地域交流・連携を進めていく際に地域共通の「成功体験」として、その歩みを加速する力となることが推察され、今後の展開が期待される。
3	タイトル	食を通じて子どもの成長を促す取り組み
	内容	園では、食育を単に食について学ぶだけではなく、緑(自然)を大事にする心の醸成、子どもの食習慣の改善(好き嫌いの改善)や親子の会話を促進する効果も含めた、総合的に子どもの発達に寄与する活動と捉えており、積極的な展開をすべての職員が連携して行っている。具体的には、ペーパースーツなどを通じた“学び”のほか、園庭や緑化された屋上などを利用し、野菜や果実のなる木の栽培、収穫、調理も行われ、子どもが体を通じて経験すること、実感を通じて学ぶことも重視して、子どもにとって楽しみながら記憶に残る活動となるよう配慮されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者意向の積極的な把握と整理・分析
	内容	保護者の意見・要望については、連絡ノートや日々のお迎え、お見送り時の口頭によるコミュニケーション、父母会からの要望などにより、個別ニーズが把握され、改善の対応も行われている。しかし、園運営全般に関して、より一層の高いレベルを目指すためには、保護者が普段気づかないような内容も含め、園側が保護者全体に対して統一的・積極的に意見・要望を収集し、さらにその結果を整理・分析することにより達成されると考えられる。今後は、これらの取り組みが行われることを期待したい。
2	タイトル	情報共有化のより一層の推進
	内容	職員間での情報の共有に関して、会議時間の変更や討議内容の変更、記録のとり方のチェックなどを通じ、改善されてきてはいるものの、これらに対する取り組みは现阶段でやっとスタートを切った状態である。職員においても情報共有の徹底や記録化についての不備を指摘していることから、今後も引き続き改善に取り組む必要がある。
3	タイトル	職員の能力向上に対する中長期的な対応
	内容	区職員として採用以来の研修受講履歴が個人毎に記録されるとともに、短期的(1年)な研修の要望も把握され、園長・主査の能力向上に対する判断も織り交ぜながら研修を受ける体制が整っていることは評価できる。しかしながら、職員一人ひとりの中長期的な視野に立った育成計画については、現在のところ、明確になっていない。今後は、この「中長期的な視野に立った育成計画」に対する仕組みを整備し、より効果的な人材育成に組織として取り組むことが求められる。

調査対象	保護者全員(世帯単位)	
調査方法	アンケート方式で実施した。配付については、園より保護者全員にアンケート票を手渡しで行い、回収については、園を介さず直接評価機関へ郵送する方法で行った。	
利用者総数(人)	70	
調査対象者数(人)	63	
有効回答数(人)	45	
回収率	71.4	

## 利用者調査全体のコメント

園に対して総合的に満足している人は、回答者全体のおよそ9割を占める結果となった(総合的な評価で「どちらかといえれば満足」以上の回答者の合計が88.8%)。個別にみると、「1.登園時子どもの様子の確認がある」への肯定的な回答は9割を超えている他、「2.食事のメニューは充実している」、「10.保育中の病気等への対応が適切」、「22.園運営の理念・方針に納得している」についても肯定的回答が8割を超えるなど、園における基本的な生活については満足している様子が伺える。

一方、「6.職員による対応のばらつきが少ない」という回答は4割を下回るほか、「19.不満等への職員の対応が的確」、「20.要望・意見をもとに改善が行われている」、「21.園運営の理念・方針を知っている」についても5割程度となっている。これらについては、今回のアンケートが様々な要望の把握や分析、さらに今後の満足度をあげる取り組みのきっかけとなることが望まれる。

## アンケート結果

共通評価項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答・非該当	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1.登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	41	91.1	3	6.7	0	0.0	1	2.2
2.食事(給食)のメニューは充実していますか	40	88.9	3	6.7	1	2.2	1	2.2
3.散歩等で戸外に出る機会が多いですか	32	71.1	7	15.6	5	11.1	1	2.2
4.お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	35	77.8	7	15.6	1	2.2	2	4.4
5.担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	34	75.6	6	13.3	2	4.4	3	6.7
6.保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	17	37.8	21	46.7	5	11.1	2	4.4

7.お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	30	66.7	12	26.7	2	4.4	1	2.2
8.お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	35	77.8	9	20.0	0	0.0	1	2.2
9.開園時間内であれば、保護者の急な残業や不定期な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	27	60.0	13	28.9	3	6.7	2	4.4
10.保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	39	86.7	3	6.7	1	2.2	2	4.4
11.保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	35	77.8	6	13.3	0	0.0	4	8.9
12.保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	36	80.0	7	15.6	2	4.4	0	0.0
13.子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	32	71.1	10	22.2	1	2.2	2	4.4
14.保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	27	60.0	11	24.4	7	15.6	0	0.0
15.保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	33	73.3	9	20.0	3	6.7	0	0.0
16.お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	38	84.4	5	11.1	0	0.0	2	4.4
17.お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	33	73.3	11	24.4	0	0.0	1	2.2
18.外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	30	66.7	11	24.4	4	8.9	0	0.0
19.不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	23	51.1	15	33.3	5	11.1	2	4.4
20.お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	22	48.9	18	40.0	2	4.4	3	6.7

#

《事業所名：15 荻窪東保育園》

21.保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	22	48.9	13	28.9	9	20.0	1	2.2
22.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	19	86.4	3	13.6	0	0.0	0	0.0
23.【保育園運営の基本的な考え方を知っていると答えた方に】日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	17	77.3	5	22.7	0	0.0	0	0.0
24.行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	28	62.2	11	24.4	5	11.1	1	2.2

I 組織マネジメント項目

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

<p>評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
カテゴリ1の講評(一つ以上)		
①	<p>保育目標は、園のパフレットに掲載され、入園説明会や保護者会で説明が行われているとともに、指導計画においても具体的に展開されており、職員や利用者への浸透が図られている。また、保育目標の見直し作業中であるため、職員の意識が高まっている。このことは、職員アンケートの評価からも確認できる。しかし、利用者アンケートでは、利用者の園運営の理念・方針に対する認知度は5割を下回り高いとはいえないことから、周知方法を工夫していくことが期待される。</p>	
②	<p>園内における役割分担を明確にするとともに、保育実践が計画どおりに進められるよう、年間評価・反省をおこなうなど、園長が主体となって指導している。職員アンケートにおいても「経営層は役割と責任を表明し、実践している」ことが認められている様子がうかがえる。</p>	
③	<p>重要案件の検討や決定手順については、マニュアルで明示するとともに、決定事項については、職員及び保護者に対する周知を徹底している。職員アンケートからも、園において「重要案件の決定過程が適切で周知も適切」であることは十分浸透している様子がうかがえる。</p>	

2	カテゴリ2	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている			
評点( <b>A</b> )			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
カテゴリ2の講評(一つ以上)			
①	公務員倫理に関する区のハンドブックが常備されているとともに、園独自のマニュアルでは、最初のページに「保育士の倫理綱領」を載せ、職員の意識を高めている。あわせて、保育に関する法令やニュース等を、会議等の場で伝えるなど、積極的な取り組みが行われている。		
②	実習生の受け入れに関しては、保育課で受付・各園への割振りを行い、園で実習時の注意点等の伝達と実際の実習を行う、という役割分担がなされており、毎年受け入れている実習生への対応の標準化と体制が整っている。園では、実習生の希望を反映させながら対応している。		
③	地域との交流・連携については、小学校区の子育てネットワークに参画しているほか、児童館の講座等に保育士や栄養士が協力している。また、地域の乳幼児を対象に「ふれあい保育」や緊急一時保育、子育て相談などを実施しているとともに、ボランティアや中高生の保育体験を積極的に受け入れている。		

<b>3</b>	<b>カテゴリ3</b>	
	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
<b>サブカテゴリ1</b>		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当	
【A+の取り組み】			
○あり ●なし			
カテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	苦情解決制度として、区の保健福祉サービス全般を対象に行われている「保健福祉サービス苦情調整委員制度」があり、園では、その概要と委員の氏名を記載したポスターを毎月掲示して、利用者に周知を行っている。		
②	利用者からの意見、要望、苦情等については、細かなことでも、園長・主査に報告し、即対応できる体制をとっている。また、園独自でアンケート調査は実施していないものの、運動会などの行事の後の保護者会では、感想や意見の把握に努めている。しかし、今回の利用者アンケートでは、要望・意見や不満・トラブルへの対応についての評価が十分高とはいえないことから、さらに工夫することが期待される。		
③	福祉ニーズの収集・状況把握・分析については、区の保健福祉関係の計画立案の際、また行政評価に関する区民アンケート調査を通して行っている。また、園では、職員が保育関連の新聞記事を持ち寄り、回覧するなど、積極的に情報収集に取り組んでいる。		

4	カテゴリ4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2			
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

カテゴリ4の講評(一つ以上)	
①	区では中・長期計画として「杉並区基本計画」、「保健福祉計画」、「子ども・子育て行動計画」などを策定しており、必要に応じ随時見直しを行っている。また、行政改革の一環として、接遇をはじめ各種サービスの提供方法について現場から改善していく取り組み「めざせ五つ星の区役所」運動を行っている。これにより、年度毎に各部署(園)において目標を掲げ、それが実現できたか否かを半期ごとに評価・見直しする制度が定着している。さらに、チャレンジプランが園の複数年度に渡る取組みを既定する中期計画に発展していくことが期待される。
②	園では、チャレンジプラン、年間計画、月の指導計画を作成するとともに、計画の反省・問題点を職員会議の場で明らかにしながら、保育に取り組んでいる。計画の着実な実行については、職員アンケートの評価からも確認することができる。
③	子どもの安全確保については、区において『危機管理マニュアル』が作成され、対応方法がまとめられているほか、園においても、全ての書類の重要性と管理の方法についてとりまとめている。また、チャレンジプランでは園の目標として“危機管理意識を高めること”を掲げており、警察の協力も得ながら定期的に防犯訓練を実施していることが評価できる。

5	カテゴリ5	
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( B )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



カテゴリ5の講評(一つ以上)	
①	常勤職員の採用については、区の人事担当部署が担っており、面接等に園が直接関わる機会是用意されていない。一方で、非常勤職員については、園長が直接面接する機会が設けられている。クラス担任については、職員の希望を参考に園長と主査が保育を進める上で適切かどうかを考慮して決定している。
②	研修受講後は、職員は研修レポートを作成するとともに、研修報告を行っており、研修に参加した職員だけではなく、職員全体への波及効果が期待できる。特に報告にあたっては、レジュメを配布し、内容が伝わりやすくするとともに、実践例を交えた内容にしているなど、共有する取り組みとして評価できる。
③	職員の判断と実施可能な範囲については、事務分担表で明確にするとともに、判断を超えた場合には、会議の議題としたり、園長と相談する仕組みができています。また、個々の職員の前向きな取り組みや工夫に対しては、職員全体で認めあい、共有しあうなど、これらの取り組みがさらなる保育の充実につながることを期待できる。

7	カテゴリ7
情報の保護・共有	
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点( A )</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <div style="text-align: right;">評点( B )</div>	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	

カテゴリ7の講評(一つ以上)	
①	園で管理されている文書は、ファイルを用いて管理されており、区で定めた文書分類及び保存年限に基づいて整理されている。また、園に到達した文書や新たに作成された文書なども随時ファイルに追加されるなど、更新も行われており、必要な管理が行われている。園作成のマニュアルについても、定期的な見直しと、必要に応じた改善が行われている。なお、園のマニュアルは、1項目1頁で分かりやすく、見やすく構成されており、経験を問わず使いやすいものとなっていることが評価できる。
②	個人情報の保護制度に関しては、区の条例や関連規則により、個人情報の管理や開示請求の際の手続きなどが詳細に規定されており、区のホームページなどを通じて一般区民に対して明示されている。園においても、子どもの写真や氏名の掲載には保護者の了承を得るとともに、児童票などの重要書類については、施錠等によるアクセス管理が徹底されている。
③	園で取扱う個人情報の利用目的については、文書上明確にされていないのが現状である。区での入園申込み時はもとより、園内においても区の条例の趣旨や園での個人情報の取扱い、開示請求方法等を掲示するなど、保護者の理解を深めるための取り組みについても必要であると思われる。また、職員の意識を高めるために、個人情報保護制度に関する研修を再度徹底していくことにも期待したい。

8	カテゴリ8	
	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	
	改善の成果	
	区が実施している「めざせ五つ星区役所」運動により、年度終了時に年度目標に対する自己評価を行い、次年度の目標設定へつなげる、という課題解決に向けたPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルが定着している。 園においては、園長のリーダーシップのもと保育目標の見直しを行っており、目指すべき方向性について、職員間での共通認識を高める取り組みが行われている。	
	サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」		
改善の成果		
保育目標の見直し等、会議や意見交換の場を通じて、保育士同士が保育理念を共有するだけでなく、お互いの保育技術を伝え、学ぶなど、組織の能力向上となる取り組みが行われており、日常保育の充実に反映されてきていることが確認できる。		
サブカテゴリ3		
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C	
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」		
改善の成果		
チャレンジプランの目標の“危機管理に対し意識を高めること”を掲げ、園独自の『個人情報の取り扱いマニュアル』を作成した。全ての書類について、重要度を分類し、それぞれの管理方法を定め、書類の持ち出しを記録するなど、注意が払われている。これらは、日常の保育とも直結し、全ての職員に関わることであり、園全体での取り組みとして評価できる。		

サブカテゴリ4	
前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
改善の成果	
区全体の財政については、厳しい状態となっている。しかしながら、行財政改革のプランである「スマートすぎなみ計画」によって、事務事業の民間委託や経常収支比率の改善、人件費の抑制などに取り組んでおり、一定の成果を挙げている。また、保育分野に関しては、区全体として園運営に対する民間委託の導入によるトータルで見たコスト削減に取り組んでいる一方で、公設公営の園に対しては園施設の老朽化に伴う修繕費や大規模改修費、園庭緑化などの必要な予算は確保されており、金額的にも前年度に比し増加している。	
サブカテゴリ5	
前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	○ A+   ● A   ○ B   ○ C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」	
改善の成果	
・利用者からの意見、要望、苦情等については、リストにまとめ、活用に努めるなど、より効果的な取り組み方法への改善が行われた。 ・地域向け園だより『けやき通信』を発行しており、地域向けのアピールに取り組み始めている。	
カテゴリ8の講評(一つ以上)	
①	保育目標の見直し等、職員同士の意見交換の場を通じて、園全体での共通意識を高める取り組みが行われ、保育士一人ひとりの技術や能力、また、気づき等を共有しあえる職場環境となったことが確認できる。取り組みの継続によって、園全体での保育のいっそうの充実につながることを期待される。
②	区のチャレンジプランの目標として掲げた“危機管理に対し意識を高めること”の実践として、現場レベルでだれもが使いやすいマニュアルを作成している。利用者アンケートでも、園の「侵入者に対する安全対策」の取り組みは認められていることがうかがえ、これらの取り組みを反映しているともいえる。引き続き、マニュアルを有効に活用しながら、子どもたちの安全に配慮した保育が実践されることが期待できる。
③	地域向けのだより『けやき通信』の発行などを通じて、地域との交流の輪は着実に広がっており、園に通う子どもだけでなく、地域の子どもを支える保育園という役割を担い始めている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	サブカテゴリ1の講評(一つ以上)	
①	区において作成している園のしおり、そして、園情報の区ホームページへの掲載など、紙媒体と電子媒体の両面から園の情報について発信している。また、外国語による対応についてのマニュアルも区において統一したものが整備されている。	
②	区のホームページの園紹介のページについては、年度ごと必要に応じ園から情報を提供し更新する仕組みとなっている。また、児童館や保健センターなどの地域の関係機関に対しては、地域版園だより『けやき通信』を発行し、地域に住む区民に対して、広く情報を発信する取り組みが行われている。	
③	園の見学については、いつでも見学が可能であるが、園長・主査が対応できる様に事前に日時を決め、園の見学とあわせて、保育方針の説明や育児相談などもおこなっている。	

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <div style="text-align: right;">評点( A )</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

サブカテゴリ2の講評(一つ以上)	
①	入園説明会には区の資料のほかに入園のしおりやプリントを配布し、入園後の説明だけでなく、入園までの生活についても説明を行っている。なお、利用者アンケートでは、入園前の対応について「情報提供」や「不安の軽減」については8割以上の評価があるものの、「準備品に対する理解」についてはやや低くなっていることから、さらに理解を深めるための工夫が望まれる。
②	入園内定後には、園長との個人面談によって、子どもの状況、保護者の意向確認などが行われる。面談結果については児童票等に記載され、子どもの状況を把握するため重要書類として活用される。
③	入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するため、ならし保育(園になれるための半日程度)を勧めるとともに、面接等の情報を記録した児童票を活用し、子どもの不安が軽減されるよう取り組んでいる。また、特に0歳児については、保護者の都合に合わせて一緒に過ごし、ミルクの飲ませ方や離乳の状況を把握するなど、きめ細かな対応が行われている。
サブカテゴリ3	
3	個別状況に応じた計画策定・記録
<p>評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
○非該当	
【A+の取り組み】	
○あり ●なし	



<b>評価項目2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし
<b>評価項目3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点( <b>A</b> )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>【A+の取り組み】</b>			○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ3の講評(一つ以上)			
①	子ども及び保護者の情報は、区で共通様式の児童票等に、入園から現在に至るまでの子どもの発達・健康の状況、保護者の意向、留意点等を記録している。児童票には、入園後の子どもの発達や健康状態の情報が追加されるほか、保護者とコミュニケーション(口頭・連絡帳等)や個人面談で話し合われた内容についても追加されている。		
②	指導計画は、年間と月間、さらに週単位で作成されている。指導計画の作成にあたっては、子どもの発達段階や精神的な状況を踏まえるほか、保護者との個人面談、日頃の要望等も取り入れられている。		
③	職員間での子どもの情報の共有に関しては、職員会議のほか、当番表や日誌等を通じて確認が行われており、基本的な情報共有の仕組みはできているものの、非常勤職員等に対しては、口頭で行われていることもあり、利用者アンケートでは、「職員による対応のばらつきが少ない」に対する回答が4割弱にとどまることを踏まえ、保護者の満足を得られる方策について今一度検討することが望まれる。		
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			
			評点( A )
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点( A )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 150px;"><input type="radio"/>あり</span> <span style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>なし</span>		
サブカテゴリ5の講評(一つ以上)		
①	子どもの情報について他機関に照会すること及び他機関から照会された時の対応については、区の個人情報保護条例で、原則として禁止されている。また、気になる子などの情報についても、まず保護者と話し合いをもち、了解を得た上で他機関への照会が行われている。	
②	おむつ交換を別室で行うなど、子どものプライバシーに配慮されている。また、子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ちをくみ取る様に心がけているなど、子どもの意見を尊重した保育が行われている。職員アンケートにおいても、子どものプライバシー保護の徹底や子どもの権利の尊重への意識が高いことが確認できる。	
③	子どもや保護者の価値観を尊重するため、必要に応じて会議の場で話し合い、職員間の共通意識を確認し、保育サービスの改善につなげており、継続的な取り組みに配慮されている。	

サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( A )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ6の講評(一つ以上)		
①	職員マニュアルは、一つの項目を1頁で見やすく、使いやすくまとめられており、問題が発生した時には、基本事項に振り返る仕組みができている。また、マニュアルの改善は、年に1度行うとともに、問題が発生した時には、適宜改善している。	
②	区は、公立園共通の『危機管理マニュアル』を作成し、防犯、防災、けが、事故、病気、園外活動などの際の対応について手順をまとめている。防犯については、園で作成したマニュアルをもとに訓練を行うとともに、防災自主点検表を用いて、安全チェック、災害チェックが行われている。	
③	指導計画は、職員がお互いに確認をしないながら作成されている。また、日常の保育の場では、職員同士で気づいたことを伝えあう様にしている他、ベテラン保育士による助言、園長・主査による個別指導により充実が図られている。	

Ⅲ サービスの実施項目

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評(一つ以上)			
①	子どもの発達や家庭での生活状況については、保護者との面談・連絡帳のやりとり・登降園時のコミュニケーションなどにより把握し、保育計画に反映し、保育に取り組んでいる。しかし、利用者アンケートの「子どもの長所や個性が認められている」、「やる気・達成感を重視した支援がある」(区の独自項目)に対する肯定的な回答率が、区全体よりもやや低いことから、さらなる工夫が期待される。		
②	多様な表現活動の場としては、運動会や、園外活動として、日常のお散歩の他、遠足や芋掘りなどを実施している。また、日常の場では、お店屋さんごっこや自由時間、自由に使える遊具の配置など、子どもの主体性を活かすための工夫がみられる。		
③	障害がある子どもや気になる行動がみられる子どもの保育については、専門機関と連携を密に図りながら対応している。区としては、発達センターの専門家が、特別な保育指導を行うなど、保育士が現場の事例から学ぶ機会を用意されており、子どもの特性に配慮した保育の提供の体制を整えている。		

評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		
		評点( A+ )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ●あり ○なし		
栄養士が手作りの食育教材を作成し、子どもの食への興味や関心を促す取り組みも行っており、子どもたちに「食べること」について学び、考えるきっかけを与えている点が大変評価できる。 また、ゴーヤやインゲン、オクラなどの園庭での野菜づくりは、栽培や収穫の楽しさを食べることの喜びへつなげるよい機会となっている。また、余った野菜は、家庭に持ち帰り、栽培の様子などは園だよりも紹介している。		
評価項目2の講評(一つ以上)		
①	献立は区で統一のメニューとなっており、調理員による食事量や子どもの嗜好のチェックが行われている。なお、アレルギーの配慮が必要な子どもについては、保護者との打ち合わせのもと、除去食、代替食で対応している。また、保護者の食品に関する考え方にも配慮した食事が提供されている。	
②	快適に食事ができる環境としては、食卓に花を飾ったり、変化を持たせるために定期的なグループ替えやクラス間での交流ランチなどを実施している。	
③	0歳児の食事については、食材の刻み方や柔らかさは子どもの状況に応じて一人ひとり変えるなど、きめ細かい対応がみられる。また、栄養士と調理職員も含めて、離乳食進度表の作成により、適切な食事の提供をを心がけている。	

3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3の講評(一つ以上)			
①	子どもの健康状態の把握は、園医による年2回の定期健診をはじめ、耳鼻科・歯科等各診療科の年1回の健診により行っている。また、身体測定は毎月行い、すべて「健康カード」に記録し、保護者へ報告している。		
②	保健分野に関する保護者への情報提供は、月1回発行の保健だよりや園だよりを通じて行っているほか、特に感染症に注意が必要な時期は、注意を喚起するとともに予防対策の情報提供を適宜行っている。		
③	看護師が中心になって、日ごろから保護者からの健康に関する相談に応じている。また、感染症やけがの状況を毎月とりまとめて、職員会議の場で周知し、健康面に対する意識を高めている。		



4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
	●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着いた環境・空間にしている	○非該当
	●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
	評価項目4の講評(一つ以上)		
①	年間行事計画のもと、行事を楽しめるように工夫している。特に「お楽しみ会」は、プロジェクトチームをつくり、職員自身も演じることを楽しみながら年2回実施している。また、お誕生会のプレゼントは、職員の手作りによる小物の中から好きな物を子どもが選べるなど、楽しめる工夫がされている。		
②	園の玄関を入ると、職員紹介、観葉植物や花飾りなど、暖かさを感じる空間が演出されている。また、それら装飾は、担当職員が季節毎に変えるなど、工夫をしている。また、園庭では、プランターに植物を植えるなど、空間演出とあわせて植物にふれる機会を多く持つような工夫がされている。		
③	午睡については場所を固定し、落ち着いた眠りの確保できるようにしている。特に、乳児クラスは、個々のリズムを崩さないように注意を払うとともに、幼児クラスにおいては、体調等に配慮しながら横になる時間を確保できるようにしている。		

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目5の講評(一つ以上)			
①	保護者の保育参観(参加)は常時受け付けている。また、保護者に対しては、定期的かつ目的別に、クラス・園・保健等の各種おたよりをはじめ、連絡帳・各クラスのホワイトボードを通じて、園での子どもやクラスの様子などが伝えられている。特に、クラスだよりでは、写真入りで構成するなどの工夫がみられる。		
②	園の行事については、保護者会の場で年度初めに予定を伝えるほか、運動会は同様に開催している。また、個人面談などは、保護者の都合に合わせて、できるだけ保護者の負担を少なくし、参加しやすいように工夫をしている。行事日程の配慮については、利用者アンケートでも、高い評価となっている。		
③	区では1日単位で延長保育の利用ができるスポット保育を導入するなど、保護者の事情にあわせた対応を進めている。限られた延長保育の枠を有効に使う取り組みとして、今後の展開が期待される。		

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目6の講評(一つ以上)			
①	虐待については、未然防止や早期発見、気になる家庭への継続的な支援など『虐待防止マニュアル』に沿った対策が行われている。区全体として虐待から子どもを守る仕組みが構築されており、園は児童相談所や保健所をはじめとする関係機関と連携を図り、虐待防止の体制を整えている。		
②	区の実務研修などに職員を派遣し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図るとともに、研修に派遣された職員の研修レポートを会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げに向けた取り組みがみられる。		
③	子どもの発達や育児についての保護者との共通認識の醸成については、保護者会等で、年齢にあった発達・育児の目安に関する情報提供、子育てに関する悩みについて意見交換などを行っている。		
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目7の講評(一つ以上)	
①	児童館などの地域施設や機関から依頼があった場合は、ポスターを掲示や各家庭にチラシを配布するなど、地域の情報提供をおこなっている。一方、運動会などの園の行事については、地域施設にポスターの掲示等を依頼し、地域への情報提供を行っている。
②	地域交流では、併設の敬老館との折り紙教室やお茶会などの高齢者との交流、近隣の小学校との交流、近隣の保育園同士の交流など、幅広い交流が行われている。
③	民間運営となった敬老館との交流の拡大、地域版の園だより『けやき通信』など、積極的に地域交流を図ろうとする取り組みが伺える。職員アンケートでも地域交流についての評価は高く、地域の子育て拠点として、さらに活動と地域の理解が広がっていくことが期待できる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	手作りのあたたかさが伝わる保育園
	内容	手作りの装飾に囲まれた園の玄関は、職員のあたたかさを感じる。また、お誕生日のプレゼントは、保育士が、貝殻を利用して制作したストラップで、卒園後も大切に持ち続け、携帯ストラップとして利用しながら、園のことを思い起こさせるような暖かさを感じる物である。さらに、栄養士の手作り教材を使い、食育を実践するなど、園や職員のあたたかさがを感じる保育が行われている。
2	タイトル	共有しやすい目標設定と着実な実行
	内容	保育目標の見直しや、チャレンジプランの目標を“危機管理意識を高める”とするなど、全ての職員が関係し、取り組みやすい行動目標を設定している。特に、保育目標の見直しは、職員一人ひとりの保育に対する思いを語り合い、共通意識を確認しあうことにより、保育技術にも反映されている。また、危機管理意識においては、書類の重要度を確認し、管理方法を設定することも、日常の業務と直結したことであり、全職員に共通することでもある。これらのことから、目標設定と着実な実行については、高く評価できる。
3	タイトル	地域を拓く取り組み ～地域との交流・地域の子育て支援～
	内容	近隣の小学校、児童館、他の保育園、ゆうゆう館など、地域施設との交流や地域版の園だより『けやき通信』の発行など、地域に対して保育園の存在を積極的にアピールを行い始めている。地域の子どもたちを対象にした育児相談など、地域に開かれた保育園にとどまらず、地域を拓く役割を担い始めており、今後の活動の広がり、それら保育に反映させていくことが期待できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	小規模な良さを最大限にいかし、全職員で一丸となった取り組み
	内容	保育目標の見直し等の会議や意見交換を通じて、職員の共通意識が高まっているものの、利用者アンケートでは、職員による対応の差を少なくすることが求められている。非常勤職員を含めた全職員の役割が、保護者に対して十分に伝わっていないことも想定できることから、これらのことを更に伝えていくとともに、全職員がわかりやすくまとめられているマニュアルを有効に活用するなど、さらなる保育の充実が望まれる。
2	タイトル	地域との連携による総合的な安全対策
	内容	門の施錠をはじめとした園の安全対策については、保護者からも一定の評価が得られている。感染症等については、家族から感染し、園内に広がる恐れもあることから、小学校や児童館とも連携を図り、互いに感染症被害が拡大しないような対応が望ましい。園児と児童の交流とあわせて、地域と連携し、健康面で安全対策に取り組んでいくことに期待したい。
3	タイトル	子どもたちと職員一人ひとりの個性を生かす
	内容	利用者アンケートでは、子どもたちの長所や個性を生かし、やる気や達成感を重視した保育が期待されている。この期待に応えるためには、園の理念や保育目標を保護者にも積極的に伝えるときに、意識を高める工夫を職員全体で継続的に取り組むことも大切である。その上で、小規模園の良さを生かしながら、職員一人ひとりの個性や力を発揮することが、子どもたちの個性を育む保育につながると期待できる。

## 巻末 付属資料

付属資料1: 杉並区立保育園 利用者調査調査票

付属資料2: 経営層合議シート(事業プロフィール・組織マネジメント・サービス分析)

付属資料3: 職員用シート(組織マネジメント・サービス分析)



# 平成18年度 杉並区立保育園 利用者調査 調査票

## 調査ご協力をお願い

このたび、杉並区では、よりよい保育サービスの実施をめざして、福祉サービス第三者評価を実施することになりました。平成18年度の評価は、東京都福祉サービス評価推進機構によって認証されている有限会社ヒューズボックスニコテクノロジーズ（認証番号 機構:03-059）が実施いたします。

東京都の福祉サービス第三者評価は、実際に福祉サービスを利用されている方々の声やサービスを提供している現場の状況等を総合的に調査し、第三者である評価機関が定められた項目に従って評価を行うものです。この結果は、インターネットを通じて広く公表される予定になっています。（東京都の福祉サービス第三者評価の概要については、5ページを参照してください。）

今回、第三者評価の実施に際し、実際に杉並区立保育園を利用されている保護者の皆さんが日常の保育サービスに対して、どのように感じていらっしゃるかを把握するためにアンケート調査を実施することになりました。

調査結果は、評価機関が回収するとともに統計的に処理を行います。ご記入いただいた調査票を園に見せたり、記入者を特定したり、調査結果の内容を第三者評価の目的以外に使用したりすることは絶対にいたしません。

ご多忙の折恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ぜひともご協力をお願いいたします。

### ■記入に当たって

1. 各設問中、あてはまる番号に○をつけてください。
2. 質問内容が、ご自身にとって「経験がない」「認識がない」など該当しない場合には、記入しないで次の質問に進んでください。
3. この調査票は、別添の返信用封筒をご利用の上、**平成18年10月31日（火）**までにポストに投函してください。

この調査に関してのお問い合わせは、下記をお願いします。

### 問合せ先

東京都福祉サービス第三者評価機関  
有限会社 ヒューズボックスニコテクノロジーズ  
担当：上原

〒140-0014

東京都品川区大井1-54-2 長谷川ビル2階

電話 03-5742-0099

mail info@fuboclub.net





現在ご利用の保育園についておたずねします

あなたの気持ちに最も近い番号を1つだけ選び、○印をお付けください。

複数のお子さんがいらっしゃる場合は、一番年齢の低いお子さんの例でご回答ください。

《毎日の保育サービスについてお聞きします》

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問1. 登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	1	2	3
問2. 保育士は、登園時にあいさつをし、お子さんを暖かく迎えてくれますか	1	2	3
問3. 食事(給食)のメニューは充実していますか	1	2	3
問4. 散歩等で戸外に出る機会が多いですか	1	2	3
問5. お子さんの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われていますか	1	2	3
問6. 友達とのふれあいなど、人とのかかわり方の基礎が育てられていると思いますか	1	2	3
問7. 担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか	1	2	3
問8. 担当保育士は、お子さんが自分でしようとする気持ちを大切に、達成感を味わえるように援助していますか	1	2	3
問9. 保育士や他の職員の保育姿勢や対応はだいたい同じ(ばらつきが少ない)ですか	1	2	3
問10. お迎え時に、お子さんの様子について話がありますか	1	2	3
問11. お迎え時に、お子さんが満たされた表情をしていることが多いですか	1	2	3
問12. 開園時間内であれば、保護者の急な残業や不規則な業務への対応は柔軟ですか(降園時間など)	1	2	3
問13. 保育中の発熱など病気への対応は適切ですか	1	2	3
問14. 保育園で起きた事故・けがに対して、責任を持って対応していますか	1	2	3

《保護者の方の保育園との関わりや交流についてお聞きします》

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 15. 保育園からのたよりやその他の方法で、日々のお子さんの様子や気持ちを知ることができますか	1	2	3
問 16. 日々の遊びの様子の伝え合いや保護者会などで、お子さんの様子を知ることができ、それについて意見交換ができていますか	1	2	3
問 17. 子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談できますか	1	2	3
問 18. 保護者のいろいろな価値観に理解を示していますか	1	2	3
問 19. 保護者が参加しやすいように行事日程が配慮されていますか	1	2	3

《施設環境についてお聞きします》

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 20. お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	1	2	3
問 21. 遊具・玩具等が、お子さんにとって安全で利用しやすく用意されていますか	1	2	3
問 22. お子さんの発育や意欲を促すような遊具・玩具が十分に用意されていますか	1	2	3
問 23. 園内は、清潔で安全に整備されていますか	1	2	3
問 24. 外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか	1	2	3

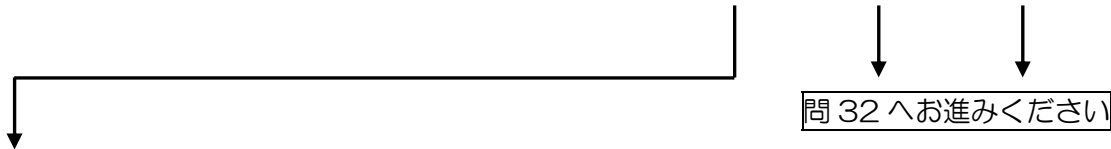
《要望・意見や不満・トラブルへの対応についてお聞きします》

\*ご自身にトラブル等の経験がない場合でも、園全体の状況からご回答ください。

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 25. 不満やトラブルへの職員の対応は的確ですか	1	2	3
問 26. 不満やトラブルの内容を良く聞いてくれていると思いますか	1	2	3
問 27. お子さんや保護者の要望・意見を気軽に言うことができますか	1	2	3
問 28. お子さんや保護者の要望・意見をもとに、改善が行われていますか	1	2	3

「保育園運営方針についてお聞きします」

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 29. 保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)を知っていますか	1	2	3



問 29 で「はい」とお答えになった方に伺います。

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 30. 保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)には納得していますか	1	2	3
問 31. 日頃の保育サービスは、職員の行動等により保育園運営の基本的な考え方(理念・方針)と一致していますか	1	2	3

「地域との交流についてお聞きします」

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 32. 行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	1	2	3

「入園前の対応についてお聞きします」

	はい	どちらとも いえない	いいえ
問 33. 入園前に保育園での一日の過ごし方や保育内容に関する必要な情報を提供してくれましたか	1	2	3
問 34. 入園説明や保育園の子どもたちの様子を見て、子どもを預けることの不安が軽減しましたか	1	2	3
問 35. 入園時に揃えるものや準備することの必要性について理解できましたか	1	2	3

「総合的な感想についてお聞きします」

〔1〕 現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか。

(1つに〇)

大変満足	満足	どちらかといえば満足	どちらとも いえない	どちらかといえば不満	不満	大変不満
1	2	3	4	5	6	7

〔2〕 日頃お感じになっている保育園に対するご意見・ご要望など、ご自由にお書きください。

〔3〕 今回の調査についてお気づきになった点など、ご自由にお書きください。

最後に保護者の方についておたずねします

F1. 調査票記入者 （1つに〇）

1. 父	2. 母	3. 父母一緒に	4. その他（                    ）
------	------	----------	------------------------------

F2. 調査票記入者の年齢（主に中心になって回答した方） （1つに〇）

1. 20歳未満	2. 20～25歳未満	3. 25～30歳未満	4. 30～35歳未満
5. 35～40歳未満	6. 40～50歳未満	7. 50歳以上	

F3. 保護者の勤務形態 （〇は各1つ）

①父				
1. 常勤（フルタイム）	2. パート、アルバイト	3. 自営業	4. 無職	5. その他（                    ）
②母				
1. 常勤（フルタイム）	2. パート、アルバイト	3. 自営業	4. 無職	5. その他（                    ）
③その他の保護者(主にお迎えに行かれる方)				
1. 常勤（フルタイム）	2. パート、アルバイト	3. 自営業	4. 無職	5. その他（                    ）

ご協力ありがとうございました。

この調査票は、別添の封筒をご利用の上、10月31日（火）までにご返送願います。

## ◆東京都の福祉サービス第三者評価とは！？

いざ福祉サービスが必要となったときに、どの事業所、施設が自分にとっていいのか等、自ら選ぶのはとても難しいものです。

サービスを受ける前に十分確認してと言われても、何を確認すればいいのか、どうやって調べればいいのか、どの情報をあてにすればいいのかなど、悩んでしまうのではないのでしょうか。

東京都における福祉サービス第三者評価制度では、「自分の利用したい事業所の特徴はどのようなことか」、「サービスの質はどのような状態にあるのか」など、利用者の皆さんがサービスを選択する際の目安となったり、都民の皆さんが事業所の内容を把握することが可能となるように、各事業所の評価結果が公表されます。

公表されるのは評価講評、利用者調査の結果、事業評価の結果で、それぞれについてあらかじめ事業所が公表同意した内容です。また、評価結果に関する事業所の皆さんのコメントもあわせて公表しています。

(とうきょう福祉ナビゲーションより抜粋)

東京都の福祉サービス第三者評価は、「利用者調査」と「事業評価」の2つの評価手法を用いています。

「利用者調査」は、利用者へのアンケートや聞き取り等により利用者の意向を把握する手法です。サービスの種類により、「アンケート方式」「聞き取り方式」「コミュニケーション方式」の3つの方式が使い分けられ、保育園の場合は「アンケート方式」にて行います。これが、今回のアンケート調査です。

一方、「事業評価」は、事業者の自己評価や訪問調査等の過程を経て、その事業所の組織経営、マネジメントの力や現在提供されているサービスの質を評価するものです。

つまり、福祉サービス第三者評価は、利用者調査の結果と事業評価の結果の双方を総合的に判断し、評価するものです。

後日、皆さんの保育園に私たち評価者がお伺いすることがあるかと思えます。その節は、どうぞよろしくお願いいたします。

東京都の福祉サービス第三者評価について、「もっと詳しく知りたい」「他の保育園の評価結果を見てみたい」等、興味を持たれましたら是非『とうきょう福祉ナビゲーション』のホームページをご覧ください。

<http://www.fukunavi.or.jp>

今回の保育園の評価結果、保護者の皆さんのアンケート結果もホームページに掲載される予定です！！

—保育所(認可保育所、認証保育所A型・B型)版—

事業プロフィール

1. 事業所名 :
  
2. (1)運営主体(法人名等) :  
(2)設置主体 :
  
3. 事業所所在地 :
  
4. 事業所の長の氏名(施設長等) :
  
5. 連絡先  
Tel  
Fax  
Eメール  
ホームページ
  
6. 同一運営主体が同じ敷地内で連携して実施している主な福祉・医療サービス事業を利用者数からみて上位5つ以内(例. 学童クラブ、子ども家庭支援センターなど、評価対象事業を含む。)
  - 1)
  - 2)
  - 3)
  - 4)
  - 5)
  
7. 同一事業所(同一敷地または同一建物内)で行われる全事業のうち、今回の評価対象サービス事業の位置づけ  
収入面でみて 約 \_\_\_\_\_ %  
職員数でみて 約 \_\_\_\_\_ %(非常勤は常勤換算)
  
8. 当該事業の開始時から現在までの重要な変遷(制度改正に基づくもの含む)
  - (1)開始時期 年 月
  - (2)重要な変遷

9. 理念・方針

事業所が大切にしている考え(事業所の理念・ビジョン使命など経営・運営方針)のうち、特に重要なもの(上位5つ以内)を簡潔に記述

(例. 基本的人権の尊重、利用者本位、職員満足の向上、地域社会への貢献など)

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

10. サービス提供の考え方について記述(日々の業務の考え方、利用者ニーズに合わせた施設独自の取組、利用者や家族との関係、地域との関係を含む)

11. 期待する職員像

(1)職員に求めている人材像や役割

(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)

12. 職員の状況

(1)常勤職員数 \_\_\_\_\_人

非常勤職員数 \_\_\_\_\_人(常勤換算 \_\_\_\_\_人)

(計算式:非常勤職員のそれぞれの勤務延時間数の総数÷当該事業所の常勤職員が勤務すべき時間数)

(2) 専門職員の人数

保育士		栄養士		調理員	
嘱託医		看護師			





15. 評価対象としているサービス事業に関して事業所として力を入れて取り組んでいる点を、人的サービス面と設備面に分けて、重要な順に各3つ以内で記述

〈人的サービス面〉

- 1)
- 2)
- 3)

〈設備・環境面〉

- 1)
- 2)
- 3)

16. 経営に影響を与えていると考えている事業環境の変化を記述(制度改正を含む)

17. 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくためにこれから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述

(例. 経営改善への職員の参画、職員の能力開発、後継者の育成、給与制度の改善、事業者間交流、施設設備の拡張など)

- 1)
- 2)
- 3)

18. 定員および現在の利用者

(1) 一般保育

	定員(人)	利用者数
0才児		
1才児		
2才児		
3才児		
4才児		
5才児		
計		

(2) 特別保育

	定員(人)	利用者数	料金(1回または月額)
産休明け保育			
延長保育			
夜間保育			
障害児保育			
病後児保育			
休日保育			
一時保育			
アウトオブスクール			
その他 ( )			

(3) 利用者の住所の主な区市町村で多いものを上位3つ記述

1. ( %) 2. ( %) 3. ( %)

(計算式:入所者の多い区市町村から入所した利用者数÷現員数×100)

19. 施設の状況

- (1) 建物面積(保育園分) \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>  
利用者1人当たり \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>(計算式:建物の合計面積合計÷定員)
- (2) 園庭の面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>  
利用者1人当たり \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>(計算式:園庭面積合計÷定員)
- (3) 耐火・耐震構造  
耐火 1.はい 2.いいえ 耐震 1.はい 2.いいえ
- (4) 建築(含大改築)後の経過年数 \_\_\_\_\_ 年
- (5) 保育所の設置形態(該当するものに○)  
一戸建て(平屋)・一戸建て( \_\_\_\_\_ 階建)・  
他施設と併設  
(併設施設種別: \_\_\_\_\_ ・保育所の使用階数: \_\_\_\_\_ 階)
- (6) 3年以内の大改築計画の有無 1.有 2.無
- (7) 立地条件
- ① 交通の便  
\_\_\_\_\_ 駅から 徒歩・バス・その他( \_\_\_\_\_ )で \_\_\_\_\_ 分  
バス停 \_\_\_\_\_ から 徒歩 \_\_\_\_\_ 分
- ② 近隣の環境(スーパー、公園等までの距離など)  
( \_\_\_\_\_ )



# 〔平成18年度〕

## 組織マネジメント分析シート

### 経営層合議用

作成日 (完成日)	平成	年	月	日
施設・事業所名				
作成関係者	(役職名)	(氏名)		

カテゴリー
1.リーダーシップと意思決定
2.経営における社会的責任
3.利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
4.計画の策定と着実な実行
5.職員と組織の能力向上
6.サービス提供のプロセス
7.情報の保護・共有
8.1～7に関する活動成果

網掛け部が組織マネジメント分析シートに該当します

#### ■組織マネジメント分析シートを用いた自己評価を実施するにあたっての記入手順

- 1 評点は「評価項目」ごとにつけます。「カテゴリー」、「サブカテゴリー」を確認しながら、「標準項目」にはどんな事象が該当するのか合議します。
- 2 「標準項目」を「実施している（またはしくみがある）」と確認した根拠を「確認根拠」欄に記入します。
- 3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次のすべてを満たした場合です。  
(1 事業者が当該事項を実施していること 2 その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること 3 その根拠が示せること)
- 4 「A+の取り組み」とは、標準項目をすべて満たしたうえで、下記のすべてを満たした取り組みです。該当する取り組みがあれば記入します。  
(ア 当該評価項目のねらいに合致していること イ 事業所の理念・方針に合致していること ウ 事業所の独自性または現状を改善するプロセスが認められること)
- 5 評価項目ごとに、すべての「標準項目」の上記2による記入と「A+の取り組み」がある場合に上記4を記入した後、評点をつけてください。  
評価項目の評点は、次のとおりです。該当する評点を記入してください。  
カテゴリー1～7  
A+：標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態      A：標準項目をすべて満たした状態  
B：標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態      C：標準項目をひとつも満たしていない状態  
カテゴリー8  
A+：計画的な取り組みによる改善傾向が確認できる状態      A：改善傾向が確認できる状態  
B：取り組んでいるが改善結果は確認できない状態      C：取り組んでいない状態
- 6 すべての評価項目を記入した後に「カテゴリー」全体を通じて、「良いと思う点」「改善する必要があると思う点」を記述します。

## カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

### サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

<b>評価項目 1</b> 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針を達成するためにそれをわかるように示しているか ・それを職員の日頃の行動に結びつけるための取り組みを行なっているか
標準項目		確認根拠
<input type="checkbox"/> 1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		
<input type="checkbox"/> 3 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		
<input type="checkbox"/> 4 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・経営層は、理念等を実現するため、自らの役割と責任を職員にわかりやすく伝えているか ・経営層は、理念、基本方針を実現するために、自ら率先垂範しているか
標準項目		確認根拠
<input type="checkbox"/> 1 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている		
<input type="checkbox"/> 2 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している		
【A+の取り組み】		

平成18年度 組織マネジメント分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点( )	評価項目のねらい ・重要な案件については、組織として決定する手順をあらかじめ定めているか ・職員に意思決定過程の透明性を図っているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている		
<input type="checkbox"/> 2 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		
<input type="checkbox"/> 3 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容 と決定経緯を伝えている		
【A+の取り組み】		

カテゴリ1 のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

## カテゴリー 2 経営における社会的責任

### サブカテゴリー 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

<b>評価項目 1</b> <b>社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している</b>	<b>評点( )</b>	<b>評価項目のねらい</b> ・組織の社会的責任として遵守すべき法・規範・倫理などについて明確にしているか ・さらにそれを遵守できるように理解を深めているか
<b>標準項目</b>		<b>確認根拠</b>
<input type="checkbox"/> 1 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		
<input type="checkbox"/> 2 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		
<b>【A+の取り組み】</b>		
<b>評価項目 2</b> <b>第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている</b>	<b>評点( )</b>	<b>評価項目のねらい</b> ・組織の社会的責任として、透明の確保のために外部の目を活用しているか ・地域社会に情報発信することで透明性を高めているか
<b>標準項目</b>		<b>確認根拠</b>
<input type="checkbox"/> 1 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 2 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		
<b>【A+の取り組み】</b>		
<b>評価項目 3</b> <b>将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている</b>	<b>評点( )</b>	<b>評価項目のねらい</b> ・組織の社会的責任として、実習生を受け入れ、福祉人材の育成に協力しているか ・その体制整備が図られているか
<b>標準項目</b>		<b>確認根拠</b>
<input type="checkbox"/> 1 実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている		
<input type="checkbox"/> 2 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している		
<b>【A+の取り組み】</b>		

## サブカテゴリ-2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

<b>評価項目 1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	評点( )	評価項目のねらい ・組織の社会的責任として、地域の一人として事業所の機能を還元しているか ・地域社会に専門性をいかした取り組みをしているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		
<input type="checkbox"/> 2 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	評点( )	評価項目のねらい ・組織の社会的責任として、ボランティアを受け入れるための考え方をはっきりさせているか ・そのための体制を整備しているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		
<input type="checkbox"/> 3 ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		
【A+の取り組み】		



<b>評価項目 3</b>		<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・地域の一員として関係機関とのネットワーク化に貢献しているか ・地域の一員として、地域での共通課題の解決に協働しているか
<b>地域の関係機関との連携を図っている</b>			
標準項目		確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している			
<input type="checkbox"/> 2 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている			
【A+の取り組み】			
<b>カテゴリー2 のコメント</b>			
良いと思う点		改善する必要があると思う点	

### カテゴリー3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

#### サブカテゴリー1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

<b>評価項目 1</b> 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	評点( )	評価項目のねらい ・事業所のサービスの利用者一人ひとりの苦情等についてどのように把握しているのか ・その苦情等についてどのように解決に取り組んでいるのか
標準項目		確認根拠
<input type="checkbox"/> 1 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できるように、利用者に伝えている		
<input type="checkbox"/> 2 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	評点( )	評価項目のねらい ・利用者の意向をどのように集約・分析しているのか ・その結果をサービス向上に活用しているか
標準項目		確認根拠
<input type="checkbox"/> 1 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 2 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		
<input type="checkbox"/> 3 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		
【A+の取り組み】		

<b>評価項目 3</b>		<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・サービス・経営改善のために地域の福祉ニーズについてどのように把握分析しているのか ・また福祉事業の動向についてどのように把握分析しているのか
地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			
標準項目		確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる			
<input type="checkbox"/> 2 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる			
<input type="checkbox"/> 3 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している			
【A+の取り組み】			
<b>カテゴリ3 のコメント</b>			
良いと思う点		改善する必要があると思う点	

## カテゴリー4 計画の策定と着実な実行

### サブカテゴリー1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

<b>評価項目 1</b> <b>取り組み期間に応じた課題・計画を策定している</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針実現のため実践的な課題・計画を策定しているか ・計画の立て方も取り組み期間に応じているか
<b>標準項目</b>		<b>確認根拠</b>
<input type="checkbox"/> 1 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		
<input type="checkbox"/> 2 年度単位の計画を策定している		
<input type="checkbox"/> 3 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる		
<b>【A+の取り組み】</b>		
<b>評価項目 2</b> <b>多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針実現のため、課題の明確化、計画策定の時期や手順が定められているか ・その計画は現場の意向や利用者の意向等を踏まえたものとなっているか
<b>標準項目</b>		<b>確認根拠</b>
<input type="checkbox"/> 1 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		
<input type="checkbox"/> 2 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている		
<input type="checkbox"/> 3 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している		
<input type="checkbox"/> 4 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している		
<b>【A+の取り組み】</b>		

<b>評価項目 3</b> <b>着実な計画の実行に取り組んでいる</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針実現のため、計画に基づき効果的に実行しているか ・進捗状況に応じ、見直しながら、着実に成果を上げられるような取り組みを進めているか
<b>標準項目</b>	<b>確認根拠</b>	
<input type="checkbox"/> 1 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている		
<input type="checkbox"/> 3 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している		
<input type="checkbox"/> 4 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		
<b>【A+の取り組み】</b>		

**サブカテゴリー2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる**

<b>評価項目 1</b> <b>利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・利用者の安全確保のための体制は整備されているか ・組織的に再発防止・予防対策やその徹底が図られているか
<b>標準項目</b>	<b>確認根拠</b>	
<input type="checkbox"/> 1 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している		
<input type="checkbox"/> 3 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		
<b>【A+の取り組み】</b>		

**カテゴリー4 のコメント**

<b>良いと思う点</b>	<b>改善する必要があると思う点</b>

## カテゴリー5 職員と組織の能力向上

### サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

<b>評価項目 1</b> <b>事業所にとって必要な人材構成にしている</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針を実現するのに適した人事制度が定められているか ・それに基づき、人材の確保や配置が行われているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		
<input type="checkbox"/> 3 適材適所の人員配置に取り組んでいる		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> <b>職員の質の向上に取り組んでいる</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・理念、基本方針実現のため、職員一人ひとりの意向を把握し育成計画を策定しているか ・その計画に基づき、職員が研修等育成に向けての取り組みが行われているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		
<input type="checkbox"/> 2 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している		
<input type="checkbox"/> 3 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている		
<input type="checkbox"/> 4 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している		
<input type="checkbox"/> 5 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		
【A+の取り組み】		

## サブカテゴリ-2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

<b>評価項目 1</b> 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	評点( )	評価項目のねらい ・職員一人ひとりの力と組織力の発揮、理念等実現のため、どのように取り組んでいるか ・そのために職員一人ひとりが学びに取り組むようにしているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		
<input type="checkbox"/> 2 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 3 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> 職員のやる気向上に取り組んでいる	評点( )	評価項目のねらい ・理念、基本方針実現のため、職員の意識や就業状況を的確に把握しているか ・把握した上で、職員のやる気と働きがいの満足に影響を及ぼす要因改善に取り組んでいるか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている		
<input type="checkbox"/> 2 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 3 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 4 福利厚生制度の充実に取り組んでいる		
【A+の取り組み】		

### カテゴリ-5 のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

**カテゴリー7 情報の保護・共有**  
**サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる**

<p>評価項目 1</p> <p>事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる</p>	<p>評点( )</p>	<p>評価項目のねらい                  ・事業所をより良くするためにどのような情報が必要であるかの検討がなされているか                  ・経営に関して必要な情報が適切に収集・整理・分析された上で、保護・共有されているか</p>
<p>標準項目</p>		<p>確認根拠</p>
<p><input type="checkbox"/> 1 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している</p>		
<p><input type="checkbox"/> 2 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している</p>		
<p><input type="checkbox"/> 3 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している</p>		
<p>【A+の取り組み】</p>		
<p>評価項目 2</p> <p>個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している</p>	<p>評点( )</p>	<p>評価項目のねらい                  ・保護法の基本的概念等を踏まえ、事業所が有する個人情報の保護方法を定めているか                  ・その方法が行き渡るようにしているか</p>
<p>標準項目</p>		<p>確認根拠</p>
<p><input type="checkbox"/> 1 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している</p>		
<p><input type="checkbox"/> 2 個人情報の保護に関する規定を明示している</p>		
<p><input type="checkbox"/> 3 開示請求に対する対応方法を明示している</p>		
<p><input type="checkbox"/> 4 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている</p>		
<p>【A+の取り組み】</p>		

**カテゴリー7 のコメント**

<p>良いと思う点</p>	<p>改善する必要があると思う点</p>
---------------	----------------------



## カテゴリ-8 カテゴリ-1～7に関する活動成果

### サブカテゴリ-1 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目 1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	評点( )	評価項目のねらい ・前年度と比べて成果を上げることができたか
改善の成果 【自由記述】	確認根拠	

### サブカテゴリ-2 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目 1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	評点( )	評価項目のねらい ・前年度と比べて成果を上げることができたか
改善の成果 【自由記述】	確認根拠	

### サブカテゴリ-3 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目 1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	評点( )	評価項目のねらい ・前年度と比べて成果を上げることができたか
改善の成果	確認根拠	
【自由記述】		

### サブカテゴリ-4 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している

評価項目 1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	評点( )	評価項目のねらい ・前年度と比べて成果を上げることができたか
改善の成果	確認根拠	
【自由記述】		

**サブカテゴリ-5 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している**

評価項目 1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している ・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	評点( )	評価項目のねらい ・前年度と比べて成果を上げることができたか
改善の成果 【自由記述】		確認根拠

カテゴリ-8 のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

**事業所の特に良いと思う点 特に改善したいと思う点**

特に良いと思う点	特に改善したいと思う点

注)これは「サービス分析シート(カテゴリ6 サービス提供のプロセス)」の評価結果を含めて記述してください。

〔平成18年度〕

認可保育所

# サービス分析シート (6. サービス提供のプロセス)

経営層合議用

作成日 (完成日)	平成	年	月	日
施設・事業所名				
作成関係者	(役職名)	(氏名)		

カテゴリー
1.リーダーシップと意思決定
2.経営における社会的責任
3.利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
4.計画の策定と着実な実行
5.職員と組織の能力向上
6.サービス提供のプロセス
7.情報の保護・共有
8.1～7に関する活動成果

網掛け部がサービス分析シートに該当します

## ■サービス分析シートを用いた自己評価を実施するにあたっての記入手順

- 1 評点は「評価項目」ごとにつけます。「サブカテゴリー」を確認しながら、「標準項目」にはどんな事象が該当するのか合議します。
- 2 「標準項目」を「実施している（またはしくみがある）」と確認した根拠を「確認根拠」欄に記入します。
- 3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次のすべてを満たした場合は、  
(1 事業者が当該事項を実施していること 2 その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること 3 その根拠が示せること)
- 4 「A+の取り組み」とは、標準項目をすべて満たしたうえで、下記のすべてを満たした取り組みです。該当する取り組みがあれば記入します。  
(ア 当該評価項目のねらいに合致していること イ 事業所の理念・方針に合致していること ウ 事業所の独自性または現状を改善するプロセスが認められること)
- 5 すべての「標準項目」と「A+の取り組み」を記入した後、評点をつけてください。  
評価項目の評点は、次のとおりです。該当する評点を記入してください。  
A+：標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態      A：標準項目をすべて満たした状態  
B：標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態      C：標準項目をひとつも満たしていない状態
- 6 すべての評価項目を記入した後に、「良いと思う点」「改善する必要があると思う点」を記述します。  
・サブカテゴリー1～3及び5、6は、サブカテゴリーごとに記述します。  
・サブカテゴリー4「サービスの実施」は、評価項目ごとに記述します。

## カテゴリー6 サービス提供のプロセス

### サブカテゴリー1 サービス情報の提供

評価項目 1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点( )	評価項目のねらい ・サービスを選択するための情報を、どのように提供しているか ・パンフレットやホームページ等の存在のみを評価するものではない
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしていく		
<input type="checkbox"/> 2 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
<input type="checkbox"/> 3 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
【A+の取り組み】		

#### サブカテゴリー1のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

## サブカテゴリー 2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目 1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点( )	評価項目のねらい ・サービス開始時に、保護者の状況に応じた説明をしているか ・十分な説明をしたうえで、保護者の意向を確認し、納得を得ているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している		
<input type="checkbox"/> 2 サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
<input type="checkbox"/> 3 サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
【A+の取り組み】		

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	評点( )	評価項目のねらい ・サービス開始時の環境変化による影響を緩和する取り組みをしているか ・子どもがサービスを終了する場合、子どもや保護者の不安を除去しているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
<input type="checkbox"/> 2 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		
<input type="checkbox"/> 3 サービス利用前の生活をふまえた支援をしている		
<input type="checkbox"/> 4 サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		
【A+の取り組み】		

サブカテゴリー2のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

### サブカテゴリー 3 個別状況に応じた計画策定・記録

<b>評価項目 1</b> 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	評点( )	評価項目のねらい ・支援をするうえで必要な子ども個人の情報をどのように把握しているか ・子どもの状況に応じたアセスメントの手順や改訂基準が確立しているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
<input type="checkbox"/> 2 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
<input type="checkbox"/> 3 アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目 2</b> 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している	評点( )	評価項目のねらい ・子どもの様子や保護者の希望をどのように取り入れ、計画を作成しているか ・個人の状況に応じた計画となるよう作成し、見直しをしているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		
<input type="checkbox"/> 2 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		
<input type="checkbox"/> 3 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている		
<input type="checkbox"/> 4 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		
【A+の取り組み】		



平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 3</b> 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点( )	評価項目のねらい ・職員が、子どもの状況の変化等をどのように記録しているか ・具体的な支援の内容や子どもの変化等が適切に記録されているか
標準項目		確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある			
<input type="checkbox"/> 2 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している			
【A+の取り組み】			
<b>評価項目 4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点( )	評価項目のねらい ・子どもに関わる情報を職員間でどのように共有化しているか ・日々の子どもの変化等をどのような方策で共有化しているか
標準項目		確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している			
<input type="checkbox"/> 2 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している			
【A+の取り組み】			
<b>サブカテゴリ-3のコメント</b>			
良いと思う点		改善する必要があると思う点	

## サブカテゴリー4 サービスの実施

<b>評価項目 1</b> 子どもの発達を促すための保育を行っている	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・日常の保育の中で子どもの発達を促す取り組みがあるか ・子どもの意向を把握しているか
標準項目		確認根拠
<input type="checkbox"/> 1 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		
<input type="checkbox"/> 2 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている		
<input type="checkbox"/> 3 多様な表現活動や園外活動を計画している		
<input type="checkbox"/> 4 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている		
<input type="checkbox"/> 5 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している		
<b>【A+の取り組み】</b>		
<b>評価項目1のコメント</b>		
良いと思う点  		改善する必要があると思う点  

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

評価項目 2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点( )	評価項目のねらい ・子どもの状況や意向を尊重した食事提供がされているか ・子どもが食事を楽しむことができるか
標準項目		確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 メニューや味付けなどに工夫を凝らしている			
<input type="checkbox"/> 2 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している			
<input type="checkbox"/> 3 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している			
<input type="checkbox"/> 4 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている			
<input type="checkbox"/> 5 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている <small>【0歳児を受け入れている保育所のみ】</small>			
【A+の取り組み】			
<b>評価項目2のコメント</b>			
良いと思う点		改善する必要があると思う点	

<b>評価項目 3</b> <b>子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・子どもの状況に応じて、健康を維持する支援をしているか ・医療機関との連携を基に、子どもの健康維持策を講じているか													
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%; text-align:center;">標準項目</th> <th style="width:50%; text-align:center;">確認根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 3 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 4 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 5 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>【A+の取り組み】</b></td> </tr> </tbody> </table>	標準項目	確認根拠	<input type="checkbox"/> 1 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している		<input type="checkbox"/> 2 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある		<input type="checkbox"/> 3 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している		<input type="checkbox"/> 4 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている		<input type="checkbox"/> 5 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている		<b>【A+の取り組み】</b>		
標準項目	確認根拠														
<input type="checkbox"/> 1 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している															
<input type="checkbox"/> 2 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある															
<input type="checkbox"/> 3 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している															
<input type="checkbox"/> 4 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている															
<input type="checkbox"/> 5 健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている															
<b>【A+の取り組み】</b>															
<b>評価項目3のコメント</b>															
<b>良いと思う点</b>	<b>改善する必要があると思う点</b>														

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 4</b> <b>園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている</b>	<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・子どもの意向は日常生活で尊重されているか ・子どもにとっての望ましい環境が整備されているか	
		標準項目	確認根拠
		<input type="checkbox"/> 1 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	
		<input type="checkbox"/> 2 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	
		<input type="checkbox"/> 3 お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	
【A+の取り組み】			

**評価項目4のコメント**

良いと思う点	改善する必要があると思う点

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 5</b>		<b>評点( )</b>	評価項目のねらい ・家庭との連絡を緊密に取っているか ・家庭との信頼関係を構築しているか	
<b>保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている</b>				
標準項目		確認根拠		
<input type="checkbox"/> 1 保護者などが常時参観できるしくみがある				
<input type="checkbox"/> 2 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している				
<input type="checkbox"/> 3 保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている				
<input type="checkbox"/> 4 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている				
<input type="checkbox"/> 5 子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある				
【A+の取り組み】				
<b>評価項目5のコメント</b>				
良いと思う点		改善する必要があると思う点		

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 6</b> <b>虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている</b>	<b>評点( )</b>	<b>評価項目のねらい</b> ・虐待の早期発見・未然防止に取り組んでいるか ・育児困難家庭への支援を行っているか
<b>標準項目</b>	<b>確認根拠</b>	
<input type="checkbox"/> 1 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
<input type="checkbox"/> 2 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握した際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている		
<input type="checkbox"/> 3 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている		
<input type="checkbox"/> 4 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		
<b>【A+の取り組み】</b>		
<b>評価項目6のコメント</b>		
<b>良いと思う点</b>	<b>改善する必要があると思う点</b>	

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 7</b> 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	評点( )	評価項目のねらい ・地域との交流により、子どもの生活の幅を広げているか ・家庭と地域との交流についても支援しているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している		
<input type="checkbox"/> 2 保育所の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		
【A+の取り組み】		
<b>評価項目7のコメント</b>		
良いと思う点	改善する必要があると思う点	



## サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目 1 子どものプライバシー保護を徹底している	評点( )	評価項目のねらい ・日常の中で、どのように子どものプライバシーの保護をしているのか ・個々の職員のみならず、組織的な対応がされているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている		
<input type="checkbox"/> 2 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		
【A+の取り組み】		

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 2</b> <b>サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している</b>	<b>評点( )</b>	<b>評価項目のねらい</b> ・日常の中で、子どもの権利を擁護し、不適切な対応を排除しているか ・保護者の価値観等による子どもの生活習慣を考慮したうえで保育をしているか
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
<input type="checkbox"/> 2 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している		
<input type="checkbox"/> 3 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		
<b>【A+の取り組み】</b>		

サブカテゴリー5のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

## サブカテゴリ－6 事業所業務の標準化

<b>評価項目 1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	評点( )	評価項目のねらい ・業務の一定水準を確保するため、手引書等を整備しているか ・業務の標準化は、対人援助の単純化や画一化をめざすものではない												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">標準項目</th> <th style="width:50%;">確認根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 3 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 4 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">【A+の取り組み】</td> </tr> </tbody> </table>	標準項目	確認根拠	<input type="checkbox"/> 1 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="checkbox"/> 2 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている		<input type="checkbox"/> 3 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している		<input type="checkbox"/> 4 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		【A+の取り組み】			
標準項目	確認根拠													
<input type="checkbox"/> 1 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている														
<input type="checkbox"/> 2 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている														
<input type="checkbox"/> 3 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している														
<input type="checkbox"/> 4 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している														
【A+の取り組み】														
<b>評価項目 2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	評点( )	評価項目のねらい ・業務の標準レベルを見直す仕組みをどのように確立しているか ・よりよいサービス提供を全体化するため、どのような工夫をしているか												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">標準項目</th> <th style="width:50%;">確認根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 3 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">【A+の取り組み】</td> </tr> </tbody> </table>	標準項目	確認根拠	<input type="checkbox"/> 1 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="checkbox"/> 2 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="checkbox"/> 3 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		【A+の取り組み】					
標準項目	確認根拠													
<input type="checkbox"/> 1 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている														
<input type="checkbox"/> 2 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている														
<input type="checkbox"/> 3 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる														
【A+の取り組み】														

平成18年度 サービス分析シート(経営層合議用)

<b>評価項目 3</b> さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	評点( )	評価項目のねらい ・職員全体が、一定のサービス水準を確保する取り組みをしているか ・業務の標準化を図るためのOJT等多様な手段を評価する
標準項目	確認根拠	
<input type="checkbox"/> 1 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		
<input type="checkbox"/> 2 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		
<input type="checkbox"/> 3 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている		
<input type="checkbox"/> 4 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		
<input type="checkbox"/> 5 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		
【A+の取り組み】		

サブカテゴリ6のコメント

良いと思う点	改善する必要があると思う点
--------	---------------

# [平成18年度]

## 職員用組織マネジメント分析シート

### 記入の手引き

#### ■分析シートの構成

「組織マネジメント分析シート」は、8つの大きな「カテゴリー（評価の領域）」で構成されています。ただし、6番目のカテゴリー「6. サービス提供のプロセス」は、別紙「職員用サービス分析シート（6. サービス提供のプロセス）」で評価し、このシートは使用しません。

#### ■評価の進め方

- (1) まず「標準項目」の内容を確認し、その結果を考慮しながら「評価項目」の評価を行っていただきます。
- (2) カテゴリー1～7の評価は次の評点基準で行います。当てはまるところに○印をつけてください。

- A+ . . . . . 標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態
- A . . . . . 標準項目をすべて満たした状態
- B . . . . . 標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態
- C . . . . . 標準項目をひとつも満たしていない状態

- (3) 職員用シートでは成果が上がったと思うことを記入していただき、それを参考に評価機関が第三者評価を行います。

<参考>

- カテゴリー8の評価は次の評点基準で行います
- A+ . . . . . 計画的な取り組みによる改善傾向が確認できる状態
  - A . . . . . 改善傾向が確認できる状態
  - B . . . . . 取り組んでいるが改善傾向は確認できない状態
  - C . . . . . 取り組んでいない状態

#### ■回答シート

この「組織マネジメント分析シート」で評価したうえで、回答シートに転記し、回答シートのみ提出してください。回答シートに記入していただいた内容は、第三者評価以外には使用しません。なお、回答シートには事業所全体として①特によいと思う点、②特に改善したいと思う点（各3つ以内）を記入する欄があります。この欄は、「職員用サービス分析シート（6. サービス提供のプロセス）」も終わってから一番最後に記述してください。

## カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

### サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
1-1-1	事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	○	○	○	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	○	○	○	○	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
1-1-3	重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	○	○	○	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている

## カテゴリー 2 経営における社会的責任

### サブカテゴリー 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
2-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	○	○	○	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
2-1-2	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	○	○	○	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
2-1-3	将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	○	○	○	○	実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている 効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している

### サブカテゴリー 2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
2-2-1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	○	○	○	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など) 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
2-2-2	ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	○	○	○	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など) ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
2-2-3	地域の関係機関との連携を図っている	○	○	○	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている

## カテゴリー 3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

### サブカテゴリー 1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
3-1-1	利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	○	○	○	○	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ----- 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
3-1-2	利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	○	○	○	○	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ----- 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ----- 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
3-1-3	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	○	○	○	○	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる ----- 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる ----- 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している



## カテゴリ－4 計画の策定と着実な実行

### サブカテゴリ－1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
4-1-1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	○	○	○	○	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している 年度単位の計画を策定している 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
4-1-2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	○	○	○	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
4-1-3	着実な計画の実行に取り組んでいる	○	○	○	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる

### サブカテゴリ－2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
4-2-1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	○	○	○	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている

## カテゴリー 5 職員と組織の能力向上

### サブカテゴリー 1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
5-1-1	事業所にとって必要な人材構成にしている	○	○	○	○	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている 適材適所の人員配置に取り組んでいる
5-1-2	職員の質の向上に取り組んでいる	○	○	○	○	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している

### サブカテゴリー 2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
5-2-1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	○	○	○	○	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
5-2-2	職員のやる気向上に取り組んでいる	○	○	○	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる 福利厚生制度の充実に取り組んでいる

## カテゴリー7 情報の保護・共有

### サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる

評価項目		評点				標準項目
		A+	A	B	C	
7-1-1	事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	○	○	○	○	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
						収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
						保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
7-1-2	個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	○	○	○	○	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
						個人情報の保護に関する規定を明示している
						開示請求に対する対応方法を明示している
						個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている

## カテゴリー8 カテゴリー1～7に関する活動成果

○カテゴリー8は、カテゴリー1～7と評点のつけ方が異なり、以下のようになっています。

「A+」 … 計画的な取り組みによる改善傾向が確認できる状態 「A」 ……改善傾向が確認できる状態  
「B」 …… 取り組んでいるが改善傾向は確認できない状態 「C」 …… 取り組んでいない状態

このカテゴリーでの評価は、事業所の皆様に成果の上があったことを記入して頂き、それに基づいて評価機関が評点をつけます。

**昨年と比べて成果が上がったと思う点をご記入ください。**

**→ こちらのカテゴリーにつきましては「職員用 回答シート」にご記入ください。**

**貴事業所の特に良いと思う点、特に改善したいと思う点**

○上記について3つ以内でご自由にお答え下さい。

(組織マネジメント分析シート・サービス分析シートの記入を終えてから、事業所全体としてご記入下さい。)

**→ こちらは「職員用 回答シート」にご記入ください。**

○ 組織マネジメント分析シート(カテゴリー1～5、7)  
 (あてはまるもの一つに"○"をつけてください)

NO.	評点			
	A+	A	B	C
1-1-1				
1-1-2				
1-1-3				
2-1-1				
2-1-2				
2-1-3				
2-2-1				
2-2-2				
2-2-3				

NO.	評点			
	A+	A	B	C
3-1-1				
3-1-2				
3-1-3				
4-1-1				
4-1-2				
4-1-3				
4-2-1				

NO.	評点			
	A+	A	B	C
5-1-1				
5-1-2				
5-2-1				
5-2-2				
7-1-1				
7-1-2				

○ 昨年と比べてよくなったと思う点をご記入ください。  
 (カテゴリー8 カテゴリー1～7に関する活動成果 )

--

○ 貴事業所の特に良いと思う点、特に改善したいと思う点を、それぞれ3つ以内でご自由にお答え下さい。  
 (組織マネジメント分析シート・サービス分析シートの記入を終えてから、事業所全体としてご記入下さい。)

特に良いと思う点 (組織マネジメント分析シート・サービス分析シートをあわせてご記入下さい。)	特に改善したいと思う点 (組織マネジメント分析シート・サービス分析シートをあわせてご記入下さい。)

# 認可保育所

## 職員用サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)

### 記入の手引き

#### ■ サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)の位置づけと構成

- (1) この「サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)」は、別紙「組織マネジメント分析シート」の 카테고리 6 「サービス提供のプロセス」をより詳細に評価するためのものです。
- (2) この「サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)」は、6つのサブカテゴリーに分かれています。そして各サブカテゴリーはさらに評価項目、標準項目と、よりサービスの具体的な内容が記述されています。

#### ■ 評価の進め方

- (1) まず「標準項目」の内容を確認し、その結果を考慮しながら「評価項目」の評価を行っていただきます。
- (2) 評価は次の評点基準で行います。当てはまるところに○印をつけてください。

- A+ . . . . . 標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態
- A . . . . . 標準項目をすべて満たした状態
- B . . . . . 標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態
- C . . . . . 標準項目をひとつも満たしていない状態
- N . . . . . 知らない・分からない

- (3) 自分が直接関わっていない仕事についてもなるべく自分の考えで評価してください。ただし、見当がつかないという項目については「知らない・分からない」のNに○をつけてください。

#### ■ 回答シート

- (1) この「サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)」で評価したうえで、回答シートに転記し、回答シートのみ提出してください。  
回答シートに記入していただいた内容は、第三者評価以外には使用しません。
- (2) この「サービス分析シート(6. サービス提供のプロセス)」は、日常の業務点検などに活用していただければ幸いです。

## カテゴリー6 サービス提供のプロセス

### サブカテゴリー1 サービス情報の提供

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-1-1 保護者等に対してサービスの情報を提供している	○	○	○	○	○	保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいもの にしている
						事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
						保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じ て対応している

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-2-1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	○	○	○	○	○	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者の状況に応じて説明している
						サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
						サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	○	○	○	○	○	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
						利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している
						サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
						サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている



サブカテゴリー3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-3-1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	○	○	○	○	○	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している ----- 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している ----- アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
6-3-2 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している	○	○	○	○	○	計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている ----- 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている ----- 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している ----- 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
6-3-3 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	○	○	○	○	○	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある ----- 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
6-3-4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	○	○	○	○	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している ----- 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している

サブカテゴリ-4 サービスの実施

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-4-1 子どもの発達を促すための保育を行っている						子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
						子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている
						多様な表現活動や園外活動を計画している
						文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている
						障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している
6-4-2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している						メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
						子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している
						食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している
						快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている
						【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている

平成18年度 認可保育所版 サービス分析シート

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-4-3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている	○	○	○	○	○	子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している
						乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防するしくみがある
						医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している
						保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている
健康に関する保護者からの相談に応じる体制を整えている						
6-4-4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている	○	○	○	○	○	子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)
						園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている
						お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている
6-4-5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている	○	○	○	○	○	保護者などが常時参観できるしくみがある
						便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している
						保護者の事情に応じて、安心して働けるよう柔軟な対応をしている
						保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている
子どもの登降園において、保護者以外が行う場合、特別なしくみがある						

平成18年度 認可保育所版 サービス分析シート

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-4-6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている	○	○	○	○	○	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
						職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている
						虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている
6-4-7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	○	○	○	○	○	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
						保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している
						保育所の活動や行事に地域の人参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-5-1 子どものプライバシー保護を徹底している	○	○	○	○	○	子どもについて他機関へ照会する際、保護者の承諾を得るようにしている
						子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている
6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している	○	○	○	○	○	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
						子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
						子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている

## サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

評価項目	評点					標準項目
	A+	A	B	C	N	
6-6-1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	○	○	○	○	○	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
						手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
						提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
						職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	○	○	○	○	○	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
						提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
						職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
6-6-3 ささまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	○	○	○	○	○	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
						職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
						職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている
						職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
						職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

— 認可保育所版 —

職員用 : 回答シート

施設・事業所名 : \_\_\_\_\_

(評点基準)

「A+」… 標準項目をすべて満たしたうえで、A+の取り組みがある状態 「C」…… 標準項目をひとつも満たしていない状態

「A」…… 標準項目をすべて満たした状態

「N」……知らない・分からない(サービス分析シートのみ)

「B」…… 標準項目をひとつでも満たしていないものがある状態

○回答者属性 (どちらかに"○"をつけてください)

	リーダー層
	一般職員

○サービス分析シート(カテゴリ-6) (あてはまるもの一つに"○"記入してください)

NO.	評点				
	A+	A	B	C	N
6-1-1					
6-2-1					
6-2-2					
6-3-1					
6-3-2					
6-3-3					
6-3-4					

NO.	評点				
	A+	A	B	C	N
6-4-1					
6-4-2					
6-4-3					
6-4-4					
6-4-5					
6-4-6					
6-4-7					

NO.	評点				
	A+	A	B	C	N
6-5-1					
6-5-2					
6-6-1					
6-6-2					
6-6-3					

平成 18 年度 保育園サービス第三者評価事業  
報 告 書

登録印刷物番号

18-0140

平成 19 年 3 月

発行 杉並区 保健福祉部保育課  
〒166-8570 杉並区阿佐谷南 1 丁目 1 5 番 1 号  
電話 03-3312-2111 (代)

調査 有限会社 ヒューズボックスニコテクノロジーズ  
(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号：機構 03-059)  
〒140-0014 品川区大井 1 丁目 5 4 番 2 号  
電話 03-5742-0099

本文には、古紙配合率 100%の再生紙を使用しています



表紙には、古紙配合率 70%の再生紙を使用しています

